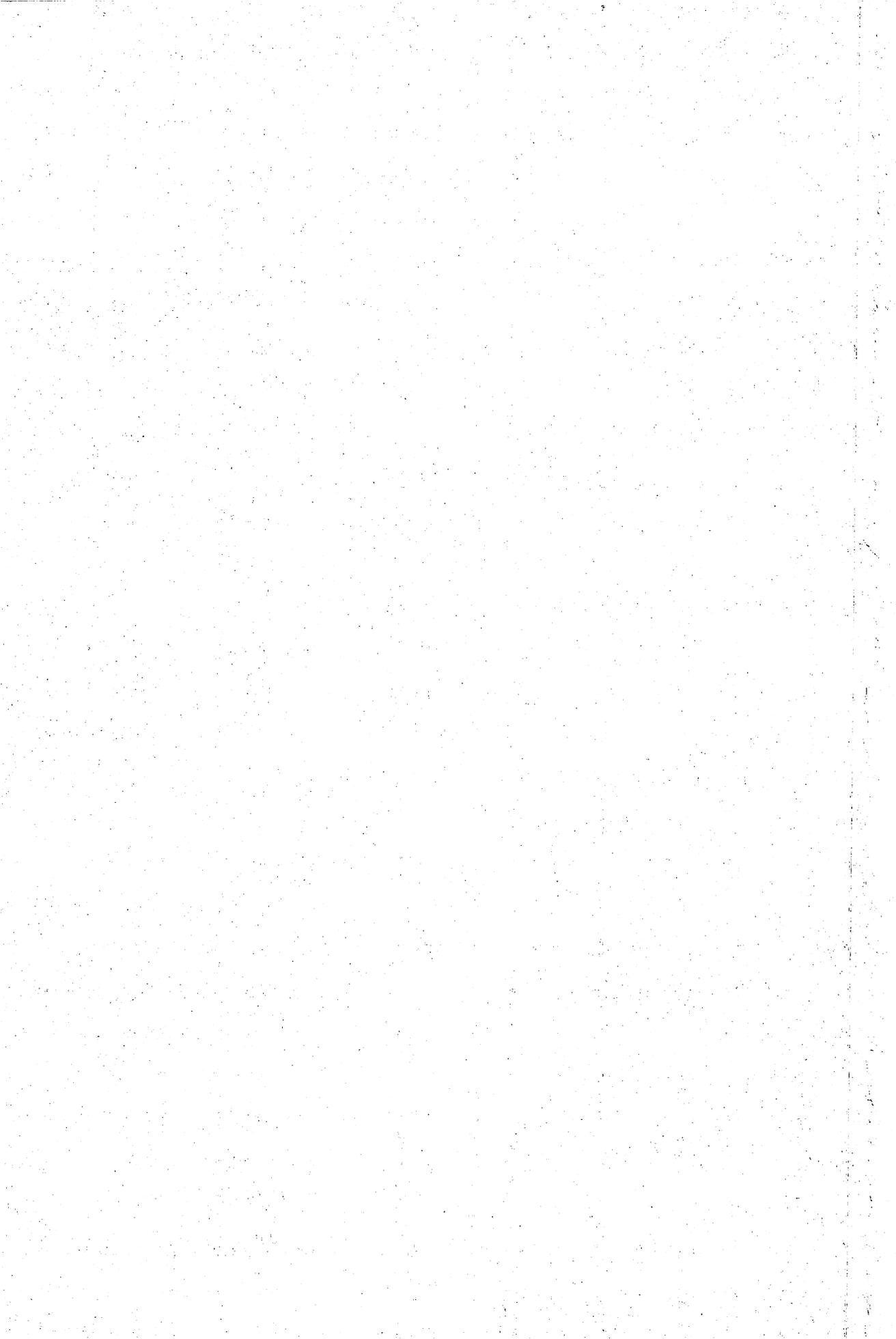


平成九年三月
津山郷土博物館紀要第九号

津山松平藩町奉行日記 五

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 五

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫の中から、「町奉行日記」明和六年および明和七年を収録した。

一、本文の表記法は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として当用漢字および現行活字体に改めた。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

躰てい 扣ひかえ 嚙あつかう 歎か 喧嘩けんか 音物いんもつ 稠敷きびしく 又候またぞろ 与風よと 早おち

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）は、小活字で示した。

夕（より） ヂ（して） は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損は、「」でその状態を示した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は小島徹が担当した。

明和六己丑年正月ヨリ

御用日記

廿二 永井甚大夫

(表紙)

御用番

正月

大橋十大夫殿

大目附当番持

大年寄

蔵合孫左衛門

元日

一年頭御祝儀中奥組以上辰上刻登城御流頂戴^而町奉行勘定奉行郡

代御用席^江罷出御祝儀申述^ル

正月二日 出仕

一御小性頭之嫡子以下大役人迄御流頂戴小役人松之間御掾側烈居名披露^早而^檜之間惣御徒御礼有之

一御用始^ニ付如恒例町奉行勘定奉行郡代御蔵奉行御金奉行一所^ニ御用所へ罷出御祝儀申述^早而^於七間廊下吸物御酒頂戴之大目付所へ罷出御礼申達候

一米相場書差出^ス御蔵米七拾壹匁町米六拾七匁

一大年寄三人札元五人逢申盃事致候

一明三四時御供揃御装束^ニ而^地蔵院泰安寺へ御參詣尤田町御門^ハ御出例之御道筋之由中奥目付中^ハ申来小頭へ御先弘之事大年寄へ町方掃除人留等之義申付候

正月三日 出仕

一四時御供揃地蔵院泰安寺へ御装束^ニ而^御參詣被遊例之通七間廊下へ罷出御目見申上候尤今日御先弘同心共麻上下着用差出候事

一明四日四時御供揃本源寺妙法寺泰安寺へ御仏詣田町御門^ハ例之通御道筋之由中奥目付中^ハ被申聞小頭^并大年寄^江申付候

一是迄年々万人講上り札之内未請取^ニ不罷出相残居申分岸権六預り之処向後当役所へ預り置可申旨十大夫殿被仰渡依之勘定奉行中及対談銀札三貫五百六拾三匁三分三厘但^午歲^今成^送上今日請取候尤委細書付相添有之

一明四日泰安寺妙法寺へ修理様御仏詣之儀宇津木弥右衛門^ハ為知有之大年寄へ申聞置候

一贖札師十次郎所持之品々旧臘宿朝本屋源蔵^江預^ケ置候分今日役所へ差出候様申付候

一大年寄三人宅^江為^年礼^罷越^尤表^迄出^迎候間及挨拶罷帰^ル

正月四日 出仕

一四時本源寺妙法寺泰安寺へ御仏詣例之通七間廊下へ罷出^ル尤御先弘同心共麻上下着用

一同心組室井政次義作右衛門と改号三船磯八儀孫八ト致改号度旨小

頭を以願出承届候

一大久保加賀守殿内当国西川役人小形伴左衛門同進五〇年頭祝義書
状到来則及返答

一川下物品々大切手藏合孫左衛門〆差出致裡印遣ス

一米相場書差出入御藏米七拾匁町米六拾六匁

正月五日 出仕

一寺社方御目見被為請候

一播州乃井野森对馬守殿内古川弥四郎河端代八〆書状到来去子年中
錢相場書之儀頼来則返事相認錢相場書差遣ス

正月六日 出仕

一御具足御祝義町奉行役^者於宇治橋之間大目附中末席^ニ列座頂戴之
先格^ニ候処去春井上弥三兵衛在役之節指懸り表^ニ而致頂戴候様被
仰出已後之義^者追^而御評議之上可被仰出旨日記^ニ相見候^ニ付当年^者
如何可被仰付哉之旨大目付中を以相窺候処先格之通於宇治橋間可
致頂戴旨被仰出候由井上弥三兵衛〆被申聞候

一大年寄共へ例歳之通雉子三羽宛可被下置哉之旨御用所へ相伺候処
先格之通可被下由被仰渡来ル十六日申渡候積り^ニ付其趣小勘者石
垣伝大夫へ申談置候

一諸吟味役^并御藏元今昼後面謁如先格盃遣候但戸田市郎右衛門当病
断^ニ而不罷出早^而惣町年寄共面謁同心小頭部屋目付立会大年寄罷
出名面申聞ル

正月七日 出仕

一明八日泰安寺へ御仏詣之義中奥目付中被申聞小頭^并大年寄^江例之

通申付候

一稻荷上通り石垣四五間計も崩候旨三軒屋番〆晩方訴出即刻大目付
中へ以手紙相届候

一万人講上り札渡し残去ル亥歳分講元方^ニ是迄預り置候処今般当役
所へ差出候様此間申付候処今日銀札壹貫四百九拾匁五分六厘相納
候尤当り札式枚分也

正月八日 出仕

一四時泰安寺へ御仏参例之通七間廊下へ罷出候

一贖札師一件銀札場〆旧年内之吟味有之赤穂新浜村^江原田屋理助其
外目明シなと差遣板行取帰候由然ル所右贖札師十次郎義向方致出
奔候^ニ付村内人別相離候者之由村庄屋印形之手形指越候旨勘定奉
行中〆御用所へ被申達候由左候得^者畢竟無宿者之儀^ニ候間向方役
人中へ文通^ニも及間敷儀哉と相伺候処人別離候もの^ニ候得ハ不及
其義之旨被仰渡右向方庄屋手形当役所^ニ差置候様^ニと被仰聞御渡
シ被成候宜

一久世役所増田村右衛門〆去子年中当町錢相場書之義申来則返書相
認錢相場書付差遣ス

一明九日早朝〆御出^ニ付御用所御出席無之由

正月九日

一明十日地藏院^江御仏詣御道筋例之通之由中奥目付中〆申来り二階
町元魚町人留之義大年寄^江申渡候

一三木甚左衛門岸権六今朝遠慮御免之由

正月十日 出仕

一四時地藏院江御仏詣例之通七間廊下江罷出候

一久世乃井野江錢相場書遣候義御用所江及御沙汰候

一來ル廿二日万人講ニ付右之場所江妻子并下々ニ至迄不參候様相心得

火元入念可申付旨大目附中廻状到來

一例歳之通左義長触書大年寄江相渡ス

正月十一日 出仕

一出羽守様当四月廿三日廿四日江戸御発駕五月十二日十三日院庄御

休之積本陣聞合之廻状昨日到來則院庄江送遣候旨大年寄申出其段

大目付中江申達置

一旧冬江戸表ハ罷越候村上長治郎義鳥屋与三兵衛方引弘此間御長屋

江引積り候旨大年寄申出承置

一明十三日泰安寺御仏詣之義中奥目付中ハ被申聞例之通夫々江申渡

ス
正月十二日 出仕

一大般若御執行ニ付早朝登城宇治橋間江相詰転読相濟御札拝被遊已

後御家老御年寄御奏者大目付町奉行御使番寺社取次中奥目付順々

ニ拝相濟早而御奏者大目付町奉行一所ニ御用所へ罷出無滞相濟恐

悦之段申述候御札供物ハ小勤者ハ宅へ來ル外ニ御札十枚受取同心

共へ遣ス

但右之通御用所へ罷出候処大目付ト一列ニ罷出間敷義と御用

所思召ニ候間已後左様可相心得旨大目付柴崎甚右衛門内々被申

聞候右ニ付先役日記相調へ候処宝曆三西歳鈴木喜右衛門当役之

節御奏者大目付町奉行一所に御用所へ罷出候趣正月五月日記明

白ニ相見候ニ付先格有之此度も右之通罷出候義ニ候間此段御聞

置被下候様翌十三日大目付村山平学へ申達宝曆三年之日記入一

覽尤已後之義者いか様共御差図次第可致旨申達候然ル所又翌日

太田舍人ハ噂有之ニ付同十五日又々右之日記一覽候事

一今夜左之通被仰付候由

思召有之ニ付 井戸十郎右衛門

遠慮被仰付 塚田新十郎

正月十三日 出仕

一明十四日泰安寺御仏參之義中奥目付中ハ被申聞例之通夫々申渡

一中之町福谷屋清兵衛家屋敷表口三間裏行十七間但三步三厘役之処

并式間ニ三間之木部屋共質物ニ書入町内藤屋市右衛門ハ銀札式百

匁当五月切借請申度旨願出承届ル尤同廿日本証文出ル

一坪井町龍屋武兵衛義岡武兵衛ト相改此度村山平学方へ出入奉公致

度町内人別除願出承届候
正月十四日 出仕

一四つ時泰安寺へ御仏詣例之通七間廊下へ罷出ル

一來ル廿二日万人講ニ付例之通町方触書覚書等相認大年寄江相渡ス

正月十五日 出仕

一式日御礼例之通御座之間ノ次へ罷出候

一御礼後諸月番居残西湖間宮嶋間へ大番頭ハ御使番格迄列居大目付

太田舍人被申聞候ハ先達而重キ思召を以御儉約之義被仰出銘々心

得違ハ有之間敷儀ニ候得共御立前立振舞錢別土産等之義堅相止心

得違無之様演説可致旨被仰出候由

一 栗原新五兵衛当病無出仕御断之義頼来大目付中并御使番中へ申達
 一 大年寄其外町人共明日御目見被仰付候ニ付御門通行之義中奥目付
 中へ申達指上物之事小勘者中へ申談置

一来ル廿一日誓海院様御証月ニ付四つ時泰安寺江修理様御参詣被成
 候旨宇津木弥右衛門被申聞尤例之御道筋之由翌十六日大年寄へ
 申渡置

一 安藤造酒助殿御参勤御供兼而被仰付置候処此節急ニ御出府被仰付
 候由

正月十六日 出仕

一 今日被為召候面々左之通被仰付

御年寄 当役	御奏者	市村但見	大番頭	佐々木喜曾江
大番頭	御鎖奉行	伊藤采女	修理横付	鈴木此右衛門
大目付役	御使番役	二橋六郎	御使番格	石川左近右衛門
御代官役格 式小従人	式小従人	福田加兵衛	小従人	高橋十郎右衛門
格式大役人	格式大役人	中尾邑次	大坂御金方	松岡八十次
中奥目付	高直り	柴山左右衛門	月並	尾勝八
御側勤御免御 小袖被下之	御徒ニ御取立	市村 間	御徒ニ御取立	原加兵衛
御先手組小頭 御徒格ニ御取立	御徒ニ御取立	一左之面々御目見被為請		

松之間 鯉節一折三十ツ、
 自参独礼 齋藤孫右衛門
 下段 玉置忠兵衛

鯉節一箱五十八
 但大御番組披露番被勤
 但惣代御礼相濟松之間御から紙立其間ニ札元五人く
 り出シ並居御から紙開

右早而地方目付御礼有之
 扇子一箱三本入 河合友益
 扇子三本入一箱ツ、
 自参銘々前ニ置列居
 山本三右衛門
 茂渡市右衛門
 川口 藤十郎
 茂渡藤右衛門
 武田七郎兵衛

松之間 上之段

但大御番組披露番被勤尤去夏当病ニ御目見不申上今日初而也御目
 見故扇子差上町医師ノ初メニ罷出ル席順筆作丈庵次北山周齋上也
 当病 岩佐藤碩
 渡部甫庵
 川嶋桃庵
 箕作丈庵
 北山周齋
 右差上物無之
 戸田市郎左衛門
 伊勢屋長右衛門
 姫路屋伝蔵
 今津屋平蔵
 諸吟味
 扇子三本入
 一箱ツ、銘々
 前ニ置御奏者
 御藏元
 但市郎左衛門平蔵義当病及御断候

一御具足御祝儀頂戴之次第

芥子之間北側 御家老御年寄御当職

同 南側 芥子之間御衆

右通ひ小従人組被相勤

宇治橋間西側 御奏者大目付町奉行

右通ひ坊主相勤

右頂戴相濟御奏者以下少進出御祝儀頂戴難有之旨御年寄中へ御礼申述早^ニ而御家老以下順^ニ御退座夫^レ表御祝儀頂戴相始ル

一右御祝義相濟已後町奉行勘定奉行御郡代御用所へ罷出御祝義申述候

一大熊兵庫殿御參勤御供立帰被仰付候由

一明十七日地藏院御參詣之義中奥目付中被申聞^ニかい町元魚町人留之事大年寄へ申渡候

一大年寄三人^江例年之通雉子三羽ツ、被下置候付我等宅へ呼出申渡尤去ル六日伺相濟雉子ハ小勘者所^レ今日相廻り候事

一二階町境屋伊右衛門方へ大坂豊後町米屋久兵衛、申者十八年已前迄葉壳^ニ罷越候処其後不勝手^ニ而罷越依之同所天神橋筋野田屋佐兵衛と申者柄糸下緒糸類商売右久兵衛株此已後当所へ罷越度旨^ニ付宿仕度願出故障も無之趣故承届候

一桶屋町作人平七家跡是迄明地^ニ相成有之尤平七病死一家親類も無之家跡^者町内引請^ニ成居候由此度同町市郎右衛門へ右土地相讓家居仕度旨大年寄申出無故障趣^ニ付承届候

一〇〇非人共御領分在中へ罷出候処諸勸進断之建札有之一向当春^者

手之内之施も無之如斯^ニ而^者非人共渡世難相成候享保七年ケ様之

義有之節歎申出〇〇非人共^江者少々之施^者致候様^ニとの義^ニ相成然

共他領非人共と粉候故大年寄^レ木札相渡非人共銘々此木札を在中与廻り候由左様^ニも申付呉候様^ニと此間大年寄^レ申出致思慮郡

代中へも聞合候処右諸勸進建札之儀郡代所差図之義^ニ而も無之由左候得^者〇〇非人共へ少々^者施候様^ニと申儀も難被申渡筋畢竟在

中銘々心次第之儀^ニ候得ハたとへ右躰之木札相渡候とても無益之事と被存候^ニ付何分此上在々へ罷越随分憐愍ヲ与申外有之間敷候

間其段申渡候様大年寄へ申聞候

正月十七日 出仕

一四時地藏院へ御參詣例之通七間廊下へ罷出ル

一万人講場所為見分同心小頭差出尤郡代所下代も罷出候由

一伊達隼人殿今般御年寄被仰付候義町方へ為知候様大年寄へ申渡候

正月十八日 出仕

一上田喜十郎今朝遠慮御免尤禁足罷有候様被仰付候由

一明十九日四時御供揃^ニ而^ニ宮院庄へ御遠乗之義被仰出尤^ニかい町御門^レ二階町境町^レ三津屋横丁魚町通おけ屋町妙願寺前通夫^レ三

丁目坪井町宮脇町西今町通茅町安岡町筋違橋通御道筋御往來同様之由中奥目付中被申聞御先私之義小頭へ申付町方人留之事大年寄へ申渡候

一安藤鞞負殿願之通御役御免尤格別之思召を以座席^者只今迄之通被仰付候

一久世御代官所手代中^レ年始祝義之書状来則及返答

一人講木札大ふりニ不致候様町方へ可相触旨大年寄へ申渡

正月十九日 出仕

一三軒屋并牢屋穢多番所破損ニ付御修覆之義申出則大目付中へ申達候

一明廿日地藏院御仏詣之儀中奥目付中へ被申聞例之通大年寄へ申付候

一万人講ニ付拝借道具之義講元書付昨日大年寄へ差出候ニ付同心小頭手形相認今日御城へ罷出請取罷帰候上講元共へ相渡尤小勤者中へ拙者へ申談置

一四時過院庄へ遠乗御出被遊御先扨同心共川端又六人遣候処途中ニ而足踏くじき供揃之処伝内義及遲參候ニ付又六人遣候処途中ニ而足踏くじき延引ニ付代り之者頼遣候由ニ候得共最早其内御帰被成御間ニ合不申又六人ニ而御先扨相勤罷帰候段届出候ニ付大目付中へ可申達候へ共先ツ中奥目付堀江左膳へ右之趣申達及内談候「何分明朝挨拶可有之旨ニ候伝内義者先致在宿相慎罷有候様申付置候

正月廿日 出仕

一安藤造酒助殿今朝江戸表へ御出立

一同心組中山伝内昨日御先扨遅參之儀御供頭中ニも何之噂も無之殊又六人ニ而御先扨相勤御用向無滞相濟候義其上兼而少々宛之間違御貪着不被遊表立申達候様之義却而思召ニも不相叶趣御内々粗相聞旁今般之義其分ニ捨置可然被存候間今日堀江左膳被申聞候ニ付先此度ハ伝内義其分ニ致差置候已後之儀随分念入相勤候様可申付旨小頭江申渡候

一御那代栗原新五兵衛於宅吟味筋有之今日無出勤段大目付中へ相断候様頼来其段申達候

一四時地藏院へ御仏詣例之通七間廊下へ罷出候

一加藤新右衛門義此間遠慮被仰付置候処昨夜致遂電候由依之右尋并大坂ニ罷有候妻子取メの為御徒目付一人同心組兩人使組兩人急ニ被差向且川下ノ方へ下目付老人同心組老人使組老人被遣候間其段申付候様大目付中へ被申聞即刻御城へ小頭呼出申渡則川下へ吉井栄内大坂へ中山伝内藤森喜代次申付早速致支度御城へ罷出御用向大目付中へ被申含尤委細者御徒目付富沢金左衛門へ被申渡金左衛門指図可有之由路用内貸銀小頭受取相渡八半時過出立

一來廿二日万人講ニ付前夜惣町知せ之太鼓打相廻候儀申出承届并非人加廻り先格之通申付候段御用所并大目付中へ申達候

一塚田新十郎御詮義之筋有之ニ付揚り屋へ被遣候間取計可申付旨於対談間大目付立合御用番へ被仰渡刻限手配等之義大目付中并勘定奉行中申合置暮六時過同心中山市左衛門神田権兵衛兩人清水多橋宅まで差遣於彼宅申渡相濟此方へ受取駕籠ニ而牢屋へ連越則揚り屋へ入之腰物并鼻紙扇子御徒目附下目付同心共立合封印付牢番へ預ケ置右無滞相濟候段五半時同心共届出即刻御用番并大目付中へ以手紙御届申達候但右かこ之者并腰物持等者勘定奉行中方ニ而日履之ものニ申付相濟

但多橋宅迄新十郎罷出候節途中無心元ニ付近辺迄同心共遣置見へ隠レニ付添罷越候様ニと大目付中被申聞其趣ニ取計候賄之義ハ宿賄ニ被仰付日々新十郎宅へ中間取ニ罷越様申付候

一 林田町作人長七悻伊三郎義苺野伊助、改号野条平藏方へ出入奉公罷出候付町内人別離願出承届候

正月廿一日 出仕

一 揚り屋破損場所御繕之義大目附中へ申達候

一 明日万人講ニ付御貸人馬并同心加人七人御申付候様大目付中へ申達小勘者中へも談置

但例格取人四人之处此度者同心三人急御用他行ニ付都合七人受取候事

取候事

一 加藤新右衛門大坂召連候中仕者先日差戻候様相聞其後雇人有之処船頭町庄七申者之由相聞候間此もの義新右衛門立去候砌之様子存居可申候間遂吟味候様大目附中被申聞候ニ付同心藤森権六

差遣年寄方ニ而相尋候処船頭町庄七申ものハ無之右新右衛門方へ被雇候ハ河原町長七申者之由則呼寄様子承候処去ル十三日夕

船頭町喜助被頼翌十四日新右衛門方へ日々日雇罷越十七日迄參候処先用事も無之候間明日參候ニ不及旨ニ付十八日已後罷越一向何之様子も不存尤罷越候間新右衛門題目之書申候由十八日今迄者船大工庄助方へ日雇罷越候旨申之ニ付船頭町喜助も

呼寄相尋候処去ル十三日新十郎方へ見廻候得ハ新右衛門方人入用候間老人雇遣呉候様相頼候ニ付右長七雇遣候旨権六承届先右長七

義ハ町内組合へ預ケ置罷帰早速大目付所へ申達候

一 御駕籠之者御挾箱持大道具持今般被召抱候間町方望之者申出候様可相触由大目付中被申聞中奥目付中も猶又噂有之来月五日迄

二 割場中間小頭方迄申出候様触書相認大年寄へ相渡ス

「此路用之儀追而段々申立有之御聞届之上当五月富沢金左衛門惣入用仕切証文を以左之通相渡ル已後為見合記置之

(貼紙) 津山の大坂迄道中往來雜用高銀御定法之通大坂逗留中町宿ニ罷有候内式百拾錢御長屋へ引移候後百錢五十日以後者七拾錢ツ、

并百泊ニ相成候後日々尋ニ相廻り候日數六十七錢ツ、之昼遣且又中間代り人足雇賃道中ハ老人壹里三十式文大坂逗留中ハ雜用之外雇賃六分ツ、但後ニ又申立有之九分ツ、増

雇中間何茂罷帰候跡同心組兩人のミ相殘江戸堀表長屋ニ罷有候間水汲等無抛雇置候由段々申立無余義趣ニ付一日百錢ツ、之雇代相渡ル

津山の大坂迄二分ケニ成罷越所々相尋候ニ付手懸り聞繕候為所々ニ而頼候者共へ酒代其外夜道并追込道等輕尻代臨時諸入用

小帳之通相渡ル

正月廿二日 出仕

一 船大工庄助江河原町長七事昨夜同心権六相尋候処長七申候通十八日今昨日迄庄助方へ罷越申候段無相違由承之

一 京町菊屋清左衛門数年取計候公料綿実座用事ニ付播州乃井野中屋甚三郎方へ往來七八日之逗留ニ而罷越度旨願出承届候

一 万人講之義今日雨天ニ付興行延引仕候旨講元今朝申出御用番并大目付中へ以手紙御届申達例刻出仕之上天氣晴候ハ、明日興行仕

せ候旨申達置候

一 大年寄玉置忠兵衛妻昨夜病死依之忠兵衛忘中引込候段藏合孫左衛門届出御用番并大目附中へ及御沙汰候

正月廿三日 出仕

一 万人講之義今日も天氣不相勝ニ付延引之旨講元申出御用番并大目付中へ以手紙御届申達候右ニ付明廿四日興行仕度旨講元願書差出御用所へ相伺候処明日ハ台徳院様御証月之義故不相成候廿五日興行候様可申付之旨被仰渡則大年寄へ申渡尤大目付中へも其旨申達候

一 明廿四日四ツ時泰安寺へ御仏詣御道筋例之通之由中奥目付中被申聞則小頭大年寄へ申渡候

一 川原町長七義此間組合へ預置候処御吟味筋手懸リニ相成候義も無之尤長七申分無偽趣相聞候間指免候様大目付中被申聞則大年寄へ申渡候

一 加藤新右衛門今般立去候筋塚田新十郎存罷有候哉委細之義有躰ニ申候様牢番共心入之趣ニ而相尋させ可申之旨大目付中被申聞則牢番松岡左助呼寄申付候

正月廿四日 出仕

一 塚田新十郎へ牢番共ハ加藤新右衛門義相尋候処一向今般之義不存惣而兼々不睦大坂ニ而も御用向眩々申合等も無之其所よりハ此度之儀猶以可申聞様も無之趣申之由大谷栄蔵申出則大目付中へ申達候

一 四時泰安寺へ御仏詣被遊例之通七間廊下へ罷出候

一 今津屋平蔵方ニ井戸重郎右衛門加藤新右衛門駕籠式挺預り置并薄縁式枚新右衛門江用達夜着蒲団上下六人分數十五新十郎江用達置候由昨日書付大年寄指出御用所并大目附中江及御沙汰置候

一 塚田新十郎義玉置忠兵衛親以來魂意ニいたし段々世話をもいたし遣シ忠兵衛預厚恩候者ニ候夫故か近来御取立以來少々ハ才覚振廻候も相成候ニ付借銀可致口入由ニ而一三年以來兩度ニ三貫目計取次指越忠兵衛方江借請申候新十郎義今般御咎被仰付候儀故内々承置具候様此間石名平太兵衛迄申出候付今日御用所大目附中江も及御噂候

一 明廿五日五ツ時半時御供揃田邑辺江御出田町御門ハ田部通御道筋之由中奥目付中被申聞元魚町二階町人留之義大年寄江申渡ス

一 明日御出ニ付御用所御出席無之由坊主触来ル

一 井戸重郎右衛門義御詮議之筋有之古市主馬ニ御預被仰付候尤今暮六時柴崎甚右衛門宅ニ而申渡有之筈其内為警固同心兩人御長屋南北ニ付置扱甚右衛門宅へ呼出候節跡ハ付添夫ハ主馬宅江罷越候節も付添罷越候様可申付旨大目付中ハ被申聞則同心組藤森権六神田権兵衛指出候処無滞主馬宅迄引取相濟候越見届五ツ時半時罷帰ル大目付中へ以手紙其段相届候

正月廿五日

一 惣町御救万人講於視河原興行町奉行御郡代御徒目付下目付町奉行所下役并書役同心組小頭共二十人郡代所下代大年寄地方目付等例之通出勤七ツ時半時無滞相濟候歸り懸御用番御宅江御届申達大目付中江も町奉行郡代連名手紙ニ而相届候

寄札高四千貳百六拾五枚

銀高 貳拾壹貫三百貳拾五匁

此三步銀

六貫三百九拾七匁五分

一 甚太夫供人左之通

若党式人使組

鐘持草履取挾箱持

合羽籠持馬口取式人

正月廿六日

一 昨日之万人講寄札高御用所^江及御沙汰候且又上り札今日引合相渡候付同心小頭町会所^江指出入御郡代下代も罷出候由今日渡し残六枚有之

一 拙者儀今日勘定奉行兼役被仰付候

一 下村友右衛門殿今夜江戸表分御帰着之由

正月廿七日

一 是迄小嶋右内長屋^江罷在候善兵衛夫婦此度美濃職人町作屋市右衛門引請渡世為仕度町内人別人之願指出承届候

一 東新町大嶋屋平右衛門妹友義吉野郡栗井村七郎右衛門妻指遣度人

別離願出承届候

一 下紺屋町中之横丁東側作人庄兵衛家屋敷表口三間裏行三間但老歩

七厘役之所同人作人伊兵衛^江代銀札八拾匁相極売渡申度旨願出承

届ル

一 明廿八日四時御供揃院庄^江御遠乗御道筋去ル十九日御出之通之由

中奥目付中分被申聞小頭^并大年寄^江例之通申付候

一 明日御出^二付御用所御出席無之由坊主触来り勿論右^二付御座之間

式日御礼も無之由大目付中申聞候

一 旅籠屋之義一夜泊宿致候事兼^而定法候処橋本町朝本屋源藏義旧年

似せ札師赤穂重次郎四五日も指置候段不届^二付追込可申付段御用

所^江相伺御聞届之上大年寄宅^二而申渡候様申付尤立合同心小頭指

遣候右申渡相濟候段小頭申出御用番^并大目付中^江以手紙御届申達

候

一 右^二付旅籠屋頭肥後屋治兵衛義大年寄宅^二而呵申付候

一米相場書指出入御蔵米六拾九匁町米六拾五匁

一 明日之御出雨天^二付御延引之旨中奥目付中分夜^二入申来翌朝御先

扨同心^并大年寄へ申渡候

正月廿八日

一 今日御出御延引^二付御用所御出席有之旨大目付中分早朝廻状到来

一式日御礼御座之間^江例之通罷出ル

一 材木町河内屋藤三郎心願有之身延参詣致度往来六十日計之願指出

承届ル

一 万人講残り札之内三枚請取^二出候由小頭指出相渡ス

正月廿九日

一 諸吟味役戸田市郎左衛門先達^而不快^二而罷出依之今日初^而面謁

一 西新町高松屋孫市大願有之甲州身延山参詣致度往来八十日之願承

届ル

一 西今町長田屋伝七右同断往来六十日之願承届ル

一 大熊兵庫殿今日勘解由殿と御改号之由大目付中分為知有之町方^江

触知候様申渡ス

一 西新町升屋勘助身延参詣往来八十日之願承届ル

一上紺屋町灰屋与左衛門母立願ニ付京都本寺廻り罷越度往来八十日計之願承届ル

二月 御用番 伊達隼人殿 大目付 当番持

大年寄 齋藤孫右衛門

二月朔日

一式日御礼例之通御居間江罷出候

一戸川町和氣屋左助借家ニ罷有候いち申女林田上ノ町新吉方へ縁付候ニ付町内人別除願去月廿三日大年寄差出郡代中申合今日承届ル

一大沢三平在役之節去ル戌十二月当役所闕所銀払底ニ付其段申立有之御勘定所ハ銀札三百匁借用之旨闕所銀請払帳ニも相見候當時闕所銀溜りも有之ニ付右三百匁今日返納三平手形取戻シ消ス

一元魚町藤野屋太吉義江藤多吉と改号此度安藤造酒助殿組ニ罷出度町内人別離願承届ル

二月二日 出仕

一林田町山形屋伝左衛門母立願有之京都妙覺寺へ參詣させ度往来八十日之願承届候

一渡部惣右衛門殿大坂御用被仰出明朝出立之由

二月三日 出仕

一明四日御仏詣御道筋例之通之由中奥目付中ハ被申聞小頭并大年寄へ申付候

一御蔵元今津屋平藏義孫十郎改号并印形相改度旨願出御用所大目

付中へも改号之儀及御沙汰置願之通承届候段翌四日大年寄へ申渡候

二月四日 出仕

一四ツ時泰安寺江御仏詣例之通七間廊下へ罷出ル

一万人講拝借道具御中間兩人ニ為持同心小頭指添罷出致返納候事

一明五日四時御供揃二宮へ御遠乘二階町御門ハ二かひ町境町新職人町妙願寺前通三丁目坪井町宮脇町今町通茅町安岡町筋違橋御道筋之由中奥目付中ハ申来御先私人留之義小頭并大年寄へ申渡

一明日御出ニ付御用所御出度無之由大目付所ハ坊主触来ル

一橋本町朝本屋源藏去月廿七日追込申付置最早日数も立候間指免可申旨御用所へ及沙汰御聞届相済今晚大年寄へ申渡尤右取計相済御用番并大目付「一」中へ以手紙御届申達候

一船頭町今津屋平藏義用事ニ付備前香々登村八五郎方へ罷越度往来六日計之願差出承届候

一中之町桜屋平三郎妻立願有之京都妙覺寺へ參詣させ度往来七十日計之願承届候

一林田町升屋新助家屋敷質入滞銀之義取次中之町武平次ハ旧臘願書差出三十日切節立候様申付置候処今以不相済ニ付又々武平次ハ願書指出候尤日切過候へ共濟口不申出候ニ付此間ハ新助方吟味申付

候処未才覺不相調難洪仕候付当月廿五日迄日延之願差出候至而難洪之趣ニ付用捨を以願之通日延承届候尤廿五日迄ニ於不相済者家屋敷引渡させ急度可申付候此段申渡候様大年寄へ申渡并武平次へ

も其段申聞置候様ニと申付候

二月五日 出仕

一今日雨天ニ付御出御延引之旨中奥目付中申来夫々申渡ス

一右ニ付御用所御出席有之旨大目附中申来候

一鍛冶場渡船并渡し守小屋破損之義渡守弥五郎願書指出見分之上御修復被仰付度旨御用所江及御沙汰願書指出候

一豆腐直段十二文之處近来大豆高直ニ付十三文ニ仕度旨惣豆腐屋共願書指出御用所へ及御沙汰承届候段大年寄江申渡ス

一材木町万屋与三兵衛借屋ニ罷在候長吉母儀林田上之町源七方江引越申度旨願出郡代中申合承届候

一來寅二月源泉院様五十四御忌被為當候御取越来ル七日於泰安寺御法事被仰付候旨大目付中廻状到来組之者并牢番三軒屋番迄申渡候

一右御法事ニ付六日晚夕七日迄町方自身番相勤火元入念候様触書を以大年寄江申渡候

一坪井町辰屋左七悴辰之助家屋敷去子ノ正月質物ニ書入銀札式メ五百目鍵屋龜兵衛取次ニ而借請候此度元利返済家屋敷請返し候旨

断出承届候同廿七日日本証文差戻ス

一福渡町土佐屋金十郎借屋ニ罷在候忠助同妻悴新「」家内三人此度宇津木弥衛門長屋江引越度町内人別除之願指出承届ル

一御儉約ニ付御家老御年寄初供人被減其以下右ニ准し御奏者大目付迄も平生ハ無僕之積リニ相極り依之以後御貸人等も出不申様被仰

付候尤無拗訳ニ而召連候義ハ格別之旨大目付中廻状到来委細ハ触書帳ニ記置然ル処指支之義共有之由ニ而又已前之通相心得候様五月廿三日御触有之

二月六日

一今般御法事ニ付先格之通大年寄共参拜之義願出御用所江相伺御聞届相濟其段申渡ス

一明七日四時御供揃泰安寺江御仏詣御道筋先格之通尤大番所ハ藺田町通泰安寺表門ハ被為入御帰御成門ハ表門前通之旨中奥目付中ハ

被申聞町方掃除人留之事大年寄江申付并御先弘同心兩人指出し先例之通今町辻固メ兼相勤候様小頭江申渡ス

一伏見町倉敷屋太兵衛悴和助義京都近江屋市右衛門ニ被相願因伯江呉服商売罷越当十二月迄逗留之願指出承届ル

一御儉約ニ付惣而御貸人等被相止候然共出火之節大目付以下鍵持等ハ御貸被成候右ニ付大目付中初高挑燈一張ツ、ニ相成候旨承之依

之町奉行ニ張り為持候而ハ釣り合不宜ニ付以後ハ一張ニいたし尤總替り之一張りハ別段ニ遣候積り也此儀も当五月ハ又已前之通ニ相成ル

一夜四時比ニ階町御堀端山手屋弥右衛門借家家守文太門口ニ繩ヲ丸く巻候ニ火ヲ付落し有之折節市沢加十郎母出懸り見付候而文太ハ

知せ候付早速罷出打消候由依之右町内并元魚町下紺屋町今夜中廻り之もの随分氣ヲ付候様申付置候旨九ツ時大年寄申出承置翌七日

御用所并大目付中へ申達候
二月七日 出仕

一源泉院様御法事ニ付四時泰安寺江御仏詣例之通七間廊下へ罷出候勿論御先弘同心共指出今町辻固兼相勤無滞相濟引取候夏

一明八日泰安寺へ御仏詣之儀中奥目付中ハ被申聞例之通夫々申付候一去十一月比町方物騒ニ付夜廻り申付置候昨夜二階町不審之儀も

有之^二付弥念入夜廻相勤候様可申付旨大年寄へ申渡候

一 船頭町喜助義加藤新右衛門立去候節勝間田馱迄駕籠雇^二罷成候様内々相聞候^二付同心小頭差遣一通り遂吟味候処決^而左様之儀無之旨申候得共一応^二而も難相濟^二付先ッ町内組合へ預ケ置候事

二月八日 出仕

一 四時泰安寺へ御仏詣例之通七間廊下へ罷出候

一 源泉院様御年回御法事御布施頂戴之義座頭共相願尤来ル十日罷出候段大年寄申出先格之通被下置候様仕度旨御用所へ及御沙汰御聞届相濟右^二付如例銀札場内貸取計有之様勘定奉行中及対談候

一 京町戸屋岩右衛門義用事^二付大坂過書町松屋甚兵衛方へ罷越度往来廿四五日之願差出承届ル

二月九日 出仕

一 当春御給米之儀御勝手方甚御指支^二付難被相渡候へ共御給米取之面々可及難決候故何角差置相渡候様被仰付候右御場合故是迄^者春取替三分式相渡候へ共当春^者三分壹取替相渡候様被仰付^并御役米附人給米等^者先々相延候様被仰付候旨大目付中へ廻状来組之者^并牢番三軒屋番迄申渡候委細触書帳^二相記

二月十日 出仕

一 船頭町喜助義此間小頭差遣再応遂吟味候処決^而勝間田^江罷成候事無之旨丈夫^二申張候付右等之趣今日於御次御用番へ申上候其趣^二候得^者組合預指免遠方他行者^者先指留置可申段御聞届相濟則大年寄

江申渡候

一 源泉院様五十回御忌御法事御布施為頂戴他国他領^并御領分座頭共

今日罷出於配當場銀札相渡同心小頭同部屋目附例之通為見届差出

惣人数 一百五十七人 銀高五百四拾六匁式分五厘

右人数銀高之義翌十一日御用所へ及御沙汰候

二月十一日 出仕

一 明十二日御仏詣之義中奥目付中被申聞夫々申渡

一 此間御法事御布施頂戴座頭共罷出候節当月末泰良院様御一周忌御布施頂戴之義相願候趣大年寄へ申出候^二付先格遂吟味候処先年「華院様御不幸之節御当然切被下御一周忌已後御布施不被下趣相見候^二付其段申聞候様申渡候然ル所猶又日記相しらへ見候得^者去歲泰良院様御不幸之砌御布施被下已後御年回御布施不被下段其節申渡候趣有之候左様之申渡乍承此度又々右願之趣申出候段配當場兩人甚不屈^二候此上申出候共決^而不被下置筋^二候間左様可相心得候惣^而他国他領之座頭共^二馴合不埒之義共申出候段配當場勤方心得違之事^二候此段急度申渡候様斎藤孫右衛門へ申付候尤大年寄共も不吟味之亘^二候已後念入候様申渡候事

二月十二日 出仕

一 四時泰安寺へ御仏詣例之通七間廊下^江罷出候

一 栗原新五兵衛当病無出勤大目付中^江御断申達又且又成安村弥助家昨夜六時出火焼失尤類火無之旨御届之義新五兵衛へ頼来り御用番^并大目付中^江申達候

一 御役人以下足輕中間御給米三步一銀札^二而今日相渡候

一 三軒屋御修復之義先達申立置候処昨日迄^二御繕出来立候旨三軒屋

番申出候

一 二階町小嶋屋平兵衛儀塚田新十郎書狀取次船頭町喜助へ相渡候様
内々相聞候間様子相尋見申様大目付中被申聞候^ニ付今晚小頭遣シ
遂吟味候処中須賀福本屋兵助^ハ大坂^江之書狀喜助請取置候へ共得
罷登り不申^ニ付書狀今津屋迄返し呉候様^ニと申候^ニ付平兵衛^ハ今
津屋^江遣候得^者便次第直^ニ中須賀^江戻し呉候様相頼候^ニ付平兵衛方
^ニ右書狀預り罷在候由其外相替趣も無之翌十三日右之趣大目附中
江申達ス

二月十三日 出仕

一 栗原新五兵衛不快無出勤大目附中^江断申達ス
一 明十四日泰安寺御仏詣之義中奥目付中^ハ被申聞小頭^并大年寄^江例
之通申付候

一米相場書付指出ス御蔵米七拾匁五分町米六拾六匁五分

一 昨晚小嶋屋平兵衛申候^ニ付小頭を以今津屋孫十郎遂吟味候処平兵
衛口上之趣^ニ差^而相替義も無之

一 当正月万人講三步銀六貫三百九拾七匁五分之内三貫九百三拾三匁
七分三厘諸入用小帳相添勘定目録指出ス右殘銀札式貫四百六拾三
匁七分七厘講元共先預り置講様申付今日預り証文指出シ請取置

一 小嶋屋平兵衛船頭町喜助猶又今晚小頭遣シ遂吟味候

二月十四日 出仕

一 四時泰安寺^江御仏詣例之通七間廊下^江罷出候

一 今日八ツ時塚田新十郎^江相尋候御用向有之御勘定所役人下山官太
長沢清左衛門牢屋^江被指越候旨被仰渡候^ニ付同心兩人指出尤於詮
議場右兩人^ハ尋有之由

一 鍛冶町^江預置候龍吐水御覽可被成由被仰出小勤者中^ハ取^ニ遣候間
差出候様可申付旨大年寄へ申遣即刻差出同十九日被差戻候由届遣
ル

一 大坂久宝寺町尾張屋七兵衛手代権兵衛此度御用^ニ付罷越京町綿屋
源七宿仕候旨断出承届候

一 上紺屋町作人仁助家表口四間裏行九間六尺但半役代銀札式百式拾
匁相極仁助借家罷在候商人次兵衛へ売渡申度旨願出承届同十六日
本証文出ル

一 美濃職人町正木屋甚右衛門母まつ家表口式間半裏行十七間但半役
代銀札三百五拾匁^ニ相極鍛冶町熊次郎^江売渡申度段願書指出承届
同十六日本証文出ル

一 夜四ツ時前不時御出席有之^ニ付可致出仕旨大目付中^ハ申来即刻罷
出候森对馬守殿当国御預り所之内村々百姓大勢相集り騒敷趣^ニ付
為聞糺田嶋勘左衛門右場所^江被指出候万^一難相慎趣候ハ、御人数
御指向ケ之儀勘左衛門^ハ御頼可申候間兼御取計被下候様乃井野役
人古川弥四郎川端代八^ハ申来候由依之物頭本多惣太夫磯野伊兵衛
被指向候積り御内意被仰渡其以下夫々用意被仰付候右^ニ付物頭中
^江同心組兩人ツ、相渡可遣旨大目付中^ハ被申聞則小頭^江申付候尤
惣太夫^江中山市左衛門^{神田権兵衛} 伊兵衛^江川端又六^{室井作右衛門} 指遣ス^并手鎖早繩随分
数多遣候様大目付中被申聞御代官所手鎖借り寄当役所之分共^ニ都
合四十計早繩^者役所之分十筋外^ニ同心共所持十筋計其余^者小勤者
所^ハ船綱請取用之且又町奉行所下役石名平太兵衛義右御人数出シ
諸弘方出役被仰付候

二月十五日 出仕

一例之通於御座間式日御礼申上候

一今般同心共四人外御用申付候付代り之義申立使組高坂甚六尾崎藤

七野上甚助井汲左助請取勤方之義同心共申合相勤候様申付候

一河原町八平と申者当年八十八歳罷成妻義ハ去年相果当時独身ニ而

罷在尤日雇手間賃仕事等も得不致親類縁家之者無之実及飢渴候仕

合ニ付町内組合之者共只今迄ハ彼是致世話遺候得共永々之義及力

がたき段組合ハ歎書此間指出御用所并大目附中江及御沙汰候処難

渋之趣御聞届為御救一日麦五合塩三勺ツ、被下候旨一昨十三日被

仰渡當時先二月三月両月分代銀札拾式匁三厘今日御勘定所ハ請取

右之趣大年寄江申渡銀札相渡候

二月十六日 出仕

一明十七日地藏院江御社参之義中奥目付中ハ被申聞人留之義大年寄

江申渡候

一例年之通大年寄齋藤孫右衛門於宅町馬見分申付小頭石名左五兵衛

部屋目付藤森権六指出シ廿五疋毛付帳面指出ス

一米中買魚住屋米五郎今日大年寄於宅神文申付小頭部屋目付立会無

滞相濟候

二月十七日 出仕

一四ツ時地藏院江御参詣例之通七間廊下江罷出ル

一明十八日四時御供揃二宮院庄江御出但二階町御門ハ二階町堺町新

職人町妙願寺前通夫ハ三丁目坪井町宮脇町西今町通茅町安岡町筋

違橋御通行之旨中奥目付中ハ申聞御先私并町方人留之義小頭大年

寄江申付候

一右ニ付明日御用所御出席無之旨大目付中ハ申来ル尤雨天ニ候得ハ

御出席有之由

一河原町作人七左衛門家屋敷表口式間裏行拾間但式歩役代銀札三拾

五匁同町平四郎ハ壳渡度願承届同廿二日本証文出ル

二月十八日 休

一四時過院庄ハ御出ニ付町分御先私組之者兩人差出七時前御帰被遊

候由

二月十九日 出仕

一明廿日地藏院御参詣之義中奥目附中ハ被申聞元魚町二階町人留之

儀大年寄ハ申渡

一惣社宮市町ニ付□□非人共罷越万歳仕候由右取計之儀神主共ハ相

頼候付世話仕度旨西新町倉舖屋幸助願書差出寺社取次中承合候処

向方願相濟候趣ニ付一通り御用所及御沙汰候上承届候段大年寄ハ

申渡尤先格之通一札申付同廿二日差出ス

二月廿日 出仕

一四時地藏院江御仏詣例之通七間廊下江罷出候

一近々於惣社社地見せ物有之ニ付例之通御触書出組之者并牢番三軒

屋番ハ申渡

一明廿一日天崇院様御証月ニ付四ツ時泰安寺江御仏詣被遊候由中奥

目付中ハ被申聞例之通夫々申渡

一浜野屋重郎兵衛儀是迄酒改役相勤候処近年不勝手無人ニ相成万端

難渋ニ付右役免之儀願出故障も無之趣ニ付承届ル

一新田村助十郎娘かねト申女元魚町真嶋屋平右衛門嫁ニ貫請度旨願
出郡代申合承届候

一林田町松本屋源兵衛家屋舖表口式間裏行十七間式尺但式歩五厘役
代銀札式百八拾匁同町福地屋槌三郎借家ニ居申医者片岡東馬へ壳
渡度願承届同廿五日日本証文出ル

一斎藤孫右衛門段々不勝手ニ罷成取統も難相成候之他所廻シ玉子引
請被仰付被下候様願書并右弁書加判同役蔵合孫左衛門今先日差出
候ニ付惣而町方一統差支無之哉否内々遂吟味候処鶏卵取扱もの五
六人計之義者少々難渋ニも相成候得共是以鶏卵一色之商売ニも無
之ニ付大難渋と申筋ニも無之其外一統之故障ニハ不相成趣相聞候ニ
付大目付井上弥三兵衛へも遂内談昨日御用番へ於御次御内意相伺
候上御用所へ及御沙汰候処委細御聞届願之通申付候様被仰渡尤去
春綿苧座御取上之節一ヶ年限尅貫八百匁ツ、五ヶ年之間銀札場上
納之分被下置候得共此度右願筋御許容之上者不被下置段可申渡旨
申上是又御聞届被成候右ニ付孫右衛門并加判孫左衛門呼寄石名平
太兵衛立合鶏卵他所廻し引請願之通被仰付候併諸人難儀ニ不相成
様万端随分正道ニ可取計候且又去歳今五ヶ年之間被下候尅貫八百
匁ハ右願筋御許容ニ付以後不被下置旨申渡

二月廿一日 出仕

一四ツ時泰安寺へ御仏詣例之通七間廊下へ罷出候
一御參勤御時節先達而御伺之処四月中と被仰出登三月十八日御発駕
被成候筈相極候旨大目付中今廻状來

一林田町山本三右衛門娘ちよ義先達而当国勝山町惣年寄田中次郎右

衛門妻ニ指遣候処不縁ニ付此度三右衛門方へ引取度願出承届候

二月廿二日 出仕

一乃井野御預り所百姓騒動之儀相慎候趣申來候ニ付物頭中出馬ニ不
及旨今日被仰渡右ニ付同心組四人被差戻候由大目付中今被申聞尤
物頭中今も其段挨拶有之依之同心代り受取置候使組四人今晚今指
戻候且又石名平太兵衛義右同様出役被差免候

一中之町三室屋宇左衛門響新兵衛用事有之備前岡山上之町赤穂屋徳
右衛門方へ差遣度往来三十日計之願承届候

二月廿三日 出仕

一林田町舛屋新助家質滞銀当月廿五日限筋立候様去ル四日申付置候
処質座替是迄之銀主江元利致返済相濟候旨大年寄申出右ニ付家屋
敷請返候段同廿七日断書差出并取次人中之町武平次今も濟口証文
差出依之去ル亥十一月指出候本証文指戻ス

一桶屋町大坂屋次郎右衛門方今下人七藏ト申もの用事ニ付今夜水車
場へ遣候処榎原前坂南下り口ニ三ツ棧櫃者ツ有之立寄見候得者錠
前坪はづし有之由申出候旨九時大年寄注進申來候ニ付先ツ忍番人
付置候様申付右之趣大目付中当番へ以手紙申達候

二月廿四日 出仕

一昨夜申出候榎原前ニ捨有之候櫃之儀大目付中及対談候処右場所者
大目付構と被存候由依之為見届御徒目付下目付被指出候由ニ付同
心共指出立合之上桶屋町年寄へ先預置可申旨及相談御用所へも右
等之趣及御沙汰今八時過御徒目付遠藤十助下目付中田清次同心中
山市左衛門立合見届之上致封印桶屋町年寄大坂屋次郎右衛門へ預

ケ置尤手形取市左衛門罷歸其段大目附中へ以手紙相届候扱又今昼後承候へハ右之場所ハ御郡代構之由依之郡代所下代も罷越立合候由

一近々惣社見せ物相始候由左候得者同心不足ニ付加人之儀大目付所へ申達使組橋本平七渡部甚蔵請取候事

二月廿五日 出仕

一銀札場御用銭式拾箇川筋積下候由通手形式通札座奉行中ハ被差越裏印加遣ス

二月廿六日 出仕

一惣社見せ物今日ハ相初候由ニ付同心藤森権六神田権兵衛差出候処別条無之由晩方届出候已後日々同心兩人ツ、指出ス

一宝曆十辰年ハ明和元申九月迄町方売家廿分一銀之内其間町奉行所

諸入用引残銀壹貫六百拾三匁六分六厘大沢三平已来段々当役所付

渡リニ相成有之処去子四月大目中相談之上御初入前御城内掃除人足代為引宛御作事方へ相渡預り手形取置候併永々如此ニ而も難

相濟又此方へ銀札戻り候而も遣ひ方も無之義其上御作事方ニ而茂

御初入惣御入用此節仕切も出来候処右員数計町奉行所ハ請取候而

ハ入またぎ不宜趣ニも相聞候付先日大目付井上弥三兵衛へ対談之

上右銀高御金蔵へ相納候筋ニ取計御金奉行受取証文取之御作事預

り手形者此度指戻相濟候事

二月廿七日 出仕

一來ル朔日月次御札不被為請旨御奏者中ハ一統廻状到来

一材木町鶴飼屋宇助裏御堀端塀覆損修覆仕候付御堀へ足代下シ申度

旨断書差出御用所へ及御沙汰并大目附中江申達右断書差出ス尤勝手次第足代下シ候様申渡候

一勝間田町山形屋喜兵衛旅人宿屋株此度林田町福茂屋武助へ讓度旨願出承届候三月朔日一札差出ス

一中之町浜吉屋茂八夫婦立願有之西国順札罷出度往来百日計之願承届ル

一此度齋藤孫右衛門義鶏卵上方登引請被仰付候右ニ付町方其外ニ宮一方村林田村ハ川部村迄之間并飯網辺ニ而買込候鶏卵他所商人へ

売渡候義御指留被下候様口上書を以申出御用所へ及御沙汰御聞届相濟候ニ付其段申渡尤大目附中へも申達且郡代中へ申合三月朔日

触書差出ス

二月廿八日 出仕

一例之通於御居間式日御礼申上候

一御発駕前ニ付今日同心小頭并大年寄一人御道筋下見分申付破損見苦敷場所者繕致させ候様申付候

一今明日泰良院様御一周忌ニ付惣社見せ物被差止候由

二月廿九日 出仕

一泰良院様御一周忌於妙法寺御茶湯被仰付候尤御家中江御知せも無之事故町方へも不相触勿論自身番并今町同心辻固等共ニ不申付候

一此間檜原前ニ捨有之候古櫃壹ツ吹屋町吹屋八左衛門借家八兵衛後家西隣市平ト申者ハ預り候櫃之由断書并色目書付差出候ニ付一通

り御用所へ及御沙汰置今日同心中山市左衛門差出郡代所下代立合吟味候処無相違趣ニ付右櫃相渡手形取罷歸候右之趣御用所并大目

付中へ御届申達候

二月晦日 出仕

一新魚町六左衛門後家悴勤五郎去子十一月致出奔候段其御断書出候
ニ付相尋候様申付其以来所々相尋候へ共今以行衛不相知ニ付人別
放之断書差出御用所及御沙汰承届候段申渡尤御日記ニ留り候義故
右断書大目付所へ差出ス

一勝間田町桶屋勘六家屋鋪表口三間裏行十七間但七步役質物ニ書入
荊田屋源太郎銀札百匁当十月切かり請申度旨願書承届三月朔日

本証文出ル天明八申六月相濟

一中之町佐渡屋伊右衛門家屋敷表口三間裏行十七間但半役質物ニ書
入甲屋和助銀札四百目来寅十月切借請申度旨願出承届三月八日

本証文出ル

一京町小油屋平兵衛借家茂三郎方へ因州鳥取新町住居仕弟仁右衛門
と申者此度当地へ罷越当五六月迄逗留按摩稽古仕度旨申候ニ付指
置申度段願出承届

置申度段願出承届

一林田町舛屋新助家屋鋪表口三間裏行六間卷尺五寸但三歩役此度質
物ニ書入同町作人長七取次ニ而銀札百八拾目当十月切借請申度旨
願出承届三月朔日本証文出ル

願出承届三月朔日本証文出ル

一林田町何尾屋忠次家屋敷表口式間裏行十七間式尺但式歩五厘役代
銀札百五拾目相極同町松本屋源兵衛へ売渡申度旨願出承届三月朔
日本証文出ル

日本証文出ル

一河原町作人伊助家屋鋪表口式間半裏行九間半但式歩半役代銀札八
拾匁ニ相極同町柴田屋茂平次へ売渡申度旨願出承届三月五日本証
文出ル

文出ル

一林田町何尾屋忠次義此度木村忠次と相改土井忠左衛門下代ニ罷出
大坂御屋鋪江引越申度ニ付町内人別離之願書差出承届候

一塚田新十郎妻此度大坂の此表へ被差越候ニ付御徒目附富沢金左衛
門下目付植月豊八同心藤森喜代次ニ差添今晩着直ニ新十郎居宅へ
送届候旨喜代次申出其段大目附中江以手紙御届申達候

三月御用番下村友右衛門殿

大目附当番持 但三月十八日
月番 太田舎人
大年寄 藏合孫左衛門

三月朔日 出仕

一例之通於御居間式日御礼申上候但表御礼者無之

一去冬以来御家中屋鋪塀土台之木引放候もの有之由依之長屋者屋敷
守等遂吟味烏散成もの指置間敷之旨大目付中演説廻状到来組之
者へも申渡候

一船頭町作人八兵衛去子四月新田村広瀬渡守請込「」居申候処相果
候ニ付右八兵衛後家并娘此度船頭町川口屋三九郎引請度旨願出郡
代中申合承届候

一坪井町高砂屋兵助所持他国請酒株去子三月の茅町玉津屋茂七江五
年切貸置候処茂七義請酒商売相止候付右請酒株兵助方へ取戻シ申
度旨断出承届候

一去ル亥四月寺田治助八出村徳兵衛米先売致銀四貫五百匁倉鋪大和
屋猶右衛門の差出候処指引相滞候ニ付取次人中之町大塚屋十次の
訴状并証文写共此度差出候間御郡代栗原新五兵衛へ相渡吟味之

上宜被申付候様申達候尤右証文万一及遲滞候ハ、徳兵衛開田畑可相渡もの文段但村内役人等之印形者無之趣二候

三月二日 出仕

一栗原新五兵衛不快無出勤御断之儀頼来大目付中へ申達候

一蔵合孫左衛門ハ川下通手形差出致裏印遣ス

三月三日 出仕

一諸士登城御礼有之拙者義例之通於御座間御礼申上候

一明四日泰安寺御仏詣之儀中奥目付中ハ被申聞例之通小頭并大年寄

江申付候

三月四日 出仕

一四ツ時泰安寺へ御仏詣被遊例之通七間廊下江罷出候

一御発駕前京町辺ハ材木町迄之裏御掘端石垣之草取セ候義御用所并

大目附中へ申達置大年寄へ申付候

三月五日 出仕

一米相場書差出御蔵米七拾壹匁五分町米六拾七匁五分

一明六日四ツ時御供揃ニ而二宮江御遠乗田町御門ハ田町中筋西大番

所夫ハ今町通茅町安岡町筋違橋御通行御帰者安岡町茅町寺町寿光

寺横手ハ田中通御道筋之由中奥目付中ハ被申聞御先弘同心并町方

人留之義夫々申渡

一明日御出ニ付御用所御出席無之由大目付所ハ坊主触来ル

一三軒屋番中尾幸助無扱用夏ニ付近在ハ罷越往来五六日之逗留小頭

を以願出承届尤同役とくと申合置罷越候様申渡

一御郡代栗原新五兵衛勝手向至而難波ニ付御歎之儀被相頼大目付中

迄申達候処御用所被及御沙汰無余儀趣御聞届当春渡御役米引当ニ
ノ米拾俵御取替被下候段柴崎甚右衛門ハ被申聞即刻新五兵衛ハ申
通候

三月六日

一四ツ時過二宮江御遠乗町分御先弘同心差出無滞相濟

一二階町嶋屋藤吉方へねぢわく細工手伝人播州加古川五郎三郎長次

郎と申兩人呼越当十二月中旬迄差置置度願承届

一町方ハ讚州金毘羅參詣願書数通指出承届

三月七日 出仕

一明八日泰安寺御仏參之義中奥目付中ハ被申聞例之通夫々へ申渡

三月八日 出仕

一四ツ時御仏詣被遊例之通七間廊下へ罷出ル

一中之町作人源五借家へ林田村喜平次借屋ニ罷有候長右衛門夫婦引

越させ度旨願出郡代中申合承届候

一京町豆腐屋半右衛門借家逸平悻虎吉下高倉村五郎兵衛養子ニ遣度

旨願出郡代中申合承届

一鍛冶町かち屋伝右衛門方へ林田村紺屋伊之助姉ふゆ娶申度旨願出

承届ル尤郡代御申合

一船頭町作人七兵衛夫婦去子四月林田村へ罷越居候処此度又々船頭

町武助引請申度願出郡代中申合承届

一御発駕之節馬之儀三十疋入用之由用意馬三疋共ノ三拾三疋之内町

馬廿五疋引残而八疋在中寄馬之積大目付中遂相談郡代中申合候

又寄馬一疋
同十四日相増

一 当正月町方御救万人講三步銀講元共へ預置候処差当り利倍之工面も不相見依之当暮迄^者講元共借用尤利足付可差出旨大年寄^〆申出其通承届候

但三月^〆一ヶ月老步^ツ、利付候証文同八月十一日差出ス

三月九日 出仕

一 四ツ時御供揃為御首途御対面所へ被為入町奉行御勘定奉行御郡代麻上下着用七間廊下へ罷出御目見申上候

一 御首途為御祝義御用所以下日參御役人赤飯被下町奉行勘定奉行郡代御金奉行御座鋪奉行於七間廊下頂戴之早^而大目付所へ罷出御礼申達候

一 玉置忠兵衛裏土藏繕致候^ニ付御堀^江足代下^シ申度断書差出御用所并大目附中^江申達置勝手次第之旨申渡

一 御発駕前^ニ付町分御道筋見分明日罷出候段御用所へ及御沙汰大目付中へ御貸人馬之儀申達尤拙者儀去冬蒙当役へ已来いまた町方不相廻候付乍席明日惣町見分仕候趣も及御沙汰置候

一 中之町平岡屋忠右衛門天川屋伝七立願有之信濃善光寺へ參詣来ル十三日出立往来百日計之願兩人同様申出承届

一 東新町みの屋治助借家丁子屋茂八郎家内四人岡沢甚八拜領屋敷長屋へ引越度旨願出承届

一 式丁め幾屋与三兵衛義可児平左衛門長屋へ引越申度旨尤家屋敷ハ孫ちか名前附替候旨願出差出承届候

三月十日 出仕

一 御発駕町分御道筋為見分五時過^〆罷出^并惣町共^ニ見分九時相仕廻

直^ニ発城御用番へ御届申達候尤牢屋も遂見分候但右御道筋^江著小頭左五兵衛大年寄も老人付添相廻候今日拙者供人左之通

若党式人^{同心} 鑓持合羽籠持^{中間} 草り取^{手人}

但只今迄^者挟籠持も中間御貸被成候得共当春以後御儉約^ニ付

此度「」減

一 明十一日九時御供揃^二宮^江御遠乘^二階町御門^〆御出^二階町堺町新職人町妙願寺前通^三丁目坪井町宮脇町西今町通茅町安岡町筋違橋御往来共右御道筋之由中奥目附中^〆被申聞御先弘同心町方人留之儀夫々申渡

一 錢相場老奴^ニ六拾五文替^ニ相成候由大年寄^〆申出候

一 御発駕前火之元之義^并喧嘩口論酒等之慎先格之通御触有之同心^并牢番三軒屋番迄申渡

一 来ル十八日御発駕^ニ付火之元別^而念入^并十七日^〆十九日迄町方自身番相勤喧嘩口論酒等之慎先格之通御書相認大年寄へ相渡委細扣有之

一 町方博奕之義近来猥^ニ相成候様粗相聞候付急度相慎候様町中相触候委細御書扣有之

一 細工町作人新兵衛後家屋鋪表口式間裏行十一間但三步役之処代銀札百七拾目同町大工太助^江壳渡申度旨願出承届同十二日本証文出ル

一 茅町大工吉左衛門屋敷地表口三間裏行三間半但老步半役之所西方表口老間半通代銀札拾五匁同町木屋六右衛門へ壳渡東方表口老間半通代銀札拾五匁同町とき屋彦六へ壳渡申度旨願出承届同十七日

本証文出ル

一 東新町紺屋長次郎去十二月相願往来八十日計四国廻り罷出候処今以不罷帰ニ付三十日之日延同人母より願書差出承届候

一 齋藤孫右衛門悴巳之八義用事有之大坂会所町松屋甚兵衛方へ差遣度往来廿日計之願差出承届候

三月十一日 出仕

一 九時過院庄江御遠乗七ツ時御帰御往来御先弘無滞相勤候由同心共申出候

一 明十二日御仏詣之義中奥目付中へ被申聞例之通夫々申渡

一 渡部惣右衛門殿山岡与三衛門大坂へ今晩帰着

三月十二日 出仕

一 四時泰安寺へ御仏詣被遊例之通七間廊下へ罷出候

一 久米北條郡錦織村弘法寺当三月廿三日同廿七日迄本尊開帳ニ付

東西建札之義大年寄方へ頼来候旨申出御用所并大目付中へ及御沙

汰置承届候段申渡

一 三軒屋番中尾幸助義在方今昨晚罷帰候由届出候

一 御発駕之筋御荷物貫目重ク并継駕籠人足式人と申義ニ付宝曆五亥

歳日雇頭共申分有之大年寄へ町奉行所へも申出候処差懸り致方も

無之先其年切之取計ニ相成候又候当年も左様之筋有之御立前日ニ

至兎ヤ角申分有之候而者如何之旨此間蔵合孫左衛門申出相考候処

早竟継人足之儀者尾張屋請負と申ニも無之宿々ニ而指出夏ニ候扱当

年者別而御儉約ニ付三人懸たるへき継かこも式人懸り御長持など茂

四人掛り三人懸りニ而候然所爰元ニ而申分有之人数増候而者江戸迄

之御道中人足相増御入用過分ニ相成候殊ニ雲州其外他之往来先触

ハ式人ニ而も人足三四人も指出候義常々之事他之荷物さへ宿役ニ而

増人足も出候事ニ候得者増而此方様御用ニ候得者とヤ角申分可有之

義ニ無之候万一年も其砌日雇頭難決申出候共右之趣心得罷有宜

及差図候様ニと孫左衛門へ申聞置候

三月十三日 出仕

一 明十四日御仏參之儀中奥目付中被申聞例之通夫々申渡

一 八百屋与茂次郎実母娘也狩野洞学狩野家系図致所持罷有此度御内々ニ而

差上候ニ付右娘津国屋市郎右衛門娘也一生之内式人ふち被下置候間可申渡旨

御用番被仰渡則大年寄呼寄申渡

一 坪井町田中屋喜助方へ一宮村伊三郎弟三次と申者養子仕度旨願出

郡代中申合承届候

一 新魚町魚住屋太郎右衛門弟弥吉儀去ル戌九月相願辰歳迄七ヶ年之

間大坂高麗橋筋内兩替町播磨屋五兵衛方へ遣置候処病身ニ罷成此

度罷帰候旨断書指出承届候

一 京町花屋忠八方へ撰州中筋村小池定次郎同次郎助手代喜助上下三

人先年罷越候節宿致候付又々此度用向有之罷越八日計之逗留宿相

頼候間指置度旨願出承届

一 御発駕之砌兼田川江鍛冶橋渡船相廻し并蔵元代り壱人船年寄一人

申付指出候様御船奉行中へ被申聞則大年寄へ申付候然ル処土橋御

通行被成相濟候間右渡船并役人共差出候ニ不及旨又々同十五日被

申聞孫左衛門へ申渡

三月十四日 出仕

一四つ時泰安寺江御仏詣被遊例之通七間廊下へ罷出候

一此間京町花屋忠八方へ罷越候撰州中筋村之者共当町町人共方數軒相廻り先年用立候金子今以無返濟ニ付此度罷下り候返濟可有之哉左も無之候得者江戶表へ及出訴候間其段相心得候様ニと申罷通候段追々届出候由大年寄申出候ニ付惣右衛門殿御宅へ罷越右之趣及御沙汰候尤是者先年御用銀御才覚寺田伝助取計候節当町町人共名前証文ニ而池田辺の調達之内今以不筋立日々も有之ニ付右之趣と相聞へ候

一夜九時上紺屋町失火之処早速相慎り候由注進申出候ニ付不及出馬尤大目付中江一通り以手紙相届候

三月十五日 出仕

一式日御札被為請拙者義如例御居間ニおいて御目見申上候

一錢相場老奴ニ六拾四文ニ立替候旨大年寄申出候

一上紺屋町昨夜出火之義灰屋善右衛門借家小助と申独身者留守之内火燧ふとん焼床少々ふすり候旨断書大年寄申出御用所并大目付中江申達尤隣町餘程騒候程之儀ニ付追込可申付旨相伺候処御聞届則今晚大年寄へ申渡右取計相濟候段御用番并大目付中江以手紙相届候

一撰州中筋村之者共相廻り候町家之面々何茂氣遣可存候縦江戶表へ及出訴候共町人共難儀之筋ニ者不相成候間其段可申渡置旨御用所今被仰渡則大年寄へ申渡候尤中筋村之者共昨晚出立罷帰候由一御発駕御当日拙者義先格之通林田町はつれへ罷出候段御用所へ及御沙汰大目付中へ御貸人馬之儀申達并大年寄共も如例格右同所へ

罷出候義及御沙汰置候

一中之町西屋次右衛門家屋鋪表口五間裏行十七間但七步役之所同町甲屋和助へ質物ニ書入当十一月切銀札三百五拾匁致借用度旨断出承届同十六日本証文出ル寛政十二庚申年十一月廿七日受返し一惣社市町并見せ物今日切相濟引払候旨同心共見届罷帰

三月十六日 出仕

一明後十八日六ツ時御発駕被遊候間諸士部屋住ニ迄迄登城先格之場所へ可相詰旨御奏者番今廻状到来

一明十七日地藏院御参詣之義中奥目付中今被申聞ニ階町元魚町人留之事大年寄へ申付候

一牢番松岡左助義白銀屋平助娘娶申度旨同心小頭を以此間願出願之通今日承届候

一安岡町久米屋兵八借家松田屋三平悻七助義此度隅田族江中間奉公罷出候付町内人別離願出承届候

一安岡町米屋市之丞此度尾張屋ニ被相頼江戶表へ罷越来寅五月迄致逗留度旨願出承届候

一御参勤ニ付馬之義先格之通津山今土居迄相通シ呉候様勝間田駅今頼来候旨大年寄申出例之通取計可申旨申渡

三月十七日 出仕 山岡与左衛門今朝大坂へ出立

一四ツ時地藏院江御社参被遊例之通七間廊下へ罷出候一拙者義御前江被為召御留守中役筋之儀ニ付思召之趣御人扨ニ而被仰渡御請申上退去引統勘定奉行御郡代中江御意有之由一船頭町作人吉兵衛義此度新田村広瀬渡守ニ罷出度依之家内式人町

内人別離願出郡代中申合承届候

一勝間田町海田屋甚四郎義此度御參勤御供人足^二而江戸表へ立帰罷
越度旨願出承届候

一明日御発駕明七ツ時御供揃之由中奥目付中合為知来ル

三月十八日 出仕

一今卯中刻御機嫌能御発駕被遊候拙者儀林田町はつれ舁形ノ西南側
江麻上下着用罷出御目見申上候尤名披露有之御通相濟帰懸直^二登
城御用席^江罷出御歎申上大目付所へも無滞相濟候段申達且御祝義
赤飯頂戴之退出後御家老御年寄中御宅へ御歎廻勤将亦今日同心出
人如左

御先私兩人——外^二小頭壹人小紋羽織着用罷出ル

町方掃除見分兩人

京町人留壹人

町奉行馬脇兩人

但前々之日記^二者麻上下着用と有之^二
付遂吟味候石名平太兵衛数年来小頭相
勤候処終^二麻上下着用之儀^者無之決^而
小もん羽織着用罷出候由^二付此度其通
申付候

御貸人馬左之通 但葺り取ハ手召連

馬壹疋口附中間式人 鎧持一人 中問 合羽籠持 同上 挟箱持ハ

御儉約^二付近来相止 高挑灯一張 是ハ半番中問
にもたせ候

一大年寄三人林田舁形ノ外南側へ罷出御目見申上候

一御留守中御用日三八^二相成尤八日十三日ハ先格之通九日十四日御
出席之旨且又已後当月番太田舍人相勤候由大目付中被申聞候

一先日以来同心加人^二請取置候使組兩人之内渡部甚藏急御用有之由

ニ付指戻候事

一今日御発駕ニ付馬入用左之通

町馬式拾五疋 合三拾六疋内 御供入用馬
在寄馬拾壹疋 三疋 町分残馬

右之積申付置候御供方^并尾張屋入用馬差懸り申来取計左之通

臨時入用馬拾疋内 三疋右除置候町分残馬差出

壹疋在馬參合候付差出ス

六疋此分馬不足^二付代り人足出シ候由

但此人足賃之内駄賃引残ハ分在寄馬入用ニ相結ヒ
地方目付今大年寄へ追相渡し候稱郡代中申合候

三月十九日

一御用向無之

三月廿日

一勝間田町年寄次七郎明廿一日湯郷村次郎左衛門方へ十五日逗留罷
越度願尤留守中役筋取計林田町年寄へ頼置候旨大年寄申出承届

一札元四人他国他領へ罷越候節帯刀被指免候間其段可申渡旨友右衛
門殿御宅ニおいて大目付太田舍人立会被仰渡則山本三右衛門川口

藤十郎茂藤藤右衛門武田七郎兵衛我等宅へ同道罷出候様藏合孫左
衛門へ申遣今九半時何^茂罷出石名平太兵衛立合右被仰渡之趣以書

付申渡但右之内三右衛門義不快^二而不罷出候付残三人之者共合此
通達候様申渡右相濟友右衛門殿^并太田舍人へ以手紙及御届尤札元

五人之内茂渡市右衛門義^者去々亥六月右之通被差免候矣

一他所酒商売之儀已後差留可申尤是迄取寄置候分程^者指免可然候間

其段相考可申渡旨友右衛門殿被仰渡候

三月廿一日

一 上紺屋町灰屋善右衛門借家小助失火之儀^ニ付去ル十五日追込申付
置候処最早差免可申段昨日友右衛門殿へ及御沙汰置今晚大年寄へ
申渡追込指免候尤其段御用番^并太田舍人へ以手紙及御届候

一 諸国百姓共願筋有之大勢致徒党候義不屈之由今般從公儀被仰出候
兩通大目付中^ハ廻状到来尤在方第一之事^ニ候へ共町方へも触知せ
置候

三月廿二日

一 御用向無之

三月廿三日 出仕

一 旧臘召捕候贖札師十次郎暫逗留罷有候宿橋本町朝本屋源藏居宅床
之下^ニ贖札一括有之去ル廿日見出候由大年寄^ハ差出右^ニ付昨日牢
屋へ小頭遣十次郎遂吟味候処源藏方床之下へ十次郎入置候^ニ無相
違趣申之今日右之趣御用所へ及御沙汰候大目付中へも申達右贖札
三百四拾七枚札座奉行中へ相渡ス

一 此度他所酒停止被仰付右^ニ准其外何物^ニ而も当所^ニ而仕込相濟候品
「」追々他所物相止候様可取計旨於御用所惣右衛門^ニ被仰聞候事

三月廿四日

一 他国請酒商売此度停止申付尤是迄取寄候分殘可有之^ニ付当四月中
^者令用捨五月朔日^ハ右商売堅相止可申旨他所請酒株之者共へ申渡
候様大年寄へ書付相渡且又右^ニ付当所造酒之義弥念入慮略之取計
無之様惣酒屋共へ及演説別^而酒改之者共無由断心ヲ付可申旨申渡

之書付大年寄へ相渡

一 右^ニ准し其外何物^ニよらず当所^ニ而仕立相濟候品々^者銘々心懸追々
仕込可致売買尤已後弥当所^ニ而出来之品^者申出次第吟味之上他所
物売買指留可申候間無油断心懸可申旨惣町へ触書差出ス

一 田邑大成と申所林山ノ内^ニ捨物有之旨郡代所へ注進申出候付被及
御沙汰触流有之候依之町方へも触流之義被申聞右心懸りも候ハ、
廿九日迄^ニ申出候様相触候

一 先達^而今津屋孫十郎^ハ塚田新十郎へ用立候夜具之内加藤新右衛門
井戸十郎右衛門長屋^ニ相残有之分今津屋方へ受取セ候様昨日大目
付野条平藏被申聞其段大年寄へ申渡候<sup>孫十郎^ハ御作事方へ承合都合八
受取申候由翌廿五日申出候</sup>

一 桶屋町作人孫市家屋鋪表口三間裏行四間半但半役之所代銀札五拾
目同町作人新助へ売渡申度旨願出承届同廿七日日本証文出ス

一 茅町北側木屋六右衛門屋敷地表口三間半裏行四間半之所内西方半
間口通り但式厘五毛役代銀札拾匁作人仁助へ売渡申度願承届四月四
日本証文出ス

一 茅町北側表口式間裏行六間但壹步七厘五毛役新「」勘兵衛持屋敷
地代銀札式拾匁茅町吹屋新右衛門へ売渡申度旨願出承届四月四日
本証文出ス

一 吹屋町年寄釜屋市郎右衛門義用事^ニ付勝南郡位田村十郎右衛門方
へ罷越度往来十日計之願承届候

一 明廿五日九時修理様二宮辺御遠乗京橋御門^ハ本町通御往来御道筋
之由鈴木此右衛門^ハ為知有之大年寄へ申渡但掃除^者不申付町方不
敬無之様申付候同心共御先払ハ不差出候先格也

一先達^而大坂へ遣候同心吉井栄内中山伝内此度被差戻去廿二日大坂
出立之由今七時致帰着友右衛門殿へ以手紙御届申達候尤大目付中
へも可相届大坂^ハ御用状来右同心共大目付中へ持参差出候右^ニ
付わけて届^ニ不及旨井上弥三兵衛^ハ伝言申来候^ニ付任其意候事

三月廿五日

一修理様御遠乘今日雨天^ニ付御延引之旨鈴木此右衛門^ハ申来候

一中之町佐渡屋伊右衛門借家山田喜七郎へ貸申度旨断出承届

一中之町三室屋宇左衛門智新兵衛義先達^而相断備前岡山^江罷越候処
今以用事不相濟^ニ付又三十日之日延願出承届候

一渡部惣右衛門殿今朝大坂へ御出立

三月廿六日

一於揚り屋塚田新十郎積氣不相勝^ニ付針仕度相願候由牢番松岡左助

申出依之針医一人差遣候様大年寄へ申渡尤大目付中へ以手紙其段
申達候但小坂宗三罷越候由

一札元茂渡市右衛門用事^ニ付備前岡山川崎町車屋六太夫方へ罷越度

往来六日計之願承届候

一一宮鳥居石着船^ニ付明日川戸^ハ町筋一宮^江引七申候由寺社取次小
嶋^ハ母^ハ申来大年寄^江為心得知せ置

三月廿七日

一塚田新十郎針致候処積氣兎角不相勝^ニ付薬服用仕度相願候由牢番

大谷栄藏申出則町医本道一人遣候様大年寄^江申付早速三角良甫罷
越薬致調合候由兎角差込強様子^ニ付又々別針医へも見七呉候様夜

^ニ入又々牢番申出即刻大年寄へ申遣嶋田松泉遣候由少々快方之由

翌朝牢番申出候

三月廿八日 出仕

一夜前八時頃吹屋町金屋次郎左衛門居宅裏職場之壁少々焼申候処早
速消留候由断書差出尤隣町^ハも駈付候趣^ニ付御用所^并大目付中^江
及御沙汰次郎左衛門儀追込申付候段大年寄へ申渡右相濟友右衛門
殿^并太田舍人^江以手紙及御届候

一御家中屋鋪表困塀破損之場所^者練塀被仰付候間受込役人へ可及相
談旨大目付中^ハ廻状来委細触書扣^ニ記

一先日已来使組橋本平七同心加人^ニ請取置候処此間大坂^ハ同心共罷
帰候^ニ付平七義今日差戻候

一音信贈答兼^而御停止之事惣^而町在へ御用^ニ付罷出候節馳走かまし
き義決^而受申間敷旨下代足輕中間等へ稠敷可申付由大目付井上弥

三兵衛^ハ御書付被相渡則同心共へ急度申渡候様小頭へ申付候^并拙
者存寄之趣書付を以是又申渡委細扣帳^ニ記置

一右^ニ付惣町へも触書出ス委曲扣帳^ニ有之

一今津屋孫十郎^ハ塚田新十郎へ貸置候夜具之内新十郎居宅^ニ有之分
明夕人遣請取候様大年寄へ申渡尤勘定奉行中^ハも其段新十郎役介
へ通達有之答申合候

三月廿九日

一修理様明朔日九時^ハ二宮辺御遠乘京橋御門^ハ御出本町通御道筋之

由鈴木此右衛門^ハ申来則大年寄へ先格之通申付候
一塚田新十郎積氣同篇之内少々快方食事も相応給候旨牢番申出候

四月 御用番 大橋十太夫殿 大目付月番 井上弥三兵衛

大年寄 玉置忠兵衛

朔日

一 修理様御遠乘雨天ニ付御延引之旨宇津木弥右衛門ノ申来大年寄方へ為知遣ス

一 宮川板橋東ノ方貫一ヶ所損シ相見候旨橋本町年寄届出候由去月廿

「」日大年寄申出今日大目附中へ及噂置

四月二日

一 御用向無之

四月三日 出仕

一 此度他所酒商売停止被仰付右ニ付一宮市町之筋他所酒売候而者不

宜候間在中へも一通り触流有之様仕度并川筋他所酒積登候ハ、小

桁番所ニ而指留候様郡代中ノ通用有之度旨御用所へ及御沙汰候処

両条共御聞届郡代中へ可仰渡尚又拙者ノとくと申請候様被仰聞則

栗原新五兵衛へ委細申談候

一 吹屋町金屋次郎左衛門此間追込申付置候処最早指免可申旨及御沙

汰則今晚大年寄へ申渡右取計相濟御用番并大目付中江以手紙及御

届

一 当秋万人講之義去月廿八日御用所へ相伺候処去歳之通可被仰付旨

被仰渡候依之八百屋与茂次郎味噌屋利左衛門三津屋平右衛門講元

申付并加茂屋和六高尾屋藤助今屋和七下世話且又今屋伝助義只今

迄之通内々講元世話取計候様可申付旨今日大年寄へ申渡ス

一 坪井町浜屋佐右衛門他所請酒株所持只今迄致商売候処此度停止申

付商売相止候而者売懸等不相集甚難義ニ付地酒商売之儀相願無扱

趣相聞候間願之通承届候自国請酒株申付候筋ニ者無之差懸り難

儀之趣ニ付当時右商売差免候事

一 安岡町清兵衛借家長八悴平吉去月十八日尾張屋ニ被頼伏見迄罷越候処直ニ江戸表へ罷越來寅五月迄致逗留度旨長八方へ申越候ニ付

其段願出承届

一 林田町「」四郎娘借家三浦保助へ貸度由断出承届

一 安岡町三右衛門借家与四郎夫婦新田村伝六後家借屋へ引越依之

町内人別離願出郡代中申合承届

一 細工町小一郎方へ新田村甚右衛門娘貰請申度旨願出郡代中申合承

届

一 御藪竹の子取申間數旨例年之通惣町へ触書出ス

一 明後五日六時ノ修理様誕生寺へ御出被成大番所ノいだの町御通之

旨鈴木此右衛門ノ申来則大年寄へ申渡ス

四月四日

一 塚田新十郎積気差而相更儀無之食事も不進之由三角良甫嶋田松泉

此間ノ致療治候処右之通ニ付及断候由申出候然共良甫儀者今暫可

致療治針医者外引替遣候様大年寄へ申付候針医三谷淡心遣候由翌

日承候

一 贗札師十次郎此間不快食事も給兼候服薬針之儀相願候旨牢番申出

是又大年寄江申付候

一 久世御代官所手代増田村右衛門阿沼只右衛門ノ飛札到来当所紺屋

町庵士へ相尋候儀有之ニ付久世役所へ罷越候様尤庵士へ抱り候儀

二而無之外吟味手懸り之筋相尋候迄之儀ニ候間町役人組合等差添候ニ不及候早速罷出候様申付呉候様頼来得其意候段及返答則原田屋理助義早速久世役所へ罷越候様可申付旨大年寄へ申渡右庵士、申八原田屋理助異名也右之趣十太夫殿へ及御沙汰大目付中江も翌日及噂候

四月五日

一修理様今日誕生寺御出之儀雨天ニ付御延引之旨鈴木此右衛門申来大年寄江為知遣又候晩方手紙ニ而明日六時申御出之由申来大年寄へ申渡

一佐々木東馬手紙来田原屋六兵衛義東馬へ対シ不屈之筋有之其分ニ難致候間追込申付呉候様申来候ニ付御用番并大目付中江及御沙汰則六兵衛儀追込申付候段大年寄へ申渡右取計相済十太夫殿弥三兵衛へ以手紙及御届尤六兵衛不埒之義今朝東馬同心小頭左五兵衛江噂有之由内々承之

四月六日

一京町味噌屋利左衛門用事ニ付備前岡木地屋平十郎方へ罷越度往来十四五日計之願承届

一外川町佐和屋茂助立願有之出雲大社へ参詣往來十四五日之願承届候

四月七日

一修理様今日誕生寺へ御出七ツ時迄御帰之由

一塚田新十郎病氣指而相替儀無之尤少々劳疫も相見候ニ付補薬相用可然旨医師差図ニ付新十郎宿元申持合之人参取寄今日申分ツ、

入相用候由并贖札師十次郎義ハ少々、快方之旨牢番松岡左助申出候

四月八日

一玉置廣四郎所持自国請酒株先達而林田町油屋源六江貸置候処双方勝手ニ付此度取戻候旨断出承届

一橋本町年寄喜八義病身ニ付役免之願指出先日以来遂吟味候処無趣ニ付願之通指免尤諸役相勤候者町内ニ差当り不相見依之当分林田町年寄兼帯申付候段大年寄へ申渡ス

四月九日 登城

一久世御代官所囚人共三人近々江戸表へ被差越候由此間先触書状到来之旨大年寄申出依之其節取計方之義今日御用所へ及御沙汰大目付中へも申談大略相決置候来ル十一日久世出立当町止宿之由并人馬員数等先触今夜到来之旨大年寄申出候

一新魚町六左衛門後家家屋鋪表口式間裏行拾式間但半役之所代銀札八拾目ニ相極西隣魚屋仁大夫江壳渡申度願書差出承届同廿五日本証文出ル

一茅町吹屋甚兵衛幼年之節両親相果其以来親類吹屋藤助役介ニ相成居候処去子暮致別宅候五十四五ヶ年以前一株之内吹屋七右衛門鑄物師職致候ニ付右株此度再興甚兵衛義鑄物師商壳仕度願出候依之此間吹屋共遂吟味候処何之故障も無之趣ニ付承届候尤火業之義ニ候間今日御用所并大目付中へも一通り及御沙汰候

一国分寺村孫左衛門申もの入牢被仰付候間御郡代申合取計可申旨於対談間十太夫殿被仰渡大目付立合承之則郡代申合晩方向方

牢屋迄足輕差添被指越同心^江人指出見届入牢申付候已後御用番并大目付中^江以手紙御届申達尤郡代所^江例之通牢手形来牢屋^江此方^江指紙遣候但宿賄也

一 去歲迄牢番足輕相勤候毛受尾助杉山勇助奉公構之義指免候様於對談間大目付立合十太夫殿被仰渡則今晚兩人呼出申渡但今般寺方^江願有之右之通被仰付候由

一 佐々木東馬長屋^江罷在候市平^江申独身者近来致乱心甚難義之旨段々申立有之由^江而牢屋御貸被成候尤賄之義^者牢舍人喰餘り給させ候^江申躰^江取計候様御用所御聞届之由大目付中^江申聞猶又御用所^江も相伺今晚東馬方迄同心兩人差遣受取牢屋へ遣塩詰牢へ入置候

一 一宮市町^江付例年之通御触書到来則同心共^并牢番三軒屋番迄申渡ス

一 右同断^江付例歲之通惣町触書差出ス

一 当町塩座之義十四年以前子歲福永屋加右衛門林田屋孫七米屋喜助茂渡市右衛門へ願之通被仰付子^江戊迄十ヶ年分為運上銀拾貫目致先納勿歲迄三ヶ年相勤候処卯四月諸座一統被召上候右之内市右衛門儀塩裁許株先年^江所持仕旁何卒此度被仰付被下候様尤願之通御許容被下候ハ、殘三人之者共先納之分ハ市右衛門方^江相渡候様可仕旨願書先達^而大年寄指出御用所へも内々及御沙汰^并大目付中^江勘定奉行中^江も申談段々遂評議候処右塩座之義^者故障之筋も多^く下方難^江洪^江も相成候義故難取上趣^江相決今日右願書差戻候

一 町会所屋椽破損^江付繕之儀先達^而以來申出候^江付小頭^并大年寄致見

分候上積書申付置候処其後書付差出候只今迄右場所修覆入用銀会所工面物^江岸權六取計相渡候由當時右工面物不殘勘定所請込^江相成候義ゆへ勘定奉行中へ遂相談則積り書之通銀札百貳拾壹匁九分此度受取大年寄へ相渡尤大年寄証文^江拙者致與書差出ス

一 河原町八平御救銀札十八匁勘定所^江内借^江而請取置四月分今日大年寄へ相渡已後月々同様取計

四月十日 田原屋六兵衛迄今日^江差候様昨晩佐々木東馬^江申其段大年寄へ申渡御用番大目付中^江以手紙及御届候

一 久世^江夜前^江先触到来之趣^江付委細為聞合町方之者^者久世へ差遣候様大年寄へ申付候当所取計方之儀御用番^并大目付中^江及御沙汰大意相決置

四月十一日

一 久世^江為聞合昨日遣候者今早朝罷帰委細大年寄申出候趣此方昨日之評議とハ少々模様違候^江付大目付中^江遂相談候上御用番へ相窺取計方相決候

一 下紺屋町原田屋利助義久世^江今日罷帰候由大年寄申出候

一 牢舍人療治之義三角良甫及断候^江付今日より小原以籍申付候段大年寄^江申出候

一 今晚久世御代官所^江囚人共三人江戸表へ被指越^江手代式人^并足輕八人差添罷越今七ツ時過當町着則止宿右取計方如左

一 通行之節町々保頭先^江立

一 着已前筋違橋辺迄同心兩人遣置通行之跡^江固罷越

一 手代兩人旅宿 一二丁目 尾高屋宇兵衛

新魚町 一肥後屋次兵衛

一 囚人共三人 旅宿

同

鳥屋与三兵衛

堺町

小鳥屋次郎右衛門

同

大宝屋藤兵衛

右囚人壹人^二不寝番人式人宛内^{壹人式歩中買}

但止宿之間番人へ預候段一札取之候由

一 囚人旅宿之東西^江同心兩人ツ、出張申付大文字付揚挑灯一張

ツ、灯之夜中立宿^二相詰

一 境町三津屋角魚町村元屋角兩所^二町方^ハ立番差出往来人留申

付^并隣町夜廻別^而入念候様申渡

一 大年寄壹人旅宿へ罷越及挨拶候様申付候

一 町奉行所下役石名平太兵衛義旅宿へ罷越手代兩人^江応対及会釈

候尤御貸人中間一人申立召連ル

一 町医本道井上一推針医細良碩在宿申付置候尤囚人之内一人不快

之由^二而葉五ふく一推致調合相用候由

一 出火退場大信寺成道寺^二仕度旨此間御用番へ申達寺社奉行中へ

被仰渡右兩寺へ心得被仰付置候

一 右通行人馬賃錢^并旅宿木錢米代等私相通り候由

一 右囚人入候目籠台引出シ工合損候分式挺有之由繕之義大工へ申付

候処^ケ様之類大工取扱候例も無之何とぞ捻粹屋へ被仰付候様^二と

断申出候由依之夜四時比大年寄伺出候已後之義^者兎も角^茂今般之

義平日とは格段之事急御用差支候^而ハ不相濟何分指懸り候儀^二候

間大工共急^二取繕候様可申付旨大年寄へ申渡

四月十二日^{河原町新太、申者夜前久世手代泊居候宿尾高屋、罷越戸口^ハ高声^而生兵衛へ何角意趣有之様子とや角及挨拶候へ共聞入}

不申^二付其段大年寄へ申出候何分指懸敷理不尽^一新太儀先

一 久世囚人今早朝出立之由大年寄^ハ相届則御用番^并大目付中へ以手

紙御届申達且又右通行賃人馬之外当所^ハ勝間田迄差添遣候人数左

之通

同心組四人但前後式人ツ、為警固遣^ス昼遣^{壹人六拾七錢}ツ、追^而受取相渡

囚人駕籠幸領十三人但町方髮結共

棒突人足六人但前後三人宛固之

手明人足八九人計

一 右囚人途中無別条勝間田駆着之由同心共見届今八時罷帰大目付中

江其段以手紙申達候

四月十三日

一 錢相場壹匁^二六拾五文替立替候由大年寄^ハ申出候

一 福渡町米屋甚右衛門借家^二居申候長兵衛家内四人此度鉄炮町御旗

組上田治兵衛屋鋪^江引越申度依之町内人別離願出承届

一 官脇町柏屋佐吉土佐屋藤右衛門義只今迄他国請酒株借請致商売候

処此度他所酒停止^二付右商売俄^二相止候^而者壳懸等も不相集甚難儀

之旨依之自国請酒之儀願出無拗趣^二付当分地酒商売指免候

一 河原町新太此間組合へ預置候処先夜酒^二給酔久世役人止宿とも不

存尾高屋方へ罷越^与風高声いたし不調法之段誤入候旨歎候由依之

此已後之義急度嗜候様相呵明日組合預指免候様大年寄へ申渡

四月十四日 出仕

一 当冬万人講日取建札之義講元共^ハ伺書指出御用所^并大目付中へ申

達十月十八日^二相極且又木札之義古格之通講元方^二而致用意極印

打ひゝる壳候節相添遣候積此度相改申度旨及御沙汰候処御聞届
相濟則右之趣建札取計候様大年寄_江申渡

但万人講名目之儀相伺御評議も有之候処名目付候_{而者}又差支之

筋も可有之趣_ニ付去暮迄之通先無名目取計候様被仰渡候

一札元茂渡市右衛門立願有之伊勢參宮仕度往来三十日計之願差出承
届尤市右衛門此節御内用も承候者之儀故一通り及御沙汰

一御家中不宜手遊兼_而御停止之處近来不慎之類も有之様粗相聞候由

_ニ而尚又御触有之則同心牢番_三軒屋番へ申渡委細触書扣帳_ニ記置

一当町素麵屋共近年商売少相成及難洪候_ニ付何卒他所素麵入込候義
指留呉候様尤小麦時之相場を以随分下直_ニ致売出_并置素麵等無指

支様仕立可申旨願書差出候_ニ付遂吟味候処故障も無之趣相聞今日
御用所_并大目付中へ申達御聞届相濟則其段申渡

一戸川町作人治助家屋鋪表口式間裏行八間但巻歩六厘役之所代銀札
百匁_ニ相極同町岡屋太七_江壳渡申度旨願出承届同十六日本証文出

ス

一宮川仮橋_ニ先達_而出来候新杵今日水増押流候由橋本町今注進申出
候旨大年寄申出其段大目附中_江以手紙申達候

四月十五日

一修理様明十六日天氣好候得_者四半時院庄へ御遠乗御出京町今通り

町御道筋之由宇津木弥右衛門今申来例之通申付候様大年寄へ申渡

一他国他領今入込候素麵商売停止之旨惣町触書出候

一他所酒停止之旨先日相触候然ル所他国酒とのミ触書相認候付町方
心得違有之趣相聞候_ニ付他領酒_茂同様停止之旨尚又今日相触候

四月十六日

一西今町福場屋利兵衛悻源兵衛義山岡与左衛門今被相雇候付大坂表
へ遣度旨願書差出承届

一一宮市町_ニ付播州方丈万歳十五人連參懸り見七物有之神主今相頼
候付世話仕度旨吹屋町矢野原屋七兵衛断出承届一札申付

一右同断大坂嶋之内大和屋喜八十式人連輕業參懸神主今相頼候間世
話仕度旨船頭町音野屋治助断出承届一札申付

一右同断□□之者十三人連万歳罷越神主今相頼候間世話仕度段安岡
町池住屋太兵衛断出承届一札申付

四月十七日

一牢舍人十次郎病氣段々快_ニ付今日今服薬_一候由塚田新十郎義_者
同篇之旨牢番申出

四月十八日 出仕

一一宮田植祭_ニ付例之通同心兩人指出候処別条無之由

一牢舍人療治罷越候針医三谷瑞針及断候_ニ付後藤奄程申付指遣候旨
大年寄申出候

四月十九日

一今日今一宮見七物相初候由已後日々同心共差出ス

一久世御代官所今飛脚今暮過到来勝南郡王子村理右衛門_江相尋候筋
有之其上御役人へ及対談度義有之_ニ付明後廿一日阿沼唯右衛門義

菊屋清左衛門方迄罷越候間其節役人差出呉候様増田村右衛門阿沼
唯右衛門今申来依之八百藏義在宿候様申渡候処此間近在_江罷越候

旨年寄共申出候段大年寄相届候_ニ付早速人遣シ呼戻置候様申付候

四月廿日

一昨夜久世來書并羽織屋八百藏他行之訳今早朝御用番江及御沙汰大目付中へも申達久世へ之返書相認飛脚宿かしの屋迄遣ス尤明日久世役人江対談之義者石名平太兵衛差出可申旨十太夫殿被仰聞則平太兵衛江申談置候

一羽織屋八百藏今晚迄も不致帰宅并迎之人も不罷帰旨大年寄申出猶又人遣急ニ呼戻候様申付候夫々も今夜中ニも不罷帰候ハ、明朝久世役人中へ以飛「」其段可申遣と存使組一人御申付候様大目付中へ申

四月廿一日

一羽織屋八百藏今未明致帰宅候旨大年寄申出候依之久世江之飛脚者相止候將又今日久世手代着之上案内次第旅宿迄石名平太兵衛為対談差出候ニ付中間老人御貸人御申付候様大目付中へ申遣

一稻荷辺枯木式本今日御作事方々伐取候旨三軒屋番中尾幸助届出承置

一中之町有本立節娘りう方へ去ル西十二月勝南郡下山村武平次と申者相続人ニ引請候処此度離縁仕ニ付町内人別除断書差出承届候

一鍛冶場前土橋崩取候ニ付今日分船渡相始候旨大年寄申出御用番并大目附中江以手紙及御届候

一久世御代官所手代今日宮尾村迄罷越当所江者明日入込候積ニ相成候段菊屋清左衛門方迄申來候旨大年寄申出

四月廿二日

一伊勢屋長右衛門悴文次用事有之大坂会所町松屋甚兵衛方江罷越度

往來三十日計之願承届

一久世御代官所手代阿沼唯右衛門今九時京町菊屋清左衛門方へ着候由御役人中及対談度旨案内有之ニ付石名平太兵衛右旅宿へ罷越候処委細物語彼是内談も有之上羽織屋八百藏事忠四郎へ尋之趣去十月十七日夜大庭郡多田村ニおいて勝南郡王子村理右衛門殺害之義手懸り久世町源藏ト申者吟味候処同所文七ト申「」十二月節分之夜源藏へ咄候者目木村清藏丈太夫或夜「」参先達而多田村ニ而人を殺候者自分共所為ニ候然所御吟味「」右殺候脇指置所無之間預り呉候様強而相頼無是非預り置其後「」当玉津山へ持参候節右脇差を荷ノ内へ入古主之弟致出店老人罷有候所へ参夕方亭主本家へ参候留守之間裏ノ井之脇石を起右脇指隠置罷帰候趣物語候由源藏申出依之文七清藏丈大夫召捕遂吟味候処文七儀其節者取登せ無跡形事申候哉只今一切左様之覚無之由清藏丈大夫義者去十月十七日昼夜共村内ニ罷在候事明白ニ相聞左候得者文七先達而源藏江之申口難取用儀ニ候得共重キ吟味筋ニ付若者別段手懸り之義も可有之哉文七申口ニ似寄候事有之哉何様輕敷ト存候品も有之候ハ、有躰ニ申聞候様ニとの義ニ候忠四郎申候者文七義去八月比罷越夫々当正月迄ハ不参正月十八日罷越候其外近辺へ罷越候様子も不承一向心懸り之筋無之旨申之則其趣口書取之扱右ニ付忠四郎方裏井ノ辺脇差隠候と申場所似寄候所も有之哉否一通り相改させ見申度由ニ付町内年寄組合并向方分参候庄屋二三一人一所立合相改候処脇差隠候様子不相見文七申口ニ似寄候場所無之由是又一札差出唯右衛門受取之直ニ今夕出立罷帰候旨右両通共写取平太兵衛罷帰委細承之

四月廿三日 出仕

一久世御代官手代昨日罷越羽織屋忠四郎江尋候趣并石名平太兵衛心
対之様子等委細御用所并大目付中江申達

一右手代阿沼唯右衛門宮尾村の指越候書状今昼過到来昨日羽織屋忠
四郎呼出尋之節町内役人等半途ニ無案内罷帰候由夫故書付印形等
不相揃依之相殘御用向宮尾村旅宿迄申出候様申付罷立候処夜前右
御用向使を以申越不埒之儀ニ付当人并年寄組合一兩人差添来候様
申遣今朝何茂罷出候今般者先右之通ニ御用向相濟候得共又候重而
立合吟味筋其外旅宿へ呼出吟味等之節右躰我儘有之候而ハ不相濟
事ニ候間此段兼而宜申渡置候様申来相応及即答右之者共致方甚不
埒之儀ニ付其段相呵已後右躰籠略成取計不致候様申渡忠四郎并組
合年寄共禁足申付置候様大年寄へ申渡

一西今町戸田市郎左衛門造酒株ニ候得共不勝手ニ付近年手前ニ而者造
酒不致同町直屋惣十郎間柄故彼方ニ而一所ニ少々造込他所請酒ニ交
只今迄致商売候然ル処今度他所酒停止ニ付已後右造酒のミ売申候
當時手前ニ而造込不申惣十郎方へ相頼一緒ニ少々致造酒候事故此
段断出承届

一船頭町田原屋六兵衛所持自国請酒株当丑歳今卯暮迄三年之間東新
町茶屋五郎兵衛借請致商売度段願出承届

一境町玉置廣四郎所持自国請酒株当丑巳己歳迄五年之間同町金沢
屋庄兵衛借請致商売度旨断出承届

一材木町三家屋幸三郎所持家屋鋪表口五間裏行七間四尺三寸夫の裏
八横四間半裏行九間式尺都合裏行十七間但老軒役之所代銀札老貫

目ニ相極居懸り福中屋太助へ売渡申度旨願出承届同廿九日本証文
出ル

一材木町室屋喜兵衛船頭町田原屋六兵衛金銀出入ニ付先達而大年寄
迄訴状差出追々送吟味候処理非難相分旨先日内意申聞右訴状遂一
覽其已後猶又大年寄へ吟味之次第及指図札明致させ候処互ニ無証
拠之義而已申出候何分金銀出入之義双方無証拠之儀申出候段甚不
届ニ候右ニ付願書取上不申段本日大年寄江申渡

四月廿四日

一三丁目浜野屋善十郎方へ備前和氣郡和氣村秋山久三郎妻たき為見
廻罷越日数廿日計致逗留させ度旨断出承届

四月廿五日

一坪井町羽織屋忠四郎并組合年寄共禁足指免尤忠四郎義遠方他先行
無用之旨大年寄へ申渡

四月廿六日

一京町堺屋善七後家家屋鋪表口三間半裏行御堀切但老軒役之所甥ニ
階町中磯屋新七へ相讓名儀相改度旨願出故障無之趣ニ付承届同廿九
日ニ札差出ス

一安岡町久米屋勘八下人夜前鍛冶町ニ而財布一拾ヒ候由相改見候処
備前銀札四拾老入有之段届出候旨大年寄申出一通り触流致候様
申渡

一從江戸表飛脚到来殿様益御機嫌能去ル十四日未刻過被遊御着府候
段申来依之明廿七日御悅御帳付候間辰中刻今巳中刻迄之内登城候
様御奏者番中へ廻状到来其段大年寄へも為相知候

一 当正月万人講上り札残之内一枚四十四番請取二罷出候由二付今日同心小頭郡代所下代立合合鑑相改無相違二付渡遣又

四月廿七日 出仕

一 御着府御歎御帳付登城

一 伏見町二而味噌屋利左衛門借家二罷有候すまと申女当丑三十三歳罷成廿ヶ年已前二難病取結手足不叶尤母近年致剃髮近辺之憐愍二而漸看病養育罷有候処当二月右母相果其外親類所縁之者も無之當時誠及飢渴候仕合二付家主組合等少々、合力仕漸存命罷有候躰二付御救之義組合二歎書差出遂吟味噌候処弥無相違趣相決候間去ル廿三日御用所へ及御沙汰御聞届被成御救被下置候旨今日被仰渡則申渡尤大目附中江も申達同廿九日御勘定所二内貸金札拾八匁受取置月々相渡又

一 明廿八日御用所御出席無之由大目附中二被申聞

一 東新町紺屋長次郎義去十二月四国廻往来八十日計之願二而罷出候処右日積不罷帰二付去月日延之願申出承届候然ル所今以不罷帰二付又候三十日之日延長次郎母二断書差出承届

一 吹屋町西横丁西側表口三間半裏行四間之家屋敷但半役之所先年木屋伝七名代二而茂渡庄右衛門貫請置候処此度庄右衛門名前二相改度旨願出承届

一 当所魚商売之義十一年已前卯歳迄者他所者直売御停止之処近年直売仕候二付惣魚屋共殊之外及難渋候何卒以前之通他所もの魚直売之義御差留被下候様新魚町惣魚屋共願書此間差出候然共此義者世上差支二も相成事故難承届筋と存今日大目付中へも及相談候処同

様之存寄二相聞候依之右願筋不承届候段大年寄江申渡願書差戻又

一 宮川板橋近辺病人行倒罷有候由二候間□□二番人差出候様可申付旨暮六時大目井上弥三兵衛二申来則大年寄へ申渡且又右二付檢使被差出候間其節町医者罷出候様可申付旨申来是又大年寄へ申渡片岡東馬指出候由其後又々弥三兵衛二手紙来右行倒人河原町屋祿屋平兵衛借家二居申候処相借屋左官善吉二申者先達二而追出候趣相聞候間遂吟味噌候上引取七候様可取計由申来即刻玉置忠兵衛呼寄其段申渡候依之河原町二人遣見せ候処河原町住居之者二而決而無之尤屋祿屋平兵衛借家左官善吉方二先日比罷有候様子者相借家之者見及罷在候然ル処善吉儀此間在方へ罷越不致在宿殊独身者二付いか様之訳二而參居候哉一切様子不相知候右之趣故河原町へ引請候義も甚迷惑之旨申出候然共善吉方二先日比居申候者之事二候得者何分善吉在方二罷帰候内家主引請看病等致遣候様可申付旨尚又大年寄江申渡

四月廿八日

一 河原町屋祿屋平兵衛方へ宮川行倒病人引取致看病候由大年寄二相届則井上弥三兵衛へ申達候

一 塚田新十郎一兩日不相勝方夜前積氣絶差起候趣共大目付中へ及噂候且右二付医師又々引替差遣候様大年寄へ申渡明日二本道賀村又

仙遣候由

一 今年惣町鉄炮御改ニ付鉄炮奉行中へ帳面差出候由此方へも右帳面
一 冊大年寄差出ス但五年目改有之由

四月廿九日

一 塚田新十郎同篇之内今日者別而食事始兼候由牢番申出候

五月 御用番 伊達隼人殿 大目附月番 太田舍人

大年寄月番 斎藤孫右衛門

五月朔日

一 修理様今八時御供揃ニ而川部辺江御遠乗御出尤京橋ハ林田通筋御
通行之由宇津木弥右衛門ハ申来則大年寄江申遣候

一 右ニ付兼田川御渡場高瀬船壹艘御藏元壹人付添相廻候様可申付旨
大目付太田舍人ハ申来尤ケ様之先格も不相見候「」差懸り候儀故

何分御間合候様取計可申段御藏元江申付候様大年寄へ申渡已後承
候へハ御船奉行ハも高瀬舟式艘相廻候様御藏元へ申付有之則藏元
伝藏差添被遣候由

一 塚田新十郎昨晚ハ絶食罷有一牀病牀差重クケ様相「」牢番申出候
ニ付其段御用番并大目付中へ以手紙御届申達置候

一 斎藤孫右衛門方へ縁家播州乃井野屋鉄兵衛と申者罷越候ニ付日数
十日計逗留仕セ度由願書差出承届候同四日罷帰候由

一 近来銅細工致候もの当町江罷越種々細工物を以質屋其外在方之者
杯欺候由風聞有之ニ付内々遂吟味候処久世ハ罷越七郎と申者之由
近頃戸川町塗師喜助方ニ罷有致細工候趣相聞候付早速いつ方へも

指返候様今日廻り之同心共ハ申付候処同町文五と申もの「」相頼
候ニ付差置候由文五へ相尋候得者橋本町後藤屋孫一方ハ右之者罷
越去ル頃ハ日雇ニ仕細工等致させ候由ニ付何分町内ニ差置間敷旨
申付且孫市方他所者無断暫も指置候段不相濟事ニ候早速当所立退
七候様可申付候旨大年寄江申渡

五月二日

一 安岡町久米屋勤八下人去月廿五日夜鍛冶町ニ而拾ヒ候財布之儀備
前赤坂郡土師方村市三郎と申者鍛冶町太助方へ其夕罷越候砌落し
候由則色目等書付指出候処無相違趣ニ付手形取置財布渡遣候様大
年寄へ申渡

一 林田町鍵屋安左衛門倅佐兵衛儀大坂山本三次郎方ニ相勤罷在此度
母病氣為見廻罷越候ニ付来ル十日頃迄逗留仕セ度旨断書差出承届
一 去月廿八日河原町屋祿屋江引請申付置候行倒病人儀左官善吉在方
ハ罷帰候付遂吟味候処去子五月河面村清瀧寺江廿日計細工ニ罷越
候処其節右之者清瀧寺食焚致罷有候其馴染を以当三月善吉方へ罷
越候得共及断宿不仕候処又四月十七日罷越一夜之宿相頼無拠留置
候処翌日雨天ニ而「」同十九日罷帰候其外生国出所等之義不存旨
書付指出候尤右病人市助義未耽々不相勝食事少ツ、始候由申出何
分今両三日も差置致看病遣猶又様子申出候様申渡

一 江戸表ハ飛脚到来去月廿一日御参勤之御礼首尾克被仰上候旨申来
右為御飲明三日御帳付候段御奏者中ハ廻状到来大年寄江も知セ遣
ス

五月三日 出仕

一 御參勤御礼被仰上候御歎帳付登城但御郡代栗原新五兵衛当病御断之義頼来大目付中御使番中へ申達候

一 牢番大谷栄藏居宅屋祓破損難義仕候段申出御作事方見分之上御修覆被仰付度旨大目附中江申達

一 一宮市町明日切引弘ニ付例歳之通町方へ触書差出ス

一 右同断ニ付○非人加廻り可申付段御用所并大目付中へ申達則大年寄へ申付候

五月四日

一 宝曆八寅歳町方江被仰付銀札封印出来候内左之者共去ル亥春御用銀調達致出精候付此者共分開封被仰付候段昨三日御用番被仰渡則大年寄江今日申渡尤委細之訳者札座奉行中申談有之筈也

銀札四貫五拾目 塩屋八郎右衛門

同貳貫五拾目

沢屋孫四郎

同貳貫五拾目 伊丹ヤ七郎兵衛

同貳貫四百八拾目

平野屋助左衛門

同貳貫三百七拾目 山手屋弥右衛門

一 美濃職人町松野屋甚助去ル西六月川向井手筋其助義其節者新屋人町住居之神而小脇指一腰拾七候段其節訴出候由其後右脇指役所へ取上之候然ル処只今ニ至本主不相知義ニ付寂早右甚助へ差遣可然段大目附中へも及相談候

一 美濃職人町藤原屋武八借家江新屋敷金十郎借屋ニ居申養八妻引請上御用所へ及御沙汰御聞届相濟候付則大年寄へ相渡ス

一 美濃職人町藤原屋武八借家江新屋敷金十郎借屋ニ居申養八妻引請差置度段願出郡代中申合承届

一 西新町飯岡屋九八借家ニ居申候市兵衛家内三人林田村上之町幸七借家江引越願郡代中申合承届

一 東新町紺屋長次郎借家ニ居候元助家内六人林田村伊右衛門借家へ

引越度願郡代中申合承届

一 西今町三倉屋善四郎用事ニ付大坂梶木町安倉屋長兵衛方へ罷越度往来逗留共三十日計之願承届

一 一宮市町無滞相濟今日限引弘候由同心共見届罷帰尤いつ方へも不相届先格也

五月五日

一 今度一宮江參候孔雀并手つま修理様御覽被成候間明日御対面所江差出候様二階町鳥屋佐助へ御役人中被申付候付召連罷出候旨大年寄届出候随分不敬無之様取計可申允御覽相濟候ハ、早速指返候様ニと申渡

五月六日

一 孔雀并手つま今日御覽相濟荷物等相仕廻明朝出立仕候旨鳥屋佐助申出候段大年寄相届

五月七日

一 大川節水増鍛冶場船渡相止候段九時前申出則御用番并大目附太田舍人へ以手番及御届

一 錢相場老奴ニ付六拾六文ニ相成候由大年寄相届候

一 河原町善吉江引請申付置候行倒病人市助出所之義兎角不相知然ル処堺町三栗屋借家次助と申者粗様子存罷有候様ニも相聞候付大年寄へ遂吟味候処去ル亥八月頃迄船頭町仁助「」者と市助一所ニ罷

有其砌去次助義も同町住居ニ付日々出合申候其後右仁助市介共京町藤田屋借家江引越其節市助古櫃一古行燈一預置候去十二月末

次介方へ市助罷越宿相頼候得共当時借家住居之躰故得指置不申及

断候故所々承合候様子ニ候得共宿致遣候者無之元來備中者之由十五六里も有之故罷歸候義も甚難儀之旨彼是相歎餘り不便ニ存無擧越年致させ正月十一日暇乞いたし罷出其後者不参右預古櫃杯も取ニ参不申ニ付爾今預罷有候趣書付取大年寄の指出候然ル所右市助義去月廿八日已來善吉方ニ而致世話候得共今以不相勝由依之今日廻り之同心共遣様子見及出所等之儀相尋させ候得共兎角不分明然共全虚病共不相見趣ニ候扱右善吉義誠其日過之者数日在宿致看病候付至而難渋昨今ニ至飯料も無之漸鍋杯代替相凌候躰之由ニ付大目附太田舍人へ及相談候上右古櫃預候程之馴染も有之筋ニ付堺町次助方へ預替申付候間引請到看病可遣旨申付候様大年寄へ申渡

五月八日

一 大川筋水減鍛冶場船渡相始候旨今五時大年寄の申出御用番并大目中江以手帯及御届

一 孔雀并手つま師昨日雨天ニ付逗留今朝不残出立罷歸「」鳥屋佐助申出候由大年寄の相届候

一米相場書差出入御蔵米七拾貳匁町米六拾八匁

五月九日 出仕

一 堺町治助へ引請申付置候市助義病氣養生不相叶今朝相果候旨大年寄申出御用所并大目中江申達同心組指遣見分申付候処病死無相違趣ニ付葬埋之義勝手次第申付候様大年寄へ申渡尤市助の預置候古櫃其外少々所持之品共為取置料次助江遣候様申渡
一 戸川町塗師屋喜助橋本町後藤屋孫一義他所細工人七郎卜申者先達而以来無断指置候段不届之趣并七郎義いつ方へも指返候様此間申

付候訳共委細今日御用所大目付中へも及御沙汰喜介孫一追込申付候尤申渡相濟隼人殿太田舍人江以手紙相届候

一 久米北条郡宮尾村次兵衛悻佐七卜申者家内三人此度茅町吹屋新右御門引請相応之渡世仕せ度旨願出御用所及御沙汰承届候段申渡尤大目付所江も申達

一 伏見町正木屋佐助方へ英田郡土居村多右衛門悻三次郎と申者養子ニ致度旨願出承届六月三日引請一札差出ス

一 当町檢物屋細工之義先年他所細工入込御停止之処去ル卯歳入込ニ相成当時商売少及難渋候依之他所細工入込之義前々之通御差留被下候様檢物屋共願書差出故障も無之趣ニ付今日大目付中へも遂相談御用所へ及御沙汰候御聞届相濟則其段大年寄へ申渡同
十一日惣町へ触書出ス

一 於江戸表去ル朔日御老中御連名以御奉書浅草御蔵火之御番南部大膳大夫殿御代り被為蒙仰候由來ル十五日右御欲御帳付候間登城候様御奏者中廻状到來組之者并大年寄へも為相知候

一來ル十四日御用所御出席無之由大目付中被申聞
一同心組藤森喜代次義近來疾瘡ニ而致難儀候ニ付湯郷温泉江一廻り入

湯仕度旨小頭を以相願則承届候

一 栗原新五兵衛義不快無出勤大目付所へ御断申達并成安村門右衛門出火吟味書御用所へ差出且門右衛門寺入差免候頼頼來御用所大目付中へも申達候

五月十日

五月十一日

一針医後藤菴程先達而ハ塚田新十郎療治致候処及断候ニ付今日ハ吉岡弁樹申付遣候由大年寄申出候尤新十郎儀此間者少々ツ、食も始候旨昨晚牢番申出候

一久世御代官鈴木小右衛門殿病氣ニ付御医師丸尾道勇村山春庵兩人之内老人罷越被具候様致度旨手代増田村右衛門ハ頼之書状今昼時ニ到来即刻御用番へ申達候処春庵義江戸留守道勇義者久之病氣引籠罷有候ニ付野間宗庵へ被仰付候処是又此間不快押而罷越候義も不相成躰之由依之町医之内老人申付可遣旨晚方被仰渡付渡部甫庵義早々致支度罷越候様可申渡旨大年寄へ申付候尤村右衛門返書相認右飛脚宿菊屋清左衛門方へ為持遣ス

五月十二日 出仕

一大概若御執行ニ付六時過登城宇治橋間相詰無滞相濟御用所御方已下順々拜礼畢而御奏者大目付中御用席へ被罷出已後拙者義罷出無滞相濟恐悦之段申述ル

但御奏者大目付町奉行一所ニ御用席へ罷出候古格ニ付当正月其通罷出候御用所御不審有之ニ付其砌先役鈴木善右衛門日記大目付中へ入一覽置候処其後御沙汰無之ニ付此度相伺候処役筋旧記ニ有之儀候得者古格左様と相見候然其近来其格相止候と相見御奏者大目付町奉行一所に罷出候義御覺無之候已後者やはり別段罷出候様ニと思召候旨去ル九日太田舍人ハ被申聞候ニ付此度右之通罷出候事

一昨夜渡部甫庵申付久世差遣候旨及御沙汰候右小右衛門殿病氣ニ付為御見廻今日御使者川口小弥太被仰付被指遣尤御音物有之由

一当年一宮市町中罷出候同心共并当代合拾九匁式分今日小頭へ相渡一先日於宮川行倒候市助義河原町善吉堺町治助方ニ先達而暫ツ、差置候由出所不慥者之処無断指置候段不届ニ付答可申付者共ニ候得共右之訳を以先日以來善吉方へ引請看病致させ其後次助方へ引取致世話させ死後取置之義等申付候儀ニ付此度者以憐愍其假差免候已後ケ様之義於有之者急度可申付段兩人へ申渡候様大年寄へ申付候

五月十三日

一材木町作人武兵衛悻弥吉儀江戸五郎兵衛町大工泉屋作兵衛方へ三年限遣置申度旨願出承届

一伏見町備中屋甚七願候者備前上道郡宿村次郎右衛門悻庄助と申者此度引請渡世仕せ度旨申出承届

一式町目幾屋与三兵衛孫ちか家屋鋪表口三間式分五厘裏行拾七間但五歩半役之所代銀札八百五拾目ニ相極西今町作人和太郎江壳渡申度旨願出承届同廿五日本証文出ル

一町医加村玄仙先日ハ揚り屋塚田新十郎病氣致療治候処及断候ニ付明日ハ渡部休庵申付遣候旨大年寄申出候

一渡部甫庵今暮過久世ハ帰着小右衛門殿様躰同篇尤昨今甫庵薬相用候処少々快方之趣手代増田村右衛門ハ再答ニ申来其段隼人殿江以手紙申達候

五月十四日

五月十五日

一浅草御藏火之御番被蒙仰候為御悦御帳付諸士登城

一御郡代栗原新五兵衛不快無出勤大目付中御使番中へ当病御断申達候

一元魚町豆腐屋源右衛門借家作人喜八山北村善左衛門引請ニ而小家住家内式人引越申度願出郡代所申合承届

一戸川町灰屋伊兵衛家屋鋪表口式間裏行八間式尺但半役之所代銀札百匁相極同町打穴屋長七江壳渡申度旨願出承届同十七日本証文出ル

一去暮以来町方夜廻り申付置候処此節静謐ニ相聞候間指免可申旨御用所并大目附所へ及御沙汰則申渡一

一坪井町羽織屋忠四郎義先日以来遠方他行指留置候処久世吟味筋之義も大かた形付入牢人茂所預ニ相成徘徊勝手次第之由此間承及久世庄屋大「一」方へ内々文通之趣も承候ニ付忠四郎遠方他行勝手次第之旨今日申渡尤御用所へも一通り及御噂置候

一戸川町塗師屋喜助橋本町後藤屋孫一去ル九日追込申付置候取早差免可申旨及御沙汰則大年寄へ申渡尤取計相濟候段隼人殿太田舍人へ以手紙及御届候

一三丁目浜野屋善十郎方へ備前和氣郡和氣村秋山久三郎妻先達而罷越廿日計之逗留願承置候処今廿日計日延之断書今日差出承届候

五月十六日

五月十七日

五月十八日 出仕

一勝間田町英田屋吉兵衛倅岩次郎義此度本多嘉内方へ奉公罷出候付人別離願出承届

一茂渡市右衛門先達而相願伊勢致參宮候処大坂表用向出来今十五日日延断書同庄右衛門ハ指出承届

一他所酒商壳停止申付候ニ付右株所持之者共之内先達而外江貸置候分此度取戻候段左之者共ハ断書差出承置 玉置広四郎

三津ヤ平右衛門 三室ヤ宇左衛門 いっ、ヤ加吉

一他所ハ入込候檢物細工商壳停止申付候処町方問屋小間物ヤ等へ是迄取寄候分壳残有之難儀之趣相聞一「一」付此分者檢物屋共印形加壳

七候様可仕旨申出候由大年寄ハ承之其通いたし候様申付候

一大熊勘解由殿今昼過江戸ハ御帰着

一堺町西川屋重三郎方客荷物去冬致船積候積ニ而船頭町舟本ヤ佐助

へ相渡候処間違之筋有之ニ付先達而大年寄迄願書差出筋立候様申付置候由此度内濟取計致落着重三郎ハ濟口一札差出候旨大年寄ハ申聞右願書見七候間一通り披見之上差返ス

五月十九日

一塚田新十郎久之病氣其上段々向暑難儀之趣ニ付揚り屋之内追込ノ方へ今日入替申付尤廻り同心共指道

一町中宗門改帳并添証文共案紙切支丹奉行中ハ被差越則大年寄へ相

渡

一勝間田町古手屋孫一後家方へ去十二月英田郡福本村清兵衛倅清五郎ト申者養子ニ致置候処家風ニ不相叶此度差戻申度旨願出承届

一堺町三津屋角辻番所ノ莖并敷板少々今昼ふすはり候処早速近辺之者打消候由大年寄ハ遂吟味候処夜前番人京町塗師兵吉借家三助ト申者火入にすくも入置今朝取帰可申処先念其儘差置夫ハ莖ニ火移

り候趣之由申出且廻り之同心共も見及帰候何分三助無念之義急度相呵^并年寄共已後随分氣ヲ付候様可申付旨大年寄へ申渡

一久世御代官鈴木小右衛門殿病氣ニ付先日町医渡部甫庵差遣其節様子承候已後安否不相聞候間為見廻飛脚を以書状遣可申哉之旨御用番へ相伺候処其通可然旨被仰聞則明朝立ニ書状遣候尤右ニ付使組一人御申「」被下候様大目付中へ申達今晚奥山平内拙宅へ罷越
○状箱相渡

一藤森喜代次入湯追願小頭を以申出承届

五月廿日

五月廿一日

一久世^江遣候飛脚罷帰増田村右衛門返書到来小右衛門殿追^而快方之旨且先日医師指遣候挨拶等申来

五月廿二日

一坪井町辰屋辰之介下人金五当三月六日夜取逃致欠落尤辰屋方之物計^ニも無之同町浜野屋川原屋両家^{ニ而茂}古手かたり取候^ニ付早速所々相尋候得共行方不相知然所美濃職人町吉田屋平吉方^ニ古右手之内質物^ニ取置候様相聞段々承合候処元魚町喜八美濃職人町文助後家取次之由夜着一ふとん一振袖ふくたい式つメ四品有之其餘相知不申^ニ付吟味之義先達^而願出依之惣町質屋共へ相触候処右色目品々無之由右喜八文助後家遂吟味候処当春迄金五義鍛冶町山形屋^ニ相勤罷有其馴染を以質物置候様相頼候付^与風取次吉田屋へ持参候趣其余之義一切不存旨書付差出且又吉田ヤ平吉^并金五請人戸川町八兵衛をも遂吟味書附取之大年寄差出候何分金五捕へ不申

而ハ不分明之儀ニ付今日左之通申付候

一辰屋下人金五致取逃候由色目書付差出候付質屋共へ相触候得共吉田屋^ニ有之四品之外^者当町^ニ無之由何分金五行方不相知候得ハ其訳不分明之儀^ニ候依之吉田屋有之質物元銀を以請返可申候尤此上随分金五尋出可申出候吟味之上裁許申付可遣候

一吉田屋義先達^而喜八文介後家持参取置候質物^者辰屋下人金五盜物之由^ニ候得共金五行方不相知^ニ付不分明之義^ニ候依之右質物元銀^{ニ而}請返候様辰屋へ申付候間差戻可申候此後金五尋出シ来候ハ、其節吟味之上猶又裁許可申付候

一喜八文介後家義金五^ニ被頼質物置候由右之品ハ金五盜物之由然共金五行方不相知^ニ付不分明之義^ニ候其方共随分金五尋出し可申出候

一八兵衛義請人之事^ニ候間此上随分金五尋出可申事

一東新町大嶋屋平右衛門出店造酒之義不手廻^ニ付今年より相止候旨断書差出承届

一三町目真砂屋平六弟渡辺順庵ト申者播州佐用郡西本郷村山本意伯方へ養子^ニ遣度人別離願出承届

五月廿三日 出仕

一塚田新十郎近来病氣不相勝趣^ニ付様鉢書渡部休庵相認差^大出寄^半指^大出今日御用所へ及御沙汰大目付中へも申達

一町方左之者共此度御用達被仰付尤門松被差免候此段可申渡旨於對談間大目付立合御用番隼人殿被仰渡則退出後大年寄召連且町内年寄共指添罷出候様申遣七ツ時過何^茂罷出石名平太兵衛^并小頭立合

二而申渡

中之町三室ヤ 宇左衛門

西新町高松ヤ 平兵衛

三丁目浜野屋 善十郎

坪井町増屋

八郎右衛門

式丁目福永屋

藤左衛門

三丁目佐和屋

孫四郎

右申渡相濟隼人殿へ以手紙及御届大目付中へ者 今日立合之事故相届不申候

一御儉約ニ付御家老御年寄初供人被減右ニ準シ御奏者大目付中迄平日者無僕且御貸人等出不申旨当二月御触有之候処右之通一而ハ差支之儀共有之由ニ付以前之通相応供人可召連并御貸人之義も已前之通被仰付候旨大目付中へ廻状到来右ニ付高挑灯為持候節之儀も同廿八日大目付中へ承合候処是又以前之通ニ相成候旨太田舎人被申聞

五月廿四日

五月廿五日

一大川筋水増鍛冶場舟渡指止候旨五時過大年寄へ相届則隼人殿并太田舎人江以手紙及御届候

一塚田新十郎病氣致療治候針医吉岡弁寿及断候ニ付今日へ武村元粹申付遣候由大年寄申出候

五月廿六日

一大川筋水減鍛冶場舟渡相始候旨五時大年寄より相届則御用番并大目附中江以手紙御届申達候

一稻荷上通り石垣当正月崩落候場所此度御修覆被仰付今日へ石切共罷越小屋懸等致候趣三軒屋番人中尾幸助届出承置

一同心藤森喜代次今日湯郷へ罷帰候旨届出候

一小林市左衛門長屋ニ罷在候長三郎ト申者昨夜於宮川溺死之由檢使も相濟候旨ニ付右長三郎弟桶屋町佐助ト申者引請葬仕度段願出候間大目付中江様子承合候処檢使等何之無滞相濟候趣故勝手次第致候様申渡候

五月廿七日

一銀札場へ錢八拾五箇岡山江積下候由川筋通手形式枚裡判之義札座奉行中へ申来例之通裏書印形加遣ス
一修理様明廿八日五半時二宮へ御遠乗京町へ本丁通御通行御帰者今町へ竹馬場通御道筋之由宇津木弥右衛門へ申来大年寄へ例之通申渡

一吹屋町北側ニ吹屋六右衛門家屋鋪表口三間裏行拾貳間但本役之所代銀札七百目ニ相極町内釜屋市郎右衛門へ売渡申度旨願出承届同晦日本証文出ル

一坪井町年寄浜屋佐右衛門病身ニ相成候ニ付役免之願書差出無抛趣ニ付願之通指免跡役小倉屋喜助へ申付候段大年寄へ申渡

一勝間田町吉田屋与三兵衛方へ中之町正木屋伊右衛門所持之宿屋株去ル亥歳へ借請居候処年限相濟此度指戻候段断出ル

五月廿八日 出仕

一夏中町方之者涼之義ニ付例年之通触書指出ス
一紅製方元魚町八百屋与茂次郎伝授罷有候間致手製商売仕度依之他所紅入込候義差留具候様願書差出段々遂吟味候処弥無相違致手製

候趣相聞且故障之筋も無之ニ付去ル廿三日大目付中へも申談候上御用所へ相伺候処御聞届相濟則与茂次郎願之通申付候間手製いた

し候様可申渡旨大年寄江今日申渡尤座下申二而者無之候間此段心得違不申様念入申渡

一美濃職人町豆腐屋善兵衛義安岡町鳥取屋清助へ去子六月銀札貳百匁致口入極月切之処段々及断候ニ付当四月迄相延遣候然ル処四月中不致返済ニ付度々及催促候得共相済し不申理不尽打捨置候由右之外当月切銀札貳百匁口入有之還以右之様子ニ而者無覚束候間限月ニ至無相違返済候様申付呉候様訴状差出依之大年寄今遂吟味清助返答書取之一所ニ差出候何分清介借請候段無相違候義ニ候得者限月及遲滞打捨置候段不埒之義ニ候急度返済方筋立候様可申付旨大年寄へ申渡

五月廿九日

一渡辺惣右衛門殿大坂表今昨夜御帰着之由

五月晦日

一青山下野守殿御家中大塩伴右衛門と申者夜前当所へ罷越四五日計逗留之由堺町小鳥屋次郎右衛門宿仕候段断出御用番并大目付中へ以手帟及御届

一京町菊屋清左衛門方へ越中富山板屋理兵衛役介宇兵衛嘉兵衛と申兩人昨日罷越例年之通当十月迄差置壳棄仕せ度旨断出承届
一林田町神田屋伝吉儀去ル亥七月大坂蘇枋町升屋惣兵衛方へ十年切奉公罷越候処病身ニ罷成候ニ付此度罷帰候旨断出承届

六月 御用番 下村友右衛門殿 大目付月番 井上弥三兵衛 大年寄月番 藏合孫左衛門

六月朔日

同 二日

同 三日 出仕

一元魚町角古橋破損之趣大年寄申出今日大目附中へ申達候
一上紺屋町灰屋与左衛門借家ニ罷有候尼妙林同妙元と申兩人極老其上近来行歩不相叶眼力落たくはつ相廻り候事も難一及飢渴候躰尤親類縁家之者無之家主組合等心付ニ而漸当日を送罷有候貧町之儀永々之世話も難仕此度歎書指出今日御用所へ及御沙汰候処並之通御救被下候旨被仰渡則其段大年寄へ申渡勿論大目付中へも申達候

一中之町小山屋与三右衛門方へ播州多可郡喜多村指物屋十大夫俸安次郎と申者養子ニ仕度旨願出承届

一倉鋪大和屋猶右衛門八出村徳兵衛懸り合之義ニ付中之町大塚屋重次郎今先達而訴状差出当三月郡代所へ相廻筋立候様ニ申付候由然ル処今以不相済ニ付此度再訴状指出今日大目付中へも遂相談候上又々右訴状御郡代所へ相渡何分早速訳立候様被申渡度存候旨栗原新五兵衛へ委申達

一町方御用達先日被仰付候内福永屋藤左衛門義数年病氣罷有逆も可致全快病症ニも無之ニ付御用向難相勤趣相聞候付俸藤助へ御用達之儀可申付哉之旨今日御用所へ相伺候処其通申渡候様被仰渡則大年寄一町内年寄召連罷出候様申付石名平太兵衛并小頭立合藤助へ右之趣申渡

一札元五人并三倉屋善四郎当春以来御勝手方御用向出精相勤候ニ付左之通被仰付候間可申渡旨於対談間大目付立合御用番友右衛門殿并被仰渡退出後奉書を以呼出石名平太兵衛大年寄立合以書付申

渡尤何^茂麻上下着用罷出ル委細申渡帳^二記置

五人ふち相増都合拾人ふち被下惣町人筆頭

茂渡市右衛門

山本三右衛門

大年寄並六人ふち被下之已後

川口藤十郎

御目見独礼被仰付

茂渡藤右衛門

但藤十郎今日当病^二付同役^二申通候様申渡

武田七郎兵衛

式人ふち加扶持被下之

三倉屋善四郎

右申渡相濟御用番へ以手紙御届申達候^{得書届候ハ全寄リ申出ス}

一下紺屋町祇園来ル七日^ハ十四日迄例年之通御戸開申度旨寺社奉行

所へ断相濟候由^{不働候}断書差出承置

一堺町小鳥屋次郎右衛門方^ニ此間逗留候大塩伴右衛門今朝出立罷帰候旨届出承置

六月四日

同 五日

一二階町石松院方疱瘡守護神来ル七日^ハ十四日迄施主有之灯明とも

し候段寺社奉行所^江相断候之旨断書差出承置

六月六日

同 七日

一田邑見内村百姓伝四郎と申者不届之筋有之^二付入牢^一仰付候間

今晚方郡代申合可取計旨友右衛門殿^ハ八半時御手紙^ニ而被仰越郡

代中^ハも通用有之牢手形被相廻則今夜五半時入牢取計同心組中山

市左衛門指^一無滯友右衛門殿^并井上弥三兵衛へ以手紙御届申

「^一但入牢者之義夜分者^先つ取計不申事^ニ候得共指懸り候義故右

之通取計之尤右伝四郎事宿賄也

六月八日

一町方溝為見分同心小頭部屋目附^并昨今指出^并大年寄も罷出無別条段

届出候

一大川筋水増鍛冶場前渡舟往来相止候段夜五ツ時大年寄^ハ申出御用

番^并大目付中へ以手紙及御届候

六月九日 出仕^一山岡与左衛門今日大坂^ハ帰省

一大川筋水減鍛冶場前船渡相始候段五時過大年寄^ハ申出御用所^并大

目附所へ御届申達候

一勝部村蓮池蓮葉御弘相成候間望之者有之候ハ、来ル廿日迄御代官

所へ入札指出候様町方^江触書指出ス

一塚田新十郎療治^ニ罷越候針医武村元粹及断候^ニ「^一明日^ハ小池樹の

申付遣候旨大年寄申出^并容鉢書元粹差出

一大塚屋十次訴状之義^ニ付八出村徳兵衛益前後迄^ニ急度筋立候様郡

代所^ハ被申付候由栗原氏今日被申聞

六月十日

同 十一日

一此間入牢被仰付候田邑見内村百姓伝四郎^江御代官所^ハ相尋候義有

之牢屋^江下代被指越牢越^ニ尋有之依之同心藤森権六差出ス

「^一町和氣屋左助借家^ニ罷在候仁助義此度太田官平長^一」^江引越

申度^ニ付町内人別離願出承届

一伏見町筑後屋義八妻不縁^ニ付勝北郡植月中村^ニ罷有候兄和助方へ

此度差返候付人別除願出承届

一 当所の船積いたし候鉄改株新魚町魚屋久四郎所持^二而先年^一の取計候処去ル卯歳諸座一統御取上^二相成候然ル所久四郎父子共追々相果当時孫伊之平段々及^一」候間何とそ鉄改前々之通被仰付被下候様此度歎書差出候^二付一昨九日大目付中^江も遂内談候処拙者同様存寄相聞則御用所へも及御沙汰候惣町故障有之筋不相見候へ共^一」鉄座問屋と申^二類し候儀故先御聞届難被成旨^二付其段大年寄へ申渡願書指戻ス

一 醬油之義已後他所^一入込不申様相成候ハ、当所^二而過分^二仕込致商売度旨町方十四人^一願書差出一昨九日大目付中^江」及相談候上御用所へ相伺候御聞届相濟依之已後随分念入仕込正路可致商売尤十四人^二限り候儀^二ハ無之候間決^而座と相心得不申様可申渡旨大年寄へ申渡右^二付他所醬油商売停止但是迄取寄候分売残可有之^二付当八月晦日迄^一ハ乞用捨候段惣町触書差出ス^{右^二付他所醬油川筋積登候共差御儀様小筋^一}

六月十二日

一 西今町坪屋勤助義湯郷^江二廻り入湯仕度旨願出承届

一 於小性町今晚百万遍執行候旨大年寄^一届出承置

一 坪井町羽織屋喜五郎方へ音羽屋和介弟忠四郎養子^二致置候処家風

二 不相叶此度致離縁候由尤双方当町之者儀^者届^二不及候得共此者義^者先達^而於役所も承候筋故一通り申出承届

六月十三日

一元魚町八百屋与茂次郎妻ふみ義去ル八日夕不計罷出帰不申^二付所々相尋候得共今以居所不相知旨断書指出尚又相尋候様申付候

一元魚町檜物屋清八悴平吉義当丑^二廿一歳罷成去ル三日夕^与風罷出候付所々相尋候得共今以行方相知不申旨断出猶又相尋候様^二と申付候

六月十四日 出仕

一 今般被仰付候御用達町人順席之儀相考候処諸吟味役之上^江付候筋と被存然共戸田市郎左衛門当時^者諸吟味役相勤候へ共先年^一今年久敷御用達之事故今般之六人之次へ付候様^二も難申付依之今日大目付中へも及相談御用所へ相伺候上^一」市郎左衛門其次へ今般之御用達六人其次諸吟味役伊勢屋長右衛門其次御蔵元兩人^一相定大年寄へ申渡置候

一 札元共今般大年寄並^一被仰付候付已後願書等差出候節^一」大年寄月番致加判奉行所直宛^二致候様今日大年寄へ申聞置

一 来ル十八日暑氣御機嫌伺御帳付候間已刻登城候様御奏者番中^一廻状到来

一 徳守宮地内今夕^一涼有之同心兩人ツ、差出ス但十九日迄^二而^一」

六月十五日

一 於江戸表久松様御儀去ル朔日御袖被為留主税様^一御改号被成候間右御名^二指合候名可相改旨被仰出候由大目付中^一廻状致来同心一番三軒屋番へ申渡惣町^江触書指出ス

六月十六日

一 当四月入牢被仰付置候国分寺村孫左衛門義今朝御領分追払被仰付候段一昨十四日御用番^一被仰渡則郡代中申合置今朝同心藤森喜代次差出出牢申付候郡代所^一下代足輕等牢屋迄被差出追払取計有之

尤例之通出牢手形被相廻牢番へ者此方之差紙遣但右出牢取計候段御用番并大目付中へ以手紙御届申「」候

一他所へ入込候小間物おろし売商人近來不ノリ諸色小売等致当初惣小間物屋共甚難義之旨歎書差出候ニ付遂吟味候「」相触候趣當時猥ニ相成候様相聞候間猶又此度他所商人之宿屋共へ触書差出ス委細扣帳有之

一塚田新十郎為療治黒田良朴今日之罷出候由牢番届出候

「」他所醬油入込停止ニ付川筋差留候様小桁御番所へ被申達候様去十四日郡代中へ申談候処右停止之触以前申遣候分取早積登可申段大年寄迄左之者共届出候由然ル所今朝大戸辺迄式艘者登り込候由歎「」承届先其分程者無滞積登有之様小桁へ被致通用候様今日郡代中へ申遣候 高松屋利助舟 新屋藤助船 高瀬屋勘

左衛門舟「」

六月十七日

同 十八日 出仕

一暑氣為御機嫌伺於桜之間御使番以上御帳付登城

一安岡町作人勘七甥文吉義西々条郡土居村弥右衛門方江養子ニ差遣

度旨願書指出郡代中申合承届

一東新町紺屋長次郎去子十二月四国廻り罷出候処日積之通不罷帰ニ付当春日延之義而度願出承届候然ル所今以罷帰不申由尤帰次第早速注進可申出段断書長次郎母之差出承置

六月十九日

一京町味噌屋清八方へ備前金岡木地屋平十郎ト申者用事有之罷越日

数廿日計逗留仕せ度旨願出承届

一米相場書差出ス御藏米七拾目五分町米六拾六匁五分

六月廿日

一田邑見内村伝四郎義又々牢越吟味筋有之御代官下代被差越候由夜前福田加兵衛被申聞同心中山伝内今朝牢屋へ差出ス

一坪井町福得屋文七先頃大戸村船頭藤助ト申者江醬油「」遣候処去十七日百三十挺計小桁迄積登候得共此度他所醬「」入込候義停止ニ付於御番所差留候由右之趣文七之先達而可届出か又者飛脚ニ而も遣差留可申答之処其段心付不申及延引只今ニ至甚難儀之旨段々歎出候ニ付承届之右之分程者積登候儀差免小桁御番所相通候様郡代中へ被致通達候様栗原氏江申遣候

六月廿一日

六月廿二日

一山下三右衛門娘いち義備前奥郡香々戸村伏見屋代助妻ニ差遣申度ニ付人別除願出承届

一雲州大原郡木次村備前屋善右衛門ト申者熊膽おろし売仕慥成者ニ付已後御当地出入仕せ度堺町小鳥屋次郎右衛門宿致度段願出新株ニ候得共故障之儀も無之趣ニ付承届

一米相場書差出ス御藏米六拾八匁町米六拾四匁

一橋本町作人藤藏義勝南郡飯岡村ニ罷有候甥後藤多門ト申者江戸表へ召連罷越度往來九十日計之願承届

一塚田新十郎病氣致療治候医師黒田良朴故障有之今日之有元宗益差遣候旨大年寄申出牢番之届出候

六月廿三日 出仕

一 惣馬持共^二人^一付大豆式俵宛拜借仕度尤八月十一月迄月々御ふち大豆を以返納可仕段例歳之通願出勤定奉行遂内談候上御用所へ相伺御聞届相濟其段申渡

一 式丁目幾屋与三兵衛義段々不勝手^二罷成当春可尼平左衛門長屋へ引越且式丁目家屋敷去今年^二不残売払当时至^一而難^二洪^一付先年被仰付候封銀札四百五拾目何とぞ開封被仰付被下候様孫ちか^二歎書差出候^一付組合之者共吟味申付候処極難無相違趣書付差出候依之勤定奉行遂内談御用所^并大目付中^江「^一達候処願之通御聞届相濟則其段大年寄へ申渡

一 米相場書差出ス御蔵米六拾六匁五分町米六拾式匁五分
一 万寿姫君様御紐解御祝儀主税様御袖留御祝儀且又御改号御祝儀頂戴仕度来ル廿五日他国他領座頭共罷出候段配當場申出候由今日御用所^并大目付中^江申達候処成ほと主税様御袖留御祝儀^者可被下置候御改号ハ畢竟御袖留^二付候^一而之義格段^二御改号御祝儀と申義無之候間被下間敷候万寿姫君様御紐解之義いつ頃之事^二候哉近來江戸表^二御通用無之候間此義^者追^一而相知次第御祝儀可被下置段被仰渡此段配當場兩人へ可申渡旨大年寄へ申渡候

六月廿四日

一 御堀掃除料之内銀札百目此間大年寄^二差出今日御作事方へ差遣ス
一 小須賀一学殿去ル十日江戸御出立之由今日御着
一 牢屋^江今日^二針医河本栄昌罷出候由牢番届出候
一 紺屋町灰屋善右衛門借家^二先達^一而罷有候甚兵衛ト申者病「^一藪之

外石垣抛之上^二病氣之躰^一而行倒居申由^二候間吟味之上善右衛門方へ引取致世話候様可申付旨大目付井上弥三兵衛^二申来早速遂吟味候処善右衛門借家^者先達^一而差出其節請人伏見町忠三郎^{田原}美濃職人町天目屋庄兵衛^江引渡候由^二付右兩人之者引請致世話遣候様可申付旨大年寄へ申渡

六月廿五日

一 昨日行倒候甚兵衛儀伏見町忠三郎美濃職人町庄兵衛引請候様申付候処存寄願出候逆手間取今朝迄も引取不申趣相聞不埒之儀何分早々兩人方へ引取候様申付今日廻り之同心共遣見届さ七候

一 右引請兩人願候^者上高倉村六助上河原村文助妻ハ甚兵衛甥姪^二候間何とぞ彼等方へ引取候様申付呉候様申出候左「^一身近キ親類^二候得^一者引取可致世話筋^二付大目附へも其段申達郡代所^二右兩人へ被申渡候様栗原新五兵衛へ申「^一」
一 今日七ツ時^二二宮^江修理様御遠乗御出田町通西今町安岡町御道筋之由鈴木此右衛門^二申来大年寄へ申渡

一 備前岡山郡奉行内田太郎右衛門^二書状到来金岡湊問屋木地屋平十郎^二当所船頭町片田屋市右衛門銀子指引残有之為請引京町味噌屋清八方へ罷越候品^二寄御役所^江も訴訟申度段願出候間承届遣呉候様^二と申来右懸り合之義先内々取扱^一而事濟候様何分取計見申様大年寄へ申聞候

六月廿六日

一 万寿姫君様御紐解御祝儀於江戸表三月廿九日座頭共頂戴仕候由岡山^二も当月十四日御祝儀被下候間於御当地も是非此度頂戴仕度

旨惣座頭相願候由昨日以來申出此間申渡候通江戸表未申來ニ付
難被下訳再応申聞候得共兎角不致承引趣ニ付猶又友右衛門殿御宅
へ罷越相伺候処固々被遂御評議候上被下置候筋ニ「併江戸
未御通用無之儀ニ候間万一相違候ハ、重而被下物引落候段可申聞
置旨被仰渡則其段申渡候様大年寄へ申渡尤右御祝義於岡山頂戴仕
候義無相違段組頭共一札取置之且又主税様御改号御祝義不被下置
段者座頭共納得いたし相濟

一万寿姫君様御紐解主税様御袖留右為御祝「他国他領御領分座頭
警女江被下置今日於配當場割渡例之通同心小頭部屋目附為見届差
出入

銀高壹貫五百三拾三匁

惣人数貳百十人

一東新町肥後屋清右衛門醬油造込致商売度旨断出承届之

一伏見町忠三郎美濃職人町庄兵衛へ引請申付置候行倒甚兵衛儀親類
上高倉村六助上河原村文助引請致世話候様郡代所被申付候由右
兩人請取ニ罷越請人兩人引渡候旨今晚大年寄申届出其段井上弥
三兵衛へ以手紙申達候

六月廿七日

一先日入牢被仰付候田邑見内村伝四郎儀今日吟味筋ニ付郡代所江呼
出申度旨ニ而昨夜栗原新五兵衛出牢手形被相廻候ニ付今五半時
同心藤森権六差遣伝四郎出牢郡代所へ相渡又晚則受取入牢取計罷
帰

一元魚町八百屋与茂次郎妻去ル八日夕与風罷出行方不相知旨先日届
出候処与茂次郎方着類小道具銀札并外分預り置候品々抔持出候哉

紛失之由然ル所其砌細工町長兵衛方ニ右妻罷有候様子承出候付人
遣相尋候得者三丁目若本屋茂次郎頼ニ而一夜之宿致候由依之茂次
郎へ差詰り候得者其後之行衛ハ不存旨申之由右ニ付与茂次郎分訴
状指出依之大年寄分茂次郎方遂吟味候処去ル八日夕松岡屋佐助同
道罷出候処於途中元魚町檜物屋平吉ニ出会候処去方馴染之娘連出
候間宿「り呉候様相頼候故細工町長兵衛方頼申候然所翌日風聞
承候得者平吉儀八百屋与茂次郎妻ヲ連出候由甚不相濟義と存早速
平吉セリ込候得ハ懷劔を抜既ニ相果候躰ニ相見候付兎ヤ角申「夫
小林田辺へ罷越国分寺辺迄も付添参道々異見ヲ加候得共聞入不申
ニ付無是非茂次郎其外同道之者共罷帰其後之義者存不申旨口上書
指出「双方書付去ル廿四日大年寄分差出候右ニ付懸り合之者
「灰屋伊右衛門熊屋新七五嶋屋孫一細工町長兵衛義今日大年
寄宅へ呼出小頭左五兵衛立合吟味申付銘々口書取差出候

六月廿八日 出仕

一昨廿六日座頭共へ被下候銀高人数等之儀御用所并大目付所へ申
達候

一中之町浜吉屋茂八夫婦先達而西国順礼罷出取早可帰日積之処道中
ニ而足痛五十日計も日数相延候由勢州分申越候ニ付茂八母分日延
断書差出承届

一京町類族無別条段年寄共分断書差出承置

六月廿九日

一伏見町戸田屋忠三郎美濃職人町天目屋庄兵衛義去ル廿四日行倒病
人甚兵衛引取候様申付候処願筋も有之迎及猶予翌日迄延引候段申

渡ヲ輕ジ候致方不届之旨今日於大年寄宅急度呵申付候右ニ付当町年寄共も無念之取計還又呵申付候

七月御用番渡部惣右衛門殿 大目付月番 太田舍人 月番 玉置忠兵衛

七月朔日

一 八百屋与茂次郎妻出奔一件吟味之次第并取計方存寄之趣太田舍人へ申達候上惣右衛門殿へ相伺候処何之御存寄も無之由被仰聞候

七月二日今早朝林田上ノ町富沢金右衛門拜領屋敷出火之処早速もみ消候由町方今注進申出承置

一 八百屋一件懸り合之者共呼出一通り遂吟味候処此間於大年寄宅吟味之節申口同様之義ニ候依之左之通申渡尤石名平太兵衛并小頭左五兵衛書役四六部屋目付権六平組市左衛門其外大年寄兩人諸吟味役老人例之通立会但町内年寄組合召連罷出ル

檜物ヤ平吉八百ヤ与茂次郎妻引連 三丁目 若本屋茂次郎

出奔之趣ニ付異見ヲ加候由聞入不申候ハ、其節取計方も可有之処其分ニ見通剩国分寺迎迄も付添罷越候由畢竟不義取持同前之義甚不埒ニ候仍尋申付候間右兩人急度尋出し可差出候

檜物ヤ平吉召連出奔候様子承 戸川町 松岡屋佐助

異見加候由聞入不申候ハ、致方 上紺ヤ町 熊屋新「」も可有之処其分ニ見通候段甚不 元魚町 灰屋伊右「」

埒ニ候依之尋申付候間右兩人急度尋出し可申出候 与茂次郎妻出奔之趣遂吟味候処 元魚町 八百屋与茂次郎

檜物ヤ平吉つれ出候趣相聞候先 同 檜物屋清八

達而出奔届出候節尋申付置候へ共右之趣ニ候間此上随分尋出可

申出候

今日吟味之趣ニ付先其分差免候 橋本町 五嶋屋孫市
追而相尋候筋有之節ハ又々可呼 細工町 長兵衛
出候尤与茂次郎妻平吉此後見合次第早速可申出候

一 米相場書差出入御藏米六十式匁五分町米五拾八匁五分

一 針医河本栄昌今塚田新十郎容鉢書差出入

七月三日 出仕

一新田村佐七家内五人安岡町真嶋屋勘七引請町内差置渡世仕らせ度願出郡代中申合承届

一 美濃職人町疊屋源左衛門姉義惣社村五郎兵衛妻ニ差遣度之旨願出郡代中引合承届

一 美濃職人町疊屋清右衛門方へ山北村久米之助兄伝吉ト申者養子ニいたし度旨願出郡代所引合承届

一 同心小頭石名左五兵衛渡り屋敷只今迄平組屋鋪ニ付並之通増地被下候様致度旨相願去月廿八日大目付中へ其段申達置候処城代町松尾桃順屋敷前見取地一ヶ所小頭増地ニ被下候段今日太田舍人ハ被申聞則左五兵衛へ申渡

一 近来小盜等有之様粗相聞候間非人加廻り申付可然由御用所御噂之旨太田舍人ハ被申聞候ニ付加廻り四人申付御家中屋敷辺夜分随分氣ヲ付相廻候様大年寄へ申渡并目明シ右衛門江茂随分心懸候様小頭ハ可申付旨申渡

七月四日

一 御堀掃除料惣高式百八拾九匁分四厘之内百匁先日相納則御作事

方へ相廻^而殘^而百八拾九匁分四厘昨日大年寄より差出候ニ付今日御作事所へ相廻ス

一町方宗門改ニ付印形取之候寺院方帳面大年「」差出宗旨奉行中^江相廻ス

七月五日

一勝間田町甚四郎義当三月御參勤之節尾張屋人足ニ成江戸表へ立帰罷越候処今以不罷帰ニ付同人妻^ハ断書差出承置

一材木町鉄屋三郎右衛門家屋敷表口老間半裏行拾七間但式歩半役之所代銀札五拾匁ニ相極同町大工市右衛門^江売渡申度旨願書差出承届八月二日本証文出ル

七月六日

一伊達隼人殿今朝江戸表^江出立

七月七日

一宮鳥居石櫓原前^ハ一宮^江明日引取候旨寺社取次小嶋此母^ハ申来大年寄へ為心得知せ遣候

七月八日

一林田町寺田治助家屋鋪表口六間裏行十七間但老間役之所去子正月質物^ニ書入銀札壹貫目中^ハ之町甲屋和助取次置候処其後治助義当地出奔^ニ付打捨置銀主^ハ毎度及催促和助義致難儀候右家屋敷名前^ハ治助妻リ七家守^者浅屋安之丞之由筋相立候様願書指出右質入之義^者去春願書も差出無相違義^ニ付急度筋立可申旨家守安之丞へ可申付段大年寄へ申渡

七月九日

登城

一修理様今七時^ハ百間堤^江御出尤宮川御門^ハ林田町通御通行御帰^者京橋御門^江御懸り被成候旨鈴木此右衛門^ハ被申聞例之通町方不敬無之様可申付大年寄へ申渡

一盆中御触書大目付中^ハ到来則同心^并牢番三軒屋番へ申渡文段例歳之通也

一來ル十四日御用所御出席無之由大目付所^ハ坊主触来ル

一例歳之通来ル十四日町方相廻り候段御用所へ及御沙汰大目付中へ御貸人馬之義申達置

一今日被為召候面々左之通被仰付

大目附 鈴木此右衛門 ^{御持弓頭}古市主馬 ^{御先手筒頭}海老原極人

御近習勤 隅田伴七 ^{上原彦一跡} 修理様付 松岡治部助

七月十日

一町方へ盆中触書例年之通差出ス

一正金銀錢通用御停止之処近来猥^ニ成候様相聞候旨勘定奉行^ハ申立有之候間町方へ触流可申旨昨日御用番^ハ被仰渡則触書差出ス委細扣帳記置之

一先達^而御救被下置候上紺屋町尼妙林妙元近来足痛快方^ニ付近辺た^くはつ等仕候段断書差出候右躰^ニ候得^者又候步行不相叶迄^者御救取上候^而茂^可然哉之旨昨日御用所及御沙汰候処何分極老^者之義先其分^ニ致置候様被仰渡依之右届出候趣承置候段今日大年寄へ申渡

一船持共例歳之通一人米三俵ツ、惣都合百五拾俵借相願昨日御用所大目付中へも申達御聞届相濟則其段大年寄へ申渡

一京町京福屋伊兵衛俸伊助義使組小頭植月文助方へ養子^ニ差遣度旨

願出承届之

一素麵屋共先達^而相願他所素麵差留候然ル所近来格別高直之趣相聞
不埒之義^二候何分他所素麵直段聞合随分正路可致商売旨申付候様
大年寄へ申渡

七月十一日

一修理様来ル十四日五ツ時泰安寺妙法寺へ御仏詣被成候旨宇津木弥
右衛門の申来翌十二日大年寄へ申渡置

一当春渡り御給米残^并御役米今日相渡ル尤御買上^{七十番}成銀札「」渡ル
一牢内塚田新十郎為療治本道片山淡水針医松井汲也昨日の罷出候由

七月十二日

一吹屋町西横丁西側^三茂渡庄右衛門家屋鋪表口四間裏行四間半但
式歩半役代銀札式百目^二相極組合之内木屋喜助^江壳渡申度旨願出
承届同廿二日本証文出ル

一右同所^三作人長兵衛家屋敷表口三間裏行三間式尺但式歩半役代
銀札五拾目相極木ヤ喜助へ壳渡願承届同廿二日本証文出ル

一京町味噌屋清八方へ先日罷越候備前金岡木地屋平十郎用向今以不
相済^二付今廿日計逗留日延願出承届

七月十三日

一大峯参詣之願書数通差出承届之

七月十四日

一於牢内田邑見内村伝四郎義夜前不快罷有服薬相願候由牢番申出
則医師申付候様大年寄へ申渡尤翌日郡代中へ為知遣

一例歳之通町廻り今七半時の罷出夜五半時相仕廻罷帰翌朝御用番^并

大目附中へ以手紙御届申達候右供人左之通

御貸馬口取式人 馬脇同心兩人 鏈挾箱合羽籠持割場の来ル
揚提灯二張内一人割場中間 草履取手人但箱提灯持せ候

七月十五日

同 十六日

同 十七日

一中之町有本立郎娘りう方へ吉野郡時村長次郎悴甚右衛門と申者相
続人^二引請申度旨願出承届之同廿二日本証文出ル

七月十八日 登城

一当盆前薩州量表商人之由四五人も致徘徊言語も異り御家中町方
所々^二調候処右表甚慮略畢竟拵物之由右商人も実者大坂者と相
聞候依之何方^二逗留候哉と内々遂吟味候得者^二宮桜町松井屋左助
方^二居申由然所惣^而是^二不限種々烏散成者共宿致候様子左様之義^二
而ハ甚不^レり之筋^二付已後右躰之宿不致様有之度旨郡代中^江申達
及内談候処委曲承知之旨挨拶有之

一安岡町兵八方へ上河原村代吉姉娶申度旨願出郡代中申合承届
一米相場書差出ス御藏米六拾三匁五分町米五拾九匁五分

七月十九日

同 廿日

一西々条郡上斎原村^{又二又二又二}平兵衛と申者四国廻罷出候処帰道中暑^二中り歩
行難相成^二付福渡村の送来今朝古城村迄罷越候由然ル所御城下坪
井町^二定宿有之候間夫迄罷越候得者^者在所^二迎^二参候様^二も相成旨右
病人申之^二付右定宿迄送り越候様郡代中^二被申付候由為知来候右

定宿と申八坪井町かど屋伝助ニ候由則病人古城村の送り来候由伝介兼而馴染之者故一兩日留置保養致させ其内在所へも申遣候ハ、迎ノ者も可罷越候間其節差戻候様仕度段申出其通取計候様申渡尤物而送り者之義御領分順ニ送済候得ハ町奉行郡代所の其段御用番中へ以手紙御届申事ニ候得共此度之儀者当所ニ而引請致世話遣候者有之事故御届ニ者及間敷義と郡代申合候

一元魚町八百屋与茂次郎方紛失物先日差出候書付之品々町方買物杯ニ取置候者有之候ハ、可申出旨相触候様大年寄へ申渡

七月廿一日

同 廿二日

一坪井町かと屋伝助方ニ逗留致させ候上齋原村治助義今日在所の親類迎ニ參候ニ付引渡候旨届出候
一牢内病人為療治今日の本道井上一推針医小原転申付遣候由大年寄申出候

七月廿三日 登城

一八朔登城之義御留守年者年始之通五時揃之旨御奏者中の廻状到来

七月廿四日

一御老中阿部伊予守殿御病氣之処御養生無御叶去ル十二日御卒去ニ付今日の来ル廿六日迄鳴物高声御停止尤普請ハ不苦旨大目附中の御触書到来即刻惣町并同心牢番ニ軒屋番江相触候

一東新町岩屋文藏義林田村浜田屋幸介同佐介ト土手ニ而及口論候処鉄刀ニ而額打さかれ其上ざる棒ニ而散々打擲ニ逢候付組合之者共漸致介抱つれ帰候旨今晚方大年寄届出候依之同心部屋目付藤森権六

差遣疵之様子見届且口上之趣共承罷帰候様申付候尤即刻御用番十大夫殿并太田舎人へ一通り御届申達郡代中江も内意申遣

一右林田村浜田屋佐助丸木屋長四郎玉琳浜田屋幸助ノ三人栗子村船頭万吉源兵衛式艘ニ積登候塩五拾俵西新町瓜生原屋幸八取次ニ而買調東新町土手へ今朝船上致候由此義者先年相願在分へ船の塩直買等停止ニ相成自然買取候儀有之候ハ、町分の致吟味候筋ニ申付有之故早速町内者打寄取次幸八呼候而其訳申聞候処幸八義者左様之訳も不存不計約束仕候得共其趣ニ候得者右塩者自分引請在分へ者壳七申間敷段同町延屋源右衛門を以申越候故其分ニ相済シ可申と及相談候内林田村玉琳之三人右之塩取帰候由相聞候故連中之内岩屋文藏罷越其塩相待候様申候得者幸助佐助立帰鉄刀ニ而文藏眉間を打割大血流懸り目も見へ不申逃帰候所ヲ又々ざる棒ニ而打倒シ申候其所江町内之者四五人參候得共向方ニ者脇差隠シ持居申鉢相見候ニ付難近寄何茂逃退文藏ヲ致介抱漸連帰候由組合者共口上書取之尤文藏義者殊之外取のほ七居申鉢額之疵ハ式寸計打さき肩者袋打ニ而くち候而腫居申甚難儀之趣権六見届四時罷帰

七月廿五日

一東新町岩屋文藏義夜前同心共遣遂吟味候次第口上書之趣共太田舎人へも申達御用番十大夫殿へ委細及御沙汰何分郡代中へ吟味之義被仰付候様仕度旨申上置候然ル所右一件郡代所へも届出早速村預申付置候段被及御沙汰候旨十大夫殿の御知せ有之尚又晩方郡代中も通用有之

七月廿六日

一 東新町岩屋文藏昨今之容躰書追々差出右^ニ付存寄之趣共御郡代栗原新五兵衛へ及内談候

七月廿七日

一 西本願寺使僧昨夜妙願寺へ到着之由上^江も使僧差出候由依之明日御取次被指出畢^而御料理被下候間御使者宿申付候様太田舍人被申聞候^ニ付玉置忠兵衛宅^ニ而右御用相勤候積申渡其段舍人へ申達

一 東新町岩屋文藏容躰書之趣十大夫殿^并舍人へ申達

一 茅町^ニ而今夕百万遍致執行候旨届出承置

七月廿八日 登城

一 鍛冶町六三郎弟菊之丞兼^而不行跡^ニ付此度義絶仕度旨願出御用所へ及御沙汰候上承届之尤大目付所へも右願書入一覽

一 他所酒商売当春以来停止申付候処去歲造込少此節^一「^ニ相成趣

^ニ付遂吟味候処九月上旬^ニ者新酒出来之積其間上酒之分大概日数

十日餘りも切レ可申様相見候尤下酒^者随分有之由酒屋共申出候

依之右十日計之儀^者下酒^ニ而世上入用相弁事済可申義と存候得共

一通り御用所^并大目付所へも申達候処何分存寄次第宜取計旨被仰

渡候付上酒弥切レ候ハ、下酒之ミ売可申尤相応之直段を以正路致

商売候様大年寄へ申渡

一 蔵合孫左衛門伯母妙隨病氣今以不相勝候^ニ付当十二月まで逗留為

致度由願書差出承届之

一 鍛冶町鍛冶屋伝助家屋鋪表口式間裏行十七間之内南端^ニ而空地式

間^ニ八間但老歩役之所代銀札式百匁^ニ相極同町鍛冶屋甚兵衛へ売

渡申度旨願出承届八月五日日本証文出ル

一 桶屋町横丁南側作人甚助家屋敷表口老間半裏行七間半但式歩五厘役之所代銀札百目^ニ相極新職人町塗師ヤ孫三郎借家長八へ売渡申度旨承届八月十二日本証文出ル

一 京町伏見町安岡町^ニ而今夕百万遍執行届出承置

一 稻荷上崩石垣御修覆昨日迄^ニ相濟小屋等も引弘候段三軒ヤ番届出

候

一 於御使者宿玉置広四郎宅西本願寺使僧相勤畢^而二汁五菜^但精進御料理被下之八時無滞相濟候由今日出勤之面々如左

西本願寺使僧 同道淨円寺相伴

御取次御使番馬場喜内 詰番小從人組^{佐野喜兵衛}佐伯八十八

寺社取次 小嶋此母 小勘者石垣伝大夫其外御茶道立合目付

一 東新町岩屋文藏昨日之容躰書差出候右相手方吟味書郡代中^ニ被為

見一通り遂一覽候且又相手兩人今日手錠被仰付候旨十大夫殿被仰

知候扱又郡代中申合文藏疵之容躰為見届今晚同心小頭部屋目付郡

代所下代差遣立合見分之上書付取之罷帰

七月廿九日

一 京町類族居所^并宗門改帳面差出請取置切支丹奉行中^江者町内年寄

共^ニ指指出候由

八月

八月朔日

御用書
大橋 十大夫殿

同十九日^今渡部惣右衛門殿御勤

大目付書
井上 弥三兵衛

本年御書

斎藤 孫右衛門

一 辰上刻登城於桜間御祝義御帳附已後於松間縁側御家老中面謁有之

畢而町奉行勘定奉行郡代御用所「」罷出御祝儀申述候

八月二日

同 三日 登城

一 非人共加廻り先月以来申付置候処其已後疑敷儀も不相聞^ニ付先ツ相止候様可申付旨御用所^并大目付所へ及御沙汰候上其段大年寄へ申渡

八月四日

八月五日

清水多橋今朝大坂へ出立

同 六日

同 七日

一 八百屋与茂次郎方紛失物之内留羽織袴^ツ似寄候品武田七郎兵衛方へ当二月質物^ニ取置候由尤置人ハ新職人町久五郎ト申子共之由届候依之久五郎義大年寄^ハ遂吟味候処当二月与茂次郎妻^ニ被頼伊丹屋方へ持参無相違其外前後取次候物無之旨書付指出ス

一 右同断之内郡内嶋表黒木綿染地一ツ上方へ送上又者縫紋詭遣候由^ニ而此度出来町飛脚之者取帰候由与茂次郎^ハ断書「」日出ス

一 塚田新十郎為療治針医嶋田松泉今日^ハ差遣候由大年寄申出「」

一 東新町岩屋文蔵少々^者快方之旨申出候

一 同町紺屋長次郎去十二月^ハ四国廻罷出其後追々日延之義母^ハ願出候処漸一昨日取帰候旨申出候段大年寄届出候

八月八日

一 於細工町今夜百万遍致執行候旨届出承置

八月九日 登城

一 下紺屋町作人佐太郎家屋鋪表口五間半裏行十七間之内表口巷間半通但四步役之所代銀札式百目^ニ相極同町原田屋佐七へ売渡申度旨願出承届同十二日本証文出

一 小性町南側作人利右衛門家屋敷表口三間五尺裏行六間半但式步役之所代銀札百五拾匁^ニ相極同町作人助右衛門へ売渡申度段願出承届之同十三日本証文出ル

一 御郡代栗原新五兵衛不快無出勤大目付所へ御断申達候

一 田邑見内村伝四郎義先達^而入牢被仰付置候処村方^ハ段々相歎候^ニ付以御憐愍出牢被仰付村方へ御返被成候旨於対談之間大目付立合十大夫殿^ハ郡代中へ被仰渡之趣新五兵衛今日不参^ニ付為名代拙者罷出承之尤右之趣申合可取計旨拙者へも被仰渡候即刻新五兵衛へ以手紙及通達候処村役人等呼出候^ニ付今日^者間合申間敷^ニ付明朝可取計旨申来

一 大川筋水増鍛冶場前渡船往来指止候旨夜四時過大年寄^ハ申出御用番^并大目付中へ以手紙及御届候

八月十日

一 大川筋水減鍛冶場前船渡相始候旨朝五時大年寄^ハ申出御用番^并大目付中^江以手紙御届申達候

一 今五時過同心室井作右衛門牢屋へ差出田邑見内村伝四郎義出牢取計郡代所へ引渡相濟則御用番^并大目付中^江以手紙及御届候

一 八時過大目付井上弥三兵衛^ハ手紙到来御敷之内箱捨有之由^ニ付押付見分可被差越候其内□□^ハ非人両三人番可申付置尤右心懸り之者有之候ハ、申出候様町方へ可相触旨申来即刻大年寄へ申渡候

然ル所又々手紙^三而右錢箱当役所へ可相渡候間受取置本主相知候
ハ、可渡遣右^二付組之者老人只今右場所へ指出候様申来差懸り候
儀故当番吉井柴内申付差遣候処御徒目付下目附立合見分之上右錢
箱受取罷帰

八月十一日

一西今町戸田市郎左衛門造酒株所持之処近年^者同町直屋惣十郎方へ
相頼一緒^ニ少々ツ、造込候由当年^ハ市郎左衛門方^ニ而致造酒候段
届出承置

一京町小油屋平兵衛借家茂三郎方へ当月因州鳥取新町仁右衛門と
申者按摩為執行罷越居候処此間罷帰候由届出ル

一修理様今九半時御供揃^二宮^江御遠乘尤京橋衛門^ハ本町通御道筋之
由稻垣茂士^ハ申来則例之通申付候様大年寄へ申遣

八月十二日

一夜半過中之町西新町境通之上在分之内牛部屋^一ヶ所焼失尤早速鎮
り候旨近町^ハ注進申出承置

八月十三日

一戸田市郎左衛門妻昨夜致病死候旨大年寄^ハ届出

一塚田新十郎近来病氣快方^ニ針葉共先相休度段牢番申出

一三丁目浜野屋十郎兵衛所持笹屋九郎左衛門造酒株此度西今町房屋
六兵衛へ讓当年^ハ六兵衛方^ニ而致造酒度旨願出承届

一三丁目佐和屋孫四郎造酒株当年^ハ戊年迄十ヶ年之間宮脇町柏屋
佐吉借請致造酒度旨願出承届

一去ル十日榎原前御藪之内^ニ捨有之錢箱^之○元魚町田原屋善十郎去ル

六日夜錢箱被盜取候由去十一日断書^并色目書付差出遂吟味候処無
相違趣^ニ付其段井上弥三兵衛へ申談候上右錢箱善十郎へ遣候段今
日大年寄へ申渡

八月十四日 登城

一此間榎原前御藪^ニ有之錢箱元魚町田原屋善十郎申出候趣無相違相
見候付渡遣候様取計候旨御用所^江及御沙汰候

一近来町方小盜等之沙汰相聞候付夜分非人加廻可申付段御用所^并大
目付所へ申達則大年寄へ申渡且又目明シ随分心懸候様申付候

一福渡町重屋次右衛門造酒株此度京町吉田屋喜八^江相讓当年^ハ喜八
方^ニ而致造酒度旨願出承届之

八月十五日

一鍛冶町鍛冶屋伝助裏宗道社^ニ而明日湯立致候旨申出御用番へ及御
沙汰大目付中^江も以手帟申達候

一明十六日五ツ半時修理様川狩御出尤宮川御門^ハ林田町筋御通行大
隅宮下通^ハ川端^江御出被成候旨稻垣茂士^ハ申来大年寄へ申渡

一造酒之義風味随分念入当秋^ハ老奴以上之酒^者生酒其儘可致商売尤
直段不相応之酒致商売間敷旨惣酒屋共へ申渡候様大年寄へ書付相
渡

一林田町山本屋与三七造酒近年中絶之処当秋^ハ少々ツ、造酒致商売
度旨断書指出承届之

一此間浪人者之由五七人町方徘徊所^ニ寄少々なだり事抔も申由其外
順礼類之者数多入込居申趣相聞候旨井上弥三兵衛^ハ為知来候^ニ付
廻り之非人共随分心ヲ付候様可申付旨大年寄へ申渡

八月十六日

同 十七日

△中之町作人甚右衛門家屋鋪表口四間半裏行拾七間但六步七厘役之
所質物ニ書入銀札百五拾目來寅二月切同町平岡屋忠右衛門ノ致借
用度旨願出承届同廿五日本証文出

二階町年寄塗師勘平此度印判相改候旨断書并印鑑指出ス

八月十八日 登城

一河原町石井屋弁四郎借家ニ居申候平兵衛家内三人林田上ノ町藤八
所持之場所借受小家致引越申度依之人別除願出御郡代申合承届

一元魚町鉄炮屋新次郎立願有之四国遍路罷出度往來五十日計之願承
届

一元魚町指屋長左衛門借家江只今迄馬場喜内長屋ニ居申吉兵衛と申
者家内三人差置申度願出承届

一御用達六人之者共先達而以來御用向致出精候ニ付大文「」相印被差
免候共呼出石名平太兵衛并小頭大年寄立合ニ而申渡

一齋藤孫右衛門先達而上方登玉子引請之儀願之通被仰村候然処願之
趣とハ致相違諸方指支ニ相成候趣相聞候付右引請差止追込可申付
旨於対談之間大目付立会十大夫殿ノ被仰渡退出後孫右衛門呼出平
太兵衛并藏合孫左衛門立合ニ而申渡又右両条申渡候段十大夫殿并
上弥三兵衛江以手紙及御届候

一暮時井上弥三兵衛宅江罷出候様申來即刻罷越候処弥三兵衛鈴木此
右衛門列座被仰渡之趣弥三兵衛ノ演達左之通

齋藤孫右衛門先達而玉子之義相願願之通被仰付候然ル所願之趣

とハ相違世上差支相成趣ニ付引請被差止候右願出候節吟味不行
届段無念之至候已後念入可相勤候

右及御請退去依之兼役ノ同役山岡与左衛門を以差扣相伺候段弥三
兵衛迄申達置候処御用番中へ被相違伺之通指扣被仰付候旨夜半弥
三兵衛ノ与左衛門へ被申聞候由即刻承之

一甚大夫義差扣被仰付候ニ付町奉行役御用筋当分御郡代栗原新五兵
衛取計有之様十大夫殿於御宅大目付立合被仰渡候由

一藏合孫左衛門義齋藤孫右衛門縁家之義故今般之御咎同様恐入候差
扣ニても相伺度趣申出候ニ付右之席与左衛門ノ弥三兵衛へ及噂候
処御用番へ御内々被及御沙汰候処其儀ニ及間敷由御挨拶之旨新五
兵衛与左衛門へも被申聞候由

八月十九日

孫右衛門追込ニ付番藏合孫左衛門相勤

一甚大夫差扣被仰付候段石名平太兵衛并小頭江今早朝為知遣尤当分
栗原新五兵衛御用向取計ニ付何茂彼方へ罷越万事差因を受相勤候
様申渡

一藏合孫左衛門之義不及差扣段申渡

一齋藤孫右衛門玉子上方登引請相止候様被仰付候付已前之通勝手次
第玉子致商売候様惣町へ触書出ス

一三軒屋近辺下草今日ノ為苺取候段中尾幸助届出

八月廿日

一大川筋水増鍛冶場前船渡相止候旨大年寄ノ届出則御用番大目付へ
以手紙及御届

一米相場書差出ス御藏米六十四匁町米六拾目

八月廿一日

一 鍛冶場前水減舟渡相始候段大年寄ハ届出則御用番大目付中ヘ以手紙相届ル

一 明廿二日修理様瀧ヘ御出被成御帰り町通京橋御門ヘ被為入候旨申来大年寄ヘ例之通申遣ス

八月廿二日

八月廿三日

一 玉子之義古来之通商壳勝手次第致候様町在ヘ相触候段御用番ヘ及御沙汰大目付中ヘも申違候

八月廿四日

一 甚大夫差扣被成御免候間明廿五日ハ可致出勤旨御用番惣右衛門殿ハ被仰下候

一 右ニ付新五兵衛義兼役被差免候間大目付中ハ被申渡候由去ル十九日ハ今日迄新五兵衛取計之趣日記右ニ写置

八月廿五日

一 甚大夫義今日ハ出勤御家老御年寄中御宅ヘ為御礼廻勤

一 久世御代官鈴木小右衛門殿御重病ニ付去ル十日跡目御願於江戸表

被差出且又御養生不相叶御死去之旨去ル十四日御届一「濟候旨手代増田村右衛門阿佐唯右衛門ハ為知飛札昨夜到来相応及返答尤右之趣一通り惣右衛門殿ヘ以手紙申遣候

一 林田町寺田次助所持家屋舗表口六間裏行十七間先達而質物ニ書入

銀札沓貫目中之町甲屋和助取次ニ借請候所此度元利返濟家請返申度旨次助妻リセより願出承届

一 右家屋舗沓軒役代銀札沓貫目相極京町大村屋源右衛門ヘ此度壳渡申度旨次助妻ハ願出承届九月三日日本証文出

一 小性町小山屋徳次郎所持材木町南側家屋敷表口四間裏行十七間但本役之所代銀札四百目ニ相極居懸り枉屋忠介江壳渡申度願出承届同廿六日本証文出ス

八月廿六日

一 久世御代官鈴木小右衛門殿死去之段手代ハ為知来候ニ付明日以飛脚悔申遣候積郡代中申合尤使組一人御申付被下候様大目付中ヘ申達今晚拙宅ヘ使組山下与平次罷越状箱相渡

一 堺町年寄三津屋平右衛門用事ニ付備前岡山上之町赤穂屋徳右衛門方ヘ罷越度往来十日計之願承届

一 万人講場所受取度段講元共ハ昨日申出郡代中申合今日小頭下代等差出引渡相濟

八月廿七日

一 修理様今七時大石半次炮術為御覽御出宮川御門ハ林田町通嶋屋横筋ヘ御通行御帰者京橋御門ヘ被為入候由稻垣茂士ハ申来則大年寄ヘ例之通申渡

一 坪井町辰屋元次郎幼年ニ付為後見大庭郡大庭村伝左衛門倅伝兵衛と申者去春引請置候処家風ニ不相叶此度致離縁右伝左衛門方ヘ差戻申度旨元次郎祖母一「願書差出承届

一 元魚町湊屋榎三郎兄喜七去ル申歳ハ京都大仏前柏屋惣吉方ヘ五年切奉公罷越居申候処又々今年ハ来巳歳迄五年切奉公相務申度段榎三郎ハ願書指出承届

一京町小油屋平兵衛借家茂三郎方へ因州鳥取新町ニ罷有候兄仁右衛門当二月ハ罷越七月迄逗留先達ニ罷帰候処又々此度罷越来寅二月頃迄逗留按摩致執行サセ度願出承届

一八百屋与茂次郎妻檜物屋平吉尋出候様懸り合之者共六人江当七月申付置候処其後様子不相聞候故吟味申付候処其以来近国所々相尋候得共今以行衛不相知趣銘々書付指出候依之猶又無油断手分致急度尋出し候様今日大年寄へ申渡

一町作御年貢万一不埒人有之指懸り候節者案内なく手錠等申付候儀も可有之旨御代官中ハ被申聞

八月廿八日 登城

一久世江遣候飛脚罷帰悔之義故即答者無之由ニ而宿塚谷屋ハ状箱之請取手形取来

八月廿九日

一御年貢米外払并切手替御停止之義町方相触候様御用番ハ昨日被仰渡則今日大年寄へ触書相渡ス

八月晦日

一福渡町米屋甚右衛門家屋敷表口三間裏行十七間但七步役之所従弟西今町住屋新兵衛へ讓度旨願出承届九月六日本証文出

一上紺屋町北側ニ而坪井町鍵屋吉兵衛所持家屋敷表口三間半裏行十式間但半役之所代銀札式百五拾匁ニ相極福渡町作人勘兵衛へ売渡申度旨願出承届即晚本証文出

一酒改之義当春以来両人之処吟味等行届兼候趣相聞候付此度西今町一直屋惣十郎酒改申付候間三室屋宇左衛門組屋勘十郎申合可相勤旨

今日大年寄へ申渡

九月御用番渡部惣右衛門殿大目付鈴木此右衛門大年番藏合孫左衛門

九月朔日

一町方宗門帳添証文共奥書判形加切支丹奉行中へ差遣ス

九月二日

久世御代官鈴木小右衛門殿御子息へ今日為御悔御使者藤懸義兵衛被遣候由

一米相場書差出ス御藏米六拾七匁町米六拾三匁

九月三日

登城

一小田中村新田村両所堤伏樋等江去春度々妨致候もの有之由相聞候ニ付郡代中ハ被及御沙汰此度在分へ触書被出候依之町方へも相触候様ニとの儀ニ付相談之上西町江触書出ス委細文段扣帳ニ記置

一斎藤孫右衛門追込差免可申旨於対談間惣右衛門殿被仰渡退出後孫右衛門呼出石名平太兵衛立合申渡尤右申渡候段御用番并大目付へ以手紙相達

一米相場書付差出ス御藏米六拾九匁町米六拾五匁

九月四日

同 五日

一西今町礮屋忠七方へ備前邑久郡山田村伝兵衛と申もの引請養子に致度願書并向方庄屋書付相濟指出承届同十七日 本証文出

一宮鳥居沓石今明日之内榎原前ハ下紺屋町横丁通曳七候段寺社取次小嶋此母ハ申来大年寄へも為知置

一米相場書差出御藏米六拾六匁五分町米六拾式匁五分

一林田村丸木屋長四郎と申者去ル朔日川井村六助と申者ハ米式俵買

候段東新町五木屋源介種屋伊助鍋屋清兵衛見届則差詰り候処弥長四郎調へ^二無相違段申之由断書差出候兼^一而在分^二儀米俵塩惣^一而大商売御停止之処右之趣^二付弥左様之義^一候ヤ長四郎方被逐吟味候様御郡代栗原新五兵衛江申達候

一今七時惣右衛門殿御宅へ可罷出旨申来罷越候処大目付立合塚田新十郎義明朝於山岡与左衛門宅被仰渡候筋有之候間其旨可相心得由惣右衛門殿被仰渡依之鈴木此右衛門^并与左衛門対談何角申合小頭へ明朝之手配申付置候

一豆腐直段只今迄十三文之処近来大豆下直^二相成候^一付十式文ツ、商売仕度旨惣豆腐屋へ願出御用番へ及御沙汰大目付へも申達承届候段申渡

九月六日

一今六半時同心中山伝内藤森喜代次牢屋へ差出塚田新十郎出牢山岡与左衛門宅迄右兩人指添罷越引渡尤新十郎義牢屋へ駕籠^二載与左衛門方へ差越^并当春預置候大小鼻紙等混紙包封印之儘御徒目付へ相渡右取計相濟惣右衛門殿^并鈴木此右衛門へ以手紙及御届候但新十郎義永之御暇被下之奉公一切御構之由

一井戸十郎右衛門義も今日永之御暇被下之候由

九月七日

九月八日

一久世御代官鈴木小右衛門殿先達^而御死去御子息新吉殿へ使者被差越候由原郡太卜申者今八時過京町菊屋清左衛門方へ到着之旨大年寄申出即刻大目附中へ申達候夫へ御用番へ被相違彼是手間取晩章

^二も可及^一付明日御取次可被差出候間御使者宿申付候様被申聞則玉置広四郎宅^二而相勤候様申渡候且又拙者^并栗原新五兵衛へも口上被申越候由案内^二付是又伺之上兩人之内一人罷出承之候積相極新五兵衛へ及通用尤明日御貸人馬之事大目付へ申達置候将又手代増田村右衛門阿佐唯右衛門へ書状到來先達^而医師頼越候節早速渡部甫庵差向候挨拶申来

九月九日

一今四時過御使者宿玉置広四郎宅^二而久世鈴木新吉殿使者原郡太口上申述御取次御使番黒田多膳出勤但先達^而小右衛門殿病中已来御使者御音物等之御札之由畢^而拙者罷出口上承之尤栗原新五兵衛今日不快^二付得不罷出候御口上之趣拙者へ可申聞段及挨拶口上如左先達^而小右衛門病中毎度預御尋書死後早々為御悔預御紙面忝存候近々久世御役所引払候追^而忌明江戸表へ御札申達候迄餘り延引罷成候間以使者右御札申進候 返答如左

先達^而之為御挨拶御口上之趣近頃被入御念義奉存候此度何分可然御取合頼存候新五兵衛拙者同様頼入候段申達退去

右畢^而二汁五菜^{但精選}御料理被下之右御馳走人大役人下山官太其外小勤者立合目附坊主等相詰八時無滞相濟押付菊屋方立罷帰候由申出候付其段大目付中へ申達候且手代兩人へ昨日之返書認差遣候

九月十日

一堺町阿賀屋弥五郎義不勝手^二付三木貴三卜改号針術渡世仕度旨願出承届

一山本三右衛門娘ちよ儀備前兒嶋郡八浜村油屋善藏妻^二差遣申度^一

付人別離願出承届

九月十一日

一娘義急病^ニ而今晚相果依之拙者義忌中引込候段大目付鈴木此右衛門へ以手紙相届候

一甚大夫忌中引込候^ニ付御郡代栗原新五兵衛へ町奉行兼役被仰付候旨大目付鈴木此右衛門宅^ニおいて被申渡御用向諸事新五兵衛取計之日記追^而写置之

九月十二日

一例之通大般若御執行有之由

九月十三日

九月十四日 御用日御出席

一福渡町米屋甚右衛門義七十四歳罷成娘差江州大津中筋高見町柴屋市兵衛と申者方^ニ住居罷有候処甚右衛門引請申度由申^ニ付此度罷越度旨人別離願書差出御用番^并大目付へ申達願之通承届

一來寅春小桁村極楽寺観音開帳^ニ付東西建札之儀寺社取次小嶋此母今被申聞先格之通取計候様大年寄藏合孫左衛門へ申渡

一明十五日久世御役所鈴木新吉殿引弘江戸表へ罷越且大坂御代官稻垣藤右衛門殿明日久世^江陣着御城下通行之由^ニ付先弘之儀同心へ申付掃除之事大年寄^一 一

一明十五日九半時修理様二宮へ御遠乗田町御門^今西今町通御帰^{者本}町通京橋御門へ被為入旨申來大年寄へ申渡

九月十五日

一昼廻同心中山伝内藤森喜代次罷出七ツ時鈴木新吉殿御城下通行先

弘相勤右通行無滞相濟御用番^并大目付中へ以手紙相届候稻垣藤左衛門殿^者今日通行相延ル

一御鷹場之内殺生御停止之義尚又昨日御触出候付同心共牢番三軒ヤ番へ申渡惣町へも相触候様大年寄へ申付候

九月十六日

一九時前稻垣藤左衛門殿当町通行同心中山伝内藤森喜代次先弘相勤無滞相濟御用番大目付へ以手紙相届但新五兵衛義本役^ニ而今日日出役^ニ付帰懸御用番^江者御届申達候事

一鍛冶場前土橋懸渡候旨申出候付為見分同心小頭左五兵衛差遣今夕今橋往來相始船渡相止候段御用番^并大目付中へ以手紙相届ル

一山本三右衛門^今女式人川筋通手形差出致裡印遣ス

一船頭町片田屋武介^今女老人川通手形指出裡印加遣ス

九月十七日

九月十八日 御用日御出席

一今日德守宮^江例之通為警固同心小頭石名左五兵衛^并三船孫八中山伝内藤森権六吉井栄内罷出候

一明十九日九半時修理様杉山^江茸狩御出京橋御門^今川戸御藏前通御道筋之由申來大年寄へ申遣候

一御代官稻垣藤左衛門殿今五時久世御出立今夕当町止宿之段先触到來候由昼時大年寄申出早速御用番^并大目附中へ及御沙汰右宿之義大年寄共宜取計候様申渡新魚町鳥屋与^三兵衛方^ニ相極ル尤右^ニ付先弘同心組神田権兵衛藤森喜代次筋違橋迄指出置七ツ時過着被致旅宿迄無滞相勤

一右^ニ付先格之通旅宿へ町奉行見廻罷越候様被仰渡甚大夫引込中故兼役新五兵衛罷越手代稲田孫兵衛へ对面致挨拶置引取帰懸御用番并大目付中へ相届

但着服^者緒布裏付上下^ニ罷越候先格之處此度新五兵衛義^者本役

郡代^ニ二宮へ罷出夫^ハ直^ニ町奉行代り旅宿へ見廻候故羽織袴着用之儘^ニ罷越候

一御代官旅宿近辺先私同心共夜中相詰罷有但大文字高挑灯一張燈之一右御代官旅宿へ御使者仙波門太被遣之右立宿京町ひら野屋次兵衛方申付候由

九月十九日

一今六時前稲垣藤左衛門殿旅宿出立町分先私同心組川端又六三舟孫八相勤無滞通行相濟御用番并大目付中へ相届

一德守宮祭礼^ニ付例之通小頭左五兵衛平組權六案内喜代次權兵衛罷出無滞相濟御用番并大目付中へ以手紙御届申達候

一先達^而井戸十郎右衛門義古市鬼毛へ御預ケ之内不快^ニ付致療治候町医四人へ左之通被下候間当役所^ハ可申渡旨昨日大目付鈴木此右衛門^ハ被申聞今日大年寄宅へ呼出申渡候様孫右衛門へ申渡尤申渡候段鈴木此右衛門以手紙申達候

金一兩渡部甫庵 金百疋ツ、北山周齋三谷端針

九月廿日

一久世御代官所御預り内藤十右衛門殿稲垣藤左衛門殿手代山本善藏長坂左四郎^ハ甚大夫新五兵衛連名^ニ案内書状到来相応返事相認翌廿一日渡遣ス

九月廿一日

一甚大夫義忌明今日^ハ出勤大目付鈴木此右衛門へ相届右^ニ付新五兵衛兼役御免之旨於此右衛門宅被申渡候由

九月廿二日

一米相場書差出入御蔵米六拾四匁町米六拾目

九月廿三日

登城

一今日諸月番被為召御使番格已上七間廊下列席御用番惣右衛門殿被仰渡候大意如左委細御書付写置

御家中困窮^ニ付是迄役所工面筋を以貸渡候借物此度流^ニ被仰付候其外役筋口入請合等之類三十年賦被仰付候并内借等之義も随分年賦等^ニ相断いか様共艱難いたし取続已後勝手向之義上御苦勞^ニ不相成様銘々可致勸弁由

右畢^而御儉約筋近來御家中心持もゆる^ミ候^而物等猥^ニ相成候様^ニも相聞候間役筋之者ハ勿論其外たり共心得違無之様可致且又渡り方月渡迄^ニ而^者節季可為難義^ニ付老歩通之分十二月渡^一相濟被相渡候旨大目付鈴木此右衛門御達將又組中間之儀御家中被仰渡之趣^ニ准シ借物等之義取計可申旨大目付^ハ被申聞則同心小頭へ申渡

右為御札御家老御年寄中御宅江廻勤

一於江戶表御縁談之義井伊掃部頭殿御嫡女様御内談被為濟候段為御知廻状大目付中^ハ到来

一備前金岡木地屋平十郎^ハ船頭町片田屋市右衛門へ為替銀差引出入有之当六月平十郎義此表へ罷越其節岡山役人中^ハ添簡到来其儀

内々取扱等致候処兎角下方^二而不相濟由依之此度平十郎^一願書差出候間何分遂吟味候様可仕委細之義^者追々可及御沙汰旨今日御用所^并大目付中へ申達候

一 去月以來非人加廻り申付置候処近來穩^二も相聞候間先相止可申旨及御沙汰其段大年寄へ申渡

一 東新町黒田良朴不勝手^二付備前磐梨郡佐伯市場村孫六と申者引請筈候間当丑^一今已歲迄五年之間家内共^二罷越医業仕見申度旨願出承届

一 東新町三輪屋文介所持自国請酒株去子歲^一今町房屋六兵衛へ貸置候処此度取戻候由断出承届

一 新職人町瀧本屋五郎右衛門借家^二罷有候美磨屋藤右衛門家内四人此度城代町吉井栄内渡り屋敷へ引越申度^二付町内人別離願出受届

一 船頭町舟^一屋権右衛門所持旅人宿屋株是迄林田町神屋加平次へ貸置候処年限相濟此度取戻候由断出承届

九月廿四日

一米相場書差出ス御蔵米六十五匁五分町米六拾壹^一五^一

一 船頭町片田屋市右衛門今日大年寄宅^江呼出木地ヤ平十郎懸り合之義吟味申付候尤同心小頭左五兵衛差遣ス

九月廿五日

一 山本三右衛門^一女式人当川筋通手形式通差出裡印加遣ス

一 銀札場御用钱五拾箇川筋通手形式通札座奉行中^一被差越例之通致裏印遣候

一米相場書差出ス御蔵米六拾七匁町米六拾三匁

一 久世御代官此度替り候^二付木知^ケ原番所通船之義是迄廻し置候印鑑を以無滞取計^一有之様久世手代中迄書状相認今晚使組妹尾勇八へ相渡明朝出立候様申付候

九月廿六日

一 小須賀一学殿今朝出立御帰府

一 備前金岡木地屋平十郎義今日大年寄宅^二而片田屋懸り合之義吟味申^一同心小頭^一差出

九月廿七日

一 久世へ遣候飛脚罷帰返書到來承知之趣申来

一 玉置忠兵衛方へ播州龍野半兵衛忠七大助藤次郎善六久四郎市藏源大夫次兵衛六之助半次郎^一十一人例年之通呼寄来寅五月迄召抱油

仕事仕せ度旨承届

一 東新町三輪屋文介所持自国請酒株此度坪井町井倉屋善介へ讓申度旨願出承届

一 茅町大工七郎兵衛役介林田中之町住屋喜七借家^二罷有候研屋礪右衛門義三年前以前相願久世村福富屋平八方へ引越候処又々此度罷帰候付引請申度七郎兵衛^一願出承届

一 勝山筑摩源右衛門渡辺庵兵衛^一書状到来当月当町米相場書之義例年之通頼来相応及返答

九月廿八日 登城

一 中之町年寄米屋八兵衛義八郎兵衛^一致改号度願出承届

一 伊勢屋長右衛門印判此度相改候旨断書^并印鑑差出ス

一 船頭町片田屋市右衛門義今日又々大年寄宅^二而吟味申付尤小頭左

五兵衛差遣又

一久世役所山本善藏長坂左四郎ハ拙者栗原新五兵衛連名ニ而書狀到來小桁番所へ相廻候久世御役所通船印鑑老杖被差越則相応返書相認翌朝飛脚宿かしのヤへ為持遣尤右印鑑者郡代所ハ小桁へ被相廻候筈申合候

九月廿九日

一修理様明朔日四時二宮辺へ御遠乗御出京橋御門ハ本町「」御通行御帰者田町通御道筋之由稻垣茂士ハ申來大年寄へ例之通申渡置

十月御用番下村友右衛門殿

大目付太田舍人

大年寄玉置忠兵衛

忘中ニ付五日ハ十六大夫殿御勤之処御不快故十五日ハ惣右衛門殿相勤
十月朔日

一東新町岩屋文藏先達而以來疵致養生候処及快気候旨兄善六より断書差出ス

一米相場書差出ス御藏米六拾五匁五分町米六拾壹匁五分

十月二日

同 三日 登城

一東新町岩屋文藏快気之趣申出候段御用所へ及御沙汰
一牢屋破損場所書付大目付所へ差出御作事方見分之上御修覆被仰付候様ニと申達候

一町方年寄共之内三室屋宇左衛門高松屋平兵衛浜野屋善十郎塩屋八郎右衛門先達而御用達被仰付候ニ付年寄役差免尤跡役左之者共申渡候様大年寄へ申付候

中之町字左衛門跡役

西屋次右衛門

三丁目善十郎跡役若松屋徳次郎

坪井町八郎右衛門跡役

中津屋宗十郎

西新町残式人年寄不足ニ付平兵衛跡役ハ先不申「」候

一 小性町田戸屋宗十郎病身ニ付年寄役赦免之儀願出無趣ハ願出通差免之

一 米中買米五郎病身ニ付伯父弥吉へ中買役相讓申度旨願出承届之十月四日一札差出ス

一 二階町三木屋彦右衛門家屋敷表口四間半裏行十一間但八歩役之所代銀札五百目ニ相極町内茂渡庄右衛門へ売渡申度願出承届同六日本証文出ス

一 米中買共米大小豆其外雜穀俵物売買取次先年ハ致來候処近來麦類中買之手を越ニ直売買多相成難儀候間前々之通大麦小麦等も米大小豆同様中買取次を以売買候様申付呉候様願書差出遂吟味候処前々ハ右之通義ニ付願之通承届候間随分正路取計可申尤他人等ハ麦直売等之儀者勝手次第之事ニ候間中買共不可致貪着此段心得違不申様可申付旨大年寄へ申渡

一 久世御代官所手代山本善藏長坂左四郎ハ書狀到來十月十五日ハ晦日迄当町米相場書之義例歳之通申來相応及返節

一 明四日修理様御仏詣御延引之旨稻垣茂士ハ申來大年寄江為知遣「」
十月四日

同 五日

一米相場書差出ス御藏米六拾四匁五分町米六拾壹匁五分
十月六日

一 西川役所小形伴左衛門同進吾ハ書狀到來十月当町米平均直段之義

例歳之通頼来相応及返節

十月七日

同 八日

同 九日

一御用日之処拙者義風氣^ニ而得不致出勤山岡与左衛門を以大目付中へ御断申達候

一松平薩摩守殿御裡方様去月廿七日御卒去^ニ付今日来ル十一日迄

三日之内鳴物高声御停止尤普譜^者「」旨大目付中へ御触書到来

則惣町触書大年寄へ遣同心牢番三軒屋番へも相触候様小頭へ書付相渡ス

十月十日

同 十一日

同 十二日

一当暮渡御給米御役米等今日相渡ル

一船頭町舟本屋権右衛門所持旅人宿屋株勝間田町吉田ヤ与三兵衛へ当丑今已歳迄五年之間貸度願承届

一二階町西木屋佐介義礒村国次卜改号此度吉田舍人方へ奉公罷出度

^ニ付町内人別離願出承届

十月十三日

同 十四日 御用日 出仕

一京町若松屋善左衛門義万人講講元申付候間同役共申合「」相勤旨大年寄迄申渡尤右^ニ付遺物之義^者只今迄三人^江遣候銀高ヲ四人致割賦銘々請取候様大年寄へ内々申聞置候

但善左衛門義先日已来惣右衛門殿へ御内意有之此方へ存寄も申上候上今日右之通相極

一十一月万人講日取建札之義講元へ伺書差出御用所^并大目付中へも申達十八日^ニ相極其段申渡

一来ル十八日万人講^ニ付如例前夜町中知せ太鼓打廻り候儀御用所大目付所へ申達候且又同日出役^ニ付御貸人馬^并同心加人四人之義大目付中へ申達候

一今来月万人講^ニ付如例大目附中へ廻状到来小頭へ申渡

一万人講拝借道具之義願出例之通御城へ小頭罷出受取御中間^ニもた七罷帰置於我等宅講元^江相渡

一来ル十八日万人講^ニ付例之通町中触書差出ス

一東新町ノ岩屋一件郡代中申合裁許取計之義今日御用所伺相渡尤大目付中へ^者去ル三日及内談置候

一備前金岡木地屋平十郎船頭町片田屋市右衛門出入取計之儀大目附中へも申達御用所伺今日相済

一出羽守様西丸御普請御手伝相济候^ニ付御国元へ之御暇被仰出候

ハ、当月十九日廿日廿一日之内江戸御発駕来月八日九日十日之内当所御通行尤院庄御休之御積り御先触到来之由御郡代被為知候

一万人講場為見分今日同心小頭御郡代下代罷出ル

十月十五日

一於江戸表去月十九日御縁組御願書被指出候処首尾能相納り候由為御知候趣大目付中へ廻状到来
一檜原前御敷之内錢箱壹ツ捨有之由目付組へ申遣候間同心老入差出

立合近町へ預置候様可取計旨大目付太田舍人へ申来即刻中山伝内
差遣下目付立合見分之上右錢箱吹屋町年寄へ預置罷婦其段舍人へ
以手紙申達候尤中^二者何も無之反古少々有之由

十月十六日

一木知原御番所前通船之義^二付拙者栗原新五兵衛兩人印鑑之義^者先
達^而通用有之候得共其外御藏奉行御運上奉行印鑑之義久世^へ通達
無之^二付裏判手形相廻候^而も通船不相成之由木知原^へ藏元方へ申
来候旨昨晚申出候先日久世へ文通^二諸役人共是迄之印鑑を以通船
無滞様^二と申遣候付相濟候義と存罷有候処右之趣^二付猶又今日久
世^江以飛脚其訳申遣候

一河原町上下伏見町本琳寺前土橋破損之由断出候^二付此節牛馬往来
等も拵之候間御作事方見分之上急^二御修覆出来候様致度之旨大目
付太田舍人^江申達候

一東新町岩屋文蔵林田村濱田屋兄弟喧嘩一件今日於郡代所裁許相濟
依之岩屋善六文蔵^并年寄組頭共不残呼出呵申渡則御用番大目付中
へ以手紙御届申達候委細申渡帳^二相記且此一件一袋^二致置

一備前金岡木地屋平十郎船頭町片田屋市右衛門今日呼出懸り合之義
尚又遂吟味候尤平十郎八宿味噲屋利左衛門同道市右衛門八町内組
合年寄召連罷出ル石名平太兵衛不快小頭部屋目付平組耆人大年寄
諸吟味如例相詰候

一米相場書差出御藏米六拾四匁町米五拾九匁

十月十七日

一備前金岡木地屋平十郎船頭町片田屋市右衛門出入之義追々遂吟味
候処商売方差引之義銘々帳面之筋合互^二申張候へ共兎角証拠^二相
成候手形証文等取替^シ候儀^者一向無之畢竟双方無証拠之事故難及
取上裁許筋^二付今日大年寄宅^二而双方呼出其段申渡候様忠兵衛へ
申付小頭左五兵衛立合指出尤岡山内田太郎右衛門へ先達^而之返事
相認平十郎^江相渡

一久世へ遣候飛脚罷婦返事到来委細承知之趣申来ル

一米相場書差出御藏米六拾五匁五分町米六拾目五分
一錢相場書差出御藏米六拾七匁今日立替候由大年寄へ申出候

十月十八日 御用日

一於硯河原万人講興行^二付如例五ツ時^へ町奉行郡代出役^并御徒目附
下目付同心郡代所下代大年寄地方目附^二至迄罷出暮時前無滞相濟
引取御用番御宅へ御届申達大目付^江者新五兵衛甚大夫以連名手紙
相届候

寄札高老万千百八拾老枚 三步銀高拾六貫七百七拾老匁五分

十月十九日

一万人講残り雖今日相渡候^二付同心小頭郡代所下代差出猶殘三枚
有之由

十月廿日

一右残札之内式枚受取^二罷出候由同心小頭郡代所下代差出相渡ス

一久世御代官所当御年貢米川下役人印鑑小桁御番所へ指出候付拙者
新五兵衛連名書状添手代兩人へ到来此義御郡代請前之義故新五兵

衛一名^二而被及返節候様申談

十月廿一日

一 福渡町北側安岡町若田屋左助所持家屋敷表口四間裏行十七間亭軒役代銀札四百目町内作人金藏へ売渡度願承届同廿五日本証文出ス

十月廿二日

十月廿三日 御用日 登城

一去ル十八日万人講寄札高三歩銀員数等御用所へ及御沙汰候

一去ル十五日榎原前御藪之内^ニ有之候錢箱之義町方へ相触候処京町

今出屋半兵衛方^ニ而當五月紛失之由断書指出中^ニ有之反古類名面

等相見無相違趣^ニ付其段御用所^并大目附中へ申達則今出屋へ相渡

遣候段大年寄へ申渡

一元魚町八百屋与茂次郎妻檜物屋平吉懸り合之者共へ先達^而尋之儀

申付置候処今以行衛不相知旨銘々書付差出候依之右一件裁許存寄

之趣大目付中へも申談御用所へ相伺御聞届相濟明後日申渡候筈及

御沙汰置候

一 東新町橋本屋三次郎当年造酒相止候段先達^而申出候処又々工面出

来間柄山本三右衛門方へ相頼一緒少々造込商売いたし度旨断出元

来造酒林所持之者故勝手次第之旨申渡

一 酒醬油之義近来直段不相応風味不宜類売出候様粗相聞候已後随分

念入致商売候様以書付申渡

一出羽守様近々御通^ニ付鍛冶場渡船先格之通蘭田川へ相廻候様致度

旨御舟奉行を被申聞其段蔵元へ申付候様大年寄へ申渡

十月廿四日

一 江戸表へ他国^江錢多遣間敷旨先年御触之処当時鑄錢定坐被仰付^并

真鍮錢も吹立諸国通用之ため^ニ候間已来国々^江錢遣候義勝手次第

之旨従公儀被仰出候趣大目付中へ廻状到来町方へも触書出ス

一 万人講残り錐受取^ニ出候由小頭郡代所下代差出引合相渡ス尤去ル

十八日之上り札之分不殘渡し濟

一米相場書差出ス御蔵米六十六匁町米六十匁

一 明朝取計之手配夫々申渡

十月廿五日

一 久世御代官所御廻米津山河岸出之分例年之通今津屋伊右衛門へ御

米宿被申付候間右蔵元^ニ御米詰置候内火元等之義宜申付具候様手

代兩人を書状到来承知之旨及返節尤右^ニ付万端念入候様可申付旨

大年寄へ申渡但近火之節^者桶ヤ町へかけ付候先格之由

一 八百屋与茂次郎懸り合之者共今日呼出年寄組合召連罷出一昨日伺

置候通裁許申渡尤小頭部屋目付平組兩人大年寄諸吟味如例相詰石

名平太兵衛不快^ニ付關座

呵追込 八百屋与茂次郎

同 (^委細申渡帳^ニ記置
^一一件諸書附一袋^ニ入置) はもの屋清八

同 松岡屋左助

同 灰屋伊右衛門

同 熊屋新七

町分追払 若本屋茂次郎

呵禁足 同人親勘兵衛

右申渡相濟御用番^并大目付中へ以手紙御届申達右茂次郎義同心中

山伝内三舟孫八召連罷越筋違橋へ追払安岡町年寄共見届手形取之

罷婦

一 京都西六条本願寺御門主連枝撰州嶋上郡富田庄本照寺忍華院使不退寺と申僧今夕新魚町鳥屋与三兵衛方を止宿当所寺社御役人中へ及対談度候旨明日致案内呉候様申之趣夜五時過大年寄申出候二付即刻大目付太田舍人へ右之趣申達寺社取次中宅へ致案内さ七可然式文者旅宿へ取次可被差出哉之義承合候処御用番へ相伺候上可申聞由

十月廿六日

一 撰州本照寺使僧対談之儀大年寄共宅へ寺社取次罷出及対談候様被仰渡候由太田舍人へ申来依之藏合孫左衛門宅二而右御用相勤尤町会所と申趣二取計候様申渡昼後村井六之進被出対談有之由
一 鍛冶場前土橋請負証文蔵元共へ指出ス

十月廿七日

一 四時茅町出火二付火元江罷出大目附郡代中も被出候九時火鎮り候
二 付町々年寄共及面謁人足引セ我等義も場所引取直二御用番御宅へ御届申達
一 右出火之義安岡町坪屋多吉借家茅町久兵衛後家ト申 身老女近来病氣二而火燵之脇二臥居候処火燵ハ焼出候由外二作人庄助家一軒新助娘六明家一軒類焼都合三軒焼失之旨大年寄申出右火元久兵衛後家慎罷有候様申付則御用番并大目付中へ御届申達候
一 久世御廻米近日川下有之二付柳堤中揚場番人之義郡代中へ被申聞
例年之通取計候様大年寄へ申付候

十月廿八日 御用日 登城

一 上紺屋町灰屋借家尼妙元江先達而已来御救被下置候処去ル廿二日夜致病死候段此間届出今日御用所并大目付所へ御届申達

一 出羽守様近々御通行二付町方御通筋為下見分同心小頭へヤ目付大年寄今日相廻候様申付候

一 撰州本照寺使僧不退寺へ亦々為対談寺社取次村井六之進今日藏合孫左衛門宅へ罷出候旨大目付中被申聞其段玉置忠兵衛へ申遣置晚方対談相済候由

一 出羽守様近々御通行之節拙者出役之義其外諸事先格之通取計可申付旨大目附鈴木此右衛門被申聞

一 二階町鳥屋左助悴馴染之相撲取共近在へ罷越一候付日一五日之間花相撲興行仕せ度尤場所日限等之義一追而可願出旨願書差出御用所へ及御沙汰御聞届相済其段晦日申渡

十月廿九日

同 晦日

一 撰州本照寺使僧不退寺今朝出立罷歸候由大年寄届出候
一 修理様明朔日四ツ半時御供揃川部辺へ御遠乗宮川御門一林田町通御道筋之旨稻垣茂士へ申来例之通申付候様大年寄江申遣候然処相延明後二日五半時御出之旨夜二入又々茂士へ申来翌朝大年寄へ其段申遣候

十一月 御用番
下村友右衛門殿 井上弥三兵衛 齋藤孫右衛門
十一月朔日 登城

一 御吉事日二付御用所御出席御普代之面々出仕其餘日參之面々裏付

上下^二罷出御祝義赤飯頂戴之大目附所^江御札申達尤先格之通御用所^江罷出候

一出羽守様来ル十日御城下御通行^二付人馬之義御役人罷越^一「役人へ可及対談趣向方御家老中^ハ申来候間輕キ役人罷越候ハ、其節大年寄^二も指出可然旨友右衛門殿^ハ被仰越則翌朝孫右衛門へ其段申付置

十一月二日

一乃井野役人古川孫四郎河端代^ハ昨夜飛札到来十月十五日^ハ晦日迄当町上中下米三段相場書之儀申来^一「大年寄^ハ差出さセ奥書加返事相認昼時前飛脚之者^一」

十一月三日 御用日 登城

「^二久世役所^江当十月十五日^ハ晦日迄上中下米相場書勝山^江同平均書付指遣尤人之義一昨日大目付中^江申達使組津田定八罷越翌四日罷歸返事来ル

一西川役所へ同平均相場書遣^ス但例格使組^二為持遣候得共今年^者向方^ハ内意も相聞候間京町吉田屋喜八^江相渡彼方^ハ早速相届候様申付候同五日返事来ル

一水谷信濃守殿内鈴木甚大夫へ右同平均相場書書状添明日之御飛脚便江戸表へ相廻^ス

一出羽守様近々御通行^二付伏見町^ハ材木町迄裏通石垣之草取セ候間御堀^江足代おろし候段御用所^并大目付中へ申達則申渡

一右同断^二付明日町分御通筋為見分罷出候旨御用所へ及御沙汰大目付所へ御貸人馬之事申達候

一右同断^二付町分取計之義大年寄^ハ以書付伺出先格之通取計候様申渡

一茅町久兵衛後家去月廿七日出火火元^二付慎申付置候処^一取早指免可申旨御用所相伺御聞届相済則今晚差免候段大年寄へ申渡尤右衛門殿弥三兵衛へ以手紙御届申達候

十一月四日

一出羽守様御通行御道筋安岡町^ハ東新町迄為見分五時過罷出九半時無滞相仕廻罷帰尤玉置忠兵衛方先達^而も不^一「御小休^二相成候義も有之^二付立寄一通り^一遂見分候但例格之通小頭大年寄も罷出候

一久世御代官所檜村河岸出御廻米中揚場番人之儀郡代中^ハ申来例之通日雇頭へ申付候様大年寄へ申渡

一出羽守様近々御通行^二付先格之通惣町触書差出^一「御家中内借等之義可成たけ八年賦等^二相断取締^一」先達^而被仰出候尚又心得違無之様大目付中^ハ廻状到来

十一月五日

一左之者共追込禁足差免可申段一昨三日御用所へ伺置今朝^一「渡候様昨晚大年寄へ申付候

檜物屋清八 灰屋伊右衛門 松岡屋左助 熊ヤ新七
若本ヤ^一「兵衛

右申渡候段友右衛門殿^并弥三兵衛^江以手帟及御届候

一出羽守様去月廿二日江戸御発駕之由右^二付人馬御先触廻又今七時前到来継馬五拾式正継人足百人申来候旨大年寄申出御用番^并大目付中へ申達候処何分御間合候様申合可取計由被仰渡候付在寄馬

三拾疋被申付候様郡代中へ申談人足之義^者大年寄へ申付置候
一 御家中射術今日御一覽有之由

十一月六日

一 御家中鍛術今日御一覽之由

一出羽守様去月廿二日江戸御発駕之処藤川満水^二而一日御滞留然共
当所^者弥十日御通行尤九日御泊土居^二相成候段申来候之由郡代中
爲知有之

一 寄馬之義今般^者過分之員數殊日間無之甚無覺束^一馬指共も在中
取計之者ト随分申合何分御間合候様可致出精旨申渡與候様郡代中
被申聞其段申付候様孫右衛門へ申渡

十一月七日

〔一〕御家中鍛術今日御一覽之由

一 於江戸先月廿六日御縁組御願之通被仰出候右為御祝来ル九日御帳
付候旨御奏者中へ廻状来大年寄へも例之通^一知せ^一

一 右ニ付井伊掃部頭殿御事向後様ト唱可申之旨大目付中へ廻状到来
〔二〕東新町紺屋長次郎不勝手ニ付真嶋郡美甘村紺屋伊右衛門方へ当

十一月八日

一来ル十日日出羽守様御通行ニ付修理様為御透見京町使者屋敷^江御出
尤五時御供揃北郷権八前へ妙願寺前通新魚町小性町夫へ横丁裏道
へ被為入候由稻垣茂士被申聞其段大年寄へ申渡候然処^先年^者右横
丁焼跡空地板囲之所へ被為入候処当時右之場所不残家建塞空地無
之ニ付御通道無之由申出候依之小性町横丁へ本町へ御出使者屋敷
表口へ被為入候外有御座間敷趣茂士へ以手紙申達候尤御座所取繕

掃除等之義^者先格之通御作事へ取計^并下御屋鋪御役人見分等有之
由町内年寄共も万端氣ヲ付候様申渡置候

十一月八日

一出羽守様御役人へ追触廻状到来人足八十人相増都合百八拾人申来
候由大年寄申出候

一 牢舍人十次郎此間不快ニ付服薬之儀願出候依之医師老人申付差違
候様孫右衛門^江申渡有本宗益罷出候由

一 米相場書差出入御蔵米六拾七匁五分町米六拾貳匁五分

一 牢番中間義八病身ニ付番代之義相願候依之先格之通代り之義同心

小頭方^ニ而遂吟味候上割場^江及通用於向方此度召抱候由尤伝介ト
申者^ニ而直^ニ義八ト致改号候旨小頭申聞

十一月九日 登城

〔一〕御縁組御願之通被仰出候御祝御帳付退出御家老御年寄中御宅へ
御歎廻勤

一 明日日出役ニ付御貸人馬之義^并同心加入老人御申付^一大目付中へ
申達候

一 明日修理様京町使者屋敷へ被為入候右家前拙者罷通候節下馬可仕

哉否之義大目付中へ承合候処御用所へ被相伺畢竟御忍御出之事^ニ
候間下馬等仕候^而却^而目立候^而不宜候間不及其義旨井上弥三兵衛
へ被申聞候

一二階町鳥屋左助花相撲之義先日相願候於硯河原来ル十二日へ興行

仕度旨申出御用所へ及御沙汰御聞届相濟其段申渡尤大目付中へも
相達候

一惣町御救万人講來正月可致興行分何とそ當極月初旬興行仕度段願書差出御用所并大目付中へ申達御聞届相濟其段申渡

一元魚町八百屋与茂次郎去月廿五日追込申付候最早日数十五日ニ相成候間差免可申段及御沙汰今晚大年寄へ申渡尤相濟後友右衛門殿并弥三兵衛へ以手紙及御届候

一福渡町供人林内借家植月新右衛門へ用立申度旨断書差出承届

十一月十日

一出羽守様昨夜土居駅御泊りニ而今九半時御城下御通行拙者儀林田町山本屋横丁ニ御目見申上立宿山本三右衛門宅ニ罷有町分無滞御通相濟候趣承届候上引取場懸御用番友右衛門殿御宅江御届申達大目附御用懸り鈴木此右衛門へ以手紙相届候今日拙者供人鐘持挾箱持合羽籠持馬両口付草り取手人若堂式人中山伝内ニ式人河端又六東大番所詰大目付へ注進使組一番町分へ御懸り被成候注進二番中之町へ御懸り被成候注進以手紙申達

一町分御先弘同心小頭石名左五兵衛藤森寛次同平組式人吉井宗内藤森寛次

一馬指場江同心兩人藤森権六室井作右衛門差出ス今日馬三十八疋差出候由但御先触之通五十式疋外用心馬三疋致用意置候処十七疋者

御入用無之無益ニ相残り候由人足ハ都合式百五人入候内百廿七人札人足七十九人前揃之由

〔町医渡辺甫庵河合友益高畠友賢今日在宿申付置候

一御使者宿斎藤孫右衛門相勤出羽守様御使者木代久米右衛門御取次二橋六郎被出候由

一拙者并御先弘同心共江今日被下物有之候へ共差懸取込候間御昼休可被相廻旨於途中役人中合挨拶有之

十一月十一日

一出羽守様被下物左之通院庄御茶屋守合差越

金式百疋御目録添永井甚大夫御先弘同心小頭へ鳥目三百文同平組兩人へ同式百文ツ、駅場へ罷出候同心組兩人江鳥目式百文ツ、右之通被下置候段大目付鈴木此右衛門江翌朝以書付申達候

十一月十二日

一來ル十八日万人講ニ付惣町触書之義先月之通相触候様大年寄へ申渡候

一出羽守様一昨日兼田院庄御渡川ニ付左之通被下置候由届出候

兼田鳥目三百文御召船同壹貫文御供舟七艘御藏元伝藏御馬舟三艘四百文御藏元伝藏船年寄善右衛門百文下裁許人へ

院庄鳥目壹貫文惣船へ同六百文御藏元孫十郎舟年寄次郎右衛門へ同百文下裁許人へ

一東新町米屋道休家屋鋪之内表口五間裏行十七間但四歩式厘六毛役之所亥八月同町釵屋金右衛門取次ニ而質物ニ書入銀札壹貫式百匁借用候処此度銀札返弁家請返候旨断書承届本証文

一万人講場為見分同心小頭差出郡代所下代も罷出候由

一視河原ニ而花相撲今日合相初同心共日々昼廻り合右場所へ罷出候様申付候

一七時過西寺ニ而早鐘突候而出火ト申候処安岡町難波屋平藏所持之明地ニ垣之古わら積置候江たはこノ火ニ而も落「」ふすほり出煙立候故右之通之由依之已後随分念入候様平藏へ可申付旨大年寄へ申渡

十一月十三日

同 十四日 御用日登城

一來ル十八日万人講ニ付例之通町方知せ之太鼓打廻り候儀御用所并大目付中へ申達且御貸人馬其外同心加人四人御申付候様大目付中江申達候

一町方御救万人講日取来月二日五日之内興行仕度旨講元共今伺書差出御用所并大目付所へ申達二日ニ相認其段申渡尤当正月者町方御救ト申名目建札ニ相記候得共此度ハ無名目之積ニ相決

一播州脇浜赤坂九郎此度罷越逗留中堺町小鳥ヤ次郎右衛門方宿仕度旨断出承届

一宮川大橋御普請ニ付大坂分罷越候大工茂兵衛次兵衛忠七又兵衛甚吉ト申者共逗留中橋本町朝本屋源藏方ニ差置申度旨断出承届

一西今町年寄坪屋勘助当春以来足痛ニ付已後急御用之節_者為名代悴藤十郎差出申度旨願出承届

一東新町南側米屋道休所持家屋鋪表口八間裏行十七間但六歩八厘三毛役右之内西方表口四間半通三歩八厘四毛役之所代銀札壹貫百弍拾五匁同町五木屋作兵衛江壳渡申度旨願出承届同廿三日本証文出

〔一〕右家屋敷之内東方表口三間半通式歩九厘九毛役之所代銀札八百七十五匁同町鍛冶屋市郎右衛門へ壳渡度願出承届_{同廿三日本証文出}

十一月十五日

十一月十六日

一於江戸伊達隼人殿去ル二日与兵衛殿ト改号之由承之

一於江戸表去ル五日以上使徳山五兵衛殿御鷹之 被成候旨申来候

ニ付明後十八日御歛御帳付候間已刻今午刻迄之内出仕候様御奏者

中分廻状到来大年寄へも例之通為〔一〕

一江戸鈴木新吉殿分書状被指越先達_而小右衛門殿於久世御病死之砌悔申遣候挨拶申来ル

十一月十七日

一二階町鳥屋佐介相願候花相撲日和五日興行昨日限相濟候処来ル十九日廿日今兩日興行仕度旨追願差出御用番友右衛門殿御宅へ罷越相伺候処御聞届相濟其段申渡尤大目付中へも右之趣申達候

一船頭町今津屋孫十郎町作御年貢不納ニ付手錠申付候由御代官福田加兵衛届有之尤大年寄分も申出候

十一月十八日

御用日

一今津屋孫十郎昨夜御年貢米相納早速手錠被指免候旨大年寄申出候

一万人講興行ニ付如例五時分町奉行郡代出役并御徒目付下目付町奉行所下役平太兵衛出役同心小頭共十人郡代所下代大年寄地方目付ニ至迄罷出七半時無滞相濟御用番友右衛門殿へ御届申大目付_{江者}

新五兵衛〔一〕連名手帟を以相届候

寄札高壹万五千九十枚 此三步銀廿弍貫六百三拾五〔一〕

一今日御祝御帳付候処拙者義講場出役ニ付不被出山〔一〕衛門を以御断申達候

十一月十九日

一当四月佐々木東馬申立入牢被仰付候乱心者市平儀近来本心ニ相成

候由ニ付出牢之義又々東馬分相願御聞届被成候間出牢可申付旨友右衛門殿分手紙_ニ被仰越今昼〔一〕同心兩人差遣出牢取計尤同心共

市平召連東馬宅〔一〕引渡相濟友右衛門殿并井上弥三兵衛へ以手紙

其段申達候

一 万人講残り札相渡候ニ付同心小頭差出郡代所下代も罷出候由今日渡し候残八本有之由

十一月廿日

一 鳥屋佐介相願致興行候視河原花相撲無滞今日限相濟候段同心共届

出御用番友右衛門殿并弥三兵衛へ以手紙御届

十一月廿一日

一 銀札場御用錢八拾箇備前岡山へ積下ニ付川筋通手形札座奉行中今被指越例之通致裏印遣ス

十一月廿二日

一 米相場書差出入御藏米六拾七匁米六拾貳匁

一 一宮鳥居石先達而故障ニ付引取延引今日引セ申候旨寺社取次小嶋此母申来大年寄へ為知置

十一月廿日 御用日出仕

一 去ル十八日之万人講寄札高并三步銀員数等御用所及御沙汰

一 於江戸表於秀様御大病之由御容赫書相廻り候「表御医師并町方

御目見医者之分存寄承候様ニも被仰渡候間町医面々今晚井上弥三兵衛宅へ罷出候様可申付旨同人被申聞其段大年寄迄申渡候然所右之内算作丈庵不快ニ付得不罷出旨断申出弥三兵衛へ其旨申達候

十一月廿四日

一 牢屋御修覆昨日迄出来之由牢番届出候

一 牢舎人十次郎病氣致療治候有本宗益及断候ニ付昨日中嶋仙庵申付遣候由

一 橋本町幾屋和助家屋敷表口三間裏行十式間但「之所代銀札三百三十匁ニ相極伏見町三笠屋」兵衛へ売渡申度旨願出承届同廿九日本証文出ル

十一月廿五日

同 廿六日

同 廿七日

一 当十月十一月兩度万人請三步銀之内諸人用指引残銀都合式拾六貫九百三拾八匁八分式厘追々札座へ納込候由証文并帳面等講元合差出候由大年寄〇相納右之内講元四人へ為褒美被下候三百匁引残而廿六貫六百三拾八匁八分二厘送手形相添御勘定所へ相納則証文取置

一 桶屋町大坂屋次郎右衛門親休意夫婦英田郡倉敷村孫山口屋市六と申者方へ引越致世話遣度ニ付町内人別離願出承届同晦日本証文出

一 中之町浜吉屋茂八借家ニ罷在候平八ト申者当九月十四日与風罷出所々相尋候得共行方不相知妻一人相残居候而当月之凌甚難洪右ニ付請人坪井町はりまや伊八宮脇町生駒屋左助引請候様申付呉候様

茂八合願書差出何分請人之義ニ候へ者右妻儀兩人方へ引請候様申渡

一 万人講場為見分今日同心小頭差出郡代所下代も罷出候由

一 来月二日万人講興行ニ付町方江触流之義先日之通取計候様孫右衛門へ申渡

十一月廿八日 御用日登城

一 来月二日万人講ニ付例之通町方太鼓打廻り候儀御用所并大目付所

へ申達且御貸人馬其外同心加人四人之儀大目付中へ申達

一右同断ニ付例之通御触書到来

一齋藤孫右衛門年々壹貫八百匁宛銀札場へ上納年始之儀去春綿延座

御取上之節五ヶ年之間御容赦「仰付候処当春玉子取計願之通被

仰付候間当暮又々上納候「申「置候然ル所右玉子取計当秋被

差留候ニ付去春被仰渡候通仕度旨昨日惣右衛門殿へ相伺候処御聞

届被成則今日孫右衛門へ申渡

一元魚町八百屋与茂次郎当五月相願候紅手製弥仕立候旨申出候ニ付

他所紅商売已後停止申付当所ニ致製法候者有之候ハ、勝手次第

可致商売旨触書差出ス

一今般御縁組御願之通被仰出候ニ付他国他領座頭共御祝儀為頂戴昨

今可罷出旨去ル廿四日配当場申出候ニ付先格遂吟味候処源泉院

様御代々以来御縁組御結納等之御祝義終ニ不被下置ニ付此度も不

被下候間其段通達候様申渡候依之所々へ飛脚遣罷出候義差留候ニ

付飛脚賃之儀難出候延享三寅年右同様之趣ニ飛脚賃貳拾匁遣候

例有之ニ付其段御用所へ相伺候御聞届相濟則大年寄へ可申渡存

候処又孫右衛門申出候者此間配当場申所々飛脚遣候処今日備前組

佐用組英田郡勝南郡座頭共罷越前々御縁組御結納御祝儀兼頂

戴仕候間御当地ニ何とそ頂戴仕度相願候段申出依之他所組頭

一兩人孫右衛門方へ呼寄様子相尋候処弥右之趣願呉候様申候由ニ

付友右衛門殿御宅へ今夜罷越右之次第及御沙汰候御評議可被成

由被仰聞候

十一月廿九日

一夜前友右衛門殿へ及御沙汰置候座頭共被下物之儀遂御評議候処万

一騒動ニも及候節御取計も六ヶ敷候間御縁組御結納御祝義相兼

壹ツ分可被下置候間其段申渡候様被仰聞則申渡尤右御祝義被下候

上者此間飛脚を以差留遣昨今不罷出者共江も不被下置候而者難相濟

併是迄罷出候者共ハ一昨晚以来「中罷有甚難義仕候間何卒今夕

頂戴仕度旨段々相歎候由御吉御凶共只今兩度ニ相濟候先例者無之

候得共今般者一応差留遣候訳有之ニ付昨日罷出候者へ者今夕相渡

相殘者共者近日一所ニ出次第遣候積申付今夜如例同心小頭部屋目

附配当場へ為見届差出尤此度何茂押而罷出候義ニ候へ共頂戴物無

之罷帰候而ハ銘々甚可致難義ニ付格別之御評議を以此度者被下置

候座頭共追々新法申出シ縦他所ニ頂戴候共於爰許者先格無之類

者已後共不被下置候間兼而其旨相心得候様大年寄座頭組頭共へ

申渡させ候委細配当「証文扣ニ記置

一万人講講元四人江為褒美銀札三百匁差遣候段今日大年寄へ申渡翌

晦日銀札相渡ス

十一月晦日

一座頭共へ被下候御祝儀今般而度ニ相渡候訳友右衛門殿へ及御沙汰

候

一中之町浜吉屋茂八借家平八妻請人引請之儀去ル廿七日大年寄へ申

渡候処請人兩人之内宮脇町生駒屋左助儀徳守社地人別之旨ニ付申

付候儀延引寺社取次小嶋此母へ昨日申談今日彼方被申渡候答ニ

付坪井町はりまや伊八江も今日申渡候様孫右衛門へ申聞候

一類族之者無別条段京町年寄共書付差出ス

一京町筆屋六郎兵衛義津田丹藏ト改号太田舍人へ奉公罷出度町内人
別除願出承届

一東新町岩屋善六家屋敷表口五間裏行十七間但本役此度弟文藏へ讓
申度旨願出承届十二月三日讓証文出ル

一福渡町久米屋治兵衛義勝山塚谷屋市郎右衛門方へ当月分來寅正月
迄奉公罷越度旨願出承届

一橋本町伊久屋和助へ勝南郡西吉田村十郎兵衛銀次郎平藏伊介と申
四人之者共々実綿百壹升四步代銀百四拾七匁七分六厘十月五日切
約束^二而売渡候処相滞日々及催促候得共今以不相済由庄屋年寄百
姓代連印訴状差出尤久世御代官手代山本善藏長坂左四郎分添簡到
來大年寄分差出ス

一牢舍人十次郎為療治今日分賀村玄仙申付差遣候由

十二月 渡部惣右衛門殿 鈴木此右衛門 蔵合孫左衛門

十二月朔日

一勝南郡西吉田村四人之者分橋本町伊久屋和助へ実綿代滞銀之義^二
付訴状^并久世添簡到來之趣御用番^江及御沙汰候上和助義呼出遂吟
味右之趣於無相違^者急^二筋立候様可申付旨大年寄へ申渡

十二月二日 銀札場錢十三箇積下候由通手形如例印形加遣ス

一惣町御救万人講於視河原興行如例町奉行御郡代五時過分出役其外
石名平太兵衛御徒目付下目附同心組^并書役郡代所下代大年寄地方
目附等罷出無滞相済帰懸御用番御宅へ御届罷越大目付^者新五兵
衛拙者連名以手紙相届

寄札高九千百貳拾枚 此三步銀拾三貫六百八拾匁

十二月三日 御用日出仕

一昨日之万人講寄札高御用所へ及御沙汰

一大年寄三人歳暮御祝義^并右三人惣町來年頭御祝義例格之通差上申
度旨伺出去月廿八日御用所及御沙汰御聞届^二付則江戸御奏者番三
原金大夫へ呼戻申達^并小 者杉浦平介へ御文有之義宜取計被具候
様申遣尤爰元御奏者中へも一通り及噂置

一同心小頭平組兩人郡代所下代差出昨日之残雖相渡今日式本相残り
候由且又先月十八日残札八枚之内三枚受取^二罷出^一相渡シ候由

十二月四日

一幾屋和助義西吉田村銀次郎遂対談当月廿日切相払由約束いたし銀
次郎納得之趣双方分申出尤右^二付銀次郎儀一先在所へ引取申度旨
^二付今日呼出然上^者勝手次第罷帰候様申渡久世手代中へも右之趣
返書認相渡但今日銀次郎不快^二付為名代三郎次と申者宿京町平野
屋次兵衛召連罷出候

一西今町京屋伝兵衛分細工町五郎右衛門^江去々亥二月銀札百匁取替
尤家屋敷書入組合年寄加印之証文取置候処今以不相済^二付伝兵衛
分訴状差出五郎右衛門遂吟味候処無相違趣大年寄分申出候^二付返
濟方急度筋立候様今日申渡候

十二月五日

一銀札場錢貳貳箇積下候由通手形例之通裡書印形加遣ス
一真壁村百姓平九郎長十郎才助吉原村七右衛門与七郎伊右衛門都合
六人御年貢方不埒^二付入牢被仰付候間取計可申旨惣右衛門殿御差

凶之由大目付井上弥三兵衛今夕被申聞尤明朝於郡代所申渡之上牢屋へ遣候間其刻同心組老人差越吳候様新五兵衛の頼来

十二月六日

一今五時過同心中山市左衛門郡代所へ遣候処入牢者申渡九時過相濟夫の牢屋へ召連罷越入牢取計罷越惣右衛門殿并鈴木此右衛門へ以手紙及御届候尤新五兵衛の牢手形相廻り牢番方へハ此方の手形遣候但郡代所の足輕も差添候但賄者宿賄也

一伏見町宗の義先達而宗益卜申者ヲ養子ニ致置候処存寄ニ不相叶ニ付此度離縁請人橋本町西屋半兵衛へ宗益引渡候旨断出承届之

一御縁談御結納御祝義座頭共江被下候義去月廿九日日記ニ有之通之
一 出割渡相濟尤兩度ニ相渡候高左之通

一 惣人数百四十一人銀高五百八拾六匁五分外ニ式拾匁取初差留遣候飛脚賃

十二月七日

一新職人町年寄茂兵衛家屋鋪表口四間裏行九間但八步役之所質物ニ書入材木町大工市右衛門取次ニ而銀札式百目来寅十一月切致借用度旨断出承届同八日本証文出ス

一宮脇町福松屋新藏親和七義去ル亥八月大坂へ罷登阿波座堀太郎介橋筋和泉屋又右衛門方へ三年限奉公相勤候処亦々三年程相勤度旨追願新藏の差出承届

十二月八日

同 九日 御用日登城

一馬持共廿五人不勝手ニ付一人大豆三俵宛拝借之儀願出御用所へ相

伺御聞届相濟大目付中へも申達則大年寄へ申渡

一当十月廿七日茅町ニ而致類焼候庄介新介娘六両家共先年も焼失又候今年類焼甚難儀之趣相聞候同町ニ而兩度類焼之者へ去々亥歲御手当銀札被下置候此度も同様之儀ニ候間御手当少々被下置候様仕度旨去月廿八日御用所へ相窺候処御聞届相濟候ニ付家屋敷間口建家間数等吟味之上割合左之通相極尚又今日及御沙汰候上右被下置候段大年寄へ申渡右銀札同廿三日請取相渡ス

表口壹間式尺 建家桁行五間梁行三間 庄助

外ニ馬ヤ式間ニ式間 其外家財諸道具俵物等餘程焼失

銀札式拾五匁被下之 但右之趣ニ付割合増遣ス

表口三間八寸 建家桁行四間梁行式間 新助娘 ろく

銀札拾五匁被下之 但明家之義故如斯

一東新町鍛冶新藏借家ニ罷有候平四郎家内三人上ノ町太七借家へ引越度旨願出郡代中申合承届

一万人講拝借道具今日御城へ返納尤中間三人呼寄持七候而同心小頭左五兵衛差添罷出「」

一宮川大橋御普請ニ付追廻小屋懸等有之処其辺近来夜分野伏共罷越火杯焚候由ニ付□□□□非人共申付追追弘七候様大目付中被申聞則大年寄へ申渡

一広瀬大橋北脇ニ刈稻捨有之由郡代所へ注進申出候付御用所へ被及御沙汰候上心懸り之者有之候ハ、来ル廿日迄ニ申出候様触流有之依之町方へも同様相触候積申合則大年寄へ触書相渡ス

一來ル十四日御用所御出席相延十五日ニ相成候由大目付所の坊主触

来ル

一 来ル十五日空氣御機嫌伺御帳付候間已刻出仕候様御奏者番中〆廻状到來

十二月十日

一 元下御屋鋪御屋形崩取江戸表へ相廻候様被仰付候ニ付右木柱板類川筋積下候由通切手御作事方関十次〆差越則裡印加遣ス

一 万人講残札受取ニ罷出候由ニ付同心小頭郡代所下代罷出十一月十八日上り札之内式枚当月二日之残札式枚都合四枚相渡二日之分者皆済十一月十八日之分今三枚残有之

十二月十一日

一 銀札場〆錢七拾五箇岡山へ積下候ニ付通切手式通「奉行中〆被差越如例裏印加遣ス

一 近來町方小盜有之由ニ付随分心懸候様此間目明シ十右衛門江申付置候然ル処源右衛門ト申者相捕へ遂吟味候得ハ於西今町先日くり綿一俵盜取候趣及白状候由尤無宿者之由今日申出候ニ付惣右衛門殿へ及御沙汰今晚方牢番預申付尤同心市左衛門權兵衛罷出取計相済惣右衛門殿并鈴木此右衛門へ以手紙御届申達候

十二月十二日

一 中之町浜吉屋茂八借家ニ罷有候平八当九月十四日出奔之処早速不訴出妻義ニ付漸去月廿七日申出候段甚無念之事ニ付茂八義今日於大年寄宅呵禁足申付尤年寄組合共無念之義已後随分念入候様申渡一西今町上総屋和介方去月廿七日夜部押明くり綿一本被盜取候旨断出承置

一 伏見町田邑屋次助方当月五日夜四ツ椀四丸紛失之由断書差出承置

十二月十三日

一 同心小頭左五兵衛へヤ目付権六平組喜与次書役円六今日牢屋へ差遣盜賊源右衛門吟味申付候処於今町綿一俵盜取候段及白状其外いつ方ニても盜取候義無之旨申之由

十二月十四日

十二月十五日 御用所御出席ニ付登城

一 空氣御機嫌伺御帳附御使番已上出仕

一 馬持共拜借五年賦銀札今年切上納相済候ニ付又々銀札壹貫百目拝借仕度尤来寅暮〆五年賦上納可仕旨願書差出御用所へ相伺候処御聞届相済翌日其段大年寄へ申渡

一 町在之者共承候為於使者屋敷大村庄介へ孝経講釈被仰付候間町方之者共勝手次第罷出承候様可申渡旨大目附鈴木此右衛門〆被申聞其段翌十六日大年寄江申渡

十二月十六日

一 当十一月廿二日江戸神田金沢町弥兵衛店茂八妻かつヲ切殺逃去候召仕喜助人相書を以從公儀御尋尤心懸り無之候ハ、其段来ル廿八日書付差出候様大目付中〆廻状到來同心牢番三軒屋番共へ申渡并惣町触書大年寄へ相渡

一 惣町御救万人講三步銀当正月十二月両度之分并是迄之利分共都合拾壹貫五百六拾壹匁五分八厘齋藤孫右衛門玉置忠兵衛へ請込申付一ヶ月壹歩宛之利足を以年々町方大割入用之助成ニ致永々惣町御救ニ相成候様可取計万一不埒之儀有之候ハ、両人家屋鋪取上候而

茂筋立候様可申付候間随分致世話嚴蜜^ニ取計候様申渡加判藏合孫

十二月十九日

左衛門義も心ヲ付取計候様尤諸吟味兩人其外惣町年寄共へも此度右之通申付候趣銀高^ニ至迄委細申聞置候様孫左衛門へ書付相渡ス但「」之趣御用所^并大目付所^江も昨十五日及御沙汰置候

一 去ル六日入牢被仰付候真壁村吉原村百姓都合六人出牢被仰付候旨昨日井上弥三兵衛^ハ被申聞郡代中申合置手形被差越今五半時同心三舟孫八差出出牢取計郡代所足輕^江引渡罷帰則惣右衛門殿^并鈴木此右衛門へ以手紙及「」候

一 中之町浜吉屋茂八禁足差免候段孫左衛門へ申渡

一 安岡町鳥取屋清介家屋鋪表口五間半裏行十三間但老軒三厘役之所

一 今年米高直^ニ付酒直段上中下共老升^ニ付三分宛上申度旨酒屋共相願候由酒改三人^ハ此間書付差出候得共当春以来他所酒指留地酒計

一 返濟家屋敷請返候旨断出承届

之義当时右願筋難取上候先只今迄之直段を以随分念入致商売候様

一 右家屋敷此度同町菱屋太介へ代銀札九百五拾匁^ニ壳渡申度旨願出承届同廿日本証文出

申付願書大年寄へ差戻ス

一 安岡町小倉屋次右衛門所持自國請酒株去子十月^ハ船頭町山北屋伊兵衛へ預置候処此度取戻候段断出承届

一 明十七日四時修理様院庄へ御遠乗京町御門^ハ本町通御道筋之由昨日字津木弥右衛門被申聞例之通大年寄へ申渡然所御延引相成候由

一 新魚町入江屋市右衛門家屋敷表口四間裏行十式間但本役之所質物

夜^ニ入馬場喜内^ハ申来又々孫左衛門へ申遣候

一 書入組合林田屋次右衛門取次^ニ而銀札三百匁来寅十月切致借用度旨断出承届同廿七日本証文出

十二月十七日

一 昨日申渡候万人講三步銀預り証文齋藤孫右衛門玉「」忠兵衛^ハ差出則銀札相渡ス

一 鍛冶町庄吉家屋敷表口式間裏行四間半但老歩役ノ所代銀札五百匁^ニ鍛冶伝右衛門へ壳渡申度願出承届同廿日本証文出

修理様明十八日四時院庄へ御遠乗京橋御門^ハ町通り御通行之旨馬場喜内^ハ申来則例之通大年寄へ申渡

一 美濃職人町豊後屋角右衛門家屋敷表口式間裏行十一間但七歩五厘役之所代銀札百五拾匁^ニ同町作人仁右衛門へ壳渡申度段願出承届同廿二日本証文出

十二月十八日 御用日出仕

一 郷中御年貢追々皆済^ニ付端米町方へ買請候義取早可差免旨御用所へ及御沙汰御聞届^ニ付則大年寄へ申渡

十二月廿日

一月廻^ニ付惣町^江例歳之通触書差出ス

十二月廿一日

一 戸川町大工伊右衛門借家大熊勤^ケ由殿内福田官次へ貸申度段断出承届

一 安岡町小倉屋次右衛門所持自國請酒株当丑十二月^ハ卯年迄三ヶ年

承届

十二月廿一日

之間小性町田原屋太兵衛方へ借請致商売度旨願出承届

一 盜賊源右衛門盜取候くり綿町方へ売渡候段及白状候四人之者吟味之上買取候義於無相違者右綿差出候様去十六日孫左衛門へ申付候所追々大年寄迄綿差出相揃候旨今日申出候ニ付先日訴出候西今町上総屋和助へ渡遣候様申付候

十二月廿二日

十二月廿三日 御用日出仕

一 西新町住田屋伝右衛門借家作人伊八悻七之丞儀林田上之町文助後家方へ養子ニ遣度段願出郡代中申合承届

一 勝南郡湯郷村葉師坊来歳一千年忌開帳ニ付東西建札之義頼来候由大年寄申出御用所及御沙汰承届尤大目付中へも申達

一 妙法寺涅槃像来二月開眼ニ付東西建札之義寺社取次へ被申聞御用所及御沙汰候上宜取計候様大年寄へ申渡

一 祇一坊例年之通御札差上度旨孫左衛門申出御用所へ去ル十八日相伺候処差出さ七候様被仰渡候ニ付其段申渡今日孫左衛門持參小勘者所へ差出候

十二月廿四日

一 当春加藤新右衛門出奔之節為尋大坂表迄罷越候同心組三人出精ニ付御酒代鳥目五百文ツ、被下之旨昨日大目付鈴木此右衛門へ被申聞今朝吉井栄内中山伝内藤森喜代次呼出尤小頭同道罷出申渡ス
一 渡部甫庵儀当夏久世御代官病氣之節被指遣候ニ付為御褒美金三百疋被下之旨昨日鈴木此右衛門へ被申聞今朝大年寄同道呼出申渡
一 橋本町鉦打幾屋九兵衛儀此度新魚町へ宅替致候ニ付役免相願候間

願之通差免跡鉦打山田屋清六江申付候

一 桶屋町桶屋勘之丞家屋敷表口三間裏行六間但三分役之所代銀札百拾匁ニノ同町吉左衛門へ売渡段願出承届同廿七日本証文出

一 藏合孫左衛門方ニ是迄逗留罷有候真鳴郡下方村次右衛門役介妙隨義病氣未相勝候ニ付来寅七月迄逗留仕七度旨願書同役斎藤孫右衛門を以差出承届之

十二月廿五日

一 細工町治左衛門借家下目付中田兵藏へ貸申度由断出承届

一 同町五郎右衛門家屋敷表口式間裏行十一間但式歩五厘役質物ニ入銀札百目来寅十月切大工伊介へ致借用度旨断出承届同廿七日本証文出

十二月廿六日

同 廿七日

一 生野御代官所当国樞村川岸出御廻米今日積切ニ相成候由郡代中へ申来依之中揚場番人引七候様大年寄へ申渡

十二月廿八日 御用日出仕

一 公儀御尋者之義遂吟味候処惣町心懸り無之趣大年寄へ書付差出并組之者共へも同断書付差出候ニ付拙者請合証文両通自分証文一通
一 材木町与三兵衛借家庄介義林田村定次郎借家へ引越申度旨願出郡代中申合承届

一 安岡町久米屋兵八去ル西歳分当丑歳迄二宮村へ出作いたし罷有候処今以居宅普請等得不致ニ付又々来ル午歳迄其儘出作仕度旨願出

郡代中申合承届

一 寺社方為修覆來春万人講被仰付候尤先達^而之^一無名目取計之義

宜申付旨於御用所惣右衛門殿被仰渡則先達^而之講元共へ取計申付

候段大年寄へ申渡

御沙汰正月廿六日^二相極東西建札之義申付候尤其段大目付中へも
申達候
十二月晦日

一 西今町橋本屋彦兵衛持來古道具取売株此度福渡町品屋勘吉へ相讓

致商売度旨願出承届

一 西新町升屋長十郎義年寄役申付候段孫左衛門へ申渡

一 久世御代官所當川筋御廻米積切之由郡代中被申聞柳堤中揚場番人

引セ候様大年寄へ申渡

一 今年米高直^二付酒直段只今迄之通^三而ハ難儀^二付上ケ申度旨酒屋共

合先日願出尚又此間歎申出候得共當春以來他所酒差留當時地酒の

ミ之義其上去冬ノ米直段今年之相場同様之事故何分先只今迄之通

^二而致商売候様申付尤右之趣御用所^并大目付所へも及御沙汰置候

一 先達^而瀬肝御入用之由在方御触有之趣承及候由^二而安岡町久米ヤ

勘八近在縁家合取出候旨石名平太兵衛取次先日差出候^二付去ル十

四日大目付所へ差出候依之為御酒代金百疋被下候旨今日鈴木此右

衛門被申聞則其段平太兵衛迄申渡

十二月廿九日

一 修理様來正月三日泰安寺妙法寺へ御參詣之旨此間宇津木弥右衛門
被申聞今日大年寄へ申渡置候

一 今年中牢舍人病氣之節致療治候本道針医へ遺物都合銀札百七匁闕
所物之内を以大年寄へ相渡

一 昨日被仰付候來春万人講日取之儀講元合伺書指出惣右衛門殿へ及

町奉行郡代勘定奉行一所^二
相勤

明和七^{庚寅}年正月^六
寅年十二月^三至

御用日記

廿三 永井甚大夫

大沢三平

飯役 栗原新五兵衛

(表紙)

正月三日

一 大年寄三人方へ為年礼罷越尤表迄出迎候間祝義申述罷帰

一 米相場書差出又御蔵米六十九匁町米六拾五匁

正月四日

一 於牢内十次郎一兩日不快^{但續京不相勤早午晩方寸身御罷候旨由}付服薬針治相願候旨牢番申出町医之内

申付遣候様大年寄^江申達候早速三角良甫差遣候処暮時過相果候旨

又々牢番申出十大夫殿^并太田舍人へ以手紙御届申達候

正月五日

一 贖札師十次郎牢死^三付為檢使御徒目付三浦保介下目付一人被差出

候此方^も同心小頭部屋目付差出無相違趣見届相濟候上大目付中

へ承合死骸取捨之義先格之通穢多共へ申付晩方堀埋相濟候段牢番

申出十大夫殿^并太田舍人へ其段以手紙及御届候

正月六日

一 御作事方^今竹壱艘積下候由川筋通手形裏印之儀申来則印形加遣^ス

藏合孫左衛門右切手右同断

一 玉置忠兵衛今日出勤及面謁盃遣^ス

一 諸吟味御用達御蔵元今日面謁盃遣^三倉屋善四郎^者面謁計盃なし将

又惣町年寄共面謁小頭部屋目付相詰大年寄忠兵衛罷出夫々名面申

聞候但伊勢屋長右衛門御蔵元伝蔵当病断不罷出

一 乃井野古川弥四郎河端代八^今年始祝義書状来^并去歳中当町錢相場

書之義例年之通頼来則及返書尤錢相場書付大年寄^今差出我等奥印

加指遣^ス

一 新魚町入江屋藤介義造酒助殿御方へ对^シ不埒失礼之筋有之^二付追

正月

御用番 大橋十大夫殿

大目付月番 太田舍人

大年寄月番 玉置忠兵衛

元日

一 辰上刻諸士登城於桜間御帳付已後於松間縁側御名代御家老御受礼

御年寄御奏者大目付列座

一 表御礼前町奉行勘定奉行御郡代御用所へ罷出御祝儀申述候

二日

一 御用初^ニ付出勤町奉行勘定奉行御郡代御蔵奉行御金奉行一所御用

所へ罷出已後於七間廊下吸物御酒頂戴之^而大目付所へ罷出御礼

申達候

一 米相場書差出又御蔵米七拾匁五分町米六十六匁五分

一 今昼後大年寄札元共面謁盃遣^ス但玉置当病断

込申付呉候様齋宮殿ハ御申越依之其段十大夫殿へ御届申置大年寄
忠兵衛呼寄藤介追込申付候間急度相慎罷有候様可申付旨申渡尤右
申渡相済太田舍人江以手紙相達ス

正月七日

一 茅町打穴屋勝右衛門持牛相煩院庄茂八致療治候処不相叶落申候段
断書指出勝手次第取捨申様申付候

正月八日

一 東新町仁兵衛と申者旧臘廿四日懸銀取罷出候処翌日迄も罷歸ニ
付其以來所々相尋候得共行方不相知候然処公文村桑村之境ニ行倒
者有之両村役人立会其場ニ堀埋置候由建札有之趣去ル五日承候付
様子承合候処人躰年来仁兵衛ニ似寄候趣相聞候間死骸一見之上弥
仁兵衛ニ相違無之候ハ、請取罷歸於此表葬申度旨同人妻ハ願書指
出候ニ付昨日十大夫殿并太田舍人へ申達右之趣西川役人小形伴左
衛門同進五酒井良藏へ書状相認願書写共仁兵衛組合之者へ渡遣尤
文言委細状留ニ有之

一 例年之通左義長触書大年寄へ相渡

一 安藤鞆負殿病氣為療治当国落合住居之俗医辻貞介昨日当所へ罷越
逗留中京町菊屋清左衛門方ニ指置候由届出候

正月九日

御用日出仕

一 勝山筑摩源右衛門渡辺広兵衛ハ為年頭祝義書状到来返書遣ス
一 大年寄札元町医諸吟味御藏元例格之通来ル十六日御用所御方々御
逢被下候様并新御用達六人同様御逢被遣候様仕度旨相伺候処御聞
届ニ付御門通行之義大目付中へ申達名面書付中奥目付中へ相渡尤

右之趣大年寄へ翌十日申渡

正月十日

一 於使者屋敷大村庄介講釈近々ハ可相始候夫ニ付右場所諸事吞込致
世話候町人并茶取子供ニても罷出候様可取計旨昨日太田舍人被申
聞其段忠兵衛江申渡置

一 東新町仁兵衛親類并組合之者共西川江罷越候処早速村方へ申渡有
之由夫ハ右場所江罷越村役人立会死骸堀出候処仁兵衛ニ無紛勿
論病死無相違趣相見無滯死骸受取昨夜罷歸候由大年寄申出且西川
役人ハ返書も今夜取帰差出依之翌朝十大夫殿并太田舍人江以手帟
其段御届申達候

正月十一日

一 久世御代官所手代長坂左四郎ハ昨夜書状到来去丑年中銭相場書之
儀申来則書附奥印加之返書相認差遣ス
一 西川大久保殿役人中ハ為年始祝儀書状来則及返書且東新町仁兵衛
一件之挨拶別紙ニ申遣ス

正月十二日

一 大般若御執行ニ付早朝登城宇治橋間へ相詰無滯相済拜礼早御奏
者大目付へ引統御用席へ罷出無滯相済候段申述候御礼供物例之通
勘者所ハ来ル

一 御作事御用竹四百廿七本積ハ艘川筋積下候由通手形裏印之義申来
則印形加遣ス

一 同心共并牢番ニ軒屋番年始盃遣候
一米相場書差出ス御藏米六拾八匁町米六拾四匁

正月十三日

一 銀札場手代之内京町宮嶋屋源介義御詮議筋有之^二付町内預申付候様十大夫殿於御宅大目付立合被仰渡之然所源介義昨夜病死之趣今朝承及罷有候付太田舍人を以其段申達尚又思召相伺候処右死骸^并妻子共町内預可申付旨被仰聞則罷婦大年寄呼寄右之趣申渡尤右申渡候段十大夫殿^并舍人へ以手紙御届申達候

但此間以来札元共^二段々遂吟味不埒之筋粗及白状候由承之尤源助義八武田七郎兵衛抱之手代^二候由

正月十四日 御用日出仕

一 修理様明十五日六半時御供揃杉山へ御出鹿狩被仰付候由京橋御門^二京町夫^二川戸へ御通行之旨宇津木弥右衛門^二申来町方例之通申付候様大年寄へ申渡

一 宮嶋屋源助義去秋於銀札場消札之節銀札百匁盜取候段此度及白状候依之存命^二候ハ、急度御仕置^二も可被仰付候得共相果候儀故以御慈悲死骸妻子へ被下之取捨之義隱密^二取計候様可申付旨於対談間大目付立合十大夫殿^二被仰渡退出後大年寄呼寄右之趣申渡尤妻子追弘之儀^者明朝取計候積り故今夜中死骸取捨いたし候様申付候然ル処旦那寺泰安寺へ及通用候処此間御咎之源助義^二候へハ寺社役所へ一通り不相伺候^而ハ取置難相成由返答之旨今夜四半頃忠兵衛申出左候^而者明朝取計之差支^二相成候間尚又泰安寺へ忠兵衛罷越申談候処折節住持隱居共^二他行之由何分夜中寺社役所へ伺候義難相成候間明日相伺候上取計可申旨弟子坊^二挨拶之由^二付無抛十大夫殿^并舍人へ罷越右之訳及御沙汰候処其趣^二候へハ迎も今夜中

取置候様^二ハ相成間敷候間明夕取置致さ七妻子へ之申渡明後朝取計候様被仰聞候^二付則其段忠兵衛へ申渡

一 今夜四時過東新町八兵衛後家^ト申者火燵^二出火之処隣町よりかけ付早速も^二消候旨忠兵衛申出十大夫殿舍人へ右罷越候席^二御届申達候

正月十五日

一 宮嶋屋源助去秋之不埒此度及白状札元共甚恐入候義^二付指扣之儀大年寄を以伺出十大夫殿へ相伺置候処夜^二入武田七郎兵衛義差扣可申付其餘之者共ハ不及其義段可申渡旨被仰越則忠兵衛へ申渡

一 東新町八兵衛後家昨夜失火之義全手あやまちと相聞勿論少計之義^二而早速消留類火等も無之儀^二者候得共隣町^二もかけ付候程之儀早竟無念之事^二付相憤罷有候様可申付旨忠兵衛へ申渡候尤其段十大夫殿へも及御沙汰

一 宮嶋屋源助死骸今暮過泰安寺へ葬相済候由^二付五時忠兵衛宅^江小頭差遣源助役介被申渡取計直^二同心兩人差出町分追弘申付桶屋町年寄見届手形取罷婦則十大夫殿^并太田舍人へ以手紙及御届候但右追弘明朝取計候筈夜前十大夫殿被仰聞候処明日^者御祝儀日^二候間今日取計候様今朝申来候付右之通取計

正月十六日

一 諸士登城御具足御祝儀頂戴尤拙者儀如前格於宇治橋間御奏者大目付一同^二致頂戴候
一 表御祝儀相濟町奉行勘定奉行郡代一所^二御用所へ罷出ル
一 大年寄町医其外町人共御用所ノ御方御面謁之次第如左

松之間縁側通^ニ並居

御家老御年寄松之間へ御出

大目付舍人同下段東ノ方

町奉行同西方^ニ着座何^茂

年頭御祝儀申上候段取合申述

中之口北ノ方^ニ並居御家老

御年寄銀鷲之間^江御出大目付

同敷居際^ニ着座町奉行同敷居

際下段^ニ相詰名披露取計之

但右一時南ノ方^ニ北方目付並居郡代中披露有之^早而屏風之内^江

御家老御年寄御入其間^ニ何^茂退座致さ七跡へ左之者共くり出ス

戸田市郎左衛門

三室屋宇左衛門

高松屋平兵衛

浜野屋善十郎

塩屋八郎右衛門

佐和屋孫四郎

福永屋藤助

い七屋長右衛門

姫路屋伝蔵

今津ヤ孫十郎

岩佐孝碩

渡部甫庵

川嶋桃庵

箕作丈庵

河合友益

茂渡市右衛門

藏合孫左衛門

斎藤孫右衛門

山本三右衛門

川口藤十郎

茂渡藤右衛門

但玉置忠兵衛北山周斎当病武田七郎兵衛差扣

今日不參御断申達候

正月十七日

正月十八日 御用日出仕

一 札元武田七郎兵衛差扣被指免候旨於対談間十大夫殿合被仰渡退出後大年寄忠兵衛へ申渡尤申渡候段十大夫殿舍人へ以手紙及御届

一 修理様明十九日五半時御供揃院庄へ御遠乗京橋御門合御出本町通御通行之旨宇津木弥右衛門被申聞例之通大年寄へ申渡

一 於使者屋敷講釈被仰付候付取繕之義作事方へ被仰付候処盈十八盈計不足之由万人講場之盈借用之儀作事方合大年寄へ可及相談候間

其段拙者合も申聞置候様^ニと太田舍人被申聞則忠兵衛へ申聞置候

一 西今町中ノ横丁裏^ニ曲物之内^ニ煤^并線香つけ木なと入落有之趣訴

出候由忠兵衛申出且此間東新町出火之砌怪敷筋も相聞旁^ニ付町方

夜廻り^并非人加廻り今夕合申付候様忠兵衛へ申渡将又目明シ^江も

随分氣ヲ付候様可申渡旨小頭へ申付候

一 安藤造酒助殿平井半平去ル五日江戸出立今日到着

正月十九日

一米相場書差出ス御藏米六拾七匁町米六十三匁

一 今朝雨天^ニ付修理様御遠乗御延引之旨宇津木弥右衛門合申来大年

寄へ為知遣ス

正月廿日

一 修理様明廿一日泰安寺へ御仏詣尤御道筋例之通之由旧臘宇津木弥

右衛門被申聞置候付今日其段大年寄へ申渡候

一 東新町八兵衛後家失火之儀ニ付去ル十五日慎申付置候処取早日数も立候間可差免旨十大夫殿へ及御沙汰今晚大年寄へ申渡尤太田舎人へ^者以手紙其段申達候

一 町方此間怪敷義も有之ニ付夜廻り^并非人加廻り申付候段十大夫殿へ及御沙汰候舎人へ^者手紙之序ニ申達候

正月廿一日

一 御作事御用ニ付竹半艘ツ、二株当川筋積下候由通切手裡判之義申来則印形加遣ス

一 万人講場為見分同心小頭差出尤郡代所下代も罷出候由

一 来ル廿六日万人講ニ付先格之通町方触書大年寄へ相渡ス

正月廿二日

一 修理様今九半時御供揃院庄へ御遠乗尤京橋御門ハ本町通御通行之旨宇津木弥右衛門ハ申来大年寄へ申遣ス

一 同心藤森権六不快ニ付昨日ハ引籠

正月廿三日 御用日出仕

一 材木町大和屋清八裏通御堀端覆致修復候付御堀へ足代おろし申度旨断出御用所^并大目付へ申達候上承届

一 来ル廿六日万人講ニ付如例前夜町方知せ之太鼓打廻り候義御用所大目付所へ及御沙汰且又出役ニ付御貸人馬^并同心加人五人受取申度段大目付へ申達尤例格加人四人ニ候得共当時同心病人有之ニ付

如斯

一 於対談間十大夫殿ハ左之通被仰渡大目付舎人立会承之退出後切紙

^二而呼出石名平太兵衛立合申渡

前々之通帯刀被指免候

大年寄三人

(御勝手方御用向致出精候付
帯刀被差免候)

札元 茂渡市右衛門

右同断ニ付市中之外帯刀被差免候

外札元四人 山本 茂渡 武田 川口

右申渡相濟十大夫殿へ以手紙及御届候

一 茅町吹屋藤助屋敷北表口五間裏行十七間但式步役之所代銀札貳百匁ニ^ノ安岡町岡崎屋善吉へ売渡申度旨願出承届同廿九日本証文出ル

一 官脇丁大工半右衛門方へ使組渡部甚藏役介源藏と申者此度養子ニ仕度願出承届

一 中之町有本立即後家方へ先達^而吉野郡畔村長次郎悴其右衛門と申者養子ニ引請置候処此度不縁ニ付指戻申候旨後家^并世話人共ハ断書差出承届

正月廿四日

一 来ル廿六日万人講ニ付如例大目付中ハ御触廻状到来

正月廿五日

一 米相場書差出ス御蔵米六拾六匁町米六拾貳匁

一 万人講木こま之義去冬以来極印打講元ハ相渡候処遠方他国等ハ致用意罷越候類差支ニも成候様相聞候間向後^者外ハ持参之こまたり共寸法さへ無相違候ハ、請取候様申付「」然旨一昨廿三日大目付

中ハ被申聞候ニ付其段講元共へ申渡尤寸法無相違こまハ請取極印打候^而入申趣明日於講場致披露候様申付候

正月廿六日

一 於視河原万人講興行ニ付五時過ハ町奉行郡代出勤^并町奉行所下役

石名平太兵衛同書役御徒目付下目付同心組小頭共十人郡代所下代
大年寄地方目付^ニ至迄如例罷出七半時無滞相濟掃懸御用番御宅^江
為御届罷越大目附中^{江者}町奉行郡代連名^ニ而以手紙相届

寄札高三千九百拾枚 此三步銀五貫八百六拾五匁

正月廿七日

一 川嶋桃庵用事^ニ付備前岡山榎古庵方へ罷越度旨往来十五日計之願
承届

一 宮川大橋請負大工五人去十一月の橋本町朝元屋源藏方逗留致さ七
候処此度勝手^ニ付外^江宿替候旨源藏の断書差出ス

一 万人講残錐相渡候^ニ付同心小頭^并平組町会所^江差出尤郡代所下代
も罷出候由今日渡し残^三本有之講元預置

正月廿八日 御用日登城

一 鍛冶場渡船破損^ニ付御繕之儀御藏元の願出御用所へ及御沙汰書付
差出ス

一 一昨廿六日万人講寄札高三歩銀員数等之儀御用所へ及御沙汰候
一使者屋敷^ニ而大村庄助講釈之儀来月の可相始候由依之月々定日左
之通^ニ候旨大目付中の被申聞則大年寄へ書付相渡

正月 廿四日^の廿八日迄 二月^の六月迄 十二日^の十六日迄

七月^の十二月迄 二日^の六日迄 但閏月八前月^ニ准ス 刻限四

ツ時合

右之通一ヶ月五日宛出席有之由尤講釈日^ニハ廻り之同心共も立寄
氣を付候様^ニと先日大目付中の被申聞候^ニ付其旨小頭へ申渡置右

定日書付相渡

正月廿九日

同日 晦日

一 元魚町伊丹屋嘉四郎所持自国請酒株去ル戌三月町内浜岡屋甚七^江
貸置候処此度右株取戻候旨断出承届

一 此度ゆだ川縁御用之柳さし候^ニ付近町子共などあたり不申様可申
付旨忠兵衛へ申渡
川向中河原之内にもさし候^ニ付近町子共などあたり不申様可申
付旨忠兵衛へ申渡

一 去廿六日万人講残錐今日受取^ニ罷出同心小頭差出三枚共相渡皆済
尤郡代所下代も罷出候由

二月 御用番 下村友右衛門殿 大目附月番 井上弥三兵衛

大年寄月番 齋藤孫右衛門

二月朔日

一 御作事御用竹式艘積下候由通切手四枚裡印之儀申来則印形加遣ス
二月二日

一 元魚町伊丹屋嘉四郎所持自国請酒株当寅歳辰歳迄小性町和氣屋
太兵衛借請致商売度旨断出承届

一 伏見町倉敷屋多兵衛悻和助義京都近江屋市右衛門の被相頼呉服商
因伯之内^江当年中罷越度旨願出承届

二月三日 御用日出仕

一 万人講拜借道具今日御城へ返納尤持夫中間呼寄為持之同心小頭差
添罷出候

一 惣社宮万市町之内見世物有之由東西建札之儀寺社取次の被申聞御
用所へ及御沙汰候上其段大年寄へ申渡

一元魚町住屋市左衛門紅製法致商売度段去十二月相願手製無相違哉
否之義吟味申付置候処此節製法出来立候旨申出候ニ付勝手次第致
商売候様申渡候

一上紺屋町ニ而桔梗屋庄右衛門所持家屋鋪表口八間裏行十七間但式
軒八厘五毛役之所質物ニ入原田屋馬七取次ニ而銀札五百匁当十月
切致借用度段断出承届同五日本証文出ス

一西新町友屋平藏家屋敷表口式間半裏行十七間但半役代銀札式百匁
東新町わちや与七へ売渡度願承届同五日本証文出ス

一安岡町生綿屋喜四郎家屋敷表口七間半裏行拾四間但壹軒七步役之
内西方ニ而表口四間通老軒役之所代銀札四百五拾目ニ相極同町米
屋伊助へ売渡承届同九日本証文出ス

一右同人家屋敷之内東方ニ而表口三間半通七步役之所代銀札四百目
ニノ同町車屋利助へ売渡度願承届同九日本証文出ス

二月四日

一藏合孫左衛門六川下物大切手差出裏印加遣ス

二月五日

一二階町嶋屋藤吉方へ例年之通播州加古川五郎三郎長次郎卜申者共
ねちわく細工為手伝呼寄当三月中頃迄差置申度旨願出承届

二月六日

一新魚町入江屋藤助追込指免候様斎宮殿今昨晚御申越ニ付今朝差免
候段〇大年寄へ申渡尤御用番友右衛門殿并大目附井上弥三兵衛江
以手紙御届申達候

二月七日

一当正月万人講三步銀之内諸入用勘定帳之通引残ニ而壹貫三百六匁式
厘講元今差出候由大年寄持參則翌八日御勘定所江相納請取証文取
置之

二月八日

二月九日 御用日

一拙者義不快無出勤栗原新五兵衛相頼御断申達候

一米相場書差出入御藏米六拾六匁五分町米六拾貳匁五分

一大年寄三人并惣町去歲暮当年頭御祝義御肴一種ツ、差上披露相濟
候段江戸御奏者三原金大夫今申来則「」昏面大年寄へ相渡先格之
通御札相廻り候様申渡ス

一下紺屋町長吉借家ニ罷有候源兵衛夫婦此度佐藤平太長屋江引越申
度町内人別離願出承届

一小性町年寄田戸屋惣十郎先達ニ而願之通役儀差免當時屋祿屋喜介老
人役ニ而渡世筋指支甚難儀之旨歎書差出尤町内相応之者無之由ニ

付京町年寄之内味噌屋利左衛門小性町年寄役兼帯申付候段大年寄
へ申渡

二月十日

一威徳寺并財天神前ニおゐて護摩執行相願東西橋建札之儀共ニ御聞
届相濟候間宜申付呉候様寺社取次村井六之進今昨日申来候ニ付友
右衛門殿へ右之段以手紙御届申達置建札之義大年寄江申渡

一西今町玉屋吉右衛門義妻伴召連四国廻り罷出度往来日數百日計之
願承届

二月十一日

一安藤頼負殿今日御死去之由

二月十二日

一春渡り御給米今日相渡候定日之処御沙汰無之

二月十三日

一 小性町^三而茂渡市右衛門借家作人政八義徳永政八卜名乗大橋十大
夫殿へ出入奉公罷出度町内人別離願出承届

一 林田町作人長七悻伊介義去丑正月六野条平藏方出入奉公相勤候処
此度暇取町内人別人断出承届

一 中之町桜屋平三郎娘とよ義備前赤坂郡周逆村嶋屋伊平次妻^二差遣
度町内人別離願出承届

一 東新町美濃屋九郎兵衛家屋鋪表口六間裏行十七間但六歩役之内西
方表口式間通式歩役之所代銀札四百匁^ニノ同町長谷屋助右衛門へ
東方表口四間通四歩役之所代銀札八百匁相極同町並屋三郎兵衛へ
売渡申度願出承届同十五日日本証文両通差出ス

二月十四日 御用日出仕

一 於町会所講釈之節入用炭之義大目付中^江去ル三日承合置候処御用
所へ被伺右炭上六可被下旨被仰渡候由今日井上弥三兵衛被申聞則
大年寄へ申渡尤小勘者中^江及相談候処諸役所へ相渡候御定法之通
一度分かけめ三百匁宛之積りを以相渡候筈申合

一 林田町坂口屋利兵衛方へ去ル子四月寺田次助妻リ七同娘ちか引請
置候処此度りせ親福渡村喜兵衛方へ引請度旨申越候間差遣^二付
当所人別離願出御用所へ及御沙汰大目付へも相達承届候段申渡

一 明十五日四時院庄^江修理様御遠乗京橋御門六本町通御通行之旨

稲垣茂士六申来例之通大年寄へ申渡

一 二階町西木屋庄八所持自国請酒株去ル子歳六二丁目二葉屋伊助へ
貸置候処此度取戻候旨断出承届

一 林田町蔦屋八十二借家^江只今迄下目付組長谷川新藏長屋に罷有候
作人勝助卜申者家内五人此度為引越度旨願出承届

一 安岡町若田屋源七持牛相煩候^二付院庄甚兵衛相頼遂療治候処不相
叶斃死候旨断書差出承届勝手次第取捨候様申付候

一 近々惣社官社地^ニおゐて見セ物有之^二付自分妻子^者不及申下々迄
參候義御停止之旨例之通御触有之組之者牢番三軒屋番迄申渡

二月十五日

同 十六日

二月十七日

一 惣社市町^ニ付操芝居願之通被仰付候由右^ニ付新魚町油屋権太義神
主六相頼候間罷越世話旨願出承届例之通一札申付尤翌十八日
御用所へも一通り及御沙汰

二月十八日 御用日登城

一 惣社見せ物^ニ付町方太鼓打廻り候義社方六相願御聞届相濟候由寺
社取次中六案内有之承置大年寄へも申聞置候

一 二階町西木屋庄八所持自国請酒株当二月六辰二月迄三年之間安岡
町米屋利助借請致商売度旨断出承届

一 林田町蔦屋八十次家屋鋪表口三間式尺裏行六間六尺但三歩役之所
代銀札百八拾目^ニノ居懸り作人勝助へ売渡申度旨願出承届同廿四
日本証文出ス

一 去歲以来他所酒差留并醬油素麵紅檜物等依願他所取寄商売之儀
差留候処而差支多却而町方難洪之趣相聞候間向後已前之通他所
物入込指免可申旨於御用所友右衛門殿被仰渡則酒改共へ以書付申
渡且惣町触書相認大年寄へ相渡

但町方指支難洪之趣等去ル十四日御内意申置候処今日右之通被
仰渡

二月十九日

一 他所酒醬油等已後川筋無滞積登有之様小桁御番所江被致通達候様
郡代中江申遣ス

一米相場書出ス御藏米六拾七匁五分町米六拾三匁五分

二月廿日

一 一宮鳥居杵石今杵つ残有之ニ付明日榎原前而先達之道筋引七候
段寺社取次村井六之進而申来大年寄江申聞置

一 同心小頭石名左五兵衛妻久々病氣之処今晚方相果候「忌中引込
候旨へヤ目付川端又六届出候

二月廿一日

同 廿二日

一 御給米御役米等当春渡り之内半分今日於御藏相渡ル

二月廿三日 御用日出仕

一 町会所講釈足輕共望之者も有之候ハ、勝手次第罷出承候様被仰出
候由大目付中被申聞同心共へ申渡

一 当三月聖徳寺○本尊開帳之願相濟候ニ付東西建札之儀寺社取次中

被申聞御用所へ及御沙汰候上大年寄へ申渡

一 京町藤田屋善三郎所持自国請酒株去ル亥歳而丑歳迄西新町紙屋佐
七江賃置候処此度取返候段断出承届

二月廿四日

一 惣町并大年寄共去丑歳暮当寅年頭御祝儀指上物代金三步拾匁八分
之由江戸小勘者杉浦平助沼本弥五兵衛而先日申来候付大年寄而取
立方今日仕廻飛脚便ニ右兩人江書状相添差下ス右金銀相達受取候由四月
四日之状申来同廿一日

届相

一 林田村虚無僧吟龍義此度明暗寺代替りニ付歎且宗躰用事旁致上京
度旨大年寄迄申出尤郡代所へも願候由新五兵衛申合承届右諸人用
銀百式拾匁之内六十匁ツ、町在而指遣候先格候間其通取計遣候
様大年寄へ申渡

但明暗寺而用向濟兼候ハ、先住当時住居勢州普濟寺江罷越申
度ニ付入用惣辻百八拾目渡呉候様願出候得共此理不相濟義ニ存
候間其訊大年寄而申聞候様申付今日吟龍へ申聞候处理ニ服し何

分明暗寺而用事相濟し罷帰候様可仕旨申之候由ニ付右之通而

事濟

〔一〕銀札場錢相場六拾八文立替候由大年寄而申出候

二月廿五日

〔二〕安岡町表屋長兵衛所持自国請酒株去ル亥歳而丑歳迄元魚町「
屋善十郎借請候処又々当寅歳而辰歳迄三年之間借請致商売度旨断
出承届

一元魚町河内屋安兵衛義此度銀札場手代ニ罷出候付中買役弟政次郎
江相讓申度旨願出承届

一安岡町古河屋太兵衛豆腐屋伝右衛門車屋利介米屋伊助西原屋宗介
吉田屋多四郎菱屋太介大和屋与三兵衛池住屋太兵衛ノ九人之者共
此度指庇仕度尤掛樋請筒等致させ可申旨年寄共願出承届

一上紺屋町熊屋瀬介家屋鋪表口三間裏行拾貳間但半役之所去ル申十
一月家質証文差出置候処此度請返候段断出承届

一惣社見七物今日夕相始以後日々同心兩人ツ、指出

二月廿六日

一同心小頭石名左五兵衛忌差免明日夕出勤候様申付候

二月廿七日

同 廿八日 御用日出仕

一坪井町草津屋茂一郎借家ニ罷有候橘屋清左衛門儀不勝手渡世難相
成ニ付此度久世支配所勝南郡西吉田村重郎兵衛方へ母妻悴召連引
越申度当町人別離願出御用所及御沙汰大目付所へも申達承届候段
大年寄へ申渡

一上紺屋町熊屋瀬助此間請返候段断出候家屋敷代銀百八拾匁ニ相極
坪井町鍵屋吉兵衛江此度壳渡申度旨願出承届則本証文差出ス

一東新町橋本屋茂次右衛門弟栄藏義安藤造酒助殿組豊福義藏方へ遣
度町内人別離願出承届之

一來月三日御用所御出席無之旨大目付中夕被申聞候

一去ル廿五日惣社見せ物場所ニおいて原田屋理助儀御徒目付下目付
等江法外過言有之甚立腹之趣相聞尤理介儀殊外酒ニ酔罷有候由ニ

付同心采内喜代次夕及挨拶候処用捨を以其夕届等も無之相濟候様
子之由一通り兩人内意申聞承置候処昨日御徒目付夕理助法外之趣

大目付中江届有之由右理助義出役人へ対シ法外之義不届ニ付追込

申付候様友右衛門殿御差凶之趣井上弥三兵衛を以被仰渡尤今明日
者泰良院様御三回忌ニ候間明後朔日可申渡旨被申聞且又右鉢之場
所惣而^出役之者共古格相心得柔弱之取計無之様念入可相勤旨被仰
渡候間組之者共へも其段申付置候様弥三兵衛被申聞

二月廿九日

一西新町紙屋佐七義塚町三津屋平右衛門所持之他国請酒株当寅歳夕
辰歳迄借請致商売度旨断出承届

一中之町三室屋宇左衛門所持他国請酒株以後三室屋新兵衛卜名前相
改度旨断出承届

一京町紅屋加兵衛借家茂三郎方へ因州鳥取若狭町ニ罷有候弟仁右衛
門去丑八月夕当二月迄差置候処猶又当八月迄逗留為致按摩修行仕
七度旨願出承届

一原田屋理助油屋権大江明朝申渡候趣大年寄へ申付尤小頭江立合
候様申渡置

一原田屋一件去ル廿五日采内喜代次内意申聞候趣御徒目付届之様子
卜甚相違ニ相聞候ニ付已後随分念入可相勤旨小頭を以申渡其外惣
組之者万事勤方心得之儀共申付候

三月 御用番 渡部惣右衛門殿 大目付月番 鈴木此右衛門

大年寄月番 蔵合孫左衛門

三月朔日

一今朝於蔵合孫左衛門宅左之通申渡同心小頭立合差出ス

去月廿五日惣社見せ物場所ニおゐて

役人江_ニ対シ法外之儀共有之不届ニ付追込可申付候

下相見可取出
利介

右一件早竟勸進本万事取計

不宜不埒_ニ候以後急度念入可申候

新魚町油屋
勸進本 権太

右相濟御用番并大目付へ以手紙御届申達尤利介居宅近來表ノ方仕

切借家_ニ致自分_者裏ノ方_ニ住居之由_ニ候得共表口一所之義殘借家_ニ

致候も漸此間之事世上批判も如何_ニ付表口閉候様申付候

三月二日

一 伏見町小田屋伊平次義用事ニ付大坂過書町松屋甚兵衛方江_ニ罷越度

往來廿日計之願承届

一 橋本町家持近來別_而困窮_ニ付自身番之儀林田町一所_ニノ相勤申度

由兩町_ノ願書指出候へ共古來_右之通之事故容易_ニ難承届筋_ニ候

然共宮川_ニ飯橋_ニ相成候以來商売少_当時別_而難_洪之趣相聞候_ニ付先

番分右願之通承届候段大年寄へ申渡

一 元魚町豊屋喜兵衛縁類播州魚崎村野上一斎_悴源吉_ト申者_{醫術}修行

のため此度罷越候付当年中喜兵衛方_ニ逗留仕せ度旨断出承届

一 中之町平岡屋忠右衛門妻しち立願有之四国遍路仕せ度尤來ル四日

出立往來百日計之願承届

一 元魚町大庭屋善兵衛妻右同断往來八十日計之願承届ル

一 元魚町八百屋与茂次郎義平左衛門_ト改号西今町直屋宗十郎義孫兵

衛_ト致改号度旨断出兩通共承届

三月三日

同 四日

一 橋本町綿屋善兵衛姉いち立願有之四国廻り罷出度往來九十日計之願承届

三月五日

一 上紺屋町円乘院吹屋町持福院同町熱田若狭河原町熱田市正堺町小

林山城二かい町嶋ヤ藤吉堺町くにヤ宇兵衛金ひら參詣願書差出承

届

一 修理様明六日九時二宮へ御遠乗京橋御門_ノ本町通御道筋之由馬場

喜内_ノ申來例之通大年寄へ申渡

三月六日

一 同心吉井栄内藤森喜代次去月廿五日惣社出役之処原田屋理助御徒

目付へ対シ法外有之節取計方不心付其上届之様子甚間違之義_ニ付

此間小頭を以其段申聞候得共差扣等も不伺出早竟銘々不念無調法

之訳得道不致義と相見候_ニ付今朝小頭へヤ目附召連罷出候様申付

兩人義呵申渡追込申付候

一 錢相場今日_ノ老奴_ニ六拾九文通用_ニ相成候旨大年寄_ノ届出

一 茂渡市右衛門儀用事_ニ付備前岡山川崎町車屋六大夫方へ罷越度由

往來八日計之願承届

一 下紺屋町満照院式丁目福永屋兵次茅町伊八幾之丞藤吉甚右衛門安

岡町久米屋岩吉岡崎屋伊三郎村永屋和助作人源吾市太郎金毘羅參

詣願出承届

一 安藤造酒之助殿今朝御出立御帰府

三月七日

同 八日

一 錢相場老奴^ニ七拾文通用^ニ相成候旨大年寄^ハ申出候

一 一ノ宮鳥居石今日川戸^ハ引^テ候由寺社取次小嶋此母^ハ申来大年寄^ヘ申聞置候

三月九日 御用日登城

一 同心吉井栄内藤森喜代次追込指免候段小頭左五兵衛^ヘ申渡

一 札元山本三右衛門川口藤十郎茂渡藤右衛門武田七郎兵衛御城下帶

刀被差免候旨於対談間大目付立会惣右衛門殿被仰渡候^ニ付退出後

四人^ハ之者共呼出シ石名平太兵衛立合申渡尤大年寄孫左衛門も罷出

右申渡相濟惣右衛門殿^ヘ以手紙及御届候

一 宮川大橋御普請近々成就之上渡り初被仰付候間三夫婦相揃候もの

有^レ之者^者当月中可申出旨町方^江申渡候様大目附中^ハ被申聞大年寄^ヘ

申渡則触書出ス

一 西新町英田屋平右衛門弟儀此度難波栄次卜名乘市村数馬方^ヘ出入

奉公仕度町内人別除願出承届之

一 式丁目二葉屋伊助儀中之町三室屋新兵衛所持之他国請酒株当寅歳

ハ辰年中三ヶ年之間借請致商売度旨断出承届之

三月十日

一 牢番大谷栄藏姉相果忌中引込候旨小頭届出依之同役松岡左助随分

無由断中間申合相勤候様申付候

三月十一日

一 下紺屋町原田屋利介追込指免候様御用番被仰渡候由鈴木此右衛門

ハ申来大年寄呼寄其段申渡孫左衛門宅^江小頭左五兵衛立合差遣申

渡さ七候尤右相濟惣右衛門殿^ヘ以手紙及御届

三月十二日

一 林田町松本屋源兵衛家屋鋪表口式間裏行拾七間式尺但式步五厘役

之所代銀札百五十匁^ニ極同町片岡東馬^ヘ壳渡申度願出承届之同十

三日本証文出ル

一 齋藤孫右衛門方^ヘ播州^〇乃井野屋四兵衛内用^ニ付昨日罷越四五日

逗留致さ七度旨断出承届

一 京町菊屋清左衛門義公料綿実座用向^ニ付播州乃井野中屋甚三郎方

ハ明日罷越度往来七八日之願承届

一 東新町野田屋磯右衛門借家作人藤助と申独身者畑^ヘ罷越候処留守

之内竈ノ火燃出候と相見其辺すのこ竹少々焼申候^ニ付近隣かけ集

早速消留候由昼後大年寄申出候^{念入候様申渡}

一 今日町会所講釈日^ニ付廻り之同心共立寄候処明日^ハ九ツ時講釈

相始候由大村庄助被申候旨承之罷帰同心共^ヘ通達候様申付

三月十三日

同 十四日 御用日出仕

一 近々小桁村極楽寺於地内見せ物有之^ニ付例之通御触書到来同心^并

牢番三軒屋番^ヘ申渡

一 玉置広四郎所持自国請酒株去丑四月^ハ金沢屋庄兵衛^ヘ貸置候処双

方勝手^ニ付此度取戻候旨断出承届

一 右同人所持他国請酒株当寅歳^ハ午歳迄金沢屋庄兵衛借請致商売度

段断出承届

一 東新町豊野屋宗孝家屋敷表口四間裏行十七間但六歩役之所此度茂

渡市右衛門卜名前付替申度旨断出父子之義疑敷筋も無之ニ付承届

三月十五日

一 錢相場今日六拾九文通用ニ相成候旨大年寄申出候

一 小桁村極楽寺開帳賑ヒのため□□之者五六人罷越万歳致候願御聞届相濟候由右ニ付河原町山形屋新太義極楽寺ハ被相頼候間罷越世話仕度旨断出承届例之通一札申付ル

一 惣社見セ物今日切相仕廻引払見届候旨同心伝内作右衛門届出ル

三月十六日

一 松山寿軒役介岡松雲江二階町三保屋十右衛門借家貸申度旨断書差出承届

一 美濃職人町豆腐屋善兵衛ハ安岡町鳥取屋清助江取替銀返濟滞候ニ

付去丑五月願書差出早速筋立候様其御申付尚又其後毎度返済方之義申付候処漸此筋迄ニ筋立相濟候旨申出則善兵衛ハ濟口一札指出ス

三月十七日

同 十八日 御用日登城

一 御郡代栗原新五兵衛不快無出勤御断之義頼来大目付中へ申達候然ル所小桁村極楽寺見セ物ニ付出役之御徒目付下目付同心組立宿先格之通可申付旨通達候様大目付中被申聞則新五兵衛へ申通候

一 中之町紺屋甚助倅忠助義村上惣太ト改号安藤昇殿へ出入奉公罷出度町内人別除願出承届

一 元魚町すみ屋理兵衛方へ久世支配所西々条郡上森原村久六倅伝吉卜申者養子掣ニ引請申度願出尤向方庄屋手形相添差出願之通承届

一 此度御茶菌御用吉田文左衛門へ被仰付右ニ付場所之儀申出候処構

口町作庄屋急ニ難相知由指懸り候御用ニ候間地主中之町西屋次右衛門林田町山本屋与三七へ町年寄ハ其段申聞文左衛門及相談何分御用向無滞相并候様可申付旨井上弥三兵衛ハ申来則大年寄孫右衛門へ申渡

一 玉置忠兵衛儀用事ニ付京都ニ文字屋九兵衛方へ罷越度往来百日計之願差出候処か様之先例も不相見殊ニ留守中同役兩人頼置縦役用相濟候とても役筋も勤候身振ニ而長逗留餘り自由ケ間敷儀ニ被存候間難承届趣孫左衛門へ申渡願書指返ス

三月十九日

一 大目付野条平藏願之通去ル九日御役御免之由

同 廿日

一 米相場書差出ス御藏米六拾九匁町米六拾五匁

一 中之町西屋次右衛門方へ久米南条郡福渡村三九郎娘此度引取妻ニ

仕度願書并向方故障無之旨庄屋手形相添差出承届

一 伏見町吉田屋半三郎方へ備中板倉山田龍虎ト申医師此間罷越当五

月迄致逗留さセ度旨願出承届

三月廿一日

同 廿二日雨天

一 茂渡藤右衛門用事ニ付備前岡山片上町大和屋清右衛門方江罷越度旨往来八日計之願承届

三月廿三日 御用日

一 玉置忠兵衛無拋用事^ニ付京都烏丸通下ル所^ニ文字屋九兵衛方へ罷
越度旨尤往來五十日計之願差出御用所へも及御沙汰承届候段申渡
一 修理様來ル廿六日七時半時御供揃^ニ而本山寺へ御出尤京橋御門^ニ銀
冶場前夫^ノ御乗船御帰^者百間土手^ノ町通京橋御門へ被為入候由宇
津木弥右衛門被申聞大年寄へ申渡

三月廿四日

一 坪井町南側福本屋元太郎家屋鋪表口四間裏行拾七間但老軒役之所
此度代銀札老貫式百目^ニ相極町内河原屋治助へ売渡申度旨願出承
届同廿八日本証文出ス

一 堺町備前屋喜七用事有之江戸表藤本甚助殿屋敷内親類之者方へ罷
越度旨往來四十日計之願承届

三月廿五日

一 近來靜謐相聞候付町方夜廻り^并非人加廻り相止候様申渡

一 三町目神代屋和兵衛倅和七義勝山釵屋徳八兵衛方へ当寅歲^ノ辰歲

迄三ヶ年之間奉公^ニ指遣度旨願出承届

一 同心藤森権六病氣快今日より出勤

一 修理様本山寺御出之儀今日雨天^ニ候へ共天氣^ニ成候得^者弥明日御
出被成候尤御道筋京橋御門^ノ町通林田大隅宮前通^ニ而御乗船被成
候旨馬場喜内^ノ申來大年寄へ申渡

三月廿六日

同 廿七日

一 宮川水門之内^ニ菰包捨有之趣材木町^ノ注進申出候由今朝大年寄申
出候^ニ付早速大目付中へ及通用今昼後為見分御徒目付下目付被差

出候間其刻同心藤森権六指出見改候処椀四箇有之尤不殘田邑屋次
助名宛之差札有之候由材木町年寄^江預ヶ置手形取罷掃

三月廿八日 御用日登帳

一 伏見町田邑屋次助去十二月椀四丸被盜候趣其砌訴出候処是迄様子
不相知然所昨日宮川水門之内^ニ有之菰包椀四箇名宛差札等も有之
治助被盜候品^ニ無相違趣^ニ付田邑屋^江渡遣候様仕度旨御用所^并大目
付中へ及御沙汰御聞届相濟則治助へ指遣候間相渡候様大年寄へ申
渡

一 伏見町帶屋孫七倅伝次義江戸戸嶋町川村屋沖右衛門卜申者内縁有
之致世話呉候^ニ付当寅三月^ノ辰三月迄奉公罷越度願出御用所へ^茂
一通り及御沙汰承届之

一 新魚町魚屋源右衛門不勝手^ニ付当寅三月^ノ辰歲迄三ヶ年之間一方
村^江罷越請作等仕渡世相送度旨願書差出御郡代申合承届之

一 米相場書差出ス御藏米七拾壹匁町米六拾七匁

一 林田町年寄之内和歌屋宗四郎義老衰病身^ニ付役免之願差出無拋趣
^ニ付願之通指免跡役之者大年寄相調へ書付差出則山形屋伝左衛門
年寄役申付候

一 京町藤田屋善三郎所持自國請酒株此度西今町久米屋勘七^江相讓申
度旨願出承届

一 福渡町南側住屋新兵衛所持家屋鋪表口三間裏行十七間但七步役之
所代銀札百式拾目^ニ相極西今町沢田屋文三郎へ売渡申度旨願出承
届四月二日本証文出ス

三月廿九日

一昨夜八時頃京町井上一推方裏ノおだれハ出火屋祢少々燃上り候処

近辺ハかけ付早速消留候由七時前孫左衛門ハ注進申越尚又様子遂

吟味候処古綿ヲ袋ニ入古篋ニ引巻おだれノ上ヘ投有之是ハ燃出候

趣相見候旨今日書付差出何分一推儀慎可罷有旨申渡御用番并大御

目附へ御届申達候且右古綿篋等焼残差出候様申付遂一覽候

一右之通投火之躰ニも相見候間今夕ハ町方夜廻并非人加廻り申付候

様大年寄へ申渡尤其段御用番大目付中へも申達「」

三月晦日

一錢相場壹匁ニ七拾文遣今日立替候由大年寄ハ申出候

四月 御用番 大橋十大夫殿 大目付月番 太田舍人

大目付月番 大橋十大夫殿 大目付月番 太田舍人

四月朔日 大目付月番 齋藤孫右衛門

一福永屋藤介讚州金毘羅江致参詣度往来十二日計之願承届

一藏合孫左衛門川下物大切手例之通裏印加遣ス

四月二日

一錢相場今日ハ壹匁ニ七拾文相成候由大年寄ハ届出候

四月三日 御用日

一宮川橋渡初可致者之義去月相触候処町方ニ者無之旨此間大年寄申

出大目附所江其段申達候

一牢番大谷栄藏三軒屋中村善兵衛方屋祢破損ニ付御繕之義願出大目

付中江申達候

一京町井上一推此間慎申付置候処取早可差免段御用所及御沙汰則大

年寄へ申渡尤大目付中江茂相達ス

一錢相場今日ハ七拾式文ニ相成候由大年寄ハ届出候

一御藏元今津屋孫十郎義兼々御船御用向勤方不宜惣而御船方役人ハ

申付候義を籠畧ニ相心得度々間違等有之甚不埒之旨御舟奉行ハ申

立有之由依之急度相呵追込申付候様御用番被仰渡候間大目付ハ演

達承之退出後大年寄へ其段申渡十大夫殿舍人へ以手紙及御届候

一林田村虚無僧吟龍義二月廿四日日記ニ相記候通此度上京用向相濟

先日罷帰候然ル所諸入用三拾匁計も入増難儀之旨歎出御郡代及相

談無趣ニ付今般者承届町在ハ拾五匁ツ、増銀遣候積相聞則大年

寄へ申渡

但先達而而立前在分ニ而三拾匁借用罷越不残遣切候様子相聞此

間御郡代へも申談被遂吟味候処下代取計不行届義も有之趣何分

此度者先聞届已後之例ニハ不致段吟龍へも申渡置候積遂評議候

一三町目若本屋勘兵衛倅茂次郎義去歳不届之筋「」付町分追払申付

其以來在分罷在候由然所勘兵衛妻当春以來持病指重ク候ニ付折々

母見廻等も仕せ度ニ付町分徘徊指免吳候様歎事差出早竟御領分追

払之者とは訳違候儀ニ付承届之徘徊差免

一材木町福中屋多助所持勝間田町北側家屋敷表口五間裏行拾壹間但

本役之所代銀札四百五拾匁ニ相極町内塩屋伝兵衛江壳渡申度願承

届同八日本証文出ス

一上紺屋町渡部休庵方へ備前岡山井手屋源吉ト申者罷越十日計逗留

謡致指南候旨断出承届之尤是迄も度々罷越候者之由也

一安藤昇殿御家督無相違被仰付候由

四月四日

同 五日

一 東新町橋本屋茂次右衛門義林田町山本与市所持之他国請酒株当寅歲今辰歲迄借請致商売度旨願出承届候

一 鍛冶町鍛冶屋梶兵衛兩親去ル^マ戊十一月相願甲州身延參詣夫今関東千ヶ寺相廻候処信州伊奈郡前沢村^ニ而父義相煩久々逗留終^ニ養生不相叶当寅正月六日相果候由母老人去月廿八日罷帰候旨断出承置

四月六日

一 錢相場今日七拾四文替相成候由大年寄今届出候

一 戸川町藤四郎持馬去ル二日今相煩色々遂養生候処不相叶今朝落候旨届出勝手次第取捨候様申付候

四月七日

同 八日

一 宮川橋東詰敷石致候^ニ付二三日右場所往来指留度旨御作事申出候間其段橋本町へ申付候様太田舍人今申来則大年寄へ申渡尤其間^者人馬共袋町ノ方^江往来之積也

一 斎藤孫右衛門悴巳之八義次郎左衛門卜改号願出承届

一 小桁極楽寺見七物今日切無滞相仕舞引私見届罷帰候旨同心藤森喜代次三船孫八届出候

四月九日 御用日

一 豆腐直段之義近来大豆高直^ニ付一錢上ケ十三文宛に致商売度旨惣豆腐屋願出御用所及御沙汰大目付所へも相達願之通申付候段大年

寄へ申渡

一 御藏元今津屋孫十郎追込指免候様御用番被仰渡尤已後御船方御用向随分念入相勤候様可申渡旨大目付中今演達則退出後大年寄へ右之趣申渡其段十大夫殿へ以手紙御届申達候

一 宮川大橋渡り初^ニ付三夫婦相揃候者有之候ハ、申出候様先達^而相触候処町方左様之者無之由申出在中^ニハ三四株有之候得共極老歩行不相成^者病身之由^ニ而難相濟候依之縦別家たり共血筋^ニ而三夫婦有之者尤右之内養子^ニても又^者女子ノ釣合^ニても血筋之三夫婦有之哉遂吟味候様大目付中被申聞則触書相認来ル十二日迄^ニ申遣候様申渡

一 郷中村々非人番之儀宝曆十一年巳十二月□□□非人頭手下^ニ申付候由然ル所^ニ三三年已来所々村方^ニ而非人番相止穢多番召仕候類も相聞左候^而ハ盜賊吟味等之節非人共申合不相成自然と不^レメリ之筋^ニも可相成^ニ付一統村々非人頭手下之番人^ニ相成候様仕度旨当^一月非人頭今願出候由大年寄申出候付其御御郡代へ申談吟味之様子追々被申聞去ル明和三年戊十二月非人番共不行届筋も有之由^ニ而穢多共之内三人目明シ鉢之義大沢三平今申付万端氣を付候様申合有之由其所今何となく寂初之申渡ゆるみ候趣相聞候由^ニ候何分此已後故障等有之節^者願之上之義下方^ニ而私^ニ非人番相止候事甚心得違之儀^ニ候間以前之通可致旨被申渡候筈此間御郡代新五兵衛及対談候依之非人頭共も已前之通相心得候様可申渡旨大年寄孫右衛門申聞候

四月十日

一 錢相場今日七拾三文^ニ相成候由大年寄^ハ届出候

四月十一日

一 伏見町姫路屋文助古道具取売商売不勝手^ニ付相止^ニ階町北原屋利八右文助跡商売仕度旨願出承届

四月十二日

一 鍛冶場土橋引取昨晚^ハ船渡相始候段申出御用番^并大目附中^江以手紙御届申達候

一 銀札場錢相場今日七拾式文替^ニ相成候旨大年寄^ハ届出ル

四月十三日

一 惣側御藪^并柳土手百間土手御藪竹の子一切取申間敷旨例年之通惣町触書差出ス

四月十四日 御用日

一 此間相触候橋渡初三夫婦惣町遂吟味候処無之尤茂渡市右衛門方三夫婦有之候へ共女子ノ釣^ニ而父ハ悉異り候趣昨日大年寄申出今日大目付中へ申達

一 於江戸表主税様当月朔日御前髪被為執候由大目付中^ハ廻状到来

一 一宮市町中下々迄堅参間鋪旨如例年御触書到来^{(本配之者共ハ) 謹儀}

一 明十五日四半時修理様二宮^江御遠乗御道筋例之通之旨宇津木弥右衛門^ハ申来大年寄へ申渡

一 米相場書差出ス御蔵米七拾式匁五分町米六拾八匁五分

一 安岡町坪屋多吉所持自国請酒株去ル子歳^ハ西今町久米屋勘七へ貸置候処此度取戻候旨断出承届

一 坪井町庄右衛門家守嘉右衛門義来月村山平学供^ニ而江戸表へ立帰

罷越度旨願出承届

一 西今町三倉屋佐吉方へ撰州兵庫岡本屋弥兵衛と申者用事^ニ付昨夜

罷越十日計致逗留^サセ度断出承届

一 京町瓦屋忠八実兄三輪屋伊助先年戸川町住居之処十八年已前不調法之筋^ニ付追払被仰付当時ハ備前赤坂郡周迺村^ニ罷有候近年病身

^ニ罷成甚難義仕候旨度々申越候何とぞ御慈悲を以御当地徘徊御免も被下候ハ、養生等之儀忠八世話仕遣度旨相歎候由大年寄内意申

間候^ニ付歎書逐一覽候然ル所右伊助儀不受不施宗牀之儀^ニ付追払被仰付候者早竟公辺へも拘り候御咎之事^ニ候間徘徊御免之儀申立

遣候義も難致存尤此間渡部惣右衛門殿へも席有之内々及御咄候処同様之御存寄^ニ相聞旁右歎書先指戻ス

一 万人講之義先日以來御用所へ伺置候処弥今年も被仰付候間左様相心得尤委細井上弥三兵衛申合宜取計可申旨十大夫殿被仰渡則弥三

兵衛及対談候処講元共取計之義近来世上^(ト云)訛判も有之^ニ付当年^者講元転可然由御用所思召^一共被申聞彼是及相談候

四月十五日

同 十六日

一 米相場書付差出ス御蔵米七拾壹匁町米六拾七匁

一 牢番松岡佐助妻今朝出産女子出生之由届出候

一 明後十八日宮川大橋渡初^ニ付見物人等可為群集候間材木町橋本町年寄共罷出万端心付候様可申付旨大年寄へ申渡且又橋東西^江同心組兩人宛為警固指出候様小頭^江申付候

四月十七日

一 町馬為見分同心小頭部屋目附大年寄孫右衛門宅^江差遣無相違見届候由毛付帳面取罷帰

一 播州粟草郡山崎光福寺往来手形所持泰順と申僧伯州^江足痛^ニ付送
出今晚当町^江送来候由^ニ付早速町分送出候様大年寄へ申付林田村
へ送遣則十大夫殿^并舍人^江以手紙御届申達候

四月十八日 御用日

一 宮川大橋渡り初今六時過藤屋村平作^并子孫共三夫婦罷出無滞相濟候由同心四人警固相勤五時罷帰

一 六半時林田長沢清左衛門居宅出火^ニ付火元^江罷出候尤早速相鎮候付町人足共引取候様申付拙者儀帰懸御用番十大夫殿御宅^江御届申達候

一 牢番松岡佐介血忌差免候間明日^ハ出勤候様可申付旨小頭左五兵衛^江申渡

一 万人講講元之義去ル十四日井上弥三兵衛対談之趣^一付拙者存寄之趣今日弥三兵衛へも申談御用所へ及御沙汰候処吟味次第申付候様被仰渡則左之通大年寄へ申渡

講元申付候万端念入相務

尤諸入用等随分相減候様

勘弁可取計候

万人講下世話申付候諸事
念入可取計候

若松屋善左衛門 今屋伝介

浜野屋宗兵衛 佐和屋茂介

高屋屋藤介 今屋和七

浜本屋喜介

講元差免候是迄暫相勤大
儀^ニ候尤去歳之残札預り
置候分此度申付候講元共
へ可引渡候

八百屋平左衛門 三津屋平右衛門
味噲屋理左衛門

一來ル廿三日^ハ一宮市町^ニ付例年之通町方触書指出ス

四月十九日

同 廿日

四月廿一日

一 御帰城御道筋東新町^ハ京町迄為下見分同心小頭^并大年寄今日罷出ル

一 当冬万人講日取建札講元共伺書大年寄より差出御用番^江相伺十月十五日^ニ相極建札致候様申渡尤其段大目付中^江も以手紙申達郡代中へも申遣ス

四月廿二日

一 一宮市町^ニ付来懸り曲馬見せ物新職人町吉田屋平助同五六人連入形芝居伏見町田中屋源吉^{□□□□}五六人万歳河原町山形屋新太神主^ハ被相頼候間罷越世話仕度旨願出承届例之通一札申付候尤翌廿三日御用所^江一通り及御沙汰候

四月廿三日 御用日

一 酒直段之義去冬以来米高直^ニ付只今迄之通^ニ而ハ惣酒屋共甚難儀仕候由依之直段上之義願出去ル十八日御用所へ及御沙汰大目付中^江も申達候処今日御聞届相濟是迄之直段^ニ卷分上申付候段大年寄

へ申渡但是迄並酒老奴諸白老奴二分也

一宮田植祭ニ付同心共指出何之相更儀無之由尤以後日々兩人ツ、
出ス

四月廿四日

一京町滑屋庄七不勝手ニ付古道具具取売商売相止同町田原屋佐介右商
売致度旨願出承届

四月廿五日

一於江戸表去ル十六日從兩御丸以上使御国元江之御暇被仰出御拝領
物例之通之由右為御歎明廿六日御帳付候間辰中刻今已中刻迄之内
登城候様御奏者番中今廻状到來尤右之趣大年寄江も申聞候

一京都河井十右衛門手代勝部善八ト申者上下式人用事ニ付夜前当地
江罷越五六日計京町味噌屋理左衛門宿仕度断出承届

一於江戸於秀様御事去ル十五日御知様ト御改号被成候旨申來候間右
御名ニ指合候名并文字相改候様被仰出候由大目付中今廻状來同心
牢番三軒屋番へ申渡町方ニ而茂為心得年寄共江申聞候様大年寄江翌
廿六日申渡

四月廿六日 御用所御出席

一御暇被仰出候御歎御帳附諸士登城

一英田郡川北村四郎兵衛ト申者家内三人此度西新町岸屋茂介引請当
所居住仕せ度旨願書并向方庄屋手形相添差出御用所及御沙汰承届
之尤大目附所へも「」達四月廿九日引越書出ス

一御帰城前二階町今材木町迄裏通御堀端石垣之草取七候ニ付御堀江
足代下シ候儀申出御用所并大目付中江申達置勝手次第致候様大年

寄へ申渡

四月廿七日

一米相場書差出御蔵米六拾九匁五分町米六拾五匁五分
一一宮市町江五人連之輕業參懸り神主今相頼候間橋本町村屋利八罷
越致世話度旨願出承届例之通一札申付ル

四月廿八日 御用日

一林田町茅野屋伊助家屋鋪表口式間裏行拾五間但半役之所代銀札百
四拾目ニ相極此度同町上田屋市次郎江売渡申度旨願出承届同廿九
日本証文出ス

一京町吉田屋喜八去ル亥二月銀札五百匁取次小性町藤屋源助へ借遣
尤家屋敷書入町内年寄組合印形之証文取置并源助家買請候節之売
券状共預り置候処子四月以來利分相滞段々及催促候得共筋立不申
ニ付去丑十一月訴状差出其以來大年寄今度々内済之儀申聞候へ共
兎角不相濟此間も源助呼出段々申渡候得共不束之申訳「」致候由
依之右訴状大年寄指出候ニ付委細様子承届候処源助家屋鋪書入銀
札借用返済相滞候段全無相違相聞不埒之趣ニ付今日今三十日切急
度返済方筋立候様可申付之旨孫右衛門江申渡

四月廿九日

五月

御用番 下村友右衛門殿

大目附月番 太田舍人

五月九日「」

大年寄月番 藏合孫左衛門

五月朔日

一明二日四時修理様二宮江御遠乘御道筋例之通之旨宇津木弥右衛門

合申来如先格申付候様大年寄へ申遣

五月二日

一 於江戸去月廿一日浅草火御番御代佐竹右京大夫様へ御引渡無滞相
濟同廿二日明六時御機嫌能被遊御発駕木曾路御旅行無御滞候得者
来ル十日勝間田駅御泊^ニ而十一日御城着御積り之由御帰城前火之
元^并喧嘩口論ハ慎^一儀大目付中^ハ廻状到来同心組牢番三軒屋番
へ申渡

一 蔵合孫左衛門川下物大切手例之通裏印加遣ス

五月三日 御用日

一 西新町李屋茂兵衛借家ニ罷在候福岡屋弥介夫婦此度林田上之町平
助後家屋敷相調引越度旨願出郡代中申合承届

一 勝北郡田熊上村文内倅伝兵衛ト申者此度ニ階町大坂屋作次引請^ニ
而^ニ当所居住仕せ度旨願書^并向方庄屋手形共差出尤伝兵衛儀きせる
細工人之由御用所及御沙汰承届之大目付所へも相達

一 御帰城前ニ付来ル六日御道筋見分罷出可申段御用所^江及御沙汰大
目付中^江御貸人馬之事申達候

一 一宮市町明日切引^二付例年之通惣町触書^并非人頭へ申渡之書付
共孫左衛門へ相渡

一 来ル十一日御城着御日取^ニ付例格之通惣町触書差出ス

一 江戸去月十七日立馬拾式正之先触到来之由勝間田駅馬少間合不申
^ニ付当町^ハ八疋差越呉候様大年寄へ頼来候旨申出則指遣候様申付

候尤御先立之面々先触ト相聞候

一 御城着之節是迄^者町分御入之註進のミ此方^ハ取計来候処御城内御

手筈ノため京町^江被為掛候節今一度御註進申候様可取計旨大目附

井上弥三兵衛被申聞同心共不殘勤方役割有之候得共猶亦とくと相
しらへ候上人^一不足^ニ而難取計候ハ、可及御相談旨申達置候

五月四日

一 一宮市町例年之通今日切引^二同心共見届罷帰尤いつ方へも不相届
先格也

五月五日

一 御先立之面々今日到着之由

五月六日

一 御帰城御道筋東新町^ハ京町迄之間為見分罷出ル尤同心小頭^并大年
寄忝人諸吟味役忝人如例付添罷越供人左之通

馬脇同心式人 馬^口取 鎗挾箱合羽籠持^{中間} 草り取^一人

一米相場書差出ス御蔵米六拾七匁五分町米六拾三匁五分

一去丑正月同十一月万人講殘雖五本分銀札五貫^一 忝分先講元^ハ
引渡請取候旨今般之講元共^ハ申出^一 当役所へ相納候様申付今日
右銀札大年寄孫左衛門^ハ指出算笥之内^江納置之

一 御帰城之節宿馬不足^ニ付当所^ハ御迎馬三十九疋指越呉候様勝間田
駅^ハ頼来候由大年寄申出依之郷中寄馬之儀郡代中へ被申談候様大
目附中へ申達尤十七疋寄馬被申付候様郡代中^江も及通用但^二三疋殘
馬ノ積也^一 且又上届數ハ三十三疋領來候由

五月七日

一 一宮市町中指出候同心共廿式人分并当代銀札拾三匁式分小頭左五
兵衛^江相渡ス

五月八日

一 来ル十一日御城着ニ付卯中刻登城前格之場所へ可相詰尤家督御札不相濟面々者罷出間敷旨御奏者「」中今廻状到来

五月九日 登城

一 御用所今日夕御出席大目附所泊相始ル

一 伏見町筑後屋義八儀久米南条郡種村兵介娘民「」申女此度娶申度旨願書并方庄屋手形共指届之

一 宮脇町土佐屋藤右衛門家屋鋪表口四間裏行拾壹間但式歩五厘役去ル戌十一月質物ニ入三丁目福谷屋伝介取次ニ而銀札借用之処此度

元利返濟家屋敷請返候段断出

一 右家屋鋪此度代銀札壹貫五百目ニ相極同町房屋喜兵衛へ壳渡申度旨願出承届同十日本証文出ス

一 勝間田駅今此間馬之儀三拾九疋頼来候処内六疋相減「」三疋差越

吳候様今日申来候由大年寄申出左候得者「」之内六疋無用之筋ニ

相成候間即刻御郡代江為知遣候得共取早此間申付候馬数相集土居駅江も今昼今差遣候趣ゆへ致方も無之段返答申来

五月十日 登城

一 明日御城着ニ付拙者義例之通林田町はつれへ罷出并大年寄共如先格右同所罷出候段御用所及御沙汰

一 三町目并筒屋嘉吉所持之他国請酒株当寅歳今已歳迄四年之間東新町八木屋善七借請致商壳度旨断出承届

一 細工町太左衛門忰権兵衛義西川権兵衛卜名乘渡部惣右衛門殿へ出入奉公罷出度ニ付町内人別除願出承届

一 桶屋町横丁南側作人利八屋鋪地表口三間裏行拾壹間但半役之所代

銀札拾匁ニ相極新職人町村田屋七藏へ壳渡申度旨願出承届之同十六日本証文出ル

一 材木町大工源五郎藤兵衛藤三郎伊介政次郎幸七普請方「」相頼京都堂檀才之神町近江屋庄兵衛方へ罷越度尤往来逗留共四十五六日計之願承届

五月十一日

一 今九時御機嫌克被遊御城着候尤拙者儀六半時今立宿東新町茂渡藤右衛門宅へ出張罷有御通之節升形之外高福寺道筋之場所北側江罷

出御供頭名披露被致御目見申上并大年寄共升形際北側江罷出候右早而拙者義御跡「」登城御用席江罷出御歎申上御奏者大目付所へも

及挨拶退出後御家老御年寄中御宅へ御悦廻勤今日拙者供人如左

馬脇 同心 式人 馬口取 鏈挾箱合羽籠持 割場 草り取手人

同心出方左之通

御先弘 小頭共 三人 但小頭 小紋羽織着 掃除見分 式人

京町人留一人 供式人 屋敷番一人 但当年一人不足 付書役 町分御見之注進一人 京町被為懸候註進一人 但此兩人御玄關前ニ而

所へ届候様申付ル 高声呼り夫今中奥目付

五月十二日 登城

一 今日大般若御執行延引来ル廿日御執行之由大目附中今被申聞一坪并町高砂屋安右衛門近來不勝手ニ付忰兵助儀大坂西横堀瀬戸物

町大坂屋忠兵衛方へ当寅歳今三年切奉公指遣度之旨断出承届

五月十三日 登城

一 銀札場錢相場老奴^二七拾三文替相成候旨大年寄^一届出候

一來ル十五日御目見被仰付候間麻上下着用辰中刻登城可致^并嫡子之面々同日御目見被仰付候旨御奏者中^一来

一大坂久宝寺町尾張屋七兵衛手代権兵衛上下八人今般御帰城御用^二付罷越候間逗留中京町綿屋源七宿仕候段断出承届

五月十四日 登城

一 百姓共結徒党企強訴^者逃散之類前々^一御法度之事^二候已後右之類^一於訴出^者銀百枚ツ、可被下段御料^者御代官私領^者領主地頭^一相触高札有之場所^者高札^二認相建可申旨今般從公儀被仰出候由大目附鈴木此右衛門^一昨日書付被相渡則惣町相触候様大年寄^江申渡尤御家中^江も為御知之廻状到来委細触書留^二記置

一 去年從公儀人相書を以御尋有之候神田金沢町弥兵衛店茂八妻を切殺逃去候召仕喜介事於羽州秋田領被召捕候間不及相尋旨被仰出候由大目付中^一廻状到来惣町へ相触同心組^并牢番三軒屋番^江も申渡一町方夜廻^并非人加廻り之儀近来静謐相聞候間先相止候様大年寄へ申渡尤御用所大目付所へも其段及御沙汰置

五月十五日 登城

一 諸士御目見被為請辰中刻登城当役も今日^者表^二御目見仕尤内山下向廻勤無之且又五節旬月並御礼等去々年之通被仰付候由御奏者中^一一統演說有之

一 去月十九日於江戸御暇之御礼被仰上御馬御拝領被成候右飛脚延着之由^二大目付中^一今日演說有之

一 山田主水殿織部殿^一改号下村友右衛門殿権右衛門殿^一改号之由大

目付中^一演達町方^江も為相知候様大年寄へ申渡

一 先達^而宮川大橋御普請^二付大坂^一罷越候大工之内与兵衛^一申者逗留中致博奕散々打負難罷帰由^二先頃棟梁初大工^一帰候砌も爰元^二相残候由於大坂与兵衛母殊外相歎候間何とそ御国町在^二不差置様被仰付被下度旨棟梁^一大坂御屋敷へ願出尤林田土手孫一方^二居申様相聞候由此間役人中^一勘定奉行へ申来御用番へ内々及御沙汰候処御用所不及御評議候町奉行申合何分与兵衛儀未当所^二居申候ハ、追立候様可取計旨一昨日友右衛門殿御挨拶^二付内々目明^一十右衛門へ申付早速追立させ候様小頭^江申渡然ル処先日頃孫一方^二罷有其後又々一宮^二博奕打負甚難儀之^一ゆへ彼是致世話路銀少々拵遣一昨朝幸之道連も有之当所出立罷帰候由昨晚目明し十右衛門申出候旨小頭左五兵衛^一承之

五月十六日 登城

一 明十七日四ツ時御供揃御社參御仏詣被成尤田町御門^一大熊勘ヶ由殿横通高石垣通地藏院^江御出夫^一古谷加左衛門屋敷前久原三益前通西大番所前西今町同横丁通泰安寺^江被為入御帰大番所前^一田町中筋通御通行之由中奥目附堀江左膳^一申来町分掃除人留等先格之通申付候様大年寄へ申渡御先^一組之者へ申付候

五月十七日 登城

一 四ツ時地藏院泰安寺^江御參詣^二付当役^并勘定奉行御郡代七間廊下御通筋^江相詰候尤町分同心共差出御先^一弘無滞相勤ル

一 「十八日御出^二付御用所出席無之由大目付所^一坊主触来ル

一 銀札場御用錢八拾箇備前岡山^江積下候^二付川筋通手形式通裏印之

義奉行中ハ申來則印形加遣ス

五月十八日

一同心組中山市左衛門無扱用事ニ付播州乃井野江罷越度往來四五日計之暇小頭左五兵衛を以願出先格も有之儀故承届

五月十九日 登城

一 大年寄共義先格之通御席を以御目見被仰付候様仕度旨御用所江及御沙汰置候

一 明廿日四ツ時地藏院御仏詣田町御門ハ例之御道筋「」中奥目付中

ハ被申聞先格之通二階町元魚町人留申付候様大年寄江申渡

一 町中宗門改帳并添証文案詞共宗旨奉行村井六之進「」相廻則大年

寄孫左衛門江相渡し置

五月廿日 登城

一 大般若御執行ニ付六時過ハ登城宇治橋間江相詰転読相濟御拜被遊

早而御家老以下中奥目付ニ至迄席順拜礼仕退座御奏者大目附御用

席江罷出引統当役罷出無滞相濟候段申上ル御礼供物例之通勤者所

ハ來ル外ハ十一枚受取同心共へ遣ス

一 四ツ時地藏院御仏詣ニ付町奉行勘定奉行御郡代例之通七間廊下江

罷出候尤先格も有之ニ付拙者儀麻上下ノ俣ニ罷出ル

五月廿一日 登城

同 廿二日 登城

一 式町目尾高屋宇兵衛方ニ去ル西歳ハ逗留仕せ候伯州日野郡福永村

八重都卜申座頭此度国元江差戻候旨断書差出

一 二階町山手屋弥右衛門借家鉄屋九兵衛方江勝南郡木知原村「」都

卜申座頭此間罷越候処所々療治被相頼候間五十日計逗留為致度旨断書差出承届

一 玉置忠兵衛義用事ニ付往來共五十日計逗留之願ニ先達而致上京候処今以用向相濟兼候間今三十日計日延之義悴広四郎ハ願書差出承届

届

一 材木町大花屋与右衛門家屋鋪表口式間半裏行拾七間但半役之所此度代銀札式百目ニ相極伏見町紙屋次介へ壳渡申度旨願出承届同廿九日本証文出ス

五月廿三日 登城

一 二階町石松院例年之通來月七日ハ十四日迄施主有之夜「」守護神

へ燈明とし度并為祈禱護摩致執行度旨寺社奉行所へ願相濟候由断書差出承届

断書差出承届

一 船頭町仲屋六次郎所持家屋鋪長沢清左衛門へ貸申度旨断出承届之

五月廿四日 登城

一 米相場書差出御藏米六拾九匁町米六拾五匁

五月廿五日 登城

一 同心中山市左衛門義昨夜乃井野ハ罷帰候由届出ル

一新魚町三角良甫義先達而相願大坂表へ罷登候処用向未相濟ニ付今三十日計日延同人妻ハ断書差出承届

三十日計日延同人妻ハ断書差出承届

一 林田町山本屋与三七妹くま義英田郡倉鋪村入田屋此右衛門妻ニ差遣申度ニ付町内人別離願出承届

遣申度ニ付町内人別離願出承届

五月廿六日 登城

一 伏見町南側備中屋甚七家屋鋪表口式間半裏行廿一間但半役之所代

銀札式百五拾目ニ相極京町志賀磨屋新七江壳渡申度旨願出承届六月四日本証文出ス

一 備前岡山中之町真嶋屋太平次ト申万紙類御壳致候者慥成ものニ候間此度御当地出入仕せ度尤堺町西川屋善介宿仕度旨願出新株之儀
二 者 候得共町方故障之筋も無之趣ニ付願之通承届

五月廿七日

一 拙者義不快ニ付不致出勤山岡与左衛門を以大目付中へ御断申達候
一 林田町山本屋与三七女五人川筋通手形裡判願出印形加遣ス
一 夜八時過御用所御出席之由大目附鈴木此右衛門以廻文知せ来即刻罷出候処早速御退出ニ付致下城候右者於江戸表御知様御様鉢御指重ク被成候趣去ル廿一日出飛脚今夜到来ニ付御出席有之由相聞候

五月廿八日 登城

一 今日御不快被成御座候ニ付御居間月並御礼不被為請旨被仰出候由大目附太田舍人被申聞
一 大川筋水増鍛冶場前船渡相止候段四ツ時辺大年寄者申出則御用所并大目付所江御届申達候

一 材木町作人平八借家ニ罷在候長四郎此度林田村金七借家江引越申度旨願出郡代中申談承届之
一 明廿九日修理様御仏詣御延引之旨宇津木弥右衛門者申来大年寄江申渡

一 町方溝筋為見分同心小頭部屋目附昨今指出并大年寄も罷出候由差而相更義無之段何届出候

五月廿九日 登城

〔 御風氣ニ付明朔日御礼不被為請旨御奏者中者廻状到来

六月御用番 渡部惣右衛門殿 大目附 当番持

大年寄月番 斎藤孫右衛門

六月朔日 出仕

一 江戸表者御役人石原兵大夫今四時過到着御知様御病氣御養生不被為叶去月廿一日御卒去被成候旨申来依之来ル十一日迄鳴物高声御停止普請者来ル四日者不苦之旨大目附中者御触書到来同心組牢番三軒屋番江申渡惣町江触書差出尤先年秀山院様堂光院様御不幸之砌町方自身番不申付趣ニ候得共此度ハ御家中へ火之廻り等も被仰付候由ニ付右ニ准シ伺之上自身番申付候且又當時御在国ニ而御中陰之事ニ候間御家中屋敷へ魚鳥充廻り候義差留可然由惣右衛門殿被仰渡則其趣申付候委細触書留帳ニ記置之

一 御知様御卒去ニ付明二日為御悔御帳付候間已刻者午刻迄之内登城候様御奏者市村数馬者廻状到来尤縵子肩衣着用候様申来右ニ付大年寄初御悔廻勤候様申渡但着服之儀伺出町人共之事麻上下着用可然段及指図

一 川筋水減鍛冶場前船渡始候段今八時過大年寄者届来御用番并大目附所へ以手紙御届申達候

一 伊勢屋長右衛門悴文次義用事ニ付大坂過書町松屋甚兵衛方へ往来共三十日計ノ逗留罷越度旨願出承届之

六月二日 登城

一御知様御卒去御悔御帳付諸士褌子肩衣着用出仕尤退出後御家老御年寄中御宅江廻勤

六月三日 登城

一明四日修理様御仏詣御延引之旨宇津木弥右衛門申来大年寄江申聞候

一夏中町方之者共涼候儀ニ付例年之通触書指出ス

一雲州松江燈心町徳三郎卜申者西国順礼罷出候処於道中病氣歩行不
相叶播州飭西郡下手野村申送出候由今晚林田村申送来候由ニ付町
分早速送出候様大年寄へ申渡押付送相濟候段申出御用番并大目付
所江以手紙及御届候

一宮川仮橋辺ノ河原ニ野臥躰之坊主相果居申旨橋本町申註進大年寄
申出大目付構場所之義故為知申遣然ル処番人付候様可取計旨夜ニ
入鈴木此右衛門申来則□□□□非人共へ番申付候様大年寄江申
遣但御徒目付下目付見分被仰付候処伯州洞善寺弟子之由往来手形
所持罷有候ニ付寺社取次江被仰付洞善寺江文通有之由承之

六月四日 登城

一今日御仏詣無之

一明後六日御膝中為御機嫌伺御帳付候間已刻今午刻迄之内平服ニ而
可罷出旨御奏者市村數馬申廻状到来

一於知様御事晴雲院様卜奉称右御法号今七時泰安寺江被為入候間町
分御先弘同心共麻上下着用可差出旨大目附鈴木此右衛門被申聞尤
作事御門今田町通西大番所今蘭田町江御通之由則掃除之義大年寄
へ申遣御先弘同心藤森喜代次三船孫八差出七ツ時過無滯相濟

一宮川行倒僧死骸仮埋被仰付候間取計宜申付旨大目附鈴木此右衛門
今夜申来即刻登城何角及相談候上右死骸桶ニ入鍛冶場向河原惣
墓之場所江埋置候様尤非人共取計ニ者難申付候ニ付町方ニ而平日葬
埋取扱候者江申付并橋本町年寄ニ而茂立合籠畧無之様取計セ可申旨
大年寄呼寄申渡但短夜故今夜中埋候場所掘立置明早朝埋候様可致
段申合候將又右諸入用町役ニ而可致筋無之ニ付此分者追而上今御弘
被遣候積此右衛門へ申達置

六月五日 登城

一宮川行倒旅僧死骸今朝仮埋取計為見届同心神田權兵衛差遣四ツ時
前相仕廻罷歸其段大目付所へ申達候尤非人共番之儀先其俣申〔一〕
置候

一藏合孫左衛門川下物大切手例之通裏印加遣ス
一来ル十二日清雲院様御三七日ニ付於泰安寺一夜別時御法事被仰
付候旨大目付中今廻状到来同心共牢番三軒屋番へ申渡町方江茂同
断尤十一日迄者御中陰ニ付自身番相勤候様此間申付置候間右御法
事ニ付十二日迄自身番可相勤旨今日相触ル

一同心河端又六義無扱用事ニ付五六日之逗留ニ而明後日近在へ罷越
度旨小頭を以願出承届

一戸川町村瀬幸寿家屋鋪表口式間小半裏行拾七間但半役之所質物ニ
書入同町文五取次ニ而銀札三百目来卯ノ二月切借受申度旨願出承
届同七日日本証文出ス

六月六日 登城

一来ル十二日御法事ニ付宵朝今町辻固同心共指出町方自身番申付候

段御用所及御沙汰大目附中^江申達置

一來ル十二日町会所講釈日之処御法事ニ付当月^者十三日夕相始候旨

大目附中被申聞小頭^并大年寄^江申渡

一御藤中御機嫌伺御帳付諸士登城但平服也

一鍛冶町源五郎新右衛門岩介定吉徳次郎与蔵六之丞文吉喜右衛門喜平次鉄之介甚吉讚州金毘羅參詣願出承届

六月七日 登城

一米相場書差出ス御蔵米六拾七匁町米六拾三匁

一万人講ひ、る場只今迄町会所相用候処場所不宜候間此已後外場所

^二而取計候様御用所思召之旨先日太田舍人被申聞依之已後^者講元共宅之内向寄宜方ひ、る場^二取計候様大年寄へ申渡

一御用達町人六人宗門帳組合之義大年寄伺出候諸吟味役も町内組合離居中事^二候間御用達共も組合離可相認旨申渡

一京町菊屋清左衛門方へ越中富山板屋理兵衛役介善次郎嘉兵衛と申兩人此間罷越候間当十月迄召抱置売葉仕せ度旨願出承届

一元魚町河内屋安兵衛家屋鋪表口六間裏行六間但三歩役^并土蔵式ヶ所共去ル亥十二月質物^二書入式丁目小倉屋茂兵衛取次^二而銀札志貫五百目借請候処此度元利返済家屋敷請返候段断出ル

一 下紺屋町原田屋佐七家屋敷表口式間裏行拾七間但四歩役之所代銀札式百匁^二相極同町作人幸七へ売渡申度願出承届同十四日本証文出

一 下紺屋町中ノ横丁東側米屋九兵衛家屋鋪表口式間裏行拾壹間但壹歩五厘役之所代銀札百八拾目^二相極同町作人弥助へ売渡申度旨願

出承届同十四日本証文出ル

一 船頭町今津屋孫十郎義用事^二付芸州竹原たはこ屋源右衛門方へ往来共三十日計之逗留^二而明八日出立罷越度願出御蔵元御用向差支も無之儀^二候ハ、勝手次第罷越候様大年寄へ申渡

一 二階町石松院疱瘡守護神燈明^并護摩執行之儀先月下旬断出承届候処此節御中陰^二付延引来ル十二日夕十八日迄執行仕度旨寺社奉行所へ相願候由猶又断出承届

六月八日 登城

一 今日御仏詣無之

一 川口藤十郎義用事^二付備後鞆大坂屋方右衛門方へ往来共廿日計之逗留^二而来ル十日出立罷越度旨願出承届ル尤帶刀も致候者之義故翌九日御用所へ一通り及御沙汰候

六月九日 登城

一行倒僧之義寺社取次^ハ伯州間合有之処洞善寺弟子^二左様之もの無之旨返答申来候由大目附中被申聞依之取早非人番引セ候様大年寄へ申渡尤右僧所持之衣^并古張籠等之儀御用番中へ及御沙汰候上非人共へ差遣ス

一 新魚町野田屋兵吉借家作人文次郎妻今晚川端へ洗濯^二罷越不計踏落よほと流候由新職人町音八ト申者見付吹屋町鍋屋裏通^二而引上追々人集致介抱折節河本栄昌通懸り針致水抔吐セ候内大勢及群集夜廻同心市左衛門権兵衛聞伝早速右場所^江罷越彼は見計及差図夫文次郎かけ付畳持參候^而載帰即刻河合友益呼^二遣様々致介抱候由右女元来打穴村出生之者近年当所へ奉公罷出居申候処下紺屋町吉

兵衛媒^ニ美濃職人町五八親分^ニ成文次郎方^江娶候由此間少々不快
罷有候処今夕不計右之仕合其外何之心懸り無之趣相聞候旨同心兩
人九ツ時届出候

六月十日 登城

一昨夜川流之女正氣も付段々快候由夫文次郎断書差出尤御用所^并大
目付所へも一通り及御沙汰候

一新魚町釜屋太郎左衛門姪義先年美濃職人町三好屋三郎兵衛方へ嫁
居申候処三郎兵衛不勝手^ニ付身上持ノため四五年以前役介召連大
坂^江罷越候然所彼地^ニ而度渡世難成哉双方相対之上今般致離縁娘兩
人召連罷帰候間太郎左衛門引請役介^ニ仕度段願出承届

一 下紺屋町不動院方例年当月七日夕十四日迄祇園会之処此度御中陰
^ニ付延引間六月七日夕十四日迄御戸開致執行度旨寺社奉行所へも
相願候由断書差出承届

一 堺町南側^ニ而林田屋庄右衛門所持家屋鋪表口拾老間裏行拾七間但
式軒役裏^ニ東西九間式尺南北七間九尺之空地三步役之場所共代銀
札三貫三百目^ニ相極元魚町油屋文六^江壳渡申度之旨願出承届同十
三日本証文出ル

六月十一日 登城

一 今明日晴雲院様御法事^ニ付今町辻固之事小頭^江申付今日昼廻り同
心共直^ニ辻固相勤無滞相濟候由作右衛門権兵衛暮時前届出ル

一 明十二日四ツ時泰安寺^江御仏詣御道筋例之通之由中奥目附中被申
聞掃除人留之事大年寄へ申付御先弘之儀小頭へ申渡

一 大道具ノ者御駕籠之者此度被召抱候間如例町方相触候様大目付中

被申聞候^ニ付望候者有之候ハ、来ル廿日迄^ニ中間割場^江可申出旨
惣町^江触書孫右衛門へ相渡

一 晴雲院様御法事御布施^并御百ヶ日分共頂戴仕度自他領座頭共相願
来ル十四日罷出候趣配當場兩人夕願出候由大年寄申出候^ニ付御用
所及御沙汰候御聞届尤先格之通御百ヶ日分^者半減可被下之旨惣
右衛門殿被仰渡則其段大年寄^江申渡將又今般^者右之通被下置已後
御年廻^ニ者不被下置候間其旨申渡候様孫右衛門^江申付候但右銀札
例之通札座取替之義通用致被吳候様勘定奉行中へ申談

六月十二日 登城

一 四ツ時泰安寺^江御仏詣被遊如例町奉行勘定奉行郡代七間廊下^江相
詰ル且同心共御先弘辻固兼相勤無滞相濟

六月十三日 登城

一 明十四日四ツ時泰安寺へ御仏詣御道筋例之通之由中奥目附中被申
聞則同心小頭大年寄へ先格之通申付候

一 大年寄共明後十五日御目見被仰付候旨御奏者市村数馬^一申聞則
藏合孫左衛門齋藤孫右衛門へ連名^ニノ以奉書申遣ス尤差上物之事
小勤者三浦十郎左衛門へ相頼御門通行之儀中奥目付堀江左膳^江申
達置候但玉置忠兵衛義^者當時他行故無其儀

六月十四日 登城

一 四ツ時泰安寺^江御仏詣被遊如例町奉行勘定奉行御郡代七間廊下^江
相詰ル且又同心兩人町分御先弘無滞相勤ル

一 晴雲院様御卒去御法事^并御百ヶ日分共御布施都合巷ツ半之分自他

領座頭警女^江被下置今日何^茂頂戴^ニ罷出如先格同心小頭部屋目附
差出於配當場割渡無滯相濟

銀高老貫百三拾壹匁 惣人数百九拾五人

但配當場役料 書役筆墨紙入用共

一安岡町坪屋太吉義和助卜致改号度^并印判相改度旨願出承届

一伏見町高田屋新右衛門兄弟德兵衛儀当国勝山町に罷有候伯父笹屋次

右衛門相果候跡為相統罷越吳候様申越候^ニ付当所人別離差遣申度

旨新右衛門願書指出承届

一甚大夫義御用之儀候間明十五日四時可致登城旨御年寄中連名奉書
到来

六月十五日 晴

一昨日三平儀御用之儀候間今日四つ時登城可仕之旨御年^{寄次力}中連名奉

書来ル今日登城之上於御居間御用儀安藤酒造^{（マツ）}之助殿大熊勘解由殿

御年寄下村権右衛門殿古田織部殿大橋十大夫殿渡部惣右衛門殿列

座^ニ而三平へ御意ヲ以格式物頭町奉行役被仰付候入念可相勤候役

料付人並之通被下之候之旨被仰渡候御請御家老中^江申上退座大目

付井上弥三兵衛御書付被渡引統御用所^ニ而面謁大目付同人同道

也

一例之通御席^江罷出候上清雲院様御卒去^ニ付百日分御布施座頭共相

渡人別銀高去ル十四日書面之通惣右衛門殿^江申上ル

一先達^而追払被仰付候東新町鍋屋儀右衛門他処^ニ罷在候所同人娘大

病^ニ付右之者縁類坪井町小^一屋茂右衛門方引請養生致遣し度尤

先達^而高福寺願出御聞届相濟候儀^ニ付坪井町同人引請預候儀申上

御聞届相濟候

一甚大夫儀大御目付^ニ被仰付候

一今八つ時先役甚大夫之組之者前例之通書付を以引渡石名平太兵衛
出座勿論町奉行所諸道具等引渡面談相濟

十六日 晴

一御役神文大御目付所^ニ被仰付御使番後藤清藏中奥御目付西尾多

内大目付永井甚大夫出会尤昨日井上弥三兵衛之右^ニ付手代申来ル

一同心組夜中通札壹枚小者同通札壹枚三平証文^ニ致し甚大夫へ古証

文中奥御目付西尾多内之受取返消ス

一諸帳面諸道具今日同心共立合引越尤取繕之内甚大夫宅預ケ置候品

も有之候後日可相請取

一久世御代官所手代山本善藏長坂左四郎へ吉原御番所川下物役所印

鑑差遣ス

一小桁御番所へ同断印鑑遣ス

十七日 晴

一御用番渡部惣右衛門殿於御次残り錐銀札員數御勘定奉行中へ対談

申上相廻候上預り書面役所へ取置候様被仰聞^{（マツ）}則刻栗田唯次へ申

談尤先役永井甚大夫^江及通用候

一久世御代官所へ相廻し候印鑑一件今日返書到来扣^ニ写之

一前条^ニ有之殘錐銀札即刻栗田唯次へ持参送り相添尤御勘定奉行中

不殘宛^ニ致し預ケ置預り手形別に有之此一称候ハ甚意味合もの^ニ

付其旨疾^与申談置候

十八日 晴

一例歳御堀掃除料之儀今日孫右衛門申渡置

一小性町小寫屋源六千ヶ寺參願今月十九日立往來百日計逗留

十九日 晴

一明廿日四時御供揃^ニ而地藏院^江御仏詣被成候^ニ付右取計候様中奥目附中^ハ被申聞候^ニ付二階町元魚町^江人止之儀大年寄共^江申渡ス

一伏見町中田屋嘉七明後廿一日出立四国^{マツ}偏路仕度百日計之願聞届ル

廿日 昼後白雨

一明五ツ時御供揃^ニ而修理様泰安寺^江御仏參被成候旨馬場喜内^ハ為知手帛即日大年寄共^江申渡ス

一御堀掃除料先百匁御作事方^江渡ス

一去ル十四日相渡候座頭共へ御布施銀札高^并人数之書付大御目付永井甚大夫^江出ス

一旅籠屋改肥後屋治兵衛兼^而病氣之処今朝相果候よし大年寄共^ハ届出承置

一先達^而播州完粟郡之泰順と申僧^ハ其地へ送り候処村役人立会吟味之上似僧故則一札を取追申候間村中^ニ下^ニ印形致し道々無違滞伯州会见郡車尾村迄届送り候様廻状到来^ニ付其旨^ニ取計候由大年寄共^ハ申出

一大道具御駕籠之者寄人之儀先達^而触出取計置候所茅町伊助^与申者三十二歳^ニ而申出^ハ「」

一当四月廿八日^ニ記有之候京町吉田屋喜八^ハ小性町藤屋源助へ家質取之去ル亥ノ二月銀札五百匁取次借遣候処子ノ四月以来利分滞り

筋立^ハ「」之去丑十一月訴状出し一件是迄三十日之日切も筋付不申

剩五十日之日延之儀願出候趣^ニ付甚法外之致方其下^ニ致置かたく

勿論先頃^ハ御中陰も日積り之内^ニ候之間了簡以憐^{マツ}想を以当月切^ニ

急度濟口致候様大年寄於宅今日石名左五兵衛立合申渡させ候

廿一日 昼頃雨少し

一中之町福茂や武助^ハ播州姫路龍野町和泉や孫兵衛^与申者老人小間物売之宿仕度旨願出ル

一同人^ハ播州網干新在家村海老すや甚次郎手代^ハ「」塩もの鰹ぶし売宿仕度宿切手出ル

一二階町境屋伊右衛門^江御鶴足痛候^ニ付療治之為御預被成候処大切之もの^ニ候間境町新魚町^{マツ}二階町元魚町此間飼猫く[、]り候様^ニ申付

呉候様申出大年寄飼出候^ニ付^ケ様之儀還^而思召^ニ叶申間敷旁存寄扣大御目付太田舍人迄及噂置被取上何分大切^ニ存候儀左も可有事^ニ

候得^者役所^ハ甚取計致かたく候^ニ付預り之儀^ニ申付候先方^江伺可然之段右伊右衛門^江申聞候様大年寄^江申含メ置候

一明廿二日八半時之御供揃^ニ宮^江御遠乗被仰出候御道筋京橋御門^ハ境町元魚町夫^ハ真直に西今町寺町安岡町御通被成候之旨則刻御先^ハ且大年寄取計之儀手紙^ニ而申遣ス

廿二日 晴

一寄七人安岡町作人宇助と申もの申出る中奥目付中^江及通達候

一職人まち瀧本屋五郎右衛門借地作人太助と申者へ從弟之由長吉と^{マツ}と申者割場^江申込候由相聞候^ニ付大年寄共存寄^ニて問合させ候処

土岐美濃守殿領分之者之由町内人別は無御座候年寄共申候由追^而

心得ニも相成候ニ付瀧本屋方糺置候様大年寄へ申含メ置

一 玉置忠兵衛用事ニ付上京之処去月三十日之日延相願承届候処今以用事済寄不申其上少々不快ニ付又々三十日計之日延相願悴広四郎ハ願書差出シ承届

一新魚町塩田屋市左衛門北側ニ而表口四間半裏行七間本役備前屋喜八取次ニ而三百目来卯ノ十月返し式割之利足ハ借受申度段願出シ聞届ル同卅日本証文出ス

一 願主吹屋町ふきや八左衛門方へ稻垣藤左衛門殿支配所久米北条郡錦織東村百姓治右衛門悴多三郎此度養子ニ貫度尤ハ役所江も願相済同村庄屋伝左衛門方ハ書付差出相添出し願之趣承届ル

廿三日 晴

一 栗原新五兵衛不快ニ付当病断之儀申来り大御目付太田舎人へ申達ス

一 林田中之町米屋善右衛門と山北村市右衛門掛り合可相成一条出来致し候得共一宮村地方目付へ大年寄共ハ談を以事済候ニ付日記ニ除之勿論大年寄共取やり書面并濟口之大意大年寄共扣ニ有之

廿四日 晴

一 栗原新五兵衛今日も平快不致候ニ付其段断申来当病届大御目付永井甚大夫江申達ス

一 林田上之町与市悴六太郎与申者当寅二十二歳東新町仁兵衛後家養子相願承届ケ置

一 茅町吹屋藤助悴長吉今度金井平治与改号大御目付永井甚大夫江出入奉公致候ニ付人別除願書承届

廿五日 晴

一 去ル十五日藏合孫左衛門斎藤孫右衛門兩人献上鯛御目見え申上候玉置忠兵衛儀者当時上京昨日又々三十日之日延願ニ伴彼儀ハ御目見流に可相成哉先例も候ハ、申間度旨御奏者番市村数馬被申聞候ニ付左之通ハ数馬江申述置候

宝曆五亥正月十二日玉置忠兵衛忌中ニ付御目見不仕其後忌明候へ共御目見不申上候頂戴物ハ雉子被仰付候其以前藏合孫左衛門不快ニ付正月御目見不仕候得共頂戴物被仰付候快気仕候得共御目見ハ不仕候

右之通心意書差出ス

一 大道具御駕籠之者先頃之日延之趣来月十日ニ申出候様ニ寄セ人之触出ス尤是ハ迫マツ之触文ハ望之面々割場江ハ参候得共役所江名前不申出候ニ付此度ハ大底左之通相触候

先達而相触候通御大道具御駕籠之者相望候もの有之候ハ、来月十日迄ニ割場御中間小頭へ可申出候尤罷出候者ハ当役所へも可申出候

右者大御目付鈴木此右衛門ハ被申聞中奥御目付中ハ日取之儀被申聞候

一 細工町家主作人治左衛門借屋居申候治助与申者当年五十式歳去ル七日ニ罷出組合追々尋候得共ハ今相知候ハ付断申出承置不欠也

一 大坂北久宝寺町堺筋ひしヤ新兵衛手代新八与申者例年之通小間物売昨日参堺町小鳥屋次郎右衛門宿切手承置

廿六日 昼後白雨大シ

廿七日 晴

一 明晩七つ時御供揃二而一宮江御遠乗御帰ハ御乗船二而一鍛冶場六御揚
り被成京町御門へ御帰被成候御出ハ田町御門六例之通今町筋御通
り被成候旨中奥御目付中六被申聞其段夫々申渡尤鍛冶場御波戸場
之儀も御改之上ケ挑灯其外掃除わら儀入念申付候様大年寄へ申渡
ス

一 明晩右之刻限修理様二も御出被成候二付稻垣茂士六被申聞候
一 隅田族六被申聞町方二而一諸職細工致し并酒屋世話醬油屋おろしヤ
等物而商売人共書付可差出旨此間六大年寄迄二而一考書付可出旨申
含メ今日同人江相渡ス扣有之

廿八日 晴 雷計少し

一 鍛冶場土手下くさ生へ候旨掃除等申付候様大御目付鈴木此右衛門
小被申聞尤申付候へ共尚又相心得可申付候段及返答為言当番中山
伝内ヲ遣し相改メさせ候尤今晚御出二付其趣也

一 昨日御供揃七つ時と被仰出候処今日俄二八つ時之御出二相成中奥
目付西尾多内六被申聞即刻其段取計候

一 細工之町指ものヤ長左衛門借家喜助悴三治と申者当寅二「一」四歳
ニ成兼々心持不宜候二付相直候様いろく申聞候得共無承知今年
者別而不行跡二付稠敷申聞候処去ル十一日二罷出組合請人相尋候得
共以今行衛不相知候旨親同人六断書差出し承置尚又例之通尋之儀
大年寄へ申渡ス

一 大坂堺筋北久宝寺町岸部屋茂十郎并手代五兵衛与申者已上式人例
年之通小間物卸売二昨日参候二付新魚町鳥屋与三兵衛六宿切手出

ス

一 明廿九日五つ時之御供揃修理様妙法寺江御仏参被遊候尤兼而御定
日之儀ハ為知不申候得共当節暑氣之間者右之刻限二相極り又々涼
敷相成候得者其砌通用可申旨馬場喜内六手昏到来其旨大年寄共江
申渡し置

廿九日 夜に入雨

一 明後朔日格式御役替之御礼被為請候間辰之中刻登城差上物干鯛一
箱二候間勘者へ可被相奨之旨御奏者市村数馬被申聞候則勘者中へ
申談勿論外奉書ヲ以申達候得者詰合二付口達書付を以申達候旨被
申聞候

一 例年之通明晦日類族之者構之内無事罷在候書付明日宗旨奉行中へ
差出候二付京町年寄共より当役所へ同様断書差出入此趣相調候得共間
付届書大年寄江相返ス

宗旨奉行中六被申聞候
付届書大年寄江相返ス

一 戸川町沢屋茂助悴義助儀当年「一」五歳罷成此度岡山下京町網屋源
五郎方へ来ル午之歳迄商売見習之ため遣候断書承届ケ

一 京町味ツツ僧屋善蔵山手屋弥右衛門所持之他国請酒株来ル午之歳迄
貸請度断承届ケ

一 坪井町居倉屋善助後家自国請酒株今町勝屋常右衛門江讓申度願承
届ケ

晦日 雨

一 勝部蓮池二て町方望入札致候者来月廿日迄二御代官金井伝七宅江
可出之旨相触度之旨御勘定奉行山岡与左衛門六被申聞明日六触致
し候様取計可申旨大年寄へ申渡候

一 元魚町西側二丁目御通筋北側^ニ而伏見町小桜左宇八表口三間裏行拾間但し巻歩八厘役也東脇河内屋安兵衛西脇^者二丁目堺右家屋敷元魚町吉屋佐右衛門ハ弟^ニて此度譲り申度旨願書出る承届
一 川口藤十郎去月十日出立軈へ罷越候処船路之儀^ニ三日遅^リ之儀断申出る

一 虚無妙安寺伴僧明日到着尾高屋へ止宿仕候^リ届ル
一 鍛冶場船渡往来止候註進御用商^并大御目付中へ届ル

閏六月一日 御用番大橋十大夫殿 大目付当番持

大年寄藏合孫左衛門

一 今日於御書院格式御役儀之御礼箱有^ニて申候無滞申上退出之御用懸^リ江御礼廻勤

一 鍛冶場川明註進申出御所^江直に申達ス

一 大年寄藏合孫左衛門斎藤孫右衛門去月十五日献上代物六匁ツ、可

差上旨大納戸竹内政次^ハ書付を以^テ「^ニ申聞則日兩人^江申渡ス

一 西川役所坂井良藏小形進吾^ハ拙者今般之悦状到来則日及返書

一 組屋勘十郎備前岡山片上町大和屋清右衛門方へ参往来十五日承置

也

二日 晴

一 虚無本座妙安寺^ハ伴僧今日来り尾高屋宇兵衛方宿之由届承置

一 伏見町小桜屋半兵衛勝間田村与平次と申者娘るい町内備中屋甚七

取持^ニ而礼婚^ニ仕尤右村庄屋多吉^ハ説書差致今日願差出承届ル

一 東新町中之町西新町三丁先例之通上之町悪水抜大溝近来殊之外埋

り居候此至節大雨之砌越水町筋へ流落所々内庭^江入甚難儀致し候よし在分^ハ溝浚之儀願出御郡代栗原新五兵衛^江申談置

一 勝間田村今度久世出雲守殿御領知^ニ相成右之[「]役人林半平^ハ案内書状到来則御用番大橋十大夫殿^江御沙汰申勿論御郡代栗原新五

兵衛^江も同様申談返書調入御覽且向方^ハハ様々認参候得共外一同取様^ニ相認差致申候来返書翰扣^ニ有之故畧ス

三日 晴

一 殿様御仏詣此已後五つ半時と被仰出候涼敷相成候ハ、追^而可被仰出候旨大御目^并井上弥三兵衛被申聞尤御勘定奉行中御郡代中^江も

後拙者通達申候様同人被申置候^ニ付即刻相通ス

一 明四日五つ半時御供揃^ニ而殿様泰安寺へ御仏詣被遊御道筋例之通

取計可申旨堀江左膳申聞^ニ付御先私其外町分取計大年寄へ申渡ス

一 修理様計御仏詣之時ハ五つ時殿様御同様之御仏詣之時ハ御出刻限

御同様之由馬場喜内罷申之候

四日 昼後雨多シ

五日 晴

一 小姓[「]町浜田屋善六大御目付太田舍人^江出入奉公相初申度人別除

願書出ル承置

一 昨四日御触書左之通

一 毎月御代々御忌日^者遊山鳴物殺生等可相慎勿論候四月四日同八日

同十七日右三日御証月^ニハ武芸可相慎候

一 御代々々々御忌日御待夜^ニも殺生可相慎事勿論^ニ候但四日御待夜

^ニハ遊山鳴物等共^ニ相慎可申事

一 銘々父母之忌日勿論可相慎儀ニ候証月ニハ武芸口積等出席候儀も可相慎事

右之趣被仰出候間其旨可相守候

右之趣同役并支配方へも可被相達候大御目付中々廻状到来也

一 藤森喜代次願書差出又候左之通

私不調法者之儀唯今迄結構被為召仕難有奉存候然処近年足痛仕

御奉公難相勤候故段々是迄養生仕相勤申候処足痛相勝不申難

儀仕候加様ニ而ハ大切之御奉公万一遠方之御用等御聞候節御間ニ

合不申候而者恐多奉存候ニ付番代之儀奉願上候於御許容者難有可奉

存候此段宜被仰上可被下候以上

明和七庚寅年閏六月

願主 藤森喜代次

加判 中山市左衛門

部屋目付 川端又六

右願書小頭石名左五兵衛宛ニ而指出ス尤件之願不得止事趣有之故略之

六日 晴

一 藤森喜代次足痛ニ付番代願之通昨晚石名左五兵衛宅ニ而部屋目付

川端亦六立合申渡之候旨届承置ク

一 吉井栄内私不調法者之儀只今迄結構被為召仕難有仕合奉存候然

ル処近年病身罷成難儀仕候加様被聞候而ハ大切之御奉公難相勤奉

存候ニ付恐多奉存候へ共番代之儀奉願上候於御許容者難有仕合可

奉存候此段宜被仰上可被下候以上

願主 吉井栄内

明和七庚寅年閏六月

加判 室井作右衛門

部屋目付 藤森権六

同 川端亦六

右願書左五兵衛宛ニ而指出シ請取置尤喜代次件之趣不得止事儀ニ付其趣畧之

一 石松院より庖瘡守護神江閏六月七日同十四日迄施主御座候ニ付

燈明差上申度旨斷書差出し寺社方引合承届大年寄共申聞候

七日 晴

一 明八日五つ半時泰安寺江御仏詣被遊候ニ付例之通取計候様中奥目附堀江左膳被申聞候ニ付夫々申渡ス

一 明安寺伴僧宗用相調明八日此元罷立候之旨申出ル

一 二階町紺屋源六俣半兵衛儀林田上之町文八と申もの、弟ニて養子致し差置候所家風に合不申ニ付離縁致候趣断書出ス勿論御郡代所

江も通用追而承届之趣可申渡候

一 船頭町高瀬屋勘右衛門品物川下致候処今日吉ヶ原御番所ニて今度乃井野江支配代有之候ニ付其迄之印鑑ニて者通船難成候ニ付被差

留候由訴出候之「」大年寄孫左衛門申出ル

一 来ル九日春渡候残り給米相渡候旨御藏方々廻文来ル

八日 雨少し

一 京町百万扁申出ル

一 昨日吉ヶ原ニ而通船滞之趣粗御沙汰ニ及大御目付中江も達し置候

一 川口藤十郎昨日致帰着候段御用所江及御沙汰候

一 明九日四つ時被仰渡候之間登城可仕候旨大御目付中々廻文来ル

一修理様明八半時二宮^江御遠乗京橋^ハ宇津木弥右衛門^ハ為知^ニ付大年寄へ申渡ス

九日 晴

一吉ヶ原御番所之儀乃井野御預り所^ニ成候趣^ニ付御郡代栗原新五兵衛^江申談シ先達^而久世支配之節当役印鑑遣^シ置久世役所受代有之候^而も兼^而相廻^シ置候印鑑^ニ而川下相濟来り候間此度改差遣^シ不申之旨吉ヶ原へ通船之儀兼々申達候様追沙汰^ニ而今度又候町奉行被申付候通用且此間右番所荷船滞候義本文之通申進候^者通船も可相成候段書込御使組老人御申付可被下様大御目付所^江申達シ書状今夕相渡ス文段之扣に有之宛所ハ古川弥四郎川端代八也

一御郡代も書状一所に右飛脚へ遣ワス御運上奉行石川治右衛門印鑑差越候由其子印鑑ハ別印鑑^ニ付通船其^マ遣^ハ之通^ニ取計有之度旨吉ヶ原^一申達シ具候様書面申参候勿論大御目付井上^一三兵衛永井甚大夫両所^江新五兵衛拙者右申遣候文段之大意及噂候

一今日於七間廊下御年寄渡部惣右衛門殿被仰渡大御目付永井甚大夫御書付被渡取寄申合写返上例之通御勝手向数年御不如意御借金高相増御取次被成方無之去歲御道中以来火之御番御替礼式拾俵等差向段々之御物入御立方不被転候^而御物入難減^ニ付御為^ニも相成及付候ものも候ハ、不寄誰人可申出一己切^ニ相考書付致封印来ル廿日御触書扣^ニ有之候

一今夕九つ時大御目付所へ廻状之趣

一^豎於江戸表藤堂和泉守様御病氣之処御養生不被為叶去ル二日御卒去被成候依之今日夕来ル十一日迄三日之内鳴物高声御停止之事^ニ候

尤普請ハ不苦候右之趣文典候 閏六月九日

半切之処^ニ有之候^ニ付写候得共惣ノ組中惣町触へも除之鳴物停止之節御馬役御馬乗候儀^者不苦候御家中面々稽古乗ハ不成候乍然御家中^ニ而手馬持八面々一己^ニ口引事ハ不苦候御馬役^江相頼候歟又ハ外へ頼乗候節ハ大目付へ可相^一右之段可被相心得候以上 大御目付

右御触之趣同心組牢番三軒屋惣町へ触^一ス

十日 晴

一宮脇町土佐屋藤右衛門不勝手向当度相願町内房屋喜兵衛居宅売払西今町^江借宅致し近日罷越し家内役中多御座候得^者難儀^ニ及候先達^而銀札百五拾匁封印被仰付置候^ニ付開封之儀相願候^ニ付為念組合共扨迄及吟味候処難洪致候義無相違之旨書付出し候^ニ付今日御用番中へ相伺尤銀札場引請御勘定奉行清水多吉^江も申談其段も申上願書差上候処則刻御聞届被成猶又御勘定奉行月番山岡与左衛門^江被仰聞候由仍之今日開封御聞届相濟候趣大年寄蔵合孫左衛門^江申渡ス

一五月十日^ニ記有之候上京六人之大工共未細工相濟不申候^ニ付来ル八月中も逗留仕候由申越日^一願五人組大工源七次助^ハ申出る聞届孫左衛門^江申渡候

一三角良甫五月十九日追願又候用向難計儀^ニ付猶又三十日計之逗留願出承届

一御堀掃除賃銀之儀催促申候間おいそき候様^ニ閏十治^ハ申来ル

一明十二日五ツ半時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣被成候由中奥目付被

申聞例之通同心先^并町分之儀「」年寄^江申渡ス

十二日 晴

一 播州網干河元屋常七と申者荒物類^并鏗節卸売昨日參候宿手形中之町小しま「」与三右衛門

一 越中富山河原町松井屋佐兵衛と申者例年之通反魂丹売昨日參候宿手形同人

一 此間差越候書面乃井野^江印鑑改不差越中川筋舟下無滞様申付候旨河端代八^江返書来ル古川弥四郎御出^二付候由申来ル御郡代所^江も印鑑無之通船別印ヲ以相濟候旨申来り候由

十三日 晴 昼後少雨

一 去月廿日記有之候京町吉田屋小性町ふじや浜助家賃一件先般申付之三十日切其後巷月晦「」切之日延過候得共難渋申立又候五日之日延押^而相願其分^二致置かたく存寄大年寄藏合孫左衛門^江申含候処甚誤入候由然ル所当月中之日延相願申候趣格別之憐愍筋と聞届之日切手形申付候処段々之請合書面^二も相聞候^二付町内年寄喜助当人ハ不及申組合共不殘印形取之願之通申付候

一 明日五半時御供揃^二而泰安寺^江御仏詣被成候間例之通取計候様中奥目付書役三太左衛門被申聞御先^并町取計之儀^者大年寄^江申渡

之

一 御堀掃除料残り之分相納候様関十治被申聞即「」大年寄^江申渡ス

十四日 晴

一 修理様今日司馬五郎様^与御改号^二成御名之「」差合候^者相改候様大

御目付所^江廻状到来扣^二有之同心組牢番三軒屋惣町^江も触差出ス

一 今日御表諸士御礼拙者儀初^而御座之間御礼申上候

一 御堀掃除料百八拾九匁三分四厘相納関十治^江受取大年寄^江相渡ス
一 西今町林田屋伊助弟茂八と申者松岡茂八相改黒田総太郎へ出入奉公仕度断書承届ル

一 今日於中之口寄人見分有之候中之町藤助新職^江町長七茅町伊助安岡町伊助直切^本ヤ内長八以上五人罷出ル

十六日 晴

一 江戸表主税様御元服之御祝儀頂戴仕度来ル十八日座頭共罷出候旨大年寄共申出候^二付今日御席へ申上大御目付所^江も申達置勿論先「」御例も耽^与不相知司馬五郎様先達^而御袖留御前髮被為取候節も兩様被下主税様^二ハ御袖留^二ハ被下之候事相知候^二付是又申上候処右申出候通被下候旨御用番大橋十大夫殿被仰渡候尤御勘定奉行山岡与左衛門^江も被仰聞候由及通用銀札場引受清水多橋^江例之通銀札場^江被申達候由

一 虚無僧取計吟龍此度明暗寺伴僧逗留中迎送り諸人用七拾一匁六分町分^も出候様^二歎書差出候^二付御郡代栗原新五兵衛へも及通達置

十七日 晴

一 明十八日五つ時御供揃^二而押入築場へ被為入候御道筋宮川御門^江大橋本通り筋西新町大黒屋横町^江土手へ少し御下り被成大隅通り横町すし雁木之処御波^江場^二被仰出取計候処中奥御目付中^江被申聞御藏元^并西新町年寄共疾^与申付候様大年寄へ申渡し波^江場^江

八出村の懸り土手并雁木江西新町を為取計見繕同心藤森権六ヲ遣
ス

一先達而御救ふち被下候伏見町すまと申女今日相果候由届出る

十八日 晴

一伏見町筑後屋義八先達而他所種村兵助娘娶申度願聞届相濟候処未
引請不申候様子然ル所先達而同人方へ三谷十助小頭妹かくまい置
候義勘当^{此女十兵衛}者十兵衛の毎度相頼差置不申候様取計くれ候へと大年
寄迄申^{付彼等場相}て追はらい候様右町内役人ともへ申合候処
又々此度引入候由相届出候由此義ハ先達而取計片付候義^{付大年}
寄とも右女退かセ候様申渡ス

一□□□非人支配□□村非人番宮松と申由此もの□□□村辺物を買

二致徘徊候処右村穢多定七と及口論右^{付毎度非人番共故障}も
相成致迷惑候趣相聞候^{付御郡代栗原新五兵衛}も粗及内談候処
右村構目付^江も被申聞下方吟味も遂候由勿論大年寄共の地方目付
^江通談之上書付等も相廻候^{而無事故済寄候}付宜非人共^江心得させ
候様大年寄へ申含メ置候書付大年寄へ相返ス

一伏見町^{二而}京町みそヤ利左衛門家守甚右衛門借屋すまと申女去丑
四月廿七日の御救^{夫持被下候}処昨日相果候旨断出十九日及御沙
汰候

十九日 晴

一明廿日五半時殿様地藏院^江御仏詣被遊候旨中奥目付中の被申聞大
年寄^江例之通申渡ス

一今日の錢相場七十四匁通用建^{替候旨届承置}

一司馬五良様御改号之御祝義頂戴仕度之旨今度罷出候座頭とも申之

旨配當場申出候得共久松様を主税様御改銀之助様を修理様と御改
被成聊も其儀^者無之候由惣^而御改号御祝義被下候と申例も候ハ、
可申出段申聞候処納取いたし勿論重キ御祝儀被下候内^二ハ御改号

ハ含不申もの、よし申之候へハ是又無証謂取不取上候処弥相止申
候^二付其段粗大御目付中^江も出置候

一主税様御元服之御祝儀自他領座頭警女^江被下今日又候頂戴先格之
通同心小頭部屋目付出合於配當場相渡ス

銀札高六百九拾五匁 惣人数百八拾式人

但配当役料書役筆墨紙入用合^而

廿日 晴

一昨日座頭警女共^江御祝義被下候銀高員数并人数付御用番大橋十大
夫殿^江及御沙汰大御目付所^江も申達ス

一伏見町辻屋市郎兵衛弟忠右衛門当寅廿歳罷成候大坂土佐堀之佐田
ヤ源右衛門^与申者方^江当六月の辰三月^{追奉公罷越候願承届ル}

一三浦志摩守殿ハ九月御当所止宿可有旨玉置方へ相聞候由

廿一日 晴

一馬指共の例歳之通拝借大豆壹人式俵之積式拾五人馬持共一同に拝
借相願今日御用所大御目付所^江も申達ス

一西新町藤屋新八親大願有之候^二付往来八十日計四国^{偏路}

一鍛冶町伊賀屋和兵衛儀勝北郡勝中村^{新善光寺且那}而御座候処此
度西寺町光嚴寺^江寺替仕度右中村親善光寺放手形賞光嚴寺へ持参
尤両寺納得之旨願差出候寺社方引合同廿五日聞届

一御藏元姫路屋伝藏今津屋孫十郎今晚大年寄藏合孫左衛門宅^江呼出し部屋頭石名佐五兵衛罷出諸吟味立合申渡し左之通

去ル十八日御川狩之砌夜^ニ入林田御波^{戸場}^ニ而其方へ相渡候御紋之燈灯番も不付置等閑^ニ致し置其上伝藏儀何角^与不埒之義な

と申之候へ共何分事濟候義故其分^ニ致し置候以来^者御波^{戸場}へ御紋之てうちん^ニ井大文字^ニ相渡し候節是^追之通相請取右台之

儀ハ割場^うけ取火をともし申儀も其方とも取計引受に申付候若兩人とも御用^ニ付御出場所^江罷越候砌ハ船頭町年寄^江引受申

談置向後間違無之様可致候御波^{戸場}いつ方成候^而も間違無之御燈灯ともし候儀引請可申候万^一以後間違有之候ハ、急度越度

申付候

右之趣御達^ニ疾^与申渡させ候

廿二日 晴

一勝山家中遠山九左衛門と申仁去ル十九日玉置忠兵衛方^江参り志摩守殿来ル七月か八月頃初入^ニ而同人方止宿被致候積^ニ候旨申候へ共悴広四郎儀親忠兵衛儀上京仕居申候一先御役人中^江も申達し御請可仕候段申候処追^而表向^ニ而止宿之儀可申達先日分申^〇候内分候旨^ニ而罷通り候此段今日御用番中^江及御沙汰置候大御目付所^江も

同断申達置候

一悴嘉次郎儀斧介と改号為仕旨栗原新五兵衛相願大御目付鈴木此右衛門^江口上書差出候処即刻願之通御聞届^ニ成御礼御用番迄相廻候

一先達^而断出候由木知ヶ原村正都^与申もの療用多候^ニ付今七十日計逗留為仕度申出願主^ニ階町鉄屋九兵衛承置

廿三日 晴

一西新町西屋又右衛門悴太七当年二拾三歳此度御作事御中間奉公^ニ罷出候^ニ付人別除之願差出御作事^江引合

廿四日 晴

一御藏米六拾九匁米六拾五匁相場付出入

一昨夜御郡代^〇当国真鷲郡乘水村平右衛門と申者西国罷出申候処老衰^ニて步行難成勝北郡美野村^〇川辺迄送り来候由通用今日町分送り申候由大年寄届出御用番大御目付中^江も申達ス

一玉置忠兵衛儀京都^ニて相煩服薬不仕罷在追々快罷成候ハ、罷帰申候間此段申上具候様^ニ申越候旨悴広四郎^〇願書差出し及御沙汰置候

一先達^而入札かつ部池蓮葉^うをヤ仁大夫^江落候由同拾一匁壹分三厘之由

一下紺屋町年寄仁右衛門太郎右衛門^〇今朝六つ半時町内大溝^ニ錢箱御座候由子共見出申出大年寄罷出見届候処内にハ何^茂無御座箱計之由註進書差出入右箱に福元屋と書付有之由追^而可取計問其内町内年寄へ預ヶ置候様大年寄^江申渡置

廿五日 晴

一勢州津之藤堂中務様被成御座先達^而和泉守様御卒去右為御悔先頃御小納戸植木左次勢州へ罷越今日帰着右^ニ付又候向方様よりも御徒使可參も難計候間右之宿一軒申付置候様大御目付永井甚大夫被申聞大年寄へ申渡ス

一明廿六日八半時御供揃^ニ而二宮^江御遠乗御送筋二階町御門^〇八百

屋町元魚町夫の真直に大番所今町寺町安岡町二宮夫の御船にて下り被成加茂川落合迄夫の西新町先日加茂川へ被成御出候節之御波渡場夫の大こくや横丁の本町通り京橋へ御帰被成候由中奥目付中へ申来り同心御先私へ申付御藏元西新町年寄夫々申渡候勿論孫「衛門へ申含候

廿六日 晴

一玉置広四郎願之趣今度三浦志摩守殿来ル七八月之内入部ニ付勝山役人同人方江立寄右之節以当所止宿ニして本陣相願候様申ニ付無拋相請申候右ニ付御湯殿御閑所之儀御預ケ被成置達候を右差掛り出来難成候ニ付拝借仕度旨申出候ニ付御用番中へ及御沙汰候処願之通御借渡し被成候様惣右衛門殿へ被仰渡候即日大年寄江申渡し
一下紺屋町大溝ニ有之錢箱之儀粗及御沙汰候大御目所江も申達置
一今日御触書出左之通

半帯 越中国時水郡高岡河原二番新町立野屋九左衛門方ニ居候佐源太申者鑄物師繪旨取次役に可成与巧成儀いたし殊真繼宮内内政所中務少輔与自「謀書を認飛脚ニ成月番之老中江右書状持参指出候段不届ニ付町中引廻之上獄門ニ行ふへき処病死候右類之巧事いたす者江重科可被行之条此旨不洩様可触知者也

六月

右之趣従公儀被仰出候間可被得其意候

閏六月廿六日

大目付

半帯 加茂川筋殺生御留場上下建札有之候処近来猥入込致殺生候様相聞へ以後左様成類於有之者急度可被仰付候ハ、右之趣同役下畧

同前月日

大御目付

右両通一所ニ相廻り同心組中并牢番三軒屋町中八大年寄へ例之通触遣し候

廿七日 晴

一乘水村へ去ル廿四日送候者昨日又々送り戻し候御城下東へ送り候由昨晚申出候ニ付今日御用番中江及御沙汰候

一摂州大坂南本町三丁目小法師利兵衛吉人例年之通墨筆売ニ昨日参候由届宿中之町福茂屋武助

一播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛と申者例年之通小間物売昨日参候由届宿手出す宿福茂屋武介

一元魚町河内屋安兵衛家屋敷元魚町ニ而二丁目江通筋北側ニ而表口八間半裏行六間但右之内西方ニ而式間分ハ裏行拾間半ニ而御座候同前式厘五毛役右藏式ケ所右之家屋敷代銀札壹貫八百匁相極ニ二丁目小倉屋茂兵衛江壳渡候願聞届ル七月十三日「証文出ル

一元魚町玉屋伝六家屋敷西側表口五間半裏行十七間但七分役右之家屋敷を五人組相談候上質物に書入三百五拾目当寅閏六月の来ル十一月迄壹ヶ月壹歩半宛之利足相定同町黒坂屋〇助の借用仕度願聞届同七月五日本証文出ル

廿八日 晴

一御居間月並之御目見申上ル

一今日八半時司馬五郎様林田百間土手江被成御出御道筋宮川御門大橋本町右玉林江御通被成候由小嶋此右衛門被申聞則刻大年寄江申遣ス

廿九日 晴

一類族之者構之内無事ニ罷有候届京町年寄とも例歳之通宗旨奉行中へ差出し候ニ付役処へも申出候

一藤森喜代治先達而足痛ニ付番代相願其「聞届候処并汲左助五兵衛俸是追御使相動候へ共病所ニ付番代入候半人を同人番代入度仲間及相談何れも致承知候

由ニ付番代入度候旨昨日願書差出し今日御勘定奉行山岡与左衛門江引合候処向方何之故障無届之旨被申聞喜代治江願之通申渡候

一御役料今日相渡候旨昨日御藏廻状到来今日七俵「受取」

一今夕久世役所今四人老人召連上役○見市兵衛 中井為八二人小者四人計乃并野

役人之よし夜に入候ニ付新魚町鳥屋与兵衛方に泊候而町内宜敷心付具候様ニ相願候由町之年寄宿江罷越及挨拶候由尤廻り同心今尚又入念候様申付罷通候

七月朔日 晴 御用番 下村権右衛門殿 大目付 当番持

大年寄 斎藤孫右衛門

一月並之御札於御居間御目見申上候

一昨夕乃并野役人囚止宿無捩今朝罷立候趣御用所江及御沙汰候

一昨日記置候通并汲左助今日小頭左五兵衛部屋目付又六同道対面相濟候

一備前中之町真嶋屋太平次与申者紙類売昨日参「堺町西川屋善助宿切手出ス

一大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代喜兵衛与申者例年之通小間も左のヤ江掛取に昨日参候由小性町ひちヤ兵藏切手

一大坂北久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代与兵衛平「式人例年之通小間物売昨日参候由二階町堺屋伊右衛門切手出ス

一備州津宇郡妹尾村太兵衛手代岩五郎例年之通畳表元結木綿売昨日参申候中之町福茂ヤ武助切手出ス

二日 晴

一藤森左助明日番入候旨相届出承置候

三日 晴

一明四日五半時御供揃泰安寺江御仏詣被遊候付例之通取計候様中奥目付中被申聞同心御先私并大年寄共江も申渡ス

一御郡代栗原新五兵衛腹痛ニ付難成出勤候旨申来り不参之届大御目付所江申達ス

四日 晴 夜中合雨

一坪井町本屋七郎兵衛六年已前段々不仕合商も難成封印銀札開封之願大坂表へ路用仕相登り商筋手段致し度願之趣御聞届而以後売物等も相談之上商内致し候処尚又不仕合而相統不致無捩売物も買方へ差戻し其後一向手廻も得不致氣痛病身ニ成身上必至及渴命町々先達而右路用ニ相願候封札其後再「封印を受百五拾目差出置候処此度開封之儀相願尤組合之者へも無手違哉否相札書付之今日御用番江於御次伺申候処即刻於御席右願御聞届被成候旨被仰渡勿論御勘定奉行中江も申談候処被仰聞返用之上孫右衛門呼出し於御城ニ申渡候且又右願主七郎兵衛儀ハ病氣差重ク昨夜相果候由届候得共御聞届相濟候上之儀役処切ニて右之通取計候

五日 晴

一 去月十六日記有之候吟竜明暗寺伴僧止宿并往来無拋会见ニ付町在ハ集銀札之儀此度者吟竜一国内取計申付候由相聞候ニ付為止得書付を以相尋候処一々相答付帑に致し差出し自他字縁掛り合之儀其時之仕宜ニ寄俗僧之出入候字縁計之捌ニも参ましく今度之通り候而御國中へかゝり吟龍取計蒙候故無拋謝礼物入自力ニ難叶申上候以後之例ニ全く相成中間數候様申之ニ付御郡代所へ同断之問答ニ候間任歎集銀札取計可遣候旨大年寄江今日申渡ス

一 船主組頭共ハ舟壹艘ニ付三俵ツ、惣辻百五拾表拜借願書差出之尤当秋川下之御米質料を以立用被下候様及御沙汰御聞届被成願書大御目付所江申達ス証文七月九日出ル

六日 晴

一 町在諸寺中町方宗別之儀例之場所ニ取計申度候ニ付帳面二冊大年寄共ハ差出今日寺社取次佐々木弥大夫江相渡し候

一 京町綿屋源七所持之屋敷南側ニ表口二間半裏行十七間但三步役西脇茂渡庄右衛門家東ハ戸屋岩右衛門河原町北側表口式間半裏行十五間但軒役西脇ハ作人伝「東ハ戸屋岩右衛門右両町家屋敷作人喜右衛門与申者同人由緒有之ニ付兩人五人組相談ニ而右喜右衛門江相讓名代相改申度旨親類兩丁其外例之構無候段願出承置候

一 山本三右衛門娘いち拾八才罷成候去丑九月願備前和氣郡香々戸村伏見屋代助妻ニ遣シ申候処此度不縁致し引戻し人別ニ加候様ニ仕度願出承置候

一 桶屋町作右衛門親源十郎近年医術致候ニ付此度田下玄道与改鍼医仕度旨願出承届ル

一元魚町さのヤ長兵衛式步中買株船頭町梅岡屋惣兵衛与申者へ相讓申度則請人相立申候旨願出承置

一 上紺屋町くまと申女去丑六月宮脇町七郎右衛門と申者之倅長兵衛と申者を呼入為相談夫婦ニ成居申候然所去月十三之夜右夫長兵衛ニ散々打擲ニ逢田町屋敷方ニ罷在候新六と申者ハ伯父ニ而彼方へ逃込罷在右之長兵衛儀くま親ハ譲り候家に其俣罷在候事甚無法之仕方と存早竟彼義ハ入聲之事ニ候へハ縁を切宮ワキ町親元ハ罷帰候様仕度旨書付出し候尤件之趣ニ付此間大年寄方ニて長兵衛も書付取其外組合掛り合之者段々遂吟味候処何分右長兵衛其俣に致置候而者くま居所行付不申其上宮脇町親七郎右衛門儀以前倅之仕

義有之候を有生存寄も不加候仕方も有之かたく以来吟味も可申付者ニ付親七郎右衛門江倅長兵衛を預候様可取計旨大年寄へ申渡ス

一 くま儀ハ田町伯父所へ逃込居申候間年寄組合とも口上ニ而先方故障無之候くま家江罷帰候様ニ為致可申旨申渡候様大年寄共江申付候

一 藤森喜代治番代井汲左助小頭左五兵衛俣申付候上今日中間入「濱出屋喜助請人に相定請状相認差出シ受取置

七日 晴

一 今日諸士登城御目見七間廊下御通り掛り拙者儀例之通於御座之間御目見御礼申上ル

一 明八日五つ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成候ニ付例格之通取計候様中興目付中ハ被申聞同心御先払并町分之儀大年寄江前例之通申渡候

一 明後九日六半時之御供揃ニ而司馬五郎様川下上山江御參詣成御道筋京橋ハ川井ハ円左衛門前横丁鍛冶場ハ御乗船尤ハ同様之旨馬場喜内被申聞御道筋并御藏元共取計之儀前格之趣申付候様大年寄江申渡又

一 昨日申渡候上紺屋町長兵衛儀宮脇町ニて親七郎右衛門江預ケ禁足仕罷在尤町内年寄組合氣を付て女房熊田町伯父新六ハ戻り彼家に罷在他ハ若キ者共入込不申様ニ仕近辺又ハ組合之者共時々氣ヲ付籠抹無之様可仕旨申渡し且又伯父新六孫右衛門宅江罷越女房熊髮結道具其外以前無之もの候由申出ハ得とも此段ハ熊ハ可申出事ニ付其段新六江為申聞候旨旁今日孫右衛門ハ届申出ル

一 雲州松江八軒屋町和泉屋九右衛門悴喜代松与申者土左屋團吾縁家團ニ付於御当地腰物細工見習為仕度百日計之逗留願承置

一 中之町正木屋伊右衛門宿切手播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎二人例年之通荒物塩物卸売ニ昨日參候由

一 同人宿切手同州姫路屋宗十郎手代善十郎ハ老人例年之通鯨節并鯨壳ニ昨日參候由

一 同切手余陸屋宗五〇同手代彦右衛門式人例年之通八百屋物卸売ニ昨日參候由

一 安岡町今町茅町ハ難波宰典を頼関守荒神兩社雨乞致候由申出引合之上ニ勝手次第可取計旨申渡之候

八日 晴

一 吉井栄内番代福田甚藏と申者相望尤此者儀先達而大熊殿江相勤候而縦出候者之由ニ相聞候ニ付今日左五兵衛を家路迄口上を以申遣

候処聊構無之由申来候ニ付則番代入願之通申渡し候

九日 晴

一 今日福田甚藏吉井甚藏と相改小頭部屋目付先日之通ニ同道致対面候

一 例歳之通盆中御触書相廻候ニ付同心組中并牢番三軒屋町中末々迄触出候

一 京町わたや伊助ハ元魚町福本屋太兵衛持来り古道具取売之義太兵衛相果候ニ付同人後家ハ伊助江相讓候ハ勤申度旨願承届同廿九日本証文出ス

一

十日 晴

一 同心吉井甚藏今日ハ為見習罷出相勤

一 從御藏ハ先日相渡候御給米当二月十二日米相場ヲ以御買上ニ被仰付候然ル所此節米直段当春とハ格別高下有之候間当時之米相場ニ御買上ニ被仰付候仍之来ル十二日右之不足銀札可相渡候間御請取被成右之旨廻状到来此段組中江申渡候

十一日 晴

一 明十二日五つ半時之御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候例之通取計候様中與目付中ハ被申聞同心御先并町分掃除之儀夫々申渡候

十二日 晴

一 吉井甚藏今日ハ出番

十三日 晴

一 今晚七つ前後林田阿辺周益宅出火致し其向屋敷御中間弥七儀類火

二 付出馬致し候処御郡代栗原新五兵衛も同様大御目付鈴木此右衛門被出下火^二相成候^而此右衛門^江及挨拶候上馬引取候其後例之通町々之年寄共対面為引取候^而御用番下村権右衛門殿^江御届^二罷在帰宅

一 今日今来ル十六日迄御出席無御座候旨昨日於御城大目付永井甚大夫被申聞候

一 明十四日五つ半時御供揃^二而地蔵院例之通夫^江泰安寺夫^江溪花院後通り妙法寺表門夫^江今町通り本源寺夫^江例之通御帰殿被成候旨中奥目付中^江申来り同心組御先^江之儀^并町分掃除之儀例格申渡ス^所油屋清右衛門十五日立大峯山上參詣往来廿日

十四日 晴

一 今日四ヶ寺御仏參^二付御用席有之当役御勘定奉行中御郡代七間廊下御通掛相詰ル尤御出後御用席初各退出

一 大川筋石垣際^二而はへ取候もの相聞石垣損候^而甚不相濟依之町分右制度之触指出候様大御目付井上弥三兵衛被申聞候^二付今日大年寄へ触書相渡ス文段扣^二有之候

一 一かち町鍛冶ヤ兵吉和州大嶺參詣明十五日出立廿日計之逗留願出ル
「歳之通」「廻り今七つ半」「^江罷出五つ半時」「帰る供」「去歳之通尤去ル十二日今夕廻ス」「之段御用所へ及御沙汰大目付中^江も申達し御貸人之儀前格之通申達候

十五日 晴

一 昨夜町見廻り仕候処相替儀無御座候旨御用番へ手帟御届御城当番大御目付中へも手帟^二て御届申達候

一 配当場城正今日罷立奥津^江入湯仕度昨日申出留守ハ城波相動候旨承置候

十六日 晴

一 今夕徳守宮於社地式十七町之者共雨乞相願勿論神主^江寺社取次中へも其段申出候之旨昨「」大年寄申出候^二付取次中^江も引合候上今日当番大御目付中へ手帟を以申達候尤今夕廻り同心^江徳守宮へ立寄見合候様申渡ス

十七日 晴

一 今夕林田於大隅社地^二右氏子六町之者共雨乞相頼尤神主^江も寺社方^江付届いたし候由申出候^二付取次中^江引合致し候上当番大御目付中^江手帟^二申達候為見届同心廻り^江三方を付候様申渡候

一 二階町年寄阿可屋文吾儀与十郎と改号仕度願差出承届申渡候

一 徳守宮昨夕雨乞之儀於御次御用番中^江申上置候

一 上紺屋町長兵衛同人妻と夫婦「」入^二付取計追^而双方「」付之様子「」上段於御次御用番中^江及御沙汰候

十八日 晴

「公儀御尋之者左之通大目付所^江廻状到来

去々十一月飛州大野郡高山上河原町百姓「」右衛門娘松を勾引氣賀御関所山越之案内いたし候無宿十次郎人相書触扣^二有之故不記之自分「」不及申支配之面々^并自分召仕之内無之候ハ、其段例之御文段来月朔日迄^二御城^江持參可仕候旨町之同心組中牢屋三軒屋町分^江も相触出ス

十九日 晴

一司馬五郎様九半時御供揃^ニ而^二宮^江御遠乘に被成御出京橋口^ハ町筋例之通^ニ候由御守役中^ハ申来り大年寄へ申渡候

一材木町組合頭共^ハ家々^ニ有之候井水切候^ニ付宮川大橋下モ川中^ニ堀井^ニつ三つ程仕度之旨尤^一并^一之故障相成候儀不仕候旨相願昨日申出今日^一其段及御沙汰候処大御目付中^江も御噂可被成由^ニ而^二則刻御聞届相濟其段拙者^ハ茂大目付中へ申達シ見分も可^一哉と申候処不及其儀段被申聞候^ニ付同心当番^ハ右場所見分^ニ遣し大年寄へも相濟候間右町へ申付候様申渡候勿論大目付中構場所^ニ相中り候

一明日地藏院御仏詣五半時之御供揃之旨中奥目付中^ハ被申聞例之通大年寄^江申渡ス

一明後廿一日林田上之町溝清在中^ハ取計候間例之通願出候町人足も可罷出^ニ付御郡代栗原新五兵衛^ハ通用有之候^ニ付則日大年寄へ申渡

廿日 晴 夜八つ後少雨

一「町組頭」井水無之^ニ付宮川大橋上^ニ似橋之有之場所堀井^ニつ三つ^一仕度相願尤向石垣^ハ五六間も東^江付候^而掘申度旨相願昨日申出今日於御次及御沙汰候処則御聞被成大目付所^江も申達大年寄^江申渡候

一打続早魃^ニ付町方夜中廻り可致之旨申渡ス勿論非人とも夜中ハ御家中屋敷町分加廻り致候様可申付之旨大年寄^江申渡ス

一茅町かく所持之屋敷地表口三間七寸五歩裏行六間但シ役式歩之処西脇ハ買主作人市郎兵衛東隣は作人文六右之屋敷地町内五人組相

談之上^ニ而^二代銀札三拾目^ニ相究町内作人市郎兵衛へ売渡候願承届

廿一日 晴曇暮頃^ハ雨

一今日大御目付所^ハ廻文同心組牢番三軒屋触出町方同断

兼^而被仰出候通花火揚申事御停止之事^ニ候処近来猥^ニ相聞候以^レ後堅相守可申候

一大川筋御船藏石垣^ハ而^二鈴虫取候之者火^一燈^シ候由此節甚しめり無之時節火ノ下無心元候間左様之儀有之間敷候尤目付之者共差出見付候ハ、早速申出候様^ニ申付置候間其旨可被相心得候以上

右之趣同役下畧

七月廿一日

一大目付所^ハ左之通

被仰渡候之儀候間明廿二日五半時登城可有之旨廻状到来ス

一拙者儀御用之儀候間明廿二日五半時登城可仕候旨權右衛門殿一学殿十太夫殿惣右衛門殿右御年寄中^ハ御奉書到来則刻不殘御請^ニ廻勤

一石名平太兵衛へ御勘定奉行清水多吉^ハ一名切手帯到来候由

廿二日 晴

一昨晚御用番下村權右衛門殿^ハ平井半平栗田唯治山岡与左衛門清水多橋へ一名奉書^ニて今日御^一出御用所御列座^ニて權右衛門殿^ハ被仰渡左之通

今般御儉約^ニ付町奉行郡代^ハ被仰付^{○兼役}

一大沢三平御先手惣頭被仰付候

一暮時過先役大沢三平同心組三軒屋番人牢番人書付を以引渡有之

町奉行所諸道具引渡相濟其段双方大目付当番江相届候事

一七月町奉行月番半相勤候ニ付大目付中へ書付を以相届候事

一三軒屋番人此已後貸人等其外使組勉「」之通相勉候様可申付之旨

大目付永井甚大夫被申聞其段小頭石名佐五兵衛へ申付候様ニ申渡
又

一大目付中廻状到来例之通同心組大年寄申渡又左之通

於江戸表徳川民卿様御簾中様去ル十二日御逝去ニ付今日分明後

廿四日迄三日之内鳴物高声御停止尤普請者不苦候委細者御触留

ニ有之

一御儉約ニ付扶持方之内引方被仰付候ニ付大年寄札元五人渡部甫庵

岩佐孝碩明廿三日五つ時半平宅江罷出候様申遣又

但シ甫庵孝碩兩人者孫右衛門迄同道候様申遣又

七月廿三日 晴

一三軒屋番人已後兩人共日々使組並相勤さセ候義ニ候哉又者菅人

ツ、者三軒屋番相勤候義候哉と大目付太田舍人江相尋候処御用所

へ被相伺候上昼之内者兩人共日々使組同様相勤さセ夜分遣ひ不申

候様舍人被申聞其段小頭石名佐五兵衛へ申渡又

一半平宅今日申渡左之通

御儉約ニ付御使持方引三割三步三厘

大年寄兩人玉置忠兵衛義者上京ニ付帰着之上右兩人申

候様申渡又

札元

茂渡市右衛門 山本三右衛門 川口藤十郎

茂渡藤右衛門 武田七郎兵衛

大年寄同道

岩佐孝碩 渡部甫庵不快ニ付名代替差出ス

一大年寄斎藤孫右衛門江申渡分左之通

三倉屋善四郎 今津屋孫十郎 木屋太兵衛 塗師勘平

右何茂引方同断

一昨日御家中へ被仰渡候御儉約御書付之趣斎藤孫右衛門へ申渡又

一伏見町筑後屋儀八義浜田儀右衛門与改号今般伊達与兵衛殿へ出入

奉公仕候付町人別除願出聞届ル

一木知ヶ原御番所相廻候印鑑乃井野役人江相廻候ニ付飛脚之者義勘

定奉行月番多橋江申談豊田与蔵差越書状相渡又

今般相廻候印鑑左之通

町奉行郡代四人 運上奉行三人

一小桁御番所へも右同断相廻又

七月廿四日 曇

一上紺屋町長兵衛○後ニ付置置七部右衛門相尋候趣宮脇町年寄伊右衛門合書付孫右衛門へ

差出候ニ付持参差出ス請取置

一出羽守様来月当所御通行被成候得共玉置忠兵衛義上京ニて留主ニ

付御通行之節忠兵衛門前ニ罷出不申候俸広四郎名代罷出可然哉勿

論広四郎義ハいまた御目見不被仰付候者之儀同人合新庄本陣迄書

状遣雲州様御役人迄伺申越具候様相頼遣候旨孫右衛門合申出其之

通承合候様申渡ス

一 鍛冶場渡舟損無之候哉吟味候様孫右衛門へ申渡ス御繕無之候^{而も}
今般之御通行相濟可申旨申出ル

七月廿五日 早朝雨 昼過^レ雨

一 三浦志磨^{マツ}守殿御止宿取計書付先役三平^ハ大目付中へ差出被置候
処今日太田舍人^ハ被戻存寄も無之候間御用所へ相伺候様被申聞候
得共不審之義有之候間孫右衛門方吟味之上可相回事大目付永井甚
大夫へ申談相濟候

一 渡部惣右衛門殿今日詰江戸被仰付候付一統御用所^江罷出御怡申述
事前格候間右之通罷出候様大目付中^ハ被申聞即刻罷出御挨拶申達
ス

一 造酒介殿小須賀一学殿江戸表へ近々御出立之由

一 小山屋与三右衛門^ハ断書差出ス左之通

一 播州網干平松屋惣九郎同所丸尾屋六三郎

一 同国同所余陸屋武兵衛右三人当三月廿日参

一 播州網干河元屋彦七

一 越中富山向河原町松井屋佐兵衛

右兩人当六月十二日参

右五人今日出立罷帰候旨断出ル

一 乃井野^ハ遣候飛脚暮過帰着同所役人河端代八^ハ承知之趣返書来ル

七月廿六日 晴

一 東西大番所今般使組定番^ニ被仰付候付已後^〇定日御通^并不時共^ニ
町方^ハ知せ有之候様可申渡旨大目附中^ハ被申聞其段大年寄齋藤孫右

衛門へ申渡ス

東^{橋本河}八^{今河}之間^{宮脇町}西^{今河}八^{今河}之間^{宮脇町}

一 明廿七日五半時御供揃炮術御覽被遊候付御出御道筋中奥目附土岐
三太左衛門^ハ左之通通用有之小頭^并大年寄共へ申渡ス

一 田町御門^ハ小嶋此母横前北郷權八前町通り妙願寺前桶屋町一場
茂右衛門前稻垣茂士前夫^ハかし原前

一 三浦志摩守殿七月廿一日江戸表御発駕八月七日佐用泊り八月八日
当所泊り之触書九つ時到着之旨齋藤孫右衛門御城申出即刻御用番
下村權右衛門殿^并大目付井上弥三兵衛へ申達ス馬人足員数いまた

不知候

志摩守殿此^比御病氣之由御出立御延引^ニも候ハ、其節触可有之旨申来候由
中買共^ハ米相場書付差出左之通

一 御蔵米七拾壹匁

一 一町米六拾七匁

一 一半平義此表御用向相濟候付勝手次第出立出府致候様御用番權右衛
門殿被仰渡候

一 三浦志摩守殿御通行之節御 釈方大目付中へ相尋候処未相極候^ニ

付相知次第可被申聞旨永井甚大夫被申聞候

一 〇玉置^{三浦志摩守殿御北宿^二付}廣四郎拜借内願書齋藤孫右衛門^ハ差出ス左之通

覚

一 御膳台^{布共} 一 御水越^{但シ布共} 一 御水桶^{布共}

一 御湯桶^{式ツ} 一 御水桶^{式ツ} 一 御上り板^{式ツ}

一 御行水盥^{白木} 一 御湯^{白木}とう^{白木} 一 御入湯桶^{御踏} 檀^檀共^檀

一 御手水盥^湯とう^湯共^湯 一 御挑灯^台四 一 枕五十^ウ

一へり取三十枚

右之通

外ニ 覚

一御馬桶五 一御馬盥三

右拝借被仰付被下置候様奉頼候以上

一明日御先弘同心又六甚蔵差出候旨小頭申出

七月廿七日 曇

一五半時 御供揃御出八つ時御帰被遊候

一今日御出ニ付御用席御登城無之

一茅町百五万遍願聞届ル

七月廿八日

一半平義出府被仰付候付從今日唯治義月番相勤候旨大御目附永井甚

大夫江相届之尤来月々番も相勤候段相届之

一中之町罷在候宝寄院と申山伏之悻義助と申者鈴木此右衛門方へ中

小姓奉公為仕度依之町内人別離願書差出例之通承届之

一東新町甚四郎借屋ニ罷在候平七と申者四国西国順礼罷出申度来月

二日出立往来百五拾日之逗留ニ罷帰申度旨断書差出承届ル

七月廿九日

一三浦志摩守殿今般初入ニ付当所御止宿来月八日と先達而先触廻状

到来ニ候処一日御延引ニ相成来月九日御止宿之旨昨夜廻状到来之

由大年寄ハ致註進御用番并大御目附中江相届之

一配当場城正義去ル十五日出立奥津温泉江致入湯候処昨夜罷帰候旨

大年寄ハ相届承置

一三浦志摩守殿当町止宿ニ付下宿候儀大年寄共ハ伺之通承届候付下

方へ申渡候様ニと蔵合孫左衛門江申渡之

一福渡町角屋新兵衛借屋ニ罷在候作人長兵衛と申独身者昨夜四つ時

分竈之火燃出候と相見え其迎すのこ竹少々燃出候付近過候者共か

け集候而消留候由大年寄申出候尤他町杯ハ参り候趣ニハ無之由

以後火之元之儀随分入念候様尤大年寄共ハ呵候様申渡候事

一稻荷宮社地ニ古キ錢箱モ捨置候付社内江取越候旨神主ハ寺社取

次中江相届ル依之町方心懸候者も有之候ハ、申出候様触流し可申

旨大目附井上弥三兵衛ハ被申聞則惣町へ相触候様ニ今年大年寄江申

渡ス委細触書留帳ニ相記ス

八月御用番十大夫殿 大目附当番持

八月朔日

大年寄 蔵合孫左衛門

八月朔日

一辰之上刻登城例之通於七間廊下御通行御目見申上候事

一於御表御礼相濟候以後町奉行勘定奉行御郡代一緒ニ御用所江罷出

御祝義申述之

一公儀御尋者之義遂吟味候惣町心懸候義無之趣大年寄ハ証文差出

并組之者共ハ同断拙者請合証文兩通 証文一通ハ三通大目附

所江差出之

一御年貢於町在切手替式ハ致外掛候義兼而御停止ニ候弥以御停止之

旨町方へ相触候様御用番十大夫殿被仰渡惣町中江為相触候委細ハ

触書留ニ相記之

八月二日

一 司馬五郎様不休御出東西之大番所前御通被成候節、定番之者致下座候様被仰付候依之御通り前に東ハ材木町西^者宮脇町、定番之者^江為相知候様大年寄^江申渡候事候

一 三浦志摩守殿玉置忠兵衛宅^江御止宿、付御道具拝借之義願出差出於御次権右衛門殿^江及御沙汰候処今般候義ハ志摩守殿、御頼^ニ而忠兵衛方^ニ而御宿申候へハ御道具類拝借之義被仰付候筋^ニハ無之候昨夜今般差懸候義^ニ候へハ内^ニ而役人とも願請候上相濟候様^ニ尤此已後例^ニハ不相成候様取計可申旨被仰渡之大年寄^江申渡ス尤内々小勘者吉田文左衛門^江も申談候事

一 京町類族居所^并宗門改帳差出請取置切支丹奉行中^{江者}町内年寄共、^江差出候事

一 昨夜雲州御家老中、此表御家老中^江書状到来、^ニ付直に大年寄、御届申段相届之

一 出羽守様当月御參勤、付人馬之儀御頼之由申来右返書飛脚之者^江相渡候様^ニと御用番中被仰聞則大年寄^江申渡之

八月三日

一 明四日五つ半時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣御道筋例之通之由中奥目附中、被申聞則御先弘同心之義小頭左五兵衛^江申渡ス尤大年寄へも為相知候事

一 志摩守殿当町御止宿、付取計方之義先年閏播磨守殿止宿之節之通可申旨大目附永井甚大夫被申聞候事候

一 大目附中、廻状到来三浦志摩守殿来ル九日当所止宿、付御家中之

面々^并下々迄御旅宿前致往来申聞敷旨申来ル委細触書留^ニ相記ス尤同心組^并三軒屋番牢番^江相触候事

一 播州網干加賀屋善七手代清八と申者例年之通小間物おろし売昨日參宿手形中之町福茂屋武助、差出ス

一 備州津宇郡妹尾村多兵衛量之表元結木綿類又昨日參宿手形中之町福茂屋武助、差出ス

一 播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛手代久兵衛と申者小間物売昨日參着手形中之町福茂ヤ武介、差出ス

一 坪井町高砂屋安右衛門悴兵助義先達、相願候大坂西横堀瀬戸物町大坂屋忠兵衛方へ三年切奉公^ニ差遣置候処病氣^ニ相成候付御当地へ引戻し度旨願書差出承届之

八月四日

一 五つ半時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣被遊例之通於七間廊下御通懸御目見申上候事

一 林田町年寄山形屋伝左衛門義先達、相果候^ニ付代り同町塩屋庄助跡役申付度旨大年寄共、為窺申候尤書役相初め申聞敷者之由^ニ付何之存寄も無之候間吟味之上申付候様と大年寄^江申渡之

一 三浦志摩守殿当所御止宿、付惣町へ触書差出之尤触書留^ニ相記ス

八月五日

一 先達^而錢箱、苧ッ稻荷神參所之脇生木之中^ニ捨置在之神主見出し神主、寺社取次へ相届候付町方へ相触候様被仰渡相触候処東新町藁屋与七と申者七月八日之夕錢箱見世^ニ差置候処致紛失候少々之物

故注進不申候得共此間廻文在之候故申出候段大年寄共迄書付差出御用所へ相伺候処吟味之上無相違候ハ、相渡遣候様被仰渡則大年寄^江申渡右錢箱吟味之上相渡遣候事

一 権右衛門殿来春御參勤御供被仰出候事

一 町方宗旨改帳三拾三冊^并添証文三拾三通例之通奥書取計宗旨奉行村井六之進方へ差遣候事

八月六日

一 唯次義来春御參勤御供詰江戸被仰付候旨於御用所大目附立会下村権右衛門殿被仰渡候事

一 志摩守殿当所御止宿^二付寄馬之儀相止宿馬式拾五疋之内三疋かよひ馬^二残置右三疋分人足差出候様御用番十大夫殿被仰渡大年寄^江申渡候

一 米相場書差出^ス^{御藏米七拾三匁}^{町米六拾九匁}

一 志摩守殿御宿割役人河野為八と申者上下三人^二而今暮時到着堺町鳥屋与三兵衛方^二止宿之由大年寄孫左衛門申聞候尤人馬之義対談申度旨^二付馬指御用頭差遣候由申出之

一出羽守様近々御參勤^二付当町御通筋道見分小頭大年寄共差出候事

八月七日

一 志摩守殿御宿割役人昨夜着候趣御身所^并大目附中^江及噂候事

一 美濃職人町^二罷在候高畑友賢義醫術為修行京都下立壳宝町東へ入ル処吉岡周助^与申醫師方へ罷越来ル辰之歲迄三ヶ年之間逗留仕度旨願書差出承届ル

八月八日

一 明九日志摩守殿当町御止宿^二付玉置忠兵衛方へ罷越候付御貸人馬之儀大目附中^江申達ス

一 先達^而以來別し^而早魃^二付御家中非人加廻り之義三平申付置候処近来^二而ハ湿り等も有之候間加廻り之義相止候旨御用番中^江及御沙汰大年寄^江申渡ス

一 中屋伴助今夕川向塚原辺^二而^三炮録^{（ツマ）}打揚ケ修行致候付司馬五郎様為御見物川戸御藏前^江御出被成候尤御道筋之義稻垣茂士申来則大年寄^江申渡ス

一 元魚町玉嶋屋安右衛門蔵合伊三郎所持之造酒株当寅今来ル午ノ歲迄五ヶ年切借請売買仕度旨双方願書差出承届之

八月九日

一 惣右衛門殿同役半平今朝東武^江出立

一出羽守様来ル十六日当所御通行^二付御通筋見分^二例之通罷出候尤来ル十二日致出役候段及御沙汰右候付御貸人馬之義大目附中へ申達ス

一出羽守様来ル十六日御通行^二付町方取計方之義先格之通取計候様大目附中被申聞候事候

一 志摩守殿今夕御止宿^二付万一出火も有之御退場へ御残被成候ハ、御退場へ御見罷越候様大目附中被申聞候事候

一 志摩守殿御旅宿玉置忠兵衛宅^江拙者義為御見舞罷越御取次岡山庄左衛門^江及挨拶罷帰ル即刻御用番^并大目附中^江以手紙申達ス今日拙者供人左之通

馬脇^{同心}式人

馬口取 鍵挟箱合羽籠持^{割場} 草り取手人箱挑灯

持式人割場
中間

一 今日同心組出人左之通

町分御先弘式人藤森権六
中山伝内 馬指場へ兩人川端又六
神田権兵衛 泊り番

三船孫八 右泊り番ハ今夕廻りハ明日御先弘兼ル

一 志摩守殿江 御使者望月又ハ被相勤候由

一 町医渡部甫庵後藤田貞北山周齋今日在宿申渡ス

一 御使者宿齋藤孫右衛門宅御取次村井六之進被出候由

八月十日

一 志摩守殿今朝無滞御出立之由大年寄ハ相届之尤町分御先弘相勤候

中山市左衛門三船孫八ハも相届之御用番十大夫殿并大目附当番江

以手紙申達ス

一 馬指場江 同心兩人差出ス本馬式拾三疋差出候由

一 志摩守殿昨今兩日兼田院庄御渡川ニ付左之通被下置候由

金百疋御召船 同百疋惣船江 同百疋御藏元孫十郎 鳥目式百文舟

廻江

金百疋御召船 同百疋惣船江 同百疋御藏元伝藏 鳥目式百文下

裁許人江

メ

一出羽守様近々御通行ニ付触書出ス尤触書留相記ス

一大坂大手筋折屋町田舎屋庄左衛門悴庄次郎腰之内小道具売ニ昨日

参り宿手形堺町西川屋善助ハ差出ス

一 勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄右衛門庄次郎兩人組屋形并

呉服内売昨日参宿切手堺町西川屋善助ハ差出ス

一 万人講木札之義去々年之通極印無之前之通諸方より持参之分其俣入申度旨講元共ハ伺書差出大目付中江及対談候処極印付候義ハ以前之通相止候而可然旨被申聞其段大年寄江申渡ス

一 鍛冶町北側角ニ而煙草屋市郎右衛門所持之家屋敷表口三間裏行四

間半尤西之方ニ而ハ裏行五間半巷步七厘役之所代銀札七百匁ニ相

極右家屋敷之内西之方ニ而表口半間裏行四間半但役式厘代銀札七

拾匁ニ相極鍛冶屋喜平次江売渡申度角之方ニ而表口式間半裏行三間

尤西之方ニ而ハ裏行五間半役壹分一厘代銀札四百七拾式匁ニ相極

町内山形屋与次兵衛へ売渡申度北之方裏ニ而南北巷間半東西式間

但役四厘代銀札百五拾匁ニ相極北隣末世屋太七江売渡シ申度旨願

書差出承届同十八日本証文差出ス

八月十一日

一 戸川町年寄沢屋茂助義昨夜相果候段大年寄ハ相届承置尤茂助義万

人講之講元相勤候左候へハ残り三人ニ御座候得共下ニ而ハ三人ニ而

も相済可申旨ニ候由承之

一 明十二日五半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成御道筋例之通候由

中奥目附中ハ為知申来ル依之御先弘同心組兩人并大年寄へも申渡

ス

一 二階町阿賀屋与十郎義京都新町通錦へ入ル所ニ居申候三木東周と

申者兄ニ而候処無抛用事在之往来三十日計之逗留ニ而罷越申度旨願

書差出聞届ル

一 三浦志摩守殿ハ徒使瀬高磯右衛門与申者之由一ニ尼連罷越尤御

書等持参之由飛脚之檜野屋方へ罷越候段大年寄孫左衛門申出候依

之即刻登城大目附当番永井甚大夫^江申達候処御書持参之事^二候へ
ハ飛脚宿^ニも難差置可有之候間京町本屋忠八^江申付今夕止宿之義
取計候様町年寄案内いたし御書^者明日役人被差出請取可申段及挨
拶候様御急积之^一「明日被取計候積先止宿賄等ハ相当相考可取計
旨被申聞候付其段大年寄孫左衛門^江申渡ス

八月十二日

一出羽守様御通行御道筋安岡町^ハ東新町まで為見分五過時罷出九つ
過時無滞相仕舞罷帰ル尤玉置忠兵衛方先達^而も不意^ニ御小休^ニ相
成候義も有之候間立寄遂見分候但例格之通小頭大年寄も罷出候事
右相濟候段御用番大目附中^江申達ス

一福渡町中村屋忠三郎後家借屋^ニ居申候喜兵衛^并妻^一「西尾多内長屋
江引越度依之町内人別離願書差出承届之

一西今町勝屋常右衛門所持之地國請酒株当年^ハ辰之歳迄三ヶ年之間
借請売買仕度旨坪井町富士屋嘉右衛門願書差出承届ル

一向後御用日五十二七其外朔日十五日御用所之出席御仏詣日^ニハ御
出席無之日々末々役人も同様之由大目附中^ハ為知有之

八月十三日

一出羽守様今十三日雲州御發駕之由人馬先触廻文昨夜到来継馬五拾
二正継人足百五拾人尤継馬^者久世^ハ伏見迄ハ式拾五疋人足ハ少々
余分差出候様と申来候由大年寄^ハ申出御用番^并大目附中^江申達候
処何分御間合候様申合可取計旨被仰渡候付在中寄馬拾疋分申附候
様与左衛門^江申談人足之義ハ大年寄^江申渡ス

一出羽守様当町御小休^ニ相成候へ^者拙者義御本陣^江御見舞罷出候義^ニ

候間兼^而左様相心得候様大目附鈴木此右衛門^ハ被下聞候事候

一京町筆屋六郎兵衛儀清水多橋出坂^ニ付召連可申旨^ニ付罷越度段斷
書差出承届之

一明日四時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏参例之通小頭左五兵衛大年寄^江申
渡ス

八月十四日

一鍛冶場渡候船之儀出羽守様御通行^ニ付明十五日迄相廻候様御船奉
行中^ハ申来り大年寄^江申渡ス

一司馬五郎様来ル十六日出羽守様御通行^ニ付五半時御供揃^ニ而使者
屋敷^江御出被成候付御道筋田町御門^ハ元魚町通夫^ハ新魚町小姓^ハ

一播州^{○龍野}町和泉屋孫兵衛手代茂兵衛甚七と申兩人小間物売昨日
参り宿切手中之町福茂ヤ武助より差出ス

八月十五日

一白銀屋庄助借屋河内屋安兵衛不勝手家屋敷等も小倉屋茂兵衛方へ
売払諸道具^ハ迄之売代なく甚致難義候付宝曆八寅歳封印被仰付候
銀札八百六拾匁之分開封相願組合共及吟味候処難渋無相違趣書付

差出し御用番中^江及御沙汰候処即刻御聞届^ニ付大年寄孫左衛門^江
申渡ス

但前格勘定奉行中へ対談之上及御沙汰候^一勘定奉行^ハ銀札場
奉行中へ通達有之候へとも当時兼役故拙者^ハ直に札座奉行石川

治右衛門^江申談ス

一山田織部殿今日御年寄役被蒙仰候事候

一月並之御礼被為請例之通七間於廊下御通懸御目見申上候事候

一從公儀被仰出候諸国御年貢米并大豆石代金納ニ相用候相場之儀ニ

付御書付壹通大目附永井甚大夫被仰渡町方へ相觸候様被申聞大年寄江申渡ス尤觸書留ニ委細相記ス

八月十六日

一出羽守様昨夜久世御泊院之庄御休ニ而九つ時過御城下通行拙者義

西今町横町妙法寺前之角ニ而御目見申上立宿戸田市郎左衛門宅ニ

罷在町分無滞御通行相濟候趣承届候上引取帰懸御用番十大夫殿御宅江罷越御届申達大目附御用懸鈴木此右衛門江以手紙相届今日拙

者供人左之通鍵持挾箱持合羽籠持馬両口附草り取手人若堂式人

中山市左衛門外之式人室井作右衛門 藤森左助 神田權兵衛東大番所詰大目附江注進使但一番ニ

ノ宮東へ御出被成候注進ニ番町分へ御懸被成候注進以手紙申達ス一町分御先弘同心小頭石名佐五兵衛 小紋羽織着同平組式人中山伝内 吉井藏馬指場江同心両

人川端又六 三船孫八差出ス今日馬式拾七疋差出候由内式拾四疋札馬三疋別

弘之由但御先觸式拾五疋外ニ用候馬三疋殘シ寄馬七疋致用意候処

五疋無益ニ相成候人足都合三百六人内百四拾壹人札人足百六拾五

人ハ別弘之由

一町医渡部甫庵川嶋桃庵細良碩今日在宿申渡ス

一御使者宿齋藤孫右衛門相病出羽守様御使者堀田源太右衛門御取次

赤見類助被出候由

一出羽守様被下物左之通

金二百疋 栗田唯次御先弘同心小頭鳥目三百文同平組兩人江式百文

御目附 茨、駒場へ罷出候同心兩人江銀式匁ツ、右之通被下候旨翌日大目

附中江申達ス

一兼田院庄川ニ而左之通

院庄鳥目壹貫文惣船江 同六百元御藏元 船年寄へ 同百文舟廻し江
兼田鳥目九百目惣船 同六百元御藏元 船年寄へ 同百文舟廻し江

八月十七日

一御用所御出席

一四つ時御供揃ニ而地藏院江御社參被遊候

一勘解由殿来卯歳詰江戸被仰出候尤御參勤後此節御出立ニ而江戸へ御越被成候旨大御目附中今為知有之

一西新町飯綱屋源兵衛所持之家屋敷南側表口五間裏行拾七間但土手

切本役東隣ハ丁子屋源左衛門西隣者伊木屋源右衛門右之内西ノ方表口式間裏行同断但四步役代銀札五百匁ニ相極同町伊木ヤ源右衛門江売渡旨願書差出承届ル同廿日本証文出ル

八月十八日

一造酒之助殿今朝東武江御出立被成候事候

一米相場書差出ス御藏米六拾五匁五分町米六拾壹匁五分

一美濃職人町天目屋庄兵衛義此度野条元次郎屋敷江家内四人共引越

申度旨町内人別除願書差出承届之

一七つ前時勝山ハ飛脚到着岡山庄左衛門ハ拙者宛之金銀入紙包壹ツ持參之由大年寄申出則右紙包相届披見候処先頃志摩守殿通行之節

出役之面々被下物相送候旨申越即刻登城大目附中江申達候御用番中へ拙者ハ申達候様被申聞十大夫殿江御届申達ス尤紙面等入御

覽候何分宜及返書候様被仰聞尤飛脚之者ハ先格之通宿并賄等取計候様大年寄^江申渡ス飛脚之者石原瀧右衛門と申足輕之由

一右庄左衛門ハ差越候紙面書付等書翰留^ニ相記ス出役之面々^江被下物左之通

金式百疋 栗田唯次 金式百疋 望月又八 同 火消御番

同百疋 遠藤十助 同百疋 三浦保助

銀三匁 日下繁右衛門 銀三匁 菅人名面不知

銀式匁宛 足輕兩人

右之通志摩守ハ被相送候以上

八月十八日 三浦志摩守内 岡山庄左衛門

右被下物大目附太田舍人^江差出し舍人ハ夫々^江被相渡候筈被申聞候事候

八月十九日

八月廿日

一御用所御出席

一四時御供揃^ニ而地蔵院^江御仏參被遊候

一明廿一日御用所在之旨大目附中ハ為知有之

一明廿一日万人講地所請取申度旨講元ハ申出候由大年寄ハ申聞今日

与左衛門ハ及対談明日九つ時郡代下代差出同心小頭左五兵衛差出

可申候間講元共請取候様^ニと申渡ス

一蔵合孫左衛門方^ニ是まで致逗留罷在候真嶋郡下方村次右衛門伯母

妙随ハと申者孫左衛門伯母^ニ付病身^ニ付以後引請養育仕遣度旨願書

差出今日及御沙汰承届候段孫左衛門^江申渡ス

一戸川町貴屋源忠^与申者大久保大炊守殿御領分久米南修郡小原村儀右衛門甥忠次と申者由緒有之請請住宅為仕度旨尤町内人別入願書指出御用番^江及御沙汰聞届候事候

一西川領分役人小形進吾酒井良藏ハ飛脚到来大坂廻米取計候^ニ付小桁御番所通船無滞様取計呉候様^ニと川下役人平瀬瀬平と申者之印鑑老枚差越則及返書委細状留記ス右印鑑ハ与左衛門ハ石尾紋吾方ハ遣候事候

一久世出雲守殿役人八木伝次郎中村与左衛門ハ下飛脚到来領分收納承之義^内津山河岸二ノ宮河岸取寄之村々右両所^江津出し為致船積川下ケ候義頼来ル則及返書状留相記ス

八月廿一日

一御用所御出席

一明廿二日御用所御出席御延引被成候旨大目付中ハ為知来候事候

一備前岡山野田屋町出石屋清右衛門悴清十郎^与申者菅人例年之通元

結売昨日參宿切手堺町初川ヤ善助ハ差出ス

一二階町嶋屋藤吉方ハ播州加古川ハねちわく細工手伝^ニ九郎兵衛長

次郎^与申者式人例年之通呼寄昨日參り当十二月中旬迄差置度旨願書差出聞届ル

一明廿二日六半時御供揃^ニ而川向杉山^江鹿狩^ニ御出^ニ付御道筋京橋御

門ハ川井円左衛門前通夫ハ鍛冶場^江御出被成候旨中奥目付中ハ申

来例之通大年寄孫左衛門^江申渡御先弘同心之義も小頭左五兵衛^江

申渡ス

一夜^ニ入候^而蔵合孫左衛門罷出鍛冶場渡し船甚見苦敷趣御蔵元ハ申

出候いか、仕可申哉候付即刻登城大目附中江申達候処御小納戸
芦沢作十郎を以被相伺候処見苦敷分御構不被成早竟御無造作ニ而
毎度御出被成思召ニ候間不苦旨ニ付其段孫左衛門江申渡ス勿論船
頭之義ハ一兩人も見計差出候様申渡候

八月廿二日

一六半時御供揃ニ而杉山江御出被遊御帰ニハ安岡町ノ本町通田町御門
江被為入候御先弘藤森権六神田孫兵衛無滞相勤候旨相届之
一米相場書差出御蔵米六拾四匁五分町米六拾匁五分

八月廿三日

一宮村ニおゐて雲州者之由似セ札師文吉作次右衛門林左衛門又次
郎ノ四人捕置候旨札座奉行ノ相届候間大目附中被及対談候而宜取
計候様御用番十大夫殿被仰渡候ニ付井上弥三兵衛及対談候処先於
一宮銀札場より吟味候上拙者方ニ而取計可然旨被申聞札座奉行へ
も被致指図候由

一前段之通四人相捕置候旨之処文吉義者東一宮村百姓清助与申者方
ニ罷出候処今朝のいつかたへ參候哉行衛不相知尤贖札板木等之義
ハ文吉方ニ所持之趣ニ林左衛門及白状作次右衛門又次郎兩人義ハ
贖札遣候趣之由高橋小右衛門ノ大目附中江被相届候由

一右三人之者一宮村ニ差置候而も不相濟候間同心組差遣此方へ召捕
可然哉弥三兵衛へ及対談候処与三衛門と申合其通取計候様被申聞
則同心組中山市左衛門同伝内室井作右衛門三船孫八藤森左助ノ五
人差遣し召連罷帰ル夜ニ入候付牢番預ニ取計右之趣御用番并大目
附中へ以手紙相届之

一右三人之者共於一宮当分之腰かけ宿いたし罷在候西今町佐右衛門
与申者致吟味候様大年寄孫左衛門へ申渡之

一大目附中ノ廻状到来明廿四日御家中大役人以上鍛術御覽尤老輩役
付之面々茂罷出候様師近無之面々ニ而も同流之事ニして師役之門
弟ニ交罷出候様餘流當時師匠無之共同門四五人も在之候ハ、御覽
可被成旨申来ル則触書留ニ記ス

八月廿四日

一今枝流進藤流鍛術御覽被成候事候

一昨夜召捕候似セ札師とも今日於牢屋小頭部屋目附平組式人差遣し
致吟味口書取之似セ札致候段及白状候由

一今町佐右衛門義大年寄共宅ニ而遂吟味候処今へ腰かけ宿ニ而一宿抔
致候義ニハ無之煮売之代物大概四匁位と為候処七匁相弘仁鉢不相
応之義何とや候札も紛敷様相見へ則市之場所へ罷出ニ階町鳥屋佐
助林田もみや忠助兩人江見七候処贖札紛無之旨ニ付取逃シ不申候
様致候段同書家主町内年寄印形之上孫左衛門ノ差出之

八月廿五日

一御用所御出席

一雲平流心勝流槍術御覽被成候事候

一今般似セ札三人之者昨日於牢屋致吟味「」之趣於御用所十大夫殿
江及御沙汰大目附中へも申達候事候

一米相場書差出御蔵米六拾三匁町米五拾九匁

一京都六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代新兵衛金十郎甚六三人例年之
通呉服売ニ夜前罷越宿切手京町海老屋長右衛門差出ス

一久世出雲守殿役人八木伝次郎中村与左衛門の書状到来先達_二申來候廻米津出し義津山二宮河岸_二而津出し之義津山計_二而いたし候段申來ル尤此方明朝飛脚差立委細可申遺積之処書状來候付一緒_二返書遣ス尤状留_二相記ス

八月廿六日

一山田織之進柔術白杵小藤太業御覽被成候

一近日射術御覽被成尤老輩之面々_茂罷出_并他流たり共兩流之跡_二差隨罷出候様被仰出候旨大目附中廻状到來触書留相記ス

一明廿七日御用日之処明後廿八日御用所御出席被成候旨大目附中爲知有之候

八月廿七日

一米相場書差出ス御藏米六拾壹匁五分町米五拾七匁五分

八月廿八日

一御用所御出席

一二階町大工長右衛門八年以前未歲相願森山泰尔_与申医師引請養育致候処当六月借請候借屋差戻し何方へ歎罷出候付町内人別離之義

願書指出候今日及御沙汰聞届候旨大年寄_江申渡ス

一西今町久保田屋利右衛門借屋_二罷在候研屋儀右衛門義買小十郎殿支配所備中阿賀郡皆部村彦右衛門_与申者縁類_二付罷越度尤以後役介_二引請吳候旨御当地人別離願書差出及御沙汰承届之

八月廿九日

一大坂北久太郎町丸屋藤兵衛手代兵助宇兵衛兩人例年之通大工道具売_二夜前参り宿切手京町海老屋長右衛門_二差出ス

一大坂北久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代与兵衛_与申者老人例年之通小間物卸売昨日参宿京町海老屋長右衛門の宿手形差出ス
一備前岡山小畑町鼠屋甚八_与申者老人例年之通元結おろし売昨日参り堺屋伊右衛門宿切手差出ス

八月晦日

一御用所御出席

一紀州海士日方浦池谷町谷四郎手代勝右衛門利右衛門儀兵衛五兵衛と申者以上四人例年之通椀折敷類売_二昨日参り宿小姓_{マコ}町田戸屋宗十郎宿手形出ス

一大坂北浜町錢屋七郎右衛門手代佐兵衛_与申者老人例年之通小間物屋へ懸銀札取_二昨日参り宿小姓_{マコ}町ひしゃ兵藏宿切手差出ス

一安岡町小倉屋次右衛門持來候請酒株去ル丑ノ十二月來卯十二月迄三年之内小姓_{マコ}町田原屋太兵衛手前_江預ヶ置候処此度自国請酒株売買相止候付治右衛門方へ取戻し申度願書差出し候承届之

九月_{御用番}下村権右衛門殿 大目附_{当番持}

大年寄_{月番}斎藤孫右衛門

九月朔日

一今日月並御礼被為請例之通七間廊下_二おみて御通懸御目見申上候事候

一京町使者屋敷_二講釈明二日_二毎月夜講_二相成候間町廻り同心共右講釈相濟候迄相詰罷在候様大目附井上弥三兵衛被申聞小頭左五兵衛_江申渡ス右_二付明油之儀先達_而起炭小勘者所_二大年寄共請取

通^ニ今般取計候尤大目附中へ及噂候^而大年寄孫右衛門^江申渡ス

九月二日

一御用所御出席

一撰州大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門^与申者^者人例年之通庵弓弦卸売昨日参宿東新町因幡屋新七^与宿切手差出ス

一玉置広四郎義例年之通油しめ申度播州龍野^与半兵衛代助伊左衛門忠七半次郎市藏文四郎源大夫幸七以上拾^者人当时^者来卯五月迄召抱申度旨願書差出承届ル

一船頭町木屋理右衛門義元魚町東側^ニ而所持之家屋敷表口四間半裏行拾七間但役本役也北隣^者多ひや善十郎南隣^者灰屋伊左衛門代銀札七百匁^ニ相極同町松物屋太吉へ売渡申度旨願書差出承届ル同

「」本証文出ル

九月三日

一吉野郡中谷村勘次^与申者^者人例年之通晒^{ツマ}鱈^{ツマ}鱈節木綿^{ツマ}嶋^{ツマ}并着物おろし売^ニ昨日参り宿堺町大室屋藤兵衛^与宿手形差出ス

一播州網干新在家印部屋新六^与申者^者人例年之通塩物^并鱈節おろし売^ニ昨日参り勝間田町吉田屋^与三兵衛宿切手差出ス

一播州網干横浜菊屋弥七郎^{同手}代代善藏上下式人例年之通小間物卸売昨日参勝間田町吉田屋^与三兵衛宿切手差出ス

九月四日

一四つ時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏参例之通同心組式人御先払差出ス
大年寄共へも為知候事候

一播州網干余陸屋武兵衛^与申者^者人例年之通八百屋物^并鱈節売^ニ昨日参り宿中之町小山屋^与三右衛門宿切手差出ス

昨日参り宿中之町小山屋^与三右衛門宿切手差出ス

一播州網干丸尾屋六三郎^与申者^者人例年之通着物類^并塩物おろし売昨日罷越中之町小山屋^与三右衛門宿切手差出ス

一播州網干余陸屋宗七同手代彦右衛門^与申者^者人例年之通八百屋物おろし売昨日参り中之町正木屋伊右衛門宿切手差出ス

一播州網干平松屋惣九郎^与申者^者人例年之通小間物^并晒^{ツマ}鱈^{ツマ}売^ニ昨日参り中之町小山屋^与三右衛門宿切手差出ス

一播州網干河本屋為七^与申者^者人例年之通着物^并鱈節類売^ニ昨日罷越中之町同人^与宿切手出ス

一播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎と申者^者人例年之通塩物おろし売昨日参り中之町正木屋伊右衛門宿切手出ス

一播州網干鍛冶屋宇十郎同手代善十郎^与申者^者人例年之通鱈節^并鱈売^ニ昨日参り中之町正木屋伊右衛門宿切手差出ス

一但州生野御代官平岡彦兵衛殿手代中里忠助^与飛脚到来当国支配所村々物成石直段之儀津山町当十月十五日^与同晦日迄之米相場書相用候由^并当正月^与極月迄之錢相場書之儀申来ル則相応之返書遣ス

状留^ニ委細相記ス

九月五日

一御用所御出席

一先頃於一宮贖札遣候佐次右衛門又次郎兩人牢番預^ニ相成居候処御領分追払申付候様於閑談之間御用番権右衛門殿被仰渡候依之同心

小頭部屋目附^并平組兩人牢番^江差遣シ書付を以申渡御領分境皿村迄追払皿村之庄屋一札を取罷帰ル無滞相濟申候御用番大目附中^江

以手紙申達ス

一 細工町杵物屋長左衛門借屋^二居申候喜助^与申者忤当寅十四歳^二罷成候処去ル六月十一日^二与^与風罷出候^而罷帰不申所々相尋候得共不相知其節斷書猶又尋候様申付置候処今以行衛不相知取早日数百日余^二も相成候^二付当所人別離願書差出御用番中^江申達聞届候事候

一 細工町治右衛門^与申者借屋^二居候治助義去ル六月七日^与風いつかたへか罷出所々相尋候処行衛不相知其節書差出猶又相尋候様申付置候処今以弥不相知取早日数百日余^二相成候付当所人別除キ願書指出御用番中へ申達聞届ル

一 三町目草津屋茂市郎義備前赤坂郡周迺村金屋^三郎左衛門縁類^二付三郎左衛門娘みよ病身^二付為養生今度罷越来ル十一月迄^二逗留為仕度旨願書指出承届

一 二階町神目屋長右衛門持来候古道具取売申儀不勝手^二付此度京町岩佐屋善七右之跡相勤申度旨双方願書差出聞届ル

九月六日

一 鍛冶場前土橋懸渡候旨申出候^二付為見分同心小頭指遣今夕橋往來相始船渡相止候段御用番^并大目附^江手紙^二而相届ル

九月七日

一 諸吟味役相勤罷在候戸田市郎左衛門儀病身^二付難相勤役儀御免被成下候様願書差出遂吟味候処無相違趣^二付今日御用番中^江及御沙汰願之通承届候様被仰渡候尤大目附中へ^茂申達候事

一 似七札師林左衛門所持之品々銀札場^江取上候処今般当役所へ請取候様尤佐次右衛門又次郎兩人於一宮村調物之品々は又札座へ取上

候処当役所^江相渡候様札座奉行へ被仰渡候間対談之上請取候様尤売渡候町人とも^江吟味之上相渡遣候様^二と大目附永井甚大夫被申聞候

一 京六条上ノ口通高瀬川西^江入町升屋勘六^与申者忤人例年之通小間物させる卸売昨日参^二階町堺屋伊右衛門宿手形差出ス

一 播州網干新在家村惠美須屋甚次郎^与申者忤人例年之通塩物^并鯉節類売昨日参り中之町福茂屋武助宿切手指出ス

九月八日

一 生野御代官平岡彦兵衛殿昨夜勝間田駅止宿今日当町通行^二付先格之通町分御先弘同心組兩人差出ス尤九ツ前時分通行之由組之者相届且又御通筋掃除之儀大年寄^江申渡ス

一 四ツ時御供揃^二而泰安寺^江御仏参例之通同心小頭大年寄^江為知遣候事候

一 戸田市郎左衛門義願之通諸吟味役差免候旨於宅申渡尤同心小頭左五兵衛大年寄斎藤孫右衛門立会^二而申渡候事

一 惣^(マ)逗^(マ)府屋共大豆高直^二付逗府一挺^(マ)ニ付拾四文^ニ売申度旨願書差出昨日御用番^并大目附中^江申達聞届候旨大年寄^江申渡ス

一 銀札場奉行近藤伊左衛門左之品々今日被相廻候^二付請取尤贗札銀札場^江差出候付書付計廻ル

覚

一 墨 拾壹挺 一 けぬき 式本

一 紙入三 四つ 一 綿巾着 巻つ

一同たはこ入巻つ 一 かうかい 九本

一 木かうかい四本 一 花かんさし七本

一 八まんし 式束 一 あいしほり八反

一 嶋マツ 式反 一 広嶋札 六枚

一 くしいろく廿三枚 一 袋入 林左衛門懐中物

一 布風呂敷 式つ

一 拾五色

一 寅九月八日

一 一七匁九分五厘つたヤ源三郎 一 式匁 為本ヤ源七

一 一四拾貳匁此分ノ出ス市瀬屋 与市 一 拾三匁 久本ヤ佐吉

一 一拾九匁 阿波ヤ 新十郎 一 拾四匁 今川ヤ清八

一 一拾三匁 安水ヤ 武助

一 百拾壹匁

一 右之通贖札差出申候

一 寅九月八日

一 九月九日

一 辰之中刻諸士登城例之通七間廊下ニおゐて御通懸御目見申上候事

一 明十日四時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成旨中奥目附堀江左膳ハ

一 申来御先扶同心之義小頭左五兵衛江申渡元魚町人留之義大年寄孫

一 右衛門江申渡ス

一 九月十日

一 一四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏參被成候事候

一 向後御用日ニ御社御仏詣等被成候節者以前之通七間廊下江相詰候
様大目附鈴木此右衛門与申聞候事候

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代庄兵衛与申者老人例年之通茶碗類売
昨日参り小姓町田戸屋宗十郎宿切手差出ス

一 備前岡山中之町真嶋屋多平次と申者老人例年之通万紙類おろし売
ニ昨日参り境町西川屋善助マツ宿切手差出ス

一 備前岡山下市町中嶋屋久六与申者老人例年之通元結売ニ昨日参り
境町右同人マツ宿切手出ス

一 東新町岩屋文蔵所持之家屋鋪北側ニ而表口五間裏行拾七間但役本
役東隣倉敷屋七郎右衛門西隣八橋崎屋権兵衛右之家屋敷并古蔵三

ヶ所安岡町久永や清兵衛取次ニ而銀札壹貫貳百匁之質物ニ書入致借
用采卯八月切ニ相極請返申度旨願書差出承届ル同廿二日本証文差

出ス
一 宮脇町年寄柏屋伊右衛門昨日相果候旨大年寄孫右衛門ハ相届尤老
人役故当分坪井町年寄ハ兼帯申付候由

一 九月十一日

一 一四つ時但州御代官平岡彦兵衛殿当町通行ニ付先格之通町分先扶同
心組兩人差出ス尤道筋掃除之義大年寄江申渡ス

一 播州龍野町和泉屋孫兵衛与申者老人例年之通小間物売昨日参中之
町福茂屋武助宿切手差出ス

一 中之町平岡屋忠右衛門撰州棍木町八丁目玉子や九兵衛方江往来四
十日之逗留ニ而罷越度旨尤明十二日出立仕度段申出承届ル

一 久世出雲守殿勝間田役所八木伝次郎中村与左衛門ハ書状到来船頭

町今津屋伊右衛門ハ大年寄迄相届候由ニ而孫右衛門ハ相届ル勝部村孫市今津屋伊右衛門ヘ藏元之義申来ル則返書差出ス書簡留委細相記ス

一 明十二日四つ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏參中奥目附中ハ申来り例之通御先弘同心組兩人小頭江申渡御通り筋町方掃除人留等之義大年寄江申渡ス

九月十二日

一 例年之通大般若御祈祷執行在之

一 四つ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏參七間廊下江罷出御通掛御目見申上候事候

九月十三日

一 御藏元相勤罷在候姫路屋伝藏養父甚右衛門義を新魚町罷在候魚屋仁大夫ト申者散々及悪口夫之ミならず仁大夫為敵候間打可申旨聞六月十日ツ一日船頭町髮結善右衛門方ニ而申候節伝藏弟和泉屋清次与申者承之早速伝藏方ヘ申聞候付いか様之訊ニ而是様ニ申候哉吟味被仰付候様尤町家之義致し方も無之昼夜共油断も不相成候付何分御吟味被成下候様ニと願書差出ス依之大年寄共談合ニ而仁大夫返答書并和泉屋清次髮結善右衛門吟味書取之内濟之義取扱候得とも不相濟右願書差出ス依之先仁大夫義ハ禁足申付組合之者共氣を附候様ニと大年寄孫右衛門江申渡ス

九月十四日

一 四つ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏參被遊例之通御先弘同心組兩人差出御通筋掃除并人留之義大年寄江申付ル

九月十五日

一 御用所御出席

一 月並御札被為請辰之中刻諸士登城拙者義七間廊下ニおゐて御通掛御目見申上候

一 中之町三室屋宇左衛門義無拋用事在之備前岡山上之町赤穂屋徳左衛門方ヘ往来廿日計之逗留ニ而罷越申度尤明十六日出立之趣断書差出承届ル

一 堺町龜屋文六義近来病身ニ罷成中買役難相勤安岡町古川屋多兵衛ト申者縁類ニ付相讓申度旨双方願書差出承届ル同廿五日右太兵衛ハ一札差出ス

一 船頭町田原屋六兵衛今般久世出雲守殿領分之内四ヶ村程之内藏元仕度旨願書差出尤取計之義ハ六兵衛所持之藏ニ而取納仕度旨申出候依之先格相調候処是まで宅ニ而取計候例無之市中之儀火之元等も無覺束且又紛敷義も可有之哉ニ付宅ニ而取計之儀ハ不相知候段申渡ス尤御用所并大目附中ヘ前断之趣申達候事候

一 姫路屋伝藏魚屋仁大夫一件ニ付今日大年寄宅ニ而同心小頭左五兵衛差遣遂吟味候事候

九月十六日

一 御挾箱持人被召抱候間望之者有之候ハ、申出候様惣町江相触可申旨大目附中ハ被申聞先格之通触書大年寄孫右衛門江相渡ス

九月十七日

一 御用所御出席

一 四つ半時御供揃ニ而地藏院江御社參七間廊下ヘ相詰ル右ニ付元魚町

貫木際人留之義大年寄江申渡ス

一 下紺屋町大溝佐藤平太屋敷前制札損候ニ付町内年寄共方へ預り置候段訴出大目附中江申達ス御作事方へ可申達旨挨拶在之候事候

一米相場書指出ス御蔵米六拾匁五分町米五拾六匁五分

一 三町目浜野屋善十郎借屋ニ居候権六与申者并妻ひろ今度南新座町野間宗庵長屋江引越申度町内人別除願書差出承届ル

一 二階町阿賀屋与十郎儀去月断申出往来三十日計之逗留ニ而京都江罷越候処道中ニ用事在之今十日計日延之断同役ぬし勘平願書差出承届ル

九月十八日

九月十九日

一 德守宮祭祀ニ付例年之通同心組小頭左五兵衛平組権六作右衛門権兵衛甚蔵差出ス無滞相済御用番并大目附江以手紙御届申達ス

九月廿日

一 御用所御出席

一 四つ半時御供揃ニ而地藏院江御仏詣例之通七間廊下江相詰ル元魚町人留之義大年寄江申渡ス

一 船頭町今津屋伊右衛門久世出雲守殿領分西々条郡之内貞永寺村馬場村式ケ村年貢米取納いたし津出シいたし度旨願書差出御用番中江申達候処吟味之上故障之筋も無之候ハ、申付候様権右衛門殿被仰渡候尤何之礙無之趣ニ付勝手次第相勤候様大年寄江申渡ス

一 二階町阿賀屋与十郎京都新町通錦上ル所三木東周悴尔蔵与申者甥ニ付一家為見上昨夜罷越五十日計逗留仕らせ度旨願書指出承届ル

九月廿一日

同 廿二日

一 御用所御出席

一 於一宮贖札遣佐次右衛門又次郎江売渡候品々吟味之上此間迄ニ夫々江相渡遣ス則銘々請取書取之大年寄共々今日差出ス則大目附中江及噂候置

一 内藤山城守殿内松下助七少書状到来十月十五日同晦日迄米相場書申来ル則相応に返書差遣ス状留記ス

一 太神楽打岡田忠大夫昨日參候由大年寄少申聞ル

九月廿三日

一 小姓町藤屋源助家屋敷書入京町吉田屋喜八より致借物返済方段々及不埒先々役永井甚大夫時分少出入ニ相成居候処今日右家屋敷喜八方へ引渡候様源助江申渡ス源助義吉田屋方へ利分相滞銀礼場ニ而三百匁右家屋敷書入致拝借候ニ付家屋敷吉田ヤ方へ請取候上者源助銀礼場少之借物引請筋立上納致候様申付ル尤御用番中并大目附中へも此間申達置今日右之通申渡ス右無滞相済候段御用番并大目附江以手紙御届申達ス

一 上紺屋町長兵衛義去ル閏六月十三日之夜妻くまを理不尽ニ致打擲候ニ付くま先達而大沢三平役中ニ何卒長兵衛義離縁致し候様仕度旨願書差出大年寄場合ニ而双方遂吟味候処兼而度々及口論組合之者共少及挨拶候へとも不相用其迄長兵衛少申出候趣相違ニ付組合之者とも印形不致趣ニ付先三平時分ニ長兵衛ハ親七郎右衛門方へ預禁足申付置候処右濟口今日申渡ス然ル処長兵衛義及違背候付

手錠申付組合ニ預ケ置委細申渡書付別帳ニ有之

九月廿四日

一上紺屋町長兵衛儀昨日申渡候趣及違背候付手錠申付候段御用番并大目附中江申達ス尤存寄候趣も申達候事候

九月廿五日

一御用所御出席

一林田町馬持武兵衛義御領分東南條郡高野本郷北村助十郎弟和助義由緒有之此度養子引請申度町内人別人願書差出郡代所江茂本郷北村庄屋儀兵衛ハ願書差出候付与左衛門与申合候而聞届ル尤大年寄江申渡ス

一戸川町年寄沢屋茂助先達而病死跡役之義町内高雄藤助江申付候様今日齋藤孫右衛門江申渡ス尤藤助へ年寄役申渡候様ニと大年寄共ハ吟味之上右之通取計之

一水油之義直段高直に付先達而以来度々御触出候処銘々渡世之勝手ノミに抱り無益之費等有之菜種綿実豊凶之無差別而種物大坂江登込少ク油直段高直ニ付猶又此度御吟味之上出油屋江可請取口錢引下ケ候様被仰付候間国々ハ撰河泉村々江指登候様と従公儀御触出候付町市へ相触候様大目附中ハ被仰聞今日大年寄孫右衛門江申渡ス尤触書留ニ委細相記ス

九月廿六日

一上紺屋町長兵衛義手鎖申付置候処甚迷惑仕段々不調法之儀恐入罷在候旨何卒御慈悲「奉願候段尤此得態義ニ付少茂申分無之由組合江相款一札差出右組合之者共ハ歎書差出候事候

九月廿七日

一御用所御出席

一久世出雲守殿内八木伝次郎中村与左衛門ハ昨日飛脚到来当国領分之内廻米川下近々ハ取計候ニ付印鑑差殘候間小桁御番所通船無滞様取計呉候様申来ル且又領分村々諸荷物備前へ積下シ売払候節同所御番所大切手裏印願出候節吟味之上裏印差出度旨印鑑壹枚来ル依之外御私領分並之通川下ケ物取計可申旨及返書故印鑑弍役ハ与左衛門ハ小桁御番所江遣ス委細状留ニ相記ス故略之

九月廿八日

一司馬五郎様四つ半時御供揃ニ而二宮江御遠乗被遊候御道筋京橋御門ハ本町通筋違橋「御通之旨馬場喜内ハ申来リ大年寄江為知遣ス

九月廿九日

一上紺屋町長兵衛今日呼出年寄組合召連罷出昨日相伺置候通裁許申渡ス尤小頭部屋目附平組兩人大年寄諸吟味如何相詰

(呵追込手鎖 差免ス)

上紺屋町長兵衛

(呵追込 委細申渡帳記ス諸書付一袋ニ入置)

宮脇町六郎右衛門

(夫長兵衛義親七郎右衛門方へ 罷帰候様申付候間以後家相統之義取計候様申渡ス)

上紺屋町くま

一新魚町仁大夫義今日呼出し年寄組合罷連罷出ル昨日窺置候通裁許申渡ス出役之者右同断

(呵追込 委細申渡帳記ス諸書付一袋ニ入置)

新魚町仁大夫

右兩様共申渡相濟御用番并大目附中へ以手紙御届申達ス

一播州姫路惠美須町網干屋彦四郎与申者老人例年之通腰物小道具類
売^二昨日參坪并町桔梗屋庄右衛門之宿手形差出ス

十月御用番大橋十大夫殿大目附当番持

大年寄月番蔵合孫左衛門

十月朔日

一五つ半時諸士登城月並御礼被為請例之通於七間廊下御通掛御目見
相濟

一勝山家中筑摩源右衛門渡部庵兵衛之飛脚到来当十月米相場平均之
義頼来ル則相応及返書尤書簡留帳^二相記ス

一來ル三日亥猪御祝義被下候旨御奏者古市兔毛之演説有之
一御家中御物成明二日相渡候旨御蔵之廻状到来

十月二日

一御用所御出席
一今日射術御覽有之

十月三日

一西川役所小形進吾酒井良藏永松太惣左衛門よ^一飛脚到来太惣左
衛門印鑑一枚来ル諸荷物大切手裏印取計候^二付小桁御番所^江相廻
呉候様申来ル則返書遣ス印鑑ハ与左衛門之小桁へ相廻ス

一戸川町重屋源忠悻忠次与申者伊達与兵衛殿若堂奉公^二被召抱候^二
付平尾忠兵衛と相改罷出^一町内人別離願書出し承届ル

一亥猪^二付申中刻過諸士登城大役人まで御祝義頂戴之

十月四日

一備前小嶋郡梶岡村嘉十郎善太郎与申兩人例年之通米買昨日参り
^二頭町高松ヤ利介宿切手差出ス

一川下諸荷物大切手蔵合孫左衛門差出例之通裏印取計遣ス

一海老原極人物成去ル二日於御蔵相渡候処間違有之通^并切手共紛
失之由拾ひ候者又ハ切手買請候もの之候ハ、早に御蔵役所^江申
出候様惣町へ相触候様大目附中之被申聞触書大年寄^江相渡ス委細
ハ触書留^二相記ス

一大坂入宝寺町堺筋菱屋理兵衛手代茂兵衛与申者老人例年之通小間
物売^二昨日參坪町小鳥屋次郎右衛門之宿切手差出ス

一銀札場之錢五拾箇備前岡山^江引替候^二付川筋兩御番所通手形裏
印之義申来例之通取計之

十月六日

一海老原極人物成通ひ切手共紛失之廻状到来則同心小頭左五兵衛^江
相渡ス触書留帳^二委細相記ス
一播州今市綿屋嘉市郎弟守助同手代忠七武兵衛与申者三人例年之通
呉服売^二昨日罷越二階町境屋伊右衛門之宿切手差出ス

十月七日

一御用日之処御対面所^二而^二式法之射術御覽^二付無出席

十月八日

一四つ時御供揃^二而^二泰安寺^江御仏参依之御先扨同心組兩人差出ス御
道筋掃除^并人留等大年寄^江申渡ス

一明九日五時御供揃^二而^二丸渕之辺^江御川狩^二御出御道筋ハ京橋御門之

川井円左衛門前通夫ハ鍛冶場へ御出被成候旨中奥目附中ハ申来り
大年寄江申渡ス尤御先ハ之儀小頭左五兵衛江申渡ス

一右ニ付鍛冶場波ハ戸場ハ之儀先格ハ之通御藏元江申付候様大年寄江申渡
ス

十月九日

一五半時御供揃ニ而丸刈江川狩ニ御出被成御帰暮時分

一魚屋仁大夫追込差免候様御用番中被仰聞大年寄江申渡ス右相濟候
旨御用番大目付江以手紙御届申達ス

一來月万人講日取建札之儀講元ハ申出相伺候処十八日之方御用番中
御聞届ニ付大年寄江申渡尤大目附中江も申達ス

一東新町紺屋長次郎去ル丑十月勝山領分美江甘村江紺屋伊右衛門方江
当九月迄ニ奉公ニ罷越候処来卯九月まで奉公ニ罷越度旨願書差出
承届ル

一堺町小鳥屋次郎右衛門義雲州松江茶町小道具屋戸七与申者脇差小
道具類売ニ御当所江参来「」私宿仕候然ル処戸七段々不勝手ニ罷
成り得参り不申大坂米屋町渡部筋播磨屋庄兵衛義戸七甥ニ付代り
ニ差越度旨申越候付願書差出し承届ル

一万人講場見分今日同心小頭御郡代下代罷出ル

十月十日

一御用所御出席

一來ル十五日来月十八日万人講ニ付如例大目付中ハ廻状到来小頭江
相渡ス

一京町加茂屋和六俵重兵衛儀去ル子歳三月改大坂安土町壹丁目広屋

徳左衛門方へ売買為見習差遣置候処近来病身ニ付罷帰候尤右徳左
衛門手前ニ而逗留中何之故障も無之旨断書差出承届ル

十月十一日

一來ル十五日万人講ニ付如例町方へ触書差出ス

一撰州南本町三丁目小法師理兵衛与申者老人例年之通墨筆売ニ昨日
参り中之町福茂ヤ武介ハ宿切手差出ス

十月十二日

一今日於御藏例歳之通御給米御役料相渡ル

一四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏参御道筋掃除人留等之儀大年寄江申
付ル御先ハ同心組兩人小頭江申渡ス

一明十三日戒善院様御証月ニ付泰安寺江御仏参尤五つ時御供揃ニ而御
出被成候旨大目附永井甚大夫被申聞御道筋掃除等之儀如例大年寄
江申渡ス御先ハ之義小頭江申付ル

一來ル十五日万人講ニ付拙者出役之義大目附中江申達ス
馬之義并同心加人四人之儀大目附中江申達ス
一万人講拜借道具之儀願出例之通御城江小頭「」受取御中間ニもた
せ罷帰於我等宅講元江相渡ス

一西川役所小形進吾酒井良藏永松太惣左衛門ハ書状到来当十月米相
場之義頼来ル相応及返書尤状留ニ記ス

十月十三日

一五つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏参被遊候事

一江州神崎郡新堂村嶋屋新平与申者老人例年之通きせる并墨筆おろ
し売ニ昨日参堺町西川ヤ善助ハ宿切手差出ス

一來ル十五日万人講ニ付如例前夜町中為知太鼓打廻候義御用番并大目附所江申達ス

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代次吉と申者一人例年之通茶碗類売ニ昨日参り小姓町田戸屋宗十郎の宿切手差出ス

一奥州伊達郡梅松寺○小徳師マツ弟子願正与申六部老人諸国修行罷出候処於道中病身歩行不相叶備中八川村の段々送り二宮村の送り来候由ニ付町分送り出候様大年寄江申渡ス押付送り相濟候段申出御用番并大目附中江申達ス

十月十四日

一四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏参ニ付如例同心小頭并大年寄○取附之義申渡ス

一宮脇町からし屋七郎右衛門并悴長兵衛追込差免候様ニと昨日十大夫殿の被仰渡今日申渡右相濟候段御用番并大目附中江以手紙御届申達ス

一米相場書指出ス御蔵米六拾匁五分町米五拾六匁五分

十月十五日

一御用所御出席

一於視河原万人講興行ニ付如例五つ時合町奉行郡代出役并御徒目附下目附同心郡代下代大年寄地方目附ニ至ル迄罷出暮時分無滞相濟引取御用番御宅江御届申達大目附江者与左衛門唯治以連名手紙相届ル

寄札高老万六千四百九拾枚 三歩銀高式拾四貫七百三拾五匁

一明十六日御用所不時御出席有之旨井上弥三兵衛の申来ル

一今戌ノ刻の御用所不時御出席有之旨同人の申来り即刻罷出九つ過時退出

十月十六日

一今日御用所御出席

一明十七日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参被遊候旨中奥目附中為知来如例人留之義大年寄江申渡ス

一土井大炊頭殿役人宮崎林蔵の書状到来廻米当川筋積下候付小桁番所江印鑑差遣呉候様申来ル与左衛門の如例取計候右来書并返書扣等郡代所ニ相記ス

一二階町堺屋伊右衛門義播州今市宿屋平四郎と申者呉服并帷子売ニ参候処近年不勝手ニ付罷越不申播州龍野下町本屋佐吉与申者右平四郎甥ニ而書物売買致候平四郎代りニ当所へ差越申度旨申越候付願書差出承届ル

一万人講残り雖今日相渡候付同心小頭郡代所下代差出ス猶残り式枚有之由承ル

十月十七日

一御用所御出席

一四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参如例大年寄江元魚町人留之義申渡ス且七間廊下江相詰ル

一一昨日万人講寄札高三歩銀等御用所江及御沙汰一元魚町辰野屋喜助悴和吉義兼不所存者ニ付諸親類義絶勘当仕度願書差出御用番中江及御沙汰聞届ル

十月十八日

一 万人講残り雖請取罷出候付同心小頭郡代下代差出ス

一 西新町年寄升屋長十郎義病身ニ付弟勘介と申者急御用之節名代ニ差出申度旨断書差出し先例も有之趣ニ付聞届ル

一 西今町作人茂大夫後家家屋敷表口三間半裏行町並拾五間但役五歩東隣ハ直屋孫兵衛西隣者勝屋常右衛門右家屋敷代銀札八百匁ニ相極直屋孫兵衛江壳渡申度旨願書差出承届ル同廿二日本証文差出ス

一 播州龍野下町本屋佐吉与申者老人書物壳ニ昨日参り二階町境屋伊右衛門宿切手差出ス

一 大坂北久太郎町境筋松屋甚兵衛与申者老人例年之通小間物壳昨日参り二階町境屋伊右衛門宿切手差出ス

一 紀州高野山宝蓮院使僧円徳坊与申僧上下式人例年之通且那廻り昨日参り正木屋佐助家守材木町宗助宿切手差出ス

十月十九日

一 勝間田役所八木伝次郎中村与左衛門当町十月十五日晦日迄米直段上中下相場之義申来ル則相応及返書

十月廿日

一 四つ時御供揃ニ而地藏院江御仏参如例七間廊下ニ相詰ル元魚町関貫際人留之義大年寄江申渡ス

一 同役清水多橋并土井官左衛門大坂到着

十月廿一日

一 大坂北浜筋大川町錢屋七郎右衛門手代佐兵衛与申者老人例年之通小間物屋中掛取ニ昨日参小姓町ひぢヤ善藏宿切手差出ス

一 淡州津井村定兵衛鯛藏平右衛門与申者三人例年之通米買ニ昨日参

り船頭町今津屋伊右衛門宿切手出ス

一 雲州杵築大社多久十大夫与申者上下三人例年之通且那廻り昨日参小姓町ひぢヤ善藏宿切手差出ス

一 勢州朝熊岳明王院使僧休賀坊悦忠坊宝藏坊与申僧三人上下六人例年之通且那廻り昨日参り小姓町ひぢヤ善藏宿切手形差出ス

十月廿二日

一 御用所御出席

一 備中倉敷御代官万年七郎右衛門殿手代吉田勝右衛門杉田忠助若林久米右衛門書状到来当十月十五日同晦日迄之日々上中下米相場之儀頼来ル則相応及返書

一 去ル十五日万人講三步銀差引残り銀札拾五貫匁講元共相納候付今日拙者送り証文相認候而御勘定所江相納尤勘定奉行中請取証文取置之

十月廿三日

同 廿四日

一 明廿五日六つ半時御供揃ニ而神楽尾辺御鹿狩御出被成候依之御家中若手之面々并二男三男ニ至迄望申者ハ勝手次第可罷出旨被仰出候旨大目附中廻状到来触書留ニ相記ス

一 右御出被成候付明日御用所御出席無之旨大目附中為知来ル

十月廿五日

一 元魚町通筋御堀端土橋ニ穴明キ候ニ付元魚町年寄与一郎平左衛門の注進書差出候昨廿四日大目附中江以手紙相届ル

一 銭相場七拾五文ニ立替候旨大年寄申出ル

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助^与申者^与老人例年之通墨壳^ニ昨日罷越京町加茂屋和吉^ハ宿手形出ス

十月廿六日

一宮川橋之下^ニ野伏鉢之坊主相果居申旨橋本町^ハ注進大年寄申出大目附構場所之儀故為知申遣然ル^ル御徒目附下目附見分被仰付候^ル惣身疵も無之何之心懸無之段見分相濟候間取捨候様夜^ニ入候^而鈴木此右衛門^ハ申来早速大年寄^江申遣^{□□□□}非人^江申付為取捨候様申渡候事候

一橋本町朝元屋源藏借屋罷在候作人兵八^ト申者此度国留兵八^ト相改伊達与兵衛殿^江出入奉公仕度依之町内人別除願書差出聞届ル

十月廿七日

一行倒坊主取捨之義大年寄共^江申渡候^ル夜前取捨相濟候段今朝申出大目附中^江及噂候事

一宮脇町年寄柏屋伊右衛門跡役之義同町佐渡屋八左衛門吟味之上年寄役申付候旨大年寄^江申渡ス

一銀礼場^ハ錢六拾箇岡山表へ遣候間当川筋積下候付小桁木知^ケ原番所通切手裏印之義申来り則取計遣し候事候

一河原町年寄戸屋岩右衛門義無抛用事有之大坂過書町松屋甚兵衛方へ往来廿日計之逗留^ニ而罷越度旨願書差出し承届ル

十月廿八日

一司馬五郎様明廿九日妙法寺^江御仏參御延引被仰出候段稻垣茂士^ハ申来大年寄^江為知遣ス

十月廿九日

一同役清水多橋致出坂候様昨日被仰出候土井官左衛門義掃坂いたし候様被仰出候事候

十月晦日

一御用所御出席
一元魚町古川屋惣助^ハ雲州松江八軒屋町和泉屋九右衛門悴喜代松先^ニ達^而二階町出雲屋團藏方へ逗留之^ル處此度私方へ百日計之逗留為仕度旨願書出し承届之

一奈良今井町岡嶋忠兵衛手代庄右衛門^与申者^与老人例年之通墨壳^ニ昨日參宿京町加茂屋^ハ宿手形出ス

一町方講釈之儀向後左之通相極候由大目附永井甚大夫^ハ被申聞
二月ヨリ四月迄九月^ハ十一月迄

但此外之月ハ講釈無之尤日限ハ唯今迄之通^ニ候由承之

十一月御用番 山田衛守殿 大目附当番持

大年寄月番 齋藤孫右衛門

十一月朔日

一御吉事日^ニ付御用所御出席御普代^{ツツ}之面々出仕其餘日參之面々裏付上下^ニ罷出御祝義赤飯頂戴之大目附所^江御札申達ス尤先格之通御用所^江者不罷出候

一月並之御礼被為請例之通於七間廊下御通懸御目見申上候事候
一今日被為召候面々左之通被仰付候

御供頭 村上茂八 格式土井官左衛門 大番田淵嘉一^ハ次
御祐筆 佐治唯吾 御紋着 黒田総太郎 上同海老原嘉四郎
本役 用御免

一生野御代官所猶村河岸出之御廻米今日今川下ケ在之八出村^二而中揚取計候由例之通町人足番之義御郡代今申来大年寄^江申渡ス

十一月二日

一御用所御出席

一乃井野役人川端代八香山与左衛門^六昨夜飛札到来十月十五日^六同晦日まで当町上中下米三段相場書之義申来今朝大年寄^六為指出加奥印返書相認候^而右飛脚^江渡し遣ス

一米相場書差出入御藏米六拾式匁町米五拾八匁

一斎藤孫右衛門娘かち義三浦志摩守殿領分勝山今田兵太養女差遣申度当所人別離之願書差出入同五日御用番中^江及御沙汰聞届ル

十一月三日

一備中倉敷役所^江当十月十五日^六同晦日迄上中下米相場書勝山^江同平均書付坪井^江同断差遣ス尤飛脚之義使組竹内源助罷越同八日返書来ル

一西川役所^江同平均相場書遣ス京町吉田屋喜八方へ相渡彼方^六早速相届候様申付候同五日返書来ル

一勝間田^江同平均相場書遣ス大年寄^江相渡便り次第早速相届候様申付候四日之夜飛札到来^ニ付則遣ス依之此方^六ハ為持遣不申候

一妙願寺本堂及大破修覆之義且中^江相談有之候之処過分之入用且中之者共与力^ニ難叶依之何とそ妙願寺為御救万人講被仰付被下置候様且中^六一統願書差出入然ル処か様成ル例無之其上寺社之義当役所^江願出候段筋違^ニ付其旨申聞願書差戻ス尤拙者存寄御内々御用

番中^并大目附中^江申達候事候

一福渡町住屋新兵衛借屋^ニ居候長兵衛と申者此度田町市村間長屋へ引越申度町内人別除願書出承届ル

一魚住藏人昨日参候旨京町本屋忠八^六相届之

十一月四日

一四つ時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣被遊候[○]中奥目附^六申来則如何御先^六同心組之義^并元魚町人留之義大年寄^江申渡ス

一桶屋町の村屋勤兵衛倅文吉義坂井国治^与致改号下村権右衛門殿^江奉公相勤申度旨依之町内人別除願書差出承届ル

一生野御代官所手代大井田与五郎中里忠助^六飛札到来当町十月十五日^六同晦日迄米上中下直段相場書之義申来則我等奥印取計返書認右飛脚へ遣ス

一勝間田役所^六同平均相場書頼来則飛脚へ渡遣ス
十一月五日 御用日

一馬方とも一件之儀昨日御用番中^江及御沙汰今日大年寄孫右衛門宅^ニ而小頭左五兵衛差遣候て申渡之相濟候^而御用番中^并大目附^江以手紙相届

追込申付ル 馬持源吾

禁足 同 平六

禁足 同 半七

叱申渡ス 惣馬持ふさ

右何も申渡し帳^ニ相記ス

一下村権右衛門殿^六大目附立会^ニ而於閑談之間左之通被仰渡則申渡ス

来春
御參勤御供立掃被仰付候

渡部甫庵

十一月八日

一来春御參勤御供触被仰出候事

一齋藤孫右衛門娘かち義三浦志摩守殿領分今田兵太養女ニ相望候付
差遣申度尤当所人別離願書差出し御用番中^江及御沙汰聞届其段孫
左衛門^江申渡ス

一河原町山形屋新太^江鍛冶場川向横山河原^ニ而^マ来共十九日^マ晴天三
日之内花相撲興行仕度旨願書差出し御用番^并大目附中^江申達し聞
届ル

一当年早損^ニ付郷中為御救来ル十二月万人講被仰付候間左様可相心
得旨御用番衛守殿^江被仰渡之右候付日取之義講元共^江申付伺書差
出候様大年寄孫右衛門^江申渡之尤是迄之通無名目^ニ而^マ取計可申旨
井上弥三兵衛^江被申聞候事候

十一月六日

十一月七日

一御用所御出席

一出雲大社中官西村神大夫と申者上下四人例年之通旦那廻り昨日參
り坪井町桔梗屋庄右衛門^江宿切手出ス

一紀州高野山万生院使僧本端^与申僧上下式人例年之通旦那廻り昨日
參り右同人^江宿切手出ス

一阿州板野村^郡川端村常本屋清兵衛^与申者老人例年之通藍玉売昨日參
り船頭町今岡屋浅右衛門^江宿切手出ス

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門^与申者老人例年之通藍玉売昨日參り右
同人^江宿切手出ス

一福渡町重屋治右衛門^江享保十三^戊申年京町山口屋彦左衛門造酒株
讓請置候処此度坪井町藤屋嘉右衛門^江相讓^マ加右衛門方^ニ而^マ造酒仕

込売買仕度旨願書双方^江願出承届之

一元魚町ミなとや喜七弟槌三郎^江去丑八月断出喜七義五年切京都大
仏西柏屋宗吉方^江奉公^ニ罷越候処病^一ニ^マ付此度罷帰候旨届出承
置

一明九日六つ半時御供揃^ニ而^マ杉山^江御出被成候御道筋京橋^江川井円
左衛門前夫^江鍛冶場前^江御出被成候旨中奥目附^江為知来り大年寄
^江申渡ス御先^江弘之義小頭左五兵衛^江申付ル

一明九日四時御供揃^ニ而^マ司馬五郎様^ニ宮^江被為入御道筋京橋御門^江
本町通筋違橋へ御通被成^一馬場喜内^江申来ル依之大年寄^江申渡
ス

一四時御供揃^ニ而^マ泰安寺^江御仏參被成候依之御先^江弘組之者^并御道筋掃
除人留之義夫々^江申付ル

十一月九日

一先日米相場上中下書付備中倉敷御代官所^江為持遣し候処向之方初
年之義^ニ付三俵石と有之候^而ハ難相濟何斗何升入と俵入書付か又
ハ壹石^ニ付何程と申義申越候様返書^并相場書戻し候然ル処是まで
いつかたへも右之通前々^江相認遣候義^ニ付米三俵^ニ而^マ壹石^ニ相成候
趣及文通右相場書又々飛脚今朝差送遣又使組加藤芝八參候事候

一公領宮尾河岸出し候御廻米今日^江積出候旨申出人足番之義大年寄
^江申渡ス

十一月十日

一御用所御出席

一來月万人講日取之義講元々窺書差出來月五日御聞届相濟大年寄江

申渡ス尤大目附永井甚大夫江も申達候事候

一船頭町土手筋御制札北之方へ片向惣廻り開「候旨致注進書付御

用番衛守殿江申達ス

一西新町井崎屋長左衛門娘元魚町玉嶋屋安右衛門肝煎ニ而内藤山城

守殿支配所久米南条郡中研和谷村数右衛門方へ養女ニ差遣し申

度依之町内人別離願書差出御用番中江申達承届ル

一鍛冶町下之横丁ニ而鍛冶梶兵衛家屋敷表口式間五尺裏行五間半御

役式歩五厘役也西隣ハ鍛冶喜助北隣者神場屋善七右之内南之方ニ

而表口老間半裏行五間半御役老歩五厘役之所代銀札五百五拾匁ニ

相極町内鍛冶長八江壳渡申度旨願書差出承届ル十一月十二日本証

文出ス

一明十一日智円院様御証月ニ付泰安寺江四つ時之御供揃ニ而御仏參被

成候旨中奥目附西尾多内ハ被申聞如例小頭并大年寄江申渡ス

一同役与左衛門出坂被仰付多橋不快是又快氣次第出坂被仰渡候ニ付

当時老人ニ而三ヶ所引請相勤候而ハ御用向日々御差支相成候付恐

入候旨先日以來大目附中江段々「無餘義趣御用所ニ御聞請被

成兼任筋仮役栗原新五兵衛被仰付候旨大目附永井甚大夫ハ被申聞

候事候

一二階町阿賀屋与十郎方江去ル九月十九日ニ京都新町通三木「蔵

五拾日之逗留ニ而差置度旨断出候処未用事相濟不申候間今百日計

逗留為仕度旨願書差出承届ル

一去ル五日禁足申付置候馬持半七同平六兩人義差免候旨大年寄孫右

衛門江申渡ス

十一月十日

一栗原新五兵衛今日御用筋ニ付大御目付役所江罷出候様申来即刻罷

出候処大御目付永井甚大夫ハ左之通被仰渡候

當時勘定奉行御人少ニ付町奉行郡代而役仮役暫相勤候様ニ被仰

渡候

十一月十一日 晴夜中雪

一同心組并町奉行郡代而役所諸道具当「入用之物今日栗田唯次よ

り引渡シ有之候

一明十二日四つ時泰安寺江御仏詣被遊候旨中奥目付柴山左衛門ハ

申来例之通御先私差出シ町方掃除之義大年寄江申遣候

一乃井野役人香山与左衛門河端代八連名ニ而倉敷村猶右衛門訴状ニ

添簡を以今日役所江差出シ候

十一月十二日 曇 御用日御出席

一今日泰安寺江御仏詣被遊御用日故例之通七間廊下江唯次新五兵衛

罷出候

一西新町伊崎屋長左衛門娘かよ中研和谷村数右衛門方江養女願聞

届相濟引越証文今日差出シ候

十一月十三日 晴

一明十四日四つ時泰安寺江御仏詣被遊候旨中奥目付西尾多内ハ申来

例之通小頭大年寄^江申遣候

一 播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛手代長右衛門と申者例年之通小間物

売参中ノ町福茂屋武助宿切手差出シ候

十一月十四日 晴 御用日御出席

一 今日泰安寺^江御仏詣被遊候

一 今日講場見分小頭差出シ候

十一月十五日 晴 御用日御出席

一月並之御礼被為請候

一 伏見町大工屋治助裏屏覆崩候付御堀^江足代下シ候義申出御用所并

大目付中^江申達承届ル右断書大目付中^江差出シ候様被申聞候付出

シ置候処其後被相戻候

一 戸川町馬持源吾去ル五日追込申付置候処十日余リ^ニ相成候故差免

之義今日御用番中^江及御沙汰大目付中^江も申達今日差免候段大年

寄孫右衛門^江申渡候

一 水谷信濃守殿内鈴木甚大夫^江米相場書例年相廻候付今日御勘定所

^江相頼江戸表^ニ而平井半平より届被呉候様相頼遣候

一來ル十八日万人講有之処当時新五兵衛老人故今老人いつれより被

致出役候哉之旨大目付中^江相伺候処^江勘定奉行栗田唯治当日町奉

行代り出役有之候様大目付中^江被申聞候由唯治より承之候

一 今日市場茂右衛門御使番当役^ニ被仰付候二橋六郎依願御使番役御

免之由

一 下村権右衛門殿今日大坂御用被蒙仰候由

十一月十六日 晴

一 明十七日四つ時地藏院^江御社参夫より泰安寺^江御仏詣被遊候旨中

奥目付西尾多内^江申来例之通小頭大年寄へ申遣候

十一月十七日 晴 御用日御出席

一 今日地藏院^江御社参夫より泰安寺^江御仏詣被遊候

一 明十八日万人講^ニ付前夜より町方例之通太鼓打申度旨大年寄^江申

出候付御用番中^江及御沙汰大目付中^江も申達承届ル

一來月五日万人講有之^ニ付両橋^江建札仕度旨大年寄孫右衛門申出候

付御用番中^江及御沙汰大目付中^江も申達承届ル

一 明日万人講^ニ付同心加五人大大目付中^江申達ス

十一月十八日 曇夜中雨

一 今日万人講^ニ付当日町奉行代り栗田唯次郡代栗原新五兵衛五つ時

過より致出役例之通御徒目付下目付致出役小頭同心大年寄藏合孫

左衛門罷出候無滞相濟御用番衛守殿^江罷越相届ケ大目付当番^江手

紙^ニ而相届候

寄高老万四千七百老枚

三步銀高式拾貳貫五拾老匁五分

一 明十九日四つ時御供揃^ニ而二ノ宮より院庄^江御遠乗御出被遊候旨

中奥目付書役三太左衛門^江申来御道筋京橋御門より小姓^江町夫よ

り吹屋町姫路や前より元魚町二丁目三丁目坪井町夫より今町通之^江

之由例之通小頭大年寄孫右衛門^江申遣候

十一月十九日 曇

一 今日御遠乗御延引被仰出候旨中奥目付書役三太左衛門^江申来則小

頭大年寄^江申遣候

一材木町河内屋藤三郎宿切手三通出シ候左之通之者宿いたし候由

阿州名東郡芝原村栄次郎 老入

例年之通藍玉壳ニ参候由宿切手 老通

阿州板野郡高房村新兵衛 老入

例年之通藍玉壳ニ参候由宿切手 老通

阿州名西郡高原村猶兵衛同手代与兵衛ノ式人

例年之通藍玉壳ニ参候由宿切手 老通

一今日講元役所江残り札渡シニ小頭并同心兩人差出ス

一今日より横山河原ニおゐて花相撲有之同心兩人差出ス

一明廿日四つ時御供揃ニ而地藏院江御仏詣被仰出候旨中奥目付西尾

多内ノ申来則大年寄孫右衛門江申遣候

一今朝下村権右衛門殿大坂表江被致出立候

一伏見町北側紺屋六右衛門家屋敷表口二間裏行拾三間半御役三步役

東隣ハ檢物や清兵衛後家西隣ハ小祢屋半兵衛右之家屋敷代銀札百

四拾匁ニ相極町内廿屋新助江亮渡シ申度旨願出承届ル同廿四日本

証文出ス

一夜四つ時出火ニ付新五兵衛致出馬候処林田村佐吉と申者火元ニ而

例之通大年寄同心罷出先格之通差図之上取計ハ七類焼拾老軒有之

九つ時過火鎮り引取帰懸御用番衛守殿江罷越相届火元江大目付中

近來小火ニハ出馬無之郡代も出馬無之町奉行役ニ而新五兵衛致出

馬候

十一月廿日 晴 御用日御出席

一去ル十八日万人講寄高之義今日御用番中大目付中江及御沙汰候

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊例之通七間廊下江唯次新
五兵衛罷出候

十一月廿一日 晴

一平岡彦兵衛殿御代官所御廻米檜村河岸ノ積下しノ分積切ニ相成候

旨下方申出候付大目付中江手紙ニて相届候

一明廿二日四つ時御供揃ニ而二ノ宮ノ院庄江御遠乗被仰出候旨御道

筋ハ去ル十八日被仰出候通ニて御帰リ二丁目三丁目ノ藏合前二階

丁御門ノ御帰被遊候由中奥目付書役三太左衛門ノ申来則小頭大年

寄江申渡候

一米相場書中買ノ今日差出候御藏米六拾老匁町米五拾七匁

一錢通用今日ノ老匁ニ七拾四文立替り候旨大年寄孫右衛門ノ申出惣

町江申渡候段申出候

一中買之内浜本屋喜助三倉屋佐吉兩人義御勘定所御用中買と申義相

望候由前々も有之候由右之義先達而より内意申聞有之由出情ツマ茂イ

たし候故三方右之名目ニ申付候而も苦シかるましきニ付先達而大年

寄江も承候処存寄も無之趣候得共当又拙者ノ孫右衛門手前内々承

候外之障リニ相成不申候ハ、申付可然旨此間栗田唯次ハ被申聞先

達而唯次町奉行引請之時分内々申出有之由ニ付唯次江得と承合

候処右之趣故大年寄孫右衛門江当又外故障ニも不相成哉之義吟味

之上可申出旨申聞候処此間孫右衛門罷越右兩人右之名目ニ相成候

ハ、外ニ何之故障筋無之由申出候付当又昨日唯次江及対談右兩人

勝手次第当役所より申渡可然旨ニ付今日右兩人御勘定所御用中買
と申ニ大年寄孫右衛門江申渡候

一 播州赤穂中村より茶屋平次郎と申者例年之通米買ニ參候由船頭町田原屋六兵衛ハ宿切手差出ス

一新五兵衛義兩役仮役被仰村候付木知ケ原番所江之印鑑壹枚役所判共ニ乃井野役人江使組飛脚ニ而今日相廻シ小桁御番所江も今日相廻シ候

一 銀札場より銀拾箇川積下シ候付小桁木知ケ原番所通切手裏印之義申来則例之通取計遣候

一 明廿二日御出ニ付御用所御出席無之旨大目付中より為知手紙来候

十一月廿二日 晴

一 今日四つ時ハ御遠乗御出被遊候

一 河原町ニ形屋新太先達而花相撲之義十九日ハ三日之間興行仕度旨相願御聞届相濟昨日迄ニ日数相濟候処十九日雨天故入無之迷惑仕候付晴天二日増日之義ニ形屋新太ハ追願書今朝差出シ候付当番大目付中江及対談候上御月番衛守殿江罷越願書之趣相窺候処後則可被仰下旨被仰聞則七つ時過御聞届相濟候段申来候付当又大目付中江手紙ニ而此段申達候右ニ付願之通今日明日加日申付候旨大年寄孫右衛門江申渡ス

一 明廿三日御用所御出席有之候旨大目付中ハ為知手紙来候

十一月廿三日 曇 御出席有之

一 去ル廿一日乃井野江差遣シ候使組飛脚返書取「罷帰候

一 生野御代官平岡彦兵衛殿手代土井田与五郎中里忠助兩人連名栗田唯次宛状箱到来稗相場書相廻シ呉候様申来候処定り候稗相場と申ハ無之米相場之外是迄差出シ候義無御座候趣返書ニ申遣候文段文

通留ニ有之候

一 三浦志摩守殿内小役人之由江森定七と申者上下式人今日七つ時前御書使ニ參候由御進物ハ無之由鳥屋与三兵衛方江落着居候旨大年寄孫右衛門より届出候付早速大目付中江罷越相届ケ鳥屋与三兵衛方ニ而今夕之賄ハ可申付旨大目付中江申達則大年寄孫右衛門江申渡シ候御書ハ御徒目付請取ニ被差出候由

一 花相撲今日迄ニ加日共相濟候段同心組見届申出候付御用番中大目付中江手紙ニ而相届候

十一月廿四日 晴

一 倉敷村大和屋猶右衛門一件ニ付今日中ノ町大塚屋十治郎呼出シ小頭大年寄町内年寄立合七一通り申口承右一件相濟候内他出差留置候

一 錢通用卷刃ニ七拾三文ニ立替候旨大年寄より今日申出候

一 播州網干新在家村かだや善七手代清八と申者老人例之通小間物おろし売參候由中ノ町福茂屋武助ハ宿切手差出ス

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代徳兵衛善次郎と申者式人例年之通茶碗（茶）類売ニ參候由小性町田戸屋宗十郎ハ宿切手差出ス

一 鍛冶町年寄喜三右衛門義耳遠ニ罷成役義難相勤役免願出シ承届ル跡役ハ悴義是迄手伝いたし候由ニ付悴義跡役ニ大年寄ハ申出承届ル

一 明廿五日御出ニ付御用所御出席無之旨大目付中ハ為知手紙来ル

十一月廿五日 雪

一 今日五つ時頃ハ御対面所江御出被遊候

一 錢通用壹匁ニ七拾文ニ立替り候旨大年寄今「」申出候

十一月廿六日 曇

一 京登岩山長休坊使僧常岩坊と申僧上下三人例之通旦那廻りニ昨日
參候由小性町紀地屋平藏〇八郎兵衛家屋敷宿切手差出ス

一 東新町南側二而〇八郎兵衛家屋敷表口式間半裏行拾七間御役三步三厘東隣ハ大嶋
屋平右衛門家西隣ハ美和屋文助二而右之家屋敷銀札貳百五拾目之
質物ニ書入町内茶屋六郎右衛門取次二而来卯ノ十二月切壹ヶ月式
歩之利足を加借用仕度旨東新町鍋屋八郎兵衛願出シ承届ル同廿八
日本証文出ス

十一月廿七日 曇 御用日御出席

一 中買小倉屋茂兵衛義浜本屋喜助三倉屋左吉兩人同様御勘定所御用
中買被申付可然旨御勘定奉行栗田唯次江今日対談之上茂兵衛義も
兩人之通同様申付候様二大年寄孫右衛門江申渡候

一 去ル十八日万人講三步銀之内拾五貫目之預り手形札元より差出シ
候旨大年寄孫右衛門江差出シ候ニ付送り手形を以今日御勘定奉行
栗田唯次江相納則請取手形取置候

一 町方馬持共廿五人不勝手ニ付老人養ヒ三俵つ、拝借之義願出御用
所江相窺御聞届相濟大目付中江も申達則大年寄江申渡候

一 錢通用今日〇壹匁ニ六拾八文ニ立替り候旨大年寄申出候

一 材木町北側大工平助家屋敷表口式間裏行拾七間但シ御役式歩半之
所東隣ハ大工源右衛門西隣者大工権兵衛二而三年已前子歲相願大
工源七方江質物ニ書入銀札百五匁ニ借用致居候処此度元利返済い
たし請返シ申候旨届書大工平助江差出ス

一 材木町北側大工平助家屋敷表口式間裏行拾七間御役式歩半二而東
隣ハ大工源右衛門西隣ハ大工権兵衛二而右之家屋敷代銀札百三拾
目相極メ町内大工源七江渡シ申度旨願出承届ル十二月六日本証文
出ス

一 當時町奉行郡代新五兵衛兩役相勤御用番人遣多有之候得とも仮役
之義家来指置之義も時節柄難相成急ニ御免被成候義も難計ニ付仮
役中中間老人御貸シ被下候而日々參候様ニ仕度旨今日御勘定奉行
栗田唯次を以大目付中江申立候処井上弥三兵衛当番右之趣聞請二
而尤之筋故早速御用番中江被申立候由右書之義相濟御勘定奉行栗
田唯次江対談之上右之義相濟居候旨栗田唯次江通用被申聞候

十一月廿八日 晴 不時御出席

一 今日五つ時頃〇御殺生御出被遊候

一 今日不時御用所御座候旨大目付中〇知七手紙来ル

一 東新町南側二而鍋屋八郎兵衛家屋敷表口式間半裏行十七間御役之
三步三厘東隣者大嶋屋平右衛門家西隣ハ美和屋文助二而右家屋敷
銀札貳百五拾匁之質物ニ書入町内茶屋六郎右衛門取次二而来卯ノ
十二月切右家屋敷質入証文出シ候承届ル

十一月廿九日 晴 夜中雪

一 伊勢内宮藤波神主手代北村善右衛門と申御師老人例年之通旦那廻
りニ參候由式階町堺屋伊右衛門〇宿切手差出ス

一 桶屋町西側二而桶屋善四郎後家家屋敷表口式間裏行十式間但シ御
役半役二而南隣ハ桶屋六藏北隣ハ宮本屋伝藏二而右家屋敷銀札貳百
目ニ相極右借屋ニ居候作人伝七〇壳渡し申度旨願出承届ル十二月

三日本証文出ス

一今日講元〇万人講諸入用帳面并三歩銀之内残り銀札四貫九百五匁八分五厘差出シ候

十一月晦日 晴 御用日御出席

一町内類族之者無事ニ罷在候旨京町年寄共連印ニ而例之通書付差出し承置候

一先達而被仰付候町方万人講一ツ分相殘居候付来卯ノ正月興行仕度旨講元共〇願書差出シ今日御用番中へ及御沙汰候処御聞御届ケ相

濟大目付中へも申達承届ケ候段大年寄へ申渡候

一播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛と申者老〇人例年之通小間物売ニ參候由中ノ町福茂屋武助〇宿切手差出ス

御用番 大橋十大夫殿

十二月朔日 晴

大目付 当番持

大年寄月番 蔵合孫左衛門

一月並之御礼被為請候

一今日講場見分小頭差出シ郡代下代も罷出候

一來ル五日来卯正月万人講有之候付例之通御家中江御触書出候

一京町今出屋半兵衛より今日左之通宿切手三通差出シ候

阿州名西郡桑嶋村夫右衛門手代与兵衛と申者〇例年之通藍玉

売ニ參候由宿切手 老通

右同州同郡同村平次兵衛手代龍九郎長右衛門と申者〇人例年

之通藍玉売ニ參候由宿切手 老通

右同州同郡〇留守村兵助手代平兵衛と申者老〇人例年之通藍玉売ニ參候由宿切手 老通

十二月二日 曇 御用日御出席

一來ル五日万人講ニ付同心組加人大目付中江申達候

一十月十五日十一月十八日兩度万人講三歩銀「一札左之通講元共〇差出シ候由大年寄〇相納候付右書面差添送り手形いたし今日御勘定所江相納則栗田唯次より請取手形取置候

銀札四貫九百五匁八分五厘也

一來正月万人講日取之義十五日十八日兩日之内相願兩橋江建札之義

講元共〇願出御用番中江相窺候処十八日定日ニ相濟右之段大年寄江申渡則建札之義も申渡候此段大目付中江も申達候

一來ル五日万人講ニ付前夜より町方例之通太鼓打申度旨大年寄申出候付此段御用番中江及御沙汰大目付中江も申達承届ル

一安芸国豊田郡納所村与四郎と申者足痛いたし檣村より送り来候付御領分町在共無滞送り遣シ候旨申出候付御用番中大目付中江手紙ニ而相届候

二而相届候

一播州大坂山本村植木屋勘十郎手代茂兵衛磯次郎と申者例年之通植木売ニ參候由中ノ町福茂屋武助〇宿切手出ス

十二月三日 晴

一錢通用老匁ニ六拾九文今日立替り候段大年寄〇申出候

一明四日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候旨中奥目付堀江左

膳〇申来則小頭大年寄江申渡候

一倉敷村大和屋猶右衛門〇八出村徳兵衛借銀いたし中ノ町大塚屋十

次郎請人徳兵衛江筋立候様申渡候付十次郎義請人故申合急ニ筋立候様扱可申旨○申渡候

一 生野御代官所手代シ状箱来り当町麦相場上中下直段申遣候様頼来候付下方相札○○可申遣旨一通及返書候委細文通留ニ有之候

十二月四日 晴

一 今日四つ時泰安寺江御仏詣被遊候

一 二階町西側ニ而算屋善兵衛家屋敷表口式間裏行拾式間半御役ハ式歩半役也西隣ハ元魚町肥後屋竹七東隣ハ茅野屋伊助ニ而右之家屋敷銀札三百目ニ相極町内組合之内大坂屋佐次江売渡申度旨願出承届ル同八日本証文出ス

一米相場書今日中買共シ差出シ候御藏米六拾匁町米五拾七匁

一 阿州板野郡鶴嶋浦藍屋喜右衛門と申者同手代徳兵衛右上下式人例年之通藍玉売ニ參候由吹屋町沢屋惣左衛門シ宿切手差出ス

十二月五日 晴 御用日御出席

一 今日万人講ニ付当日町奉行代り栗田唯次郡代栗原新五兵衛五つ時過シ兩人致出役例之通御徒目付下目付致出役小頭同心大年寄齋藤孫右衛門致出役候無滞相濟御用番十大夫殿江罷越相届ケ大目付中江手紙ニ而相届候

寄札高六千四百拾八枚

三步銀高九貫六百貳拾七匁

一 明六日九つ時御供揃ニ而院庄辺江御遠乗ニ被為入御道筋馬場通り夫より二階町御門馬方町夫シ通り町真直ニ安岡町通り御出被遊候旨中奥目付柴山左衛門シ申来例之通御先払申付大年寄江申遣候

十二月六日 晴

一 今日九つ時御供揃ニ而院庄辺江御遠乗ニ御出被遊候

一 今日講元役所江残り札渡シ例之通小頭同心兩人差出シ候

一 大坂今橋式町目桜井屋庄三郎と申者上下式人例年之通菜種売ニ參候由二階町境屋伊右衛門シ宿切手差出ス

十二月七日 晴 御用日御出席

一 明八日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候旨中奥目付西尾多内シ通用有之例之通御先払申付大年寄江申遣候

一 去ル五日万人講寄高之義今日御用番中江及御沙汰大目付中江申達候

一 式町目三谷屋太郎左衛門養子ニ雲州松江末次片原町坂本屋治郎左衛門伴佐助年式拾三右引請住宅為仕度旨太郎左衛門願書承届ル

一 去月十一日乃井野役人シ申来候八出村徳兵衛林中ノ町大塚屋十次郎兩人倉敷村大和屋猶右衛門シ借銀之義ニ付猶右衛門名代縁者之由福嶋屋平次郎と申者当町江罷越今日乃井野役人江之返書相渡シ「候尤御用番中江入御覽大目付中江も及相談差遣シ候文段文通留ニ有之候

一 西今町下横町南角作人岩屋小助家屋敷表口四間裏行町並七間半但シ式歩五厘役北隣者小畑屋長兵衛家ニ而右之家屋敷代銀札三百目ニ相極メ同町紺屋太郎兵衛江売渡申度旨願出承届ル同十一日本証文出ス

一 橋本町西側ニ而作人五兵衛家屋敷表口式間裏行拾式間半役ニ而南隣ハ倉敷屋庄兵衛北隣ハ中屋左衛門ニ而右之家屋敷質物に書入銀札

式百目来卯六月切ニ借用仕度旨五兵衛願書承届ル同十一日本証文
出ス

十二月八日 晴

一西寺町本行寺納所助大夫と申者廿七才同人妻くめ廿七才右兩人三
丁目喜多屋武右衛門と申者内縁有之此度引請町内人別ニ差加度旨
尤寺社役所江断出聞届有之候由武右衛門願出承届ル

一戸川町三木貴三娘まさ十三才此度伯州日野郡根雨宿梅林弥四郎と
申者方江養女ニ差遣度旨町内人別除ケ貴三願書承届ル

一東新町大嶋屋平右衛門妻ニ小笠原捻次郎殿御領分播州佐用郡蔵垣
内村緒畑伝四郎娘ふさ年拾九右引請度旨町内人別人平右衛門願書
承届ル

一備中玉嶋中買町岸屋庄助と申者境屋伊助内縁之者ニ而此度内用有
之伊助方江罷越当月廿日頃迄逗留為仕度旨伊助願書承届ル

一今夕五つ時頃元魚町城秀と申座頭居宅火燵より少々ふすもり出近
所之者寄々早速消留火鎮候段届出不致出馬ハ此段御用番中大目付
中江手紙ニ而御届申候

十二月九日 晴

一元魚町作人善六借屋城秀座頭居宅昨夜留■之内火燵ふとんすいか
ら落シふすもり近所之物組合欠付消留候旨今日届ケ書指出候右
之段御用番中江及御沙汰ニ隣町もさわぎ候儀夜追込可申付旨相伺
候所吟味次第先格之通可申旨被仰渡候ニ付此段大目附中へも申達
大年寄孫左衛門呼出し申渡シ候

一新五兵衛町奉行郡代仮役相勤候ニ付西川役所小形進吾酒井良蔵永

松太三左衛門連名ニ而怡之書状指越則相応之返書ニ及候右文段文
通留ニ有之候

一播州網干横浜菊屋弥七郎同手代善蔵上下式人例歳之通小間物おろ
し壳ニ参候由勝間田町吉田屋与三兵衛宿切手指出シ候

一今日下村権右衛門殿大坂表被致帰着候
十二月十日 雨 御用日御出席

一元魚町城秀と申座頭昨夜追込申渡候旨今朝大年寄申出今日御用所
江右取計候趣御届申上大目付中江も相届候

一出羽守様来卯年御帰城ニ付当所五月廿日廿一日廿二日之内御通行
之由尤勝間田御泊坪井御休久世御泊之由御先触参候写大年寄差出
候付今日御用番中江及御沙汰大目付中江も申達候

一大年寄共例歳之通歳暮御祝義差上度旨申出候付御用番中江御窺申
候処例歳之通可取計旨被仰渡候付御奏者中江及噂小勘者江も申達
置候則此段大年寄江申渡候

一祇園坊例年之通御札差上度旨孫左衛門申出候付今日御用番中江御
窺申候例歳之通可取計旨被仰渡候付例之通小勘者所江差出候様
大年寄孫左衛門江申渡候

一戸川町ニ去ル三日之夜古脇差一腰捨有之候旨町内年寄取上置候由
此間申出役所江差出シ可申旨申渡今日御用番中江及御沙汰大目付
中江も申達町方江触流左之通相触候様大年寄江申渡候

当月初方戸川町辺ニ脇差壹腰有之候旨申出候心懸り之者有之
候ハ、来ル廿日迄ニ可申出候以上

一生野御代官所より当町麦相場上中下直段付相廻シ具候様ニと先日

申来下方承札自是可相廻旨申遣候尤大年寄^江此段申付中買共承札
候上相場書三通大年寄連印^ニ差出シ候付明十一日生野^江飛脚^ニ
差遣シ申積り故例之通使組老人飛脚被仰付被下度旨大目付中^江申
達候

一 右相場書扣差出シ御代官所公料^江相廻シ候相場書ニハ町奉行奥印
有之由則新五兵衛奥印^ニて遣候右扣有之書状文段書翰扣^ニ有之

十二月十一日 晴

一 生野御代官所^江之飛脚使組加藤芝八今朝差立遣候

一 赤座屋敷之内藤八屋敷と申内之堀三四間程崩レ申候旨三軒屋番人
中村善兵衛^ハ昼八つ時より申出候付御用番中大目付中^江手紙^ニ
相届ル

一 明十二日四つ時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣被仰出候旨中奥目付柴
山左衛門より申来則御先払申付大年寄^江も申遣候

十二月十二日 曇 御用日御出席

一 今日四つ時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣被遊例之通七間廊下^江唯次新
五兵衛罷出候

一 播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛手代久兵衛甚七と申者式人例年之通
小間物売^ニ参候由中ノ町福茂屋武助宿切手差出ス

一 右同州姫路外とうふ町椀屋藤兵衛手代石松七兵衛と申者式人例年
之通椀ぬり物類売^ニ参候由右同人より宿切手差出ス

十二月十三日 晴

一 明十四日四つ時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣被仰出候旨中奥目付西
尾多内^ハ申来則御先払申付大年寄^江申遣候

一 中之町小山屋与三右衛門^ハ宿切手指出シ左之通

播州網干丸尾屋六三郎^与申者老人例年通荒物類^并塩物おろし売
^ニ参候由^モ老通

同州平松屋惣九郎^与申者老人例年之通小間物^并さらし蠟売^ニ参

申候由^モ老通同州余陸屋武兵衛^与申者老人例年之通八百屋物^并鯉
節売^ニ参候由^モ老通大坂久^ハ

大坂久宝寺町切附屋小兵衛^与申者老人例年之通小間物おろし売
^ニ参候由^モ老通

メ四通小山屋与三右衛門^ハ差出ス

十二月十四日 晴 夜中雨

一 今日四つ時御供揃^ニ而泰安寺^江御仏詣被遊候

一 「一」引屋源左衛門家屋敷京町南側表口六間裏行拾七間御役^モ老通
役^ニ而東隣ハ町会所西隣ハ平野屋治兵衛^ニ而右之家屋敷拾^ケ年已
前辰ノ十月町内豊屋和助取次^ニ而銀札五百目懸り請居候^モ此度ニ元
利相済シ請返シ申候旨右源左衛門取次人豊屋和助より断書差出シ
承届ル

一 今夕御勘定奉行山岡与左衛門大坂表口^ハ帰着有之候

十二月十五日 晴^{夜中雪} 御用日御出席

一月並之御礼被為請候

一元魚町城秀義去ル九日追込申付置候^モ取早指免可申哉之旨今日御
用所^江御窺申上候^モ勝手次第取計候様被仰渡大目付中^江も申達今
日差免候段大年寄^江申渡右取計相済御用番中大目付中^江手紙^ニ而相
届候

一「蔵元今津屋孫十郎義勤方不宜候付蔵元取上」被下置候御扶持方御取上追込申付候様と今日御用番十大夫殿大目付井上弥三兵衛立合於御次被仰渡候

一今七時半時大目付太田舍人宅江御勘定奉行栗田唯次町奉行二而栗原新五兵衛兩人義御用之義有之候付罷越可申旨手紙来右者則兩人「越候処舍人より兩人江左之通被申渡則弁書」日記二記置

栗田唯次

栗原新五兵衛

米中買共之内三人御用達申付候様相聞候此義出来候而者難義人も有之事候先年今不申付義候然ル処今般右之通申付候段不吟味之事候已後御用達之名目相止惣中買共江米切手大豆共相払遣御勝手方役人「代迄片落之取計無之様相心得可申候尤以来者中買不殘米大豆等無甲乙相払遣候段可申聞置候一右之趣兩人江被仰渡候付御勘定奉行山岡与左衛門を以兩人共指扣相窺候処夜入山岡与左衛門被参右差扣之義御用番中江大目付中合被相伺候処栗田唯次窺之通差扣被仰付栗原新五兵衛義不及其義之由山岡与左衛門江太田舍人より被申渡候旨山岡与左衛門合被申通候

一夜六時過今津屋孫十郎呼出シ小頭佐五兵衛大年寄孫左衛門立合七新五兵衛合左之通申渡之

今津屋孫十郎へ

申渡

其方義勤方不宜候付蔵元取上并御扶持方御取上追込申付候相

慎可能在候

右申渡取計相済御用番十大夫殿大目付附当番江手紙二御届申達候

十二月十六日 晴

一明十七日四時御供揃二而地藏院江御社参被仰出候旨中奥目付西尾多内合申来例之通元魚町二階町人留之義大年寄孫左衛門江申付候

一去ル十一日生野江差遣シ候飛脚使組加藤芝八今昼返書取罷帰候

一昨日大目付太田舍人より被申渡候趣二付中買三人之者共御用達之名目相止候義今日大年寄孫左衛門呼出シ右之趣申渡候尤大目付当番江手紙二而申渡候段相届候

一中ノ町正木屋伊右衛門合宿切手左之通三通差出候

播州網干余陸屋宗七同手代彦右衛門と申者右兩人例年之通八百屋物おろし売ニ参候由切手売通

右同州網干鍛冶屋宗十郎手代善十郎と申者右兩人例年之通鯨節并

鯨売ニ参候由売通

右同州網干塩屋伊兵衛同弟助大夫と申者右兩人例年之通荒物塩

物おろし売ニ参候由売通

十二月十七日 曇 御用日御出席

一今日四時御供揃二而地藏院江御社参被遊七間廊下江新五兵衛老人罷出候

一御勘定奉行栗田唯次今日差扣御免出席有之候

一当月五日万人講諸入用差引残り三步銀講元合差出シ候由昨日大年

寄差出シ候付今日御勘定所江相納則請取手形置候

銀札五貫四拾五匁分八厘

相納候

十二月廿日 曇 御用日御出席

一明朝御用有之候付同心組兩人六つ半時井上弥三兵衛宅_江差出シ候
様_ニ大御目付太田舍人被申聞則小頭_江申渡置候

一今日左之趣廻状出候

殺生御留場之内左之場所此節より来春迄殺生御免被成候

香々美ノ方 古川村ノ先 一ノ宮村ノ先

押入村田方 川辺村御境目ノ手前

右之通御免被仰出候尤同役_并支配方_江も可被相逢候以上

一今津屋孫十郎義勤方不宜藏元取上候様此度被仰渡申渡候然ル処町

内年寄役相勤居候付勤方不宜と申義候ハ、追_而年寄役も差免可申

哉之旨大御目付井上弥三兵衛_江及相談候処右之趣御用番中_江相伺

可然旨被申聞御用所_江御窺申上候処年寄役ハやはり勤さセ置候様

_ニと大御目付太田舍人より被申渡候右_ニ付其分_ニ鎮置候

十二月十八日 晴

一今朝岩野平右衛門義追弘被仰付同心組川端又六三船孫八右兩人差

出し今朝大番頭古市兔毛於宅諸役人立合右之趣被仰渡退去之砌同

心兩人川辺御境目迄差添罷越道筋無滞御領分送遣シ候旨届出し候

付大目付当番_江手紙_ニ而相届候事

十二月十九日 晴

一明廿日四つ時御供揃_ニ而地藏院へ御仏詣被仰出候旨中奥目付西尾

多内ノ申来則本魚町_(ツ)二階町人留之儀大年寄へ申付候

一大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代佐兵衛と申者耆人例年之通小

間物屋共へ掛銀札取_一參候由小性町ひぢ屋兵藏宿切手差出ス

一今日四つ時過地藏院へ御仏詣被遊例之通七間廊下へ勘定奉行中当
役罷出候

一玉置広四郎親忠兵衛儀先達_而相願上京いたし罷在用事相濟不申由

再三日延逗留相願然ル処当夏方ノ不快_ニ罷在又候逗留願_一濟其

後段々病氣差重ク腐骨瘡_(ツ)と申腫物出来手足難叶其上下血等も有

之甚難義仕當時医師段々差替今度青木祐哲と申医師服薬少々快氣

之由然共寒中_ニ趣道中致候儀無心元右医師申候旨依之越年仕右之

薬服用為仕度旨又々逗留願世忤広四郎ノ差出し候_ニ付今日御用番

中へ及御沙汰大目付中へも申達承届候段大年寄へ申渡候

一大年寄札元町医御用達諸吟味御藏元来年頭御目見之儀窺出候付御

用番中へ今日及御沙汰候処先格之通被仰付則大年寄へ申渡候尤御

奏者中へ名面書付差出候

一月廻_ニ付惣町_江例歳之通触書差出候様昨日大年寄孫左衛門_江申渡

候

一町奉行役所當時甚御用多_ニ付書役無之候_而者差支之儀_ニも有之候付

御兩_間役中御評議之上可然御取計被下候様_ニも去ル九日大御目付

太田舍人_江申立候処同十五日外御用有之舍人宅_江罷越候節右之儀

相尋候処使組之内相廻候様御勘定奉行へ被申渡有之由舍人被申聞

則栗田唯次へ及対談置今日使組名面書付被相廻右之内耆人相極候

筈_ニ而小頭_杯〇_(新職之)右使組之内土井左六と申使組当役所へ相廻され被

呉候様明後日栗田唯次へ及対談候積之事候

十二月廿一日 曇夜中雪

一 播州網干新在家印部屋清六と申者老人例年之通塩物并纏節おろし
売^二參候由勝間田町吉田屋与三兵衛宿切手出ス

一 錢相場今日〆老奴^二七十文遣立替候由大年寄申出候

一 御用番十大夫殿〆晩方御用向有之候付御宅へ罷越候様申来即刻罷
越候処林田中之町大塚屋重次郎儀左之通申渡候様被仰渡則今夕大
年寄孫左衛門呼出シ当役所^二重次郎へ申渡取計べき旨孫左衛門
へ申渡町内年寄召連罷出候様に孫左衛門〆申遣し候処重次郎儀不
快^二付名代組合之内蔦屋伝助と申者年寄召連罷出則小頭大年寄立
合七左之通申渡之候

林田中之町大塚屋重次郎

名代蔦屋伝助

御吟味筋有之候付町内預ケ申付候

一 右十大夫殿〆被仰渡候趣登城いたし大目付当番へ申達置候

一 右大塚屋重次郎町内預ケ夜^二入申渡取計相済御用番十大夫殿へ手
紙^三御届申^并大目付中奥番へ手紙^二相届ケ尤名代組合之者へ申
渡候段御届申達候

一 夜^二入今津屋孫十郎儀追込御免被成候旨御用番十大夫殿〆申来候
付追込差免候段今夕大年寄申渡候処則孫左衛門江申渡し右取計候
段御用番十大夫殿〇へ御届申^{手紙^二而}大目付中へも手紙^二相届候

一 明廿二日御出座候付御用所御出席無之段大目付中〆知らせ手紙来
候

十二月廿二日 晴

一 昨日十大夫殿〆被仰渡候林田中之町大塚ヤ重次郎八出村徳兵衛御

吟味筋有之候付右引請吟味筋之儀大御目付并上弥三兵衛へ被仰渡
有之候^二付弥三兵衛へ承合セ当役筋〆も吟味を遂候様是又昨日十
大夫殿〆被仰渡候

一 元魚町西側美濃ヤ仁兵衛家屋敷表口六間裏行五間半御役四步役也
西隣ハ小倉屋家北隣ハ仁兵衛所持之家^二而右之家屋敷子ノ六月相
願美濃ヤ差兵衛取次^二而質物^二書入銀札七百匁元分^二而借用仕候処
此度元利相済し右之家屋敷請返候旨仁兵衛断書差出シ承置候

十二月廿三日 晴

一 東新町玉屋伊左衛門借家^二居候平助六十三才妻五十才伴伊助式十
才勝手^二付此度林田上ノ丁へ引越セ申度町内人別除ケ伊左衛門
願書兩役所引合セ承届ル

一 御勘定奉行栗田唯次へ及対談今日〆使組土井左六町奉行所書役^二
今日〆呼越候

一 今日中ノ町大塚ヤ十次郎呼出し小頭大年寄立合大和屋猶右衛門一
件遂吟味口書取計候事

一 今般右大和屋猶右衛門一件吟味被仰付候付昨日大目付并上弥三兵
衛^〆追込相願候者他所掛合之儀上総殿名度出テ御上へ^{茂懸り重キ筋^二}
存候故藤田三八吟味之長助并下山官太口振り承候節ハ御勘定奉行
中老人被立合申合セ遂吟味申度^二付右被立合候儀昨日申立候処尤
之筋之由弥三兵衛今日御用番中へ被相窺候由則御勘定奉行山岡
与左衛門へ立合被仰付候旨今日弥三兵衛〆ハ申渡依之与左衛門へ
吟味筋之儀及対談明廿四日拙者於宅藤田三八致吟味下山官太口承
り候積^二致置候尤上総殿家来三八儀此間永之暇被申渡候由右^二付

亦々三八儀去ル廿日上総殿へ御預ケ被仰付候由弥三兵衛ハ被申聞候

十二月廿四日 晴

一今朝同心組を以上総殿へ左之通差紙遣し候尤文段等弥三兵衛并与左衛門へ及対談取計候

倉敷村大和屋猶右衛門ハ訴状差出し候儀ニ付藤田三八義今日

遂吟味候様被仰付候間四つ半時御家来中被差添新五兵衛宅へ罷出候様被仰付可被下候以上

十二月廿四日

上封シ左之通ニ候ハ、差遣候内ニ名当不存候

上総様

山岡与左衛門

栗原新五兵衛

右ニ付今日四つ半時上総殿ハ中小性中嶋太助と申者被差添三八儀被差出候吟味中右同道人玄関ニ差置右相濟又々上総殿へ差返候三八吟味浪人者故白砂へ相廻無刀ニ而吟味取計則口書認候勿論与左衛門新五兵衛立合其外小頭郡代下代も差出シ候

一右三八吟味相濟山岡与左衛門ハ下山官太呼ニ遣しクレスキ後後官太罷越

口振兩人座敷ニおゐて承之右同様口書認候事右相濟官太差戻し候尤官太儀右一件少々懸り合も有之候付右之通被仰付此間他出御差留差置レ候由

十二月廿五日 晴 御用日御出席

一去ル廿三日昨廿四日兩日吟味筋取計口書之趣今日大御目付井上弥三兵衛江与左衛門新五兵衛兩人より今日吟味之趣被申達口書不殘

差出シ候

一元魚町美濃屋仁兵衛家屋敷表口九間裏行五間半内三間之所ハ裏行拾式間但シ御役ハ内六間之所四步役三間之所ハ六步役ニ而西隣ハ小倉屋茂兵衛北隣ハ米屋喜兵衛家屋敷ニ而右之家屋敷代壹貫四百目ニ相極メ只今迄居懸り美濃屋差兵衛江壳渡申度旨仁兵衛願出承届ル同日則本証文出ス

一下紺屋町生綿屋藤助家屋敷表口四間裏行拾七間但シ半役ニ而東隣ハ不動院西隣ハ大工権八ニ而代銀札四百五拾目ニ相極メ山手屋弥右衛門借屋ニ階丁河内屋平三郎江壳渡シ申度願承届ル同廿六日本証文出ス

一宮川大橋上土手下御建札たおれ居候付町内年寄預り置候旨註進申出シ候付大目付中江相届御作事江御噂被成度旨申達候

一当夏方酒直段上ケ之義相願壹升ニ付壹分上ケ申付候然ル処此間迄米茂下直ニ相成候付去ル四月迄之通壹分下ケ商売仕度旨酒改三室屋宇左衛門組屋勘十郎直屋孫兵衛三人〇願出御用番中江及御沙汰大目付中江も申達承届ル別紙書付差出シ左之通

名酒壹升ニ付壹匁六分壳申候分 此日後 壹匁五分

上酒同壹匁三分之分 〃 壹匁式分

中酒同壹匁分之分 〃 壹匁

下酒同九分之分 〃 八分

下々酒同七分之分 〃 六分

一吉野郡中谷村勘次同手代利兵衛と申者上下式人例年之通晒臘木綿嶋并荒物おろし壳ニ參候由境町久宝ヤ藤兵衛宿切手差出ス

一万人講元へ為褒美御酒代銀札三百目差遣候段今日大年寄^江申渡則
孫左衛門へ相渡し講元三人請取手形置候

一 中ノ町浜吉屋茂八儀鈴木茂八と相改此度伊達与兵衛殿へ出入奉公
仕度旨町内人別除願承届ル

十二月廿六日 晴

十二月廿七日 曇 御用日御出席

一 明廿八日も御用所御出席有之候旨大目付所より以坊主為知有之候
一 二階町ぬし勘平義門松御免被成候間此段申渡候様ニと御用番十大
夫殿より於御用所被仰渡則大年寄^江此段申渡候

一 福渡町福本屋元太郎父惣兵衛義去ル戌ノ年より長病相煩去丑ノ六
月相果其後元太郎相続いたし役介多段々貧窮^ニ及坪井町^ニ所持致
候家屋敷等も売払当時福渡町^ニ而借宅仕居候処病身之老母共も有
之当日渡世も送り兼至極及難義^ニ依之父惣兵衛十三年已前寅年御
封印銀札百五拾目御開封被成下候ハ、御影を以渡世仕候手立^ニ仕
度旨福本や元太郎願書^并組合^合も願書先日差出シ去ル十二日御勘
定奉行中^江及対談候上大目付中^江も申達御用番十大夫殿^江差出シ
置候処今日御聞届被成候段於御用所被仰渡候付大目付中^江も申達
当人御勘定奉行中^江も及噂大年寄孫左衛門^江承届候段申渡候

十二月廿八日 御出席有之

一 大年寄三人歳暮為御祝義雉子式羽つ、献上例歳^格之通取計如例御奏
者中古市兔毛竹之間より罷出被遂披露候段被申聞大年寄例之所^ニ
並居候町奉行先格之通罷出取合及挨拶玉置忠兵衛義他出罷有候へ
共兩人同様差上物有之候右相濟勝手次第廻勤候様^ニ申渡候御城内

通行之義此間中奥目付中^江及通用置先格之通裏下^合罷出候

一 昨日左之通廻状出今日相廻候

一 司馬五郎様御儀未御出生御届無御座候付当月五日御用御頼御
先手松前主馬殿ヲ以御用番松平右京大夫殿へ御届被成候此段
為相知候様被仰出候

右之趣同役^并支配方へも可被相達候以上

一 明後晦日御用所御出席無之旨大目付中^合知せ手紙来候

十二月廿九日 晴

一 阿州板野郡撫村^(や)三原屋藤藏同長兵衛と申者兩人例年之通米買^ニ
参候由舟頭町いつミ屋清助宿切手出ス

十二月晦日 晴

津山郷土博物館紀要第九号

津山松平藩町奉行日記五

平成九年三月三十一日 発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 株式会社 廣陽本社

岡山県津山市田町二二

